

# FDの制度化に関する研究(1)

## －2003年大学長調査報告－

広島大学高等教育研究開発センター

# **F Dの制度化に関する研究 (1)**

- 2003年大学長調査報告 -

**広島大学高等教育研究開発センター編**

**広島大学高等教育研究開発センター**

## COE 研究シリーズの刊行にあたって

広島大学高等教育研究開発センターは、略称を高教研と称し、英語名を Research Institute for Higher Education、略称を R I H E としております。その前身は広島大学大学教育研究センターですが、1972 年 5 月に、さらにその前身の大学問題調査室を発展的に継承して、文部省令による教育研究施設として、日本最初の高等教育研究の専門機関として設置されました。爾来、年輪を重ねる中で着実に研究教育活動を展開し、内外の高等教育研究に重要な役割を果たしてきましたが、お陰様で昨年 2002 年には創立 30 周年を迎えるに至りました。

この節目の年に、文部科学省の 21 世紀 COE プログラムの人文科学領域において、本センターのプロジェクト「21 世紀型高等教育システム構築と質的保証」(拠点リーダー：有本章)が 113 件(うち人文が 20 件)の拠点の一つとして選定されました。このことは高等教育研究の発展に鋭意取り組んできたセンターの歴史の中でも特筆すべき快挙であると、当センターの関係者一同率直に喜んでおります。とりわけ高等教育の分野では全国唯一の拠点に選定されましたことは、これまでの実績と今後の可能性が認知された点でも、長年にわたって積み重ねてきた努力が報われた点でも、実に名誉なことでありますと同時に、責任の重さを痛感する次第であります。これも高等教育研究が一種のタブー視された時代から盛況を呈するに至った今日まで、数多くの先輩やコリーグ諸氏に支えられて嘗々と築かれた伝統や風土や精神の賜と考えております。したがって、「巨人の肩に乗った小人」であるとの謙虚な気持ちでこのような機会を受け止めますとともに、これを契機にさらなるフロンティア開拓の精神を醸成し、斯界の発展において一層の貢献を実現したいと祈念しているところであります。

本プロジェクトは、主題に掲げました研究を推進するために、5 年間にわたって取り組むものですが、具体的には FD・SD の制度化と教育システムの質的保証、研究システムの質的保証、大学組織編成と質的保証などの問題を中心に、データベースの構築、若手研究者の養成などの問題に重点的に取り組むことを期しております。さらに、研究成果を積極的に国内外へ公表し、研究成果を紹介することによって拠点としての研究ネットワークの形成に努め、日英両語による出版物を精力的に刊行することにしております。そして、その一環として、このような体裁で COE 研究シリーズを刊行することにいたしました。その目的は、主として、センターの COE プログラムと関連して取り組んでいる研究活動の実績を記録にとどめることとその国内外への発信によって研究ネットワークの形成を着実に推進することに置かれています。

本企画によって世に送り出される刊行物が、国内外の高等教育研究者はもとより、高等教育に関心のある多くの人々に貴重な価値ある情報を提供することができれば、望外の幸

せであります。また、研究ネットワークの一層の発展のために、読者の皆様から絶大なご支援とご協力を賜りますことができれば、この上ない喜びです。何卒よろしく願い申し上げます。

2003年3月

21世紀COEプログラム

拠点リーダー 有本 章

## はしがき

昨今のグローバル化、知識社会化、市場原理化など大きな社会変化は、社会と大学の関係に葛藤を惹起し、政府や社会からの高等教育界への期待、批判、要望を強めることになった。大学審議会、中央教育審議会などの答申を通して、あるいは文部科学省の高等教育計画、政策、行政を通して、あるいは産業界、消費者、マスコミをはじめ社会各界からの要請を通して、研究、教育、サービスをはじめ管理運営や産学連携、国際交流などの諸領域にわたって、矢継ぎ早に改革を求める傾向を顕著にしているのである。

そのような動きの中で、1990年代以来の大学改革の中枢を大学教育改革が占めているとの認識は正鵠を射ているであろう。とりわけ大学教育の最も基本的な営みである授業改革が高等教育政策の重点に設定されるに至り、授業を構成するカリキュラム、学生、教員の3点セットが注目を集めることになり、とりわけ、教員自身への強い期待や要望が大学審の答申を媒介に高等教育政策の中に具体的に盛り込まれるようになった。すなわち、高等教育政策や行政レベルの動きとしては、1991年の大綱化政策の時点において「自己点検評価」が導入されたのを皮切りに、1998年の中教審答申の時点において「外部評価」が導入され、同時に後者では授業改善の主体としての教員の資質開発を求める提案がなされ、さらに行政的な実施の方向へと急展開した。それは日本の高等教育政策においてFDが「努力義務」として最初に制度化されることになったことを意味する点で画期的である。

さて、21世紀COEプログラム「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」の一環として位置づけられる本研究は、「FD・SD及び教育班」を中心に取り組んできたプロジェクトの成果の一つである。本研究は、教育改革とりわけ「FDの制度化」(institutionalization of faculty development)の問題に焦点を合わせた組織的な研究を展開する中で、すでに1989年に実施した全国の大学教員等を対象にした質問紙調査の結果と、2003年に実施した全国の学長、学部長、教員を対象にした質問紙調査の結果とを比較検討した結果、その間にいかなる変化が生じているのかを診断し、さらにそれに基づいて今後の方向への処方箋を提示するところにねらいが置かれている。

そのうち、本報告「FDの制度化に関する研究(1) 2003年学長調査報告」(Study of the Institutionalization of Faculty Development Part 1: Report of the Nationwide Survey on University Presidents in 2003)では、FDを中心とした教育改善活動に焦点を合わせ、全国の国・公・私立の学長を対象とした質問紙調査とその回答を分析することに主眼がある。この約15年間に日本の「FDの制度化」は急速に展開していることが学長の意識を通して明確になった半面、新たな問題も多々出現し、早急に改善すべき課題が山積していることも判明したといえる。その詳細な結果は、各章の内容に譲ることにしたい。

ところで、この種の全国の大学における教育活動の改革、改善に関する体系的研究、とりわけ過去と現在の比較研究、あるいは特に「FDの制度化」に焦点を合わせた研究は極めてユニークな研究であると考えられる。そのことから、調査結果はFDの進捗状況を実証的かつ客観的に把握する点はもとより、日本の高等教育、特に大学教育の改革を対象にした診断と処方箋の提示、さらには21世紀型高等教育システムの確立をめざす高等教育計画・政策の方向に少なからぬ貢献をするものと期待されるし、また、そのことを祈念している。その点、本報告は、学長、学部長、教員の全国調査の中の学長に照準しているのので、全体の中の間報告の域を出ないことにかんがみ、今後これら中間報告を踏まえ、全体の総合的検討を行うことによって、そのような意図の実現を図りたいと考えている。

なお、本調査報告に先立って、全国の多くの学長の方々に、研究の趣旨を理解していただき、ご多忙中の貴重な時間を費やして、質問紙調査に回答を賜ったことをここに記させていただくとともに、この紙面を拝借して深く感謝する次第である。

本調査報告の研究組織は次の通りである（印は執筆者）

有本 章	広島大学高等教育研究開発センター長・教授（研究代表）
北垣郁雄	広島大学高等教育研究開発センター教授
大膳 司	広島大学高等教育研究開発センター教授
大場 淳	広島大学高等教育研究開発センター助教授
黄 福涛	広島大学高等教育研究開発センター助教授
小方直幸	広島大学高等教育研究開発センター助教授
渡辺達雄	広島大学高等教育研究開発センターCOE研究員
杉本和弘	広島大学高等教育研究開発センターCOE研究員
葛城浩一	広島大学高等教育研究開発センターCOE研究員
福留東土	日本学術振興会特別研究員

大膳教授をはじめ共同研究者ならびに執筆者の方々には、積極的に研究協力をいただき、お陰様で短期間に中間報告を出版できることになった。この場を拝借して御礼を述べる次第である。

2004年3月10日

研究代表 有本 章

# 目 次

はしがき

<b>序章</b>	<b>FDの制度化の開始と展開</b>	1
1.	FDの概念	1
2.	FDの制度化研究	4
3.	FD制度化の展開	8
4.	結びにかえて	12
<b>第1章</b>	<b>調査の目的と方法</b>	15
1.	調査の目的	15
2.	調査の方法	16
1)	調査の対象	
2)	調査方法	
3.	回答者の属性	16
1)	性	
2)	年代	
3)	設置形態	
4)	設置学部数	
5)	設置年	
6)	専門分野	
7)	大学院の設置状況	
8)	全学レベルの委員の経験	
9)	所属大学への勤務年数	
10)	外国で授業を受けた経験の有無	
11)	授業担当の有無	
4.	本報告書の内容	19
<b>第2章</b>	<b>学士課程教育に対する意識と実態</b>	21
1.	学士課程教育の実態	21
1)	学士課程レベル大学教育の目的	
2)	学士課程教育の全般的評価	
3)	どのような評価結果に基づいて学士課程教育を評価したか	

2 . 大学の学士課程教育の改善状況 .....	28
1 ) あなたの大学教育の達成レベルを高めるための事項	
2 ) 「大学・学部」の教育目的・目標の組織的な検討	
3 ) 大学の教育内容(カリキュラム)の組織的な検討	
4 ) 学生の学習活動に対する組織的支援の実施	
5 ) 大学の教育の質はどの程度改善されたか	
6 ) あなたの大学の教育の達成レベルを高めるための事項の状況	
まとめ .....	44
<b>第3章 大学の教育支援体制の意識と行動 現状把握</b> .....	45
はじめに .....	45
1 . F D活動の理想的条件 .....	45
2 . Student OrientedなF D活動へのシフト.....	49
3 . 「日本的な」改善効果 .....	61
まとめ .....	63
<b>第4章 F D活動と支援体制の今後の課題</b> .....	65
1 . ボトムアップ型F Dの条件は整っているか? .....	65
2 . 連携・協力の時代 .....	67
3 . 日本のF D状況の総合的診断 .....	69
4 . ディベロップメント領域の再考 .....	71
5 . 教育改善の報われない大学風土 .....	73
6 . 教員の昇進審査基準と時系列的变化 .....	77
7 . 教育改善のための方策 .....	81
まとめにかえて .....	81
<b>終章 全体のまとめと今後の課題</b> .....	83
1 . 研究成果のまとめ .....	83
1 ) 大学の教育目的	
2 ) 学士課程教育の状況と改善意識	
3 ) F D活動の状況	
4 ) F D活動の成果	
5 ) F D活動の問題点と推進課題	
2 . 今後の課題 .....	86



資料	89
1. 資料1 アンケート調査票	89
2. 資料2 データ集計結果	101
3. 資料3 自由記述(【問5】)	130
4. 資料4 自由記述(【問9】)	134
5. 資料5 自由記述(【問19】)	140
6. 資料6 自由記述(【問42】)	148

## 序章 FDの制度化の開始と展開

## 序章 F Dの制度化の開始と展開

### 有本 章

本研究は、21世紀COEプログラム「21世紀高等教育システム構築と質的保証」の重要な構成部分を占めている「FD・SDシステムの制度化と質的保証」の一環として行われている研究の中間報告である。

FDとは言うまでもなく faculty development の略称であり、日本語では通例「大学教授団の資質開発」と訳されている。1998年の大学審議会答申は、FDを「努力義務」として要請し、大学教員が大学教育改革の主体的な推進力として取り組まなければならないことを高等教育政策と実践の中に明確に位置づけた。それはFDが理論や研究の領域にとどまるのではなく、すぐれて政治的、政策的、行政的な色彩を帯びるとともに、遅ればせながら高等教育の現場においてもFDが明確な実践的課題として位置づけられたと言わざるをえない画期的な出来事である。ペナルティを伴わない「努力義務」とはいえ、この時点をもって、日本の大学教員は誰しもFDに取り組むという課題から逃避することは許されなくなったのである。この時点をもって、日本の高等教育においてFDが政策的、行政的に制度化されるに至った以上、FDの制度化（institutionalization）が本格的に始動したことを意味するのはもとより、それが今後いかなる軌跡を描いて定着するかは改めて注目されるべき事柄になったと言わなければならない。

本報告書は、1989年に実施したFDの全国調査(有本編、1990)から14年経過した2003年現在、学長に関する全国調査を媒介にして、FDがどの程度の進捗を示したか、実際の制度化がどの程度進行したかを、主として明らかにすると同時に、今日の問題点と課題を検討することに主眼がある。本稿は、その序章として「FDの制度化の開始と展開」の観点から、FDの概念、FDの制度化研究、FDの制度化の展開に関して若干の考察を行うものである。

### 1. FDの概念

FDは今でこそ、大学人であれば、誰しも使用する言葉や概念になっているとみなされるものの、一般には必ずしも市民権を得ている言葉や概念になっているのではない。FDとは何かと問えば、必ずしも明確な回答が得られるとは限らない。大学人の中にもごく最近までは「FDとはフロッピーディスクである」との認識を持った人々が少なからずいた事実を指摘できるほどである。ましてや、一步大学外に出て、一般の人々に尋ねれば、未

だにその種の初歩的な状態と五十歩百歩の実状を呈していることは予想するに難くないところである。大学内ではまだしも、大学外では依然としてジャーゴンの域を一步も出ない発展途上の概念に過ぎないと言えるのである。

そのような大学内外の温度差を指摘できるのと同時に、漸く市民権を得た大学内においてFDの内容を掘り下げてみた場合でも、明確に定義を下すことはそれほど容易ではない。大学審議会の答申では次のように指摘した。すなわち、「従来、教育の内容・方法の改善は、多くの場合、個々人の努力によるものであり、その成果も個々の教員の情報にとどまっていた。今後は、個々の教員レベルだけでなく、全学的に、あるいは学部・学科全体で、非常勤講師の参加も得て、それぞれの大学等の理念・目標や教育内容・方法についての組織的な研究・研修（ファカルティ・ディベロップメント）を推進することが必要である。」（大学基準協会、1998）と定義している。この教育内容・方法の改善に限定した使い方が今日では審議会によってお墨付きを付与された公式の定義ということになるが、それはFDの広範な概念に位置づけられれば狭い範囲に限定されていると言わなければならない。狭義の概念を示していると解される。狭義の概念は、授業を中心に教授団（あるいは個々の教員）の教育（teaching）に関する能力や技術などの資質を組織的な研究・研修によって開発することを意味する。フォレスト＝キンザー編『アメリカ合衆国高等教育百科事典』（Higher Education in the United States; Encyclopedia）によれば、「この用語は授業開発（instructional development）と同義であり、大学教育の向上によって学生の学習を増進することを意図した活動である」（2004、p.211）と定義している。エブル＝マッキーは「FDとは教授団成員が教師や学者としての資質を改善するのを支援することである。」（Eble and McKeachi、1985）としている。

これに対して広義の概念は、教育のみに限定するのではなく、研究、サービス、管理運営などのアカデミックワーク（学事）やそれと関わる人事、評価、生活保障などの諸活動の全域を範囲に包括したものである。広く大学教員のライフサイクル全体に関わる範囲を包括する概念である。イギリスでは、最初、講師の観察過程の時期に照準したFD（イギリスではSD）が開始されたので、ライフサイクル的には30歳前後の早期のキャリアに限定されたと言える。今日のFDは、例えばアメリカの場合、年齢的には、プレFDを入ると大学院生の時代（20代後半）から退職まで（アメリカでは定年がないので、70-80代に及ぶ）の生涯に関わっていることが指摘できる。アメリカの場合、大学院のFD論が開始されている事実がある半面、テニユアを確保する40歳前後以後のキャリアを対象とした「ポストテニユアFD論」（post-tenure faculty development）が台頭していて、例えばジェフリー・アルステートは集中的にそれを研究している（Cf. Alstete、2000）。

このような動きから理解できるように、今日のFDは大学教員の専門職の力量を問題にし、それとの関係で大学の組織体全体の活力を問題にしていることが分かる。大学教員の専門知識や資質を高めることによって、教員のみではなく広く大学の発展を促進すると

ころにねらいがある。領域的には、個人開発(personal development)、専門職開発(professional development)、授業開発(instructional development)、カリキュラム開発(curriculum development)、組織開発(organizational development)、などが含まれている (Eble and McKeachi, 1985; Alstete, 2000, p.32)。

そこには、筆者の考えでは、知識(knowledge)を素材として成立する大学の諸活動(研究、教育、社会サービス、管理運営)などに関わる活動やバイタリティを活性化されることによって、学問の発展を招来し、それをもって社会発展に貢献することが含意されているとみなされる、と言える(有本, 1997)。

大学が「学問の府」(center of learning)であり、「知性の府」(city of intellect)(Brint, 2001)であり、「探求の場所」(place of inquiry)(Clark, 1995)であるとすれば、その活性化を実現するために、大学の諸活動の担い手である教員の創造的な「活力」(vitality)の開発が不可欠であるはずである。決して、諸活動の中の有力ではあるが、唯一とは言えない教育のみに特化して、その活力のみによって大学の再生や活性化が達成されるものではない。その意味で、FDの広義の概念は重要である(Berugquist and Philips, 1975; Alstete, 2000; 伊藤編, 1990)。少なくとも、戦略的かつ戦術的には狭義の概念を重視するとしても、大学が「学事」(academic work)によって「学問的生産性」(academic productivity)を高めることに主たる機能、役割、使命がある以上、教育と同様に学事と関わる研究やサービなどの概念の重要性を十分担保して、教育を重視し、強調することを忘れてはなるまい。そして、現在のアメリカのFDが迎いついた時点、つまりアーネスト・ボイヤーの主張しているように、研究、応用、統合、教育に分化したスカラーシップ=学識(scholarship)(Boyer, 1991 [有本訳, 1994])を教育によって統合することが追求されなければ研究と教育の統合という課題は達成されることにならない、とみなされるのである。

その点では、大学の諸活動の中で、近代大学の誕生以来、研究と教育は車の両輪であり、両者の健全な調和や統合なしには、大学の活性化はあり得ないと考えられてきたことは、再考に値する。19世紀以来追求されてきた研究と教育の連携や統合の理念は、必ずしも実現したとは言えないし、むしろ研究パラダイムの支配によって、連携や統合よりも研究偏重、教育軽視の方向が次第に進行して、現在を迎えたことは否めない事実である。研究と教育は統合されるよりも、研究と教育の別々の制度として分業化する傾向が進行していると観察できるに違いない。大学の中で、「研究大学」(research university)が脚光を浴び、大学院重点化によって研究が強化される半面、教育への比重が低下し、学士課程やとりわけ教養教育が形骸化する傾向が進行していると観測するのは、最近の筆者達の調査研究を参考にしてもなく、決して困難ではあるまい(有本編, 2003)。

特に日本の大学では、戦前より旧帝大を中心に研究パラダイムが支配し、研究大学のみにとどまらず他の大学においても研究モデルの追随を招来せしめた点で大きな影響を及

ばし、戦後の高等教育の大衆化時代に突入した以降においても、戦前に醸成された研究偏重の風土や土壌が温存され、持続されることになった。研究大学が大学全体の5%程度と計算すれば、大多数の大学では、高等教育の大衆化によって顕著になった学生の多様化に対応した教育が重要であるにもかかわらず、それは等閑に付されることになったのである。このような歴史を踏まえ、研究と教育の間に亀裂が生じ、研究偏重が進行した事実を踏まえ、現在は、研究と教育の連携や統合を改めて問い直さなければならない時点に到達しているのである(江原、2003)。換言すれば、FDの広義の概念を担保しながら、狭義の概念を十分に制度的にも、実践的にも定着させることが現時点での重要な戦略的かつ戦術的な課題になると言わなければならない。

現実的には、研究と教育の連携や統合を制度的、意識的に実現すること、過去130年間の日本の大学の歴史を通じて、研究偏重が進行したこと、研究偏重を打破して、教育の見直しと重視を制度的、意識的に実現すること、といった問題がある。は理念の問題であるから、研究と教育の統合を経て最終的には上述した教育による統合が実現されることが課題である。私見では、それにとどまらず、さらに研究と教育と学習の統合が究極的な達成課題であると考えられる。しかし、実際には の状態に陥っている日本の大学では、この直面している現実を改革しなければ、 の理念の実現は一向に可能とならない。

したがって、当面は に焦点を絞って、教育の重視を制度の上でも教員の意識の上でも推進する政策や実践が不可欠である。このように見れば、FDの広義の概念は の実現と関わる側面であり、狭義の概念は研究重視や教育重視の側面であるから、当面の戦略や戦術として を標榜しながらも、それを一挙に実現できないことが歴史的に判明した現在は、 の中の教育重視を体系的かつ積極的に推進する以外に具体的な方法が見出せない。

## 2. FDの制度化研究

FDの制度化の歴史を回顧すると、1970年代にアメリカにおいて各種の教育運動の一環として展開されるに至り、次第に全国の大学に導入されるようになった経緯がある。ほぼ同じ時期に、教職員の資質開発を追求する動きがイギリスにおいて観察されるが、この場合は、通常 staff development の言葉や概念が使用されており、翻訳すればSDとなる(有本、1989; 1998; 1999)。オランダや旧西ドイツなどヨーロッパでは1980年代までに教授法に関する取り組みが開始されていたことが分かる(馬越、1981; 喜多村、1988; 有本章編、1991a)。

この中、米英の取り組みの内容は、前者が教員に特化し、後者が教員ばかりではなく事務職員も包含するという意味合いの点で相違があるとしても、いずれも大学教員の資質開

発を重視している点では大同小異であるとみなしてさしつかえあるまい。現在、イギリスに限らず、広く欧州全域ではFDよりもSDの言葉が使用されており、アメリカとヨーロッパの間で必ずしも両者の交流が意識的に行われないうまま、現在まで個々の発展を遂げてきた事実が見受けられるのであり、世界的には系譜としてイギリス起源とアメリカ起源の二つの源流が識別できることは指摘しておく必要がある。

その源流との関係で日本のFD制度化研究の歴史を見ると、最初はイギリスからの影響を受けていることが分かる。なぜならば、1980年代前半にロンドン大学のFDの理論や実践がいち早く翻訳によって日本へ紹介された事実があるからである（ロンドン大学教育研究所大学教授法研究部、1982）。日本では、アメリカよりもイギリスのSDが研究者によって注目され、研究の対象に設定され、輸入されたのである。そこでは、主として授業の仕方が注目されているので、今日の日本で主として授業を中心とした教員の資質開発が重視されているのと同様の観点が問題にされたことが分かる。その意味では、上記した『諸外国のFD/SDの比較研究』（有本編、1991a）において指摘しているように、すでにFDに関してはアメリカにおいても必ずしも狭義のFDとは限らない書物が出版されていたにもかかわらず、日本ではとりわけ授業に関心が示されたことは、研究者のレベルでは、当時でもFDの狭義の観点が最も関心をひく事柄であったとみなされる。実際に翻訳書も徐々に刊行された（マッキーチ、1984；プライ、1985；ピアド＝ハートレイ、1986；ニュートン＝エンダー編、1986；ローマン、1987；エブル、1987、1988）。

こうして、イギリスから輸入された概念、つまり「狭義のFD」の観点への注目は、アメリカからの概念の輸入と相俟って、若干の研究者の研究の域を出なかったとはいえ、次第に関心を集めるに至った。最初はイギリスから移植した概念であるが、日本ではアメリカのFDの概念が次第に定着することになったのは、研究とは別の力学が作用したことを示唆していて興味深い。その結果、SDならば、教員のみではなく、職員も含めた概念が定着したはずであるにもかかわらず、教員のみを対象にしたFDの概念が使用されることになったのである。その理由を探ると、研究的には80年代にイギリスのSDが先行していたのであるから、むしろ政策的、行政的な側面から1991年の文部省令、さらに1998年の大学審答申の果たした影響が大きいと考えられる。テクニカルタームとして文書化された段階において、威力を発揮し、権威が付与されることになったと同時に、二つの系譜の中の一つにお墨付きが付与されることになった。研究者レベルでは、1980年代ではアメリカのみに一元化する見方は顕著には定着していなかったに違いないが、1990年代後半にはFDへの一元化、画一化が急速に進行することになった（有本、2001）。

そのような詮索の詳細は別の機会に譲ることとし、ここでは制度化が序章的に進化した1980年代では、一般教育学会が80年代半ばにシンポジウムを開催して、学会としてFDを研究したのをはじめ、さらに大学基準協会、国立大学協会、私立大学連盟などの学協会が注目し始めた経緯があることに言及しておきたい。この時期の特徴としては、若

干の研究者達の研究が見られたこと、学協会という団体レベルの組織的な関心が向けられたこと、例外はあるが個々の大学の取組がほとんど見られなかったこと、といった趨勢が指摘できるだろう。特に と の間にはかなりの乖離があった事実を認めざるを得ないであろう。このことは、FDが「大学教授団の資質開発」とは名ばかりであり、大方の大学教員の意識や行動の次元へは点火、波及、浸透するには至らなかったことに他ならず、それを喚起する空気、土壌、風土を醸成する段階にはほど遠い状態に停滞したことになる。その限りでは、FDはあくまで外国産の外来概念であり、借り物であり、従来からの大学の研究者、学者、科学者、教師である教員とは無関係の概念のままであったと言うほかはない。大学教員の仕事が研究者、学者、科学者であると同時に教育者であり、教師であることからすれば、研究や科学への資質や技術への注意を払うばかりではなく、教育の資質や技術に注意を払うことは至極当然のことでありながら、それは看過された段階にとどまった。狭義のFDが教育、教育者、教師と直接関係する内容を持つ以上、それに無関心であることは論理的には考えられないはずであるが、実際の制度化は90年代に持ち越されることになったと観察できる。大学が高等教育の場であり、教育の場であり、教育の成果が上がっていたのならば、おそらく外来概念とは関係なく、従来からの日本型のFDが機能していたと言えるのかもしれない。

制度化が遅れた理由はいくつか考えられよう。例えば、日本の大学は研究中心であること、教員の関心は専ら研究中心であること、報賞体系も研究中心であること、大学内外で教育の重要性が看過されたこと、外圧が欠如したこと、などが該当するだろう。に関しては、戦前の「旧帝大」の流れを汲み、戦後の大学においても、旧専門学校から昇格した大学も含め一律に研究志向に陥り、「研究大学」を模倣し、志向した結果である。はと連動した構造的な体質であり、教員は研究大学に所属すると否にかかわらず、研究一辺倒の意識や行動を呈することになった。1989年時点の調査では、明らかに研究偏重の意識が支配的であった(有本編、1990; 1991b)。同時期に実施されたカーネギー教育振興財団(Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching)の大学教員に関する国際比較調査の結果もそれと符合しており、日本はドイツ、オランダ、スウェーデン、韓国などととも、研究志向のドイツ型の典型を示した(Altbach, ed., 1996; 有本・江原編、1996)。はその背景に作用する要因であり、研究者を教育者よりも讃える報賞体系が強固に作用している事実を抜きに説明できない。は大衆高等教育の段階に入った日本の大学において、学生の資質や学力が多様化したにもかかわらず、大学や教員の「教育力」を期待する社会的批判が殆ど無かったことを意味する。1960年代の「大学紛争」の時代に一時、大学内外において、特に学生からの関心の高まりによって、この種の教育への警鐘や批判が高まったものの、その後十分に対応がなされないまま、進学率の伸びにも助けられて、教育改革への動きが停滞または停止してしまっただのである。はと関係するが、進学率の右肩上がりが持続し、大学の経営破綻が起きて淘汰される危機が



到来しなかったことを意味する。

こうして大学内部からは改革の動きが湧出してこないのは、教員自身が伝統的に研究志向である故に、その打破を自ら真剣に考える素地や体質を持たないという固有性に起因する度合いが少なくないであろう。その意味では、大学教員を動かす意識や行動を左右するメカニズム、例えば理念を内面化する社会化（socialization）のメカニズムが検討されなければならないに違いない。少なくとも戦前以来、日本の大学教員には、「教育的」社会化よりも「科学的」あるいは「研究的」社会化が圧倒的に優勢を占めているのであるから、それ以外の価値への転換がはなはだ困難であるとの推察は容易にできるに違いない。こうして形成された保守的な意識を動かすには反省的、批判的、内発的な自覚が不可欠であるにもかかわらず、現状では少なくとも外圧によって、意識改革や転換を喚起する力学が作用しない限り、その醸成は困難とならざるを得ない。実際、曲がりなりにもFDの制度化が動き始めたのは、外圧の強力な力が作用する段階に至ってからのほかならず、具体的には1991年の大学設置基準の「大綱化」の時点以降であり、現実には上で述べたFDの「努力義務」化が行政的に導入されることになった1998年の大学審答申の時点以降であるとみてさしつかえあるまい。

外圧は例えば、政府のFD要請政策（特に1991年、1998年の大学審答申との連動）

18歳人口の遞減による伝統的學生数の減少が見込まれること、私立大学を中心に定員割れによる経営危機が生じていること、高等教育の大衆化による學生の学習力や学力の低下など多様化が顕著になったこと、大学の教育力の低下に対する社会批判が高まっていること、世界的な高等教育の質的保証に関する競争が激化していること、といった様々な側面を含んでいる。

概して、需要と供給の論理を基軸とした市場原理が強まる中で、他の機関との競争を凌ぐことのできる経営や教育の自力をつけることが求められていることが察知できるはずである。700有余もある大学の中で、経営難が予想され、淘汰が予想される大学が相当数あると推計される現在、経営を立て直すには、迂遠であっても、遠回りであっても、結局は學生を惹きつける魅力ある授業や教育を行い、すぐれた人材輩出機能を形成する以外ない。換言すれば、それは大学が利潤追求の企業ではなく、あくまで「学問の府」「知性の府」「探求の場」、そして「高等教育」の機関である限り、「教育力」の発揮以外に秘策はなく、優れた授業、教育によって多様化した學生の「学習力」を喚起し、十分な学力や付加価値を付与して社会へ輩出し、他大学の追隨を許さないような特色ある教育によって社会的な「評判」(reputation)を高め、それを通して學生数を増やす以外に方法はない。こうした「教育力」の形成の根幹に好むと好まざるとにかかわらずFD活動が位置づけられるのは当然の帰結である。

### 3 . F D 制度化の展開

F Dの研究は、今日、盛んに展開されるようになったが、この時点に至るまでに我々はいくつかの研究を行ってきた。本センターと関わって筆者を中心に手がけた共同研究には、主として、4つのものがある。それは、『諸外国のF D・S Dに関する比較研究』(有本編、1991a)、『大学教育の改善に関する調査研究』(有本編、1990)、『学術研究の改善に関する調査研究』(有本編、1991b)、『学部教育の改革と学生生活』(有本・山崎編、1996)である。特に はF Dと直接の関係を持つ内容である。

第1に、前者 は、現在から13年前に実施したものであるが、当時はまだF Dの制度化が実現していない段階であり、その重要性を痛感する視点を踏まえて、他の国々と日本の現実の比較を行うことを主眼としたものである。諸外国とは、アメリカ、イギリス、旧西ドイツ、フランス、タイ、韓国、中国といった国々を指し、国内外の共同研究者の参画を得て、各国の実状と日本のそれとを比較し、問題点や課題を分析した。これらの国々の中では、上でも述べたように、イギリスとアメリカがS D、あるいはF Dの先進国であり、他の国々とは進捗度にかかなりの差異があることが判明したことは言うまでもない。しかし、研究者の分析した範囲では、各国とも制度的に十分な進展が見られない状態にありながらも、F D自体の必要性や重要性に関しては、十分認識されている状態に到達しており、現状の克服によって将来的に着実な発展が期待されることが察知されていたことが分かる。

日本の場合、この1990年前後は制度化の実現する前のいわば助走段階であったため、若干の翻訳や紹介が研究者レベルで進行している以外は大きな成果が認められない状態に置かれていた。意識が先行し、現実が追いつかない状態を筆者は「日本的F D」と呼称し、次のように指摘した。「日本の大学や大学人のこのような中途半端な状況の中であって、大衆化の第3段階ともいえる時期を迎え、大学審議会の答申によって大学評価の必要性が提言され、これを受けて各大学、大学人はなんらかの対応を余儀なくされるという切羽詰まった段階を迎えることになりつつある。」(有本編、1991a、122頁)

その後、1991年以降になると、次第に制度化が進行し、現在はかなり活発な活動が展開されるまでに至ったことは偽らざる事実である。例えば、学協会の活動、全国大学教育研究センター等の活動、メディア教育研究センターの取組、個別大学の取組、世界的ネットワークの形成、などが指摘できるだろう。

このうち、 に関しては、80年代に最初にシンポジウムを開催して先鞭をつけた一般教育学会あるいは今日の大学教育学会は、その後も精力的にF Dの研究を展開している。

に関しては、全国の国立大学では、「全国大学教育研究センター等協議会」を設置(1996年設置)し、現在20大学がメンバー機関として参加し、活動を継続している。実質的に全国F D研究・実践ネットワークを形成していると言ってよからう。

に関しては、個々の大学において、1990年代の後半から、FDの委員会設置、研修会開催などの実際的な取組が進行するようになった。実践を中心にした報告書や記録も多く公表される段階に入ったことは、日本の大学の歴史からみると、パラダイム転換とも言えるほどの極めて画期的な現象であると言える。各大学に設置された大学教育研究センター等においても、FDは評価、カリキュラム、教養教育などとともに、重要な研究テーマになったことが観察される。

新潟大学大学教育開発研究センターのように、英語名称がずばり Research Institute for Faculty Development と冠された機関も出現した。北海道大学総合教育機能開発センターは、1996年にFDに関する国際セミナーを開催したのを皮切りに、FDの理論や実践において、活発な活動を行ってきている。筆者も招待報告を行った(有本、1998)。京都大学高等教育研究開発推進センター、名古屋大学高等教育研究センター、神戸大学大学教育研究センター、長崎大学大学教育センターなども活発な活動を行っている機関である。FDとの関係が深いSD(職員開発)では、筑波大学大学研究センター、桜美林大学高等教育研究所などが熱心な取組を行いつつある。

我々もFDに関しては早くから理論的研究、経験的研究の両方を持続して来たとし、今回の21世紀COEプログラムでは、FDとともにSD(これは、イギリスのような教員を含めたものではなく、職員のみで特化した日本的な概念)を組織的に研究している。そのほか、大学設置の機関ではないが、全国共同利用的な性格を持つ、メディア教育開発センターのように、FDの実践的な研究に継続的に取り組んでいる機関も出現した(三尾・吉田編、2002参照)。

に関しては、世界的なネットワークは未だ形成されていないので、今後、グローバル化の進展と呼応してなんらかのネットワーク作りが急速に台頭する可能性は高いと観測される場所である。

その点、FDの先進国であるアメリカの動向は参考になるであろう(Forest and Kinser、eds、2002; Alstete、2000)。アメリカ最初のセンター設置は、1962年にミシガン大学に設置された「学習・教育研究センター」(CRLT = Center for Research on Learning and Teaching)である。その後、1980年代にはFDの専門職団体の全国組織として「高等教育の専門職的・組織的開発ネットワーク」(POD = Professional and Organizational Development Network in Higher Education)が設置され、約200機関を擁し、1,200人の授業センター教員や大学教員などの会員を集めて各種のFD活動を展開している(アルステートはPODの設立は1976であるとしている。Alstete、p.27参照)。これは、日本の広島大学高等教育研究開発センターを含め、世界の多くの大学機関を少なくとも名目的に傘下に入れた組織を形成している。このことから判断して、今後実質的なネットワーク化へ向かう可能性を秘めているだろう。また、1993年には、FDの世界ネットワークとして、「世界教育開発コンソシアム」(International Consortium for Educational



(表 4-7 参照)。単純集計では、321 人の学長の回答は、4.7%、53.0%、20.9%、14.3%、7.2%となる。さすがに は少ないが、それでもまだその段階にあるとする割合も5%ほどあり、国立では皆無だが、公立では8%と高い。全体に が74%を占め、軌道にのった段階にあることを示している。セクターでは、国立88%、公立75%、私立70%となる。問題は、制度化が進行するにつれ葛藤を深めている段階を示すが、私立26%、公立16%、国立12%となっており、この段階まで到達した大学がかなり見られることである。私立の中に該当例が最も多く見られることは、私立には先進組がかなりあることを示す。

このように詳細にみると、制度化が進行するにつれ、新たな問題や課題が生じることも明らかになった。制度化の先進組が他のセクターより多い私立セクターを中心に新たな課題や葛藤を経験していることが分かる。私立に限らず、学長はFDが重要であり、必要であるとみなし、所属機関の教員へそれを大いに期待している事実があるにもかかわらず、必ずしも期待通りの成果が得られていないという事実も遺憾なく露呈しており、しかも理念的にはトップダウンではなく、ボトムアップの取組が必要であるとしながらも、実際にはボトムに位置する肝心の教員の意識が十分に醸成されていない事実も露呈しているなど、FDの実践が教員の自主性や主体性を軸に展開されるまで深化していない現実が窺われる。このことは、1989年の段階で理念と現実の間で中途半端な状態に低迷していると指摘して命名した「日本的FD」なる性格が14年経過した現在に至っても持ち越され、必ずしも克服されているとは言えない事実を裏書きしているように見える。

のセクター間の差異に関しては、概して国立は研究志向が強く、教育改善を中心としたFDの取組みも比較的積極的な傾向を示すのに対して、私立は全体には教育志向が強いが機関間のFD進捗度に大きな幅が見られる。公立は他のセクターに比較して私立の一部よりも良好の部分も見られるが、総じて取組みの度合いがやや緩慢であるという傾向が見られる。

上で歴史的な回顧を試みたごとく、日本のFDの制度化は外国からの風土や土壌を鮮明にした輸入であり、しかも「外圧」がなければ導入も定着もないという、保守的なものであり、そのような風土や土壌の克服が実際の制度化の進行過程で実現するか否かがFDの今後の成否を占う鍵となると見込まれる。その意味で、セクター間に温度差があるとしても、一応の制度化を果たした現在、肝心の教員の意識や行動の改革の時点までは、さらに試行錯誤し、紆余曲折するのに必要なかなりの時間を要することを分析結果は明らかにしたと言えるに違いない。もちろん、これは学長を対象とした調査結果の分析であり、今回実施した全国調査の中では一部のデータに過ぎず、残された学部長やとりわけ大学組織体の「運営単位」に位置し、FD制度化の実質的な鍵を握るとみなされる大学教員自身がどのような意識や行動を具現しているかは、平行して分析し、総合的な診断及び処方を行うことが欠かせない。したがって、本報告に続いて、学部長や大学教員のデータを分析し

て、そのようなFDの制度化の問題点と課題の全貌を具体的に検討することにしたいと考えている。その意味からすると、本報告は全体の中の一部であり、あくまで中間報告の域を出ないことを予め断っておきたい。

#### 4．結びにかえて

以上、本報告の「序章」として、「FDの制度化の開始と展開」と題して、日本の1980年代から開始されたFDの移植と制度化の歴史を踏まえて、本調査研究の背景を述べ、併せて研究意図を概略した。

上述したように、FDは、もともと1980年代に外国から輸入された概念であり、それには広義と狭義の意味が含意されており、決して単純な概念ではない。その意味で、ともすると木を見て森を見ないという陥穽に陥る危険性が横たわっていると言わなければならない。それを克服するには、広義の概念を担保して狭義の概念を追求することが当面の課題として重要であることを改めて指摘しなければならない。実際、現在は主として大学教員が果たす大学教育改革の資質や技量に特化して使用される「狭義のFD」概念が定着しつつあるので、表面的には当面の課題を遂行しているとみなされる。と言っても、その実態は、調査結果の分析から明確になるように、決して確固とした一枚岩的な概念に純化し凝集しているのでも、概念として完成しているのでもないことは自明である。それどころか、教員間には概念の解釈にばらつき、曖昧性、多様性が見られるのは偽らざる現実であり、概念の合意や内容の深化はいわば発展途上段階にあるとみてさしつかえあるまい。

今回の調査研究では、広く外来の概念が大学内に定着する制度化過程を射程に入れて調査することを通して現状分析を行うと同時に、特に学長調査によって明確になった最近のFDの制度化の動向を検討することに主眼を置いた。こうした現状分析はFDの理念と現実との落差を実態に即して明らかにするばかりではなく、それを踏まえて解決すべき問題点や課題を浮き彫りにせざるを得ないはずである。換言すれば、現状の診断と処方箋の提示の両方の必要性である。本稿ではその点を指摘するにとどめ、実際の研究方法、調査結果の分析の詳細、データに基づく今後の処方箋の提示などは次章以下に譲ることにしたい。

## 参考文献

- 有本 章 1989「外国の大学授業 F D / S D の動向と実態」片岡徳雄・喜多村和之(編)『大学授業の研究』玉川大学出版部。
- 1997「F D の構造と機能に関する専門分野の視点」『大学論集』26 集、広島大学大学教育研究センター。
- 1998「学部教育とファカルティ・ディベロップメント」『高等教育ジャーナル』第3号、北海道大学高等教育機能開発総合センター。
- 1999「ファカルティ・ディベロップメントの歴史と展望」『IDE 現代の高等教育』No.412。
- 2001「F D の制度化における社会的条件の役割」『大学論集』31 集、広島大学高等教育研究開発センター。
- 2003「学士課程教育改革の現在」有本章・山本眞一(編)『大学改革の現在』東信堂。
- 有本 章(編)1990『大学教育の改善に関する調査研究 全国大学教員調査報告書』(高等教育研究叢書5)広島大学大学教育研究センター。
- (編)1991a『諸外国のF D / S D に関する比較研究』(高等教育研究叢書12)広島大学大学教育研究センター。
- (編)1991b『学術研究の改善に関する調査研究 全国高等教育機関教員調査報告書』(高等教育研究叢書10)広島大学大学教育研究センター。
- (篇)2003『大学のカリキュラム改革』玉川大学出版部。
- 有本 章・江原武一(編著)1996『大学教授職の国際比較』玉川大学出版部。
- 有本 章・山崎博敏(編)1996『学部教育の改革と学生生活 広島大学の学部教育に関する基礎的研究(2)』(高等教育研究総称40)広島大学大学教育研究センター。
- J. W. Alstete 2000 *Posttenure Faculty Development*, Jossey-Bass.
- P. G. Altbach, (ed.), 1996 *The International Academic Profession: Portraits of Fourteen Countries*, Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching.
- W. H. Bergquist, S.R. Phillips, G. Quehl, (eds.), 1975 *A Handbook for Faculty Development*, The Council for the Advancement of Small Colleges.
- R. ピアド, J. ハートレイ(平沢茂訳)『大学の教授・学習法』玉川大学出版部。
- E. L. Boyer, 1991 *Scholarship Reconsidered*, Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching. (有本章訳 1994『大学教授職の使命 スカラーシップ再考』玉川大学出版部)
- D. A. プライ(山口栄一訳)1985『大学の講義法』玉川大学出版部。

- B. Brint (ed.) 2002 *The Future of University of Intellect: The Changing American University* Stanford University Press.
- 大学審議会 1998 『21世紀の大学像と今後の改革方策について』(答申)。
- 江原武一 2003 「大学教授と大学改革」有本章・山本眞一(編著)『大学改革の現在』東信堂。
- K. E. エブル(高橋靖直訳) 1987 『大学教育の目的』玉川大学出版部。
- K. E. エブル(箕輪成男訳) 1988 『大学教授のためのティーチングガイド』玉川大学出版部。
- J. J. F Forest and K. Kinser、(eds.)、2002 *Higher Education in the United States: Encyclopedia*.
- 広島大学大学教育研究センター 1981 「大学における教育機能( Teaching )を考える 第9回(1980年度)『研究員集会の記録』、『大学研究ノート』第50号。
- 伊藤彰浩(編)1990 『ファカルティ・ディベロップメントに関する文献目録及び主要文献紹介』広島大学大学教育研究センター。
- 喜多村和之編 1988 『大学教育とは何か』玉川大学出版部。
- ロンドン大学教育研究所大学教授法研究部(喜多村・馬越・東編訳)1982 『大学教授法入門 大学教育の原理と方法』玉川大学出版部。
- J. ローマン(阿部美哉監訳)1987 『大学のティーチング』玉川大学出版部。
- W. J. マッキーチ(高橋靖直訳)1984 『大学教授法の実際』玉川大学出版部。
- 三尾忠男・吉田文(編)2002 『ファカルティ・ディベロップメントが大学教育を変える』文葉社。
- F. B. ニュートン= K. L. エンダー編(岡田臣・中川米造訳)1986 『大学の学生指導成長モデルの理論と実践』玉川大学出版部。
- 馬越徹 1980 「ヨーロッパにおける大学教授法( College Teaching )研究の動向」『IDE 現代の高等教育』No. 212、67-74頁。



## 第1章 調査の目的と方法

# 第1章 調査の目的と方法

有本 章・大膳 司

## 1. 調査の目的

本研究は、21世紀COEプログラム「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」(拠点リーダー：有本章)の一環として実施した質問紙調査『大学における教育活動の改善に関するアンケート調査』の第一次報告である。

本調査は、わが国の国公立大学における教育改善活動の現状を明らかにし、大学教育の活性化に向けての今後の課題や方策を検討することを目的として実施した。本調査を必要とする背景には、種々の理由から大学教育改善の現状を調査によって実証的に把握する作業の必要性がある点を指摘できる。それは主として、社会変化(グローバル化、知識社会化、市場化など)が急速に進む中で、大学の教育機能の見直しと改善が必要であること、FD・SDの制度化に関する国際比較の視点から大学教育の質的保証の問題を明らかにする必要があること、それと関連して、わが国におけるFDの制度化の実態に関する調査に基づいて大学教育改善の問題点と方策を明確にする必要があること、などである。

このような調査の目的や必要性を踏まえて、具体的な分析を進める場合には次のような視点に留意することとした。

第1は、大学教育の改善に教員の意識や行動の側面から主要な役割を果たすと考えられる、FD(大学教授団の資質開発)の制度化の現状を分析する視点である。この概念は、外国から輸入され、1990年代に大学へ制度化され始め、1991年と1998年の時点を画期として、この10年間に一躍発展を遂げたことが分かる。その間、どのような形で定着し、どのような問題や課題が出現しているかを検討する必要がある。

第2は、FDを中心とした大学教育改善の取組を縦軸と横軸の比較から分析する視点である。縦軸は、前調査(1989年)と本調査(2003年)を比較して、時系列的にFDの制度化と大学教育改善の実績を検討するものであり、他方、横軸は、システム間、セクター間、機関間等の比較分析を通して制度化の深化の実態を明らかにするものである。

第3には、システム内部に焦点づけて制度化の展開を分析する視点である。ここでは、システム(国の政策・計画)、機関(学長及び執行部)、学部(学部長)、専門分野の各レベル間における制度化に関するトップダウンとボトムアップの角度からの相互作用を検討すると同時に、セクター(国・公・私立)、専門分野(学部・学科・講座・専攻など)、大学類型(教育型、中間型、研究型など)、職階(教授、助教授、講師など)等の類型間の比較検討を試みる。

## 2. 調査の方法

### 1) 調査の対象

2003年5月1日現在、全国の国・公・私立の4年制大学に在職中の学長を調査対象とした。

### 2) 調査方法

広潤社編集部編『2002 全国大学職員録 国公立大学編』『2002 全国大学職員録 私立大学編』を用いて、全大学の学長を調査対象とした。

2003年5月末から6月上旬までに調査に調査票を郵送し、7月中旬を第一次の締め切りとした。回収率を上げるため、6月下旬と7月中旬に督促状を送り、8月上旬までに回収を終えた。

なお、調査票配布数、回答数、回答率は表1-1の通りである。

回答率を設置者別に見れば、国立大学71.3%、公立大学60.3%、私立大学45.5%となっていた。私立大学からの回答は他の設置形態に比べて少し低いようである。

表1-1 アンケート調査票配布数・回答数・回答率

	配布数	回答数	回答率
国立	94	67	71.3%
公立	73	44	60.3%
私立	508	231	45.5%
その他	*	1	
計	675	343	50.8%

## 3. 回答者の属性

回答した学長の属性は以下の通りである。

### 1) 性

男性が92.7%、女性が7.3%とほとんどが男性からの回答だった。

平成13年度の学校教員基本調査報告における学長の性別構成をみると、男性が92.4%、女性が7.6%となっており、ほぼ同じ比率であった。

表1-1 性別構成

男	317 ( 92.7% )
女	25 ( 7.3% )
計	342 ( 100.0% )

## 2) 年代

20代、30代の学長はおらず、最も多い年代は、60代で(48.1%)、続いて、70代(25.7%)、50代(22.7%)であった。

平成13年度実施の学校教員基本調査における学長の年齢別構成をみると、50代は13.1%、60代は50.5%、70代は35.6%、であった。回答者は、実際の構成に比べて、50代が多く回答しており、70代が少なく回答していた。

表1-2 年代別構成

20代	0 ( 0.0%)
30代	0 ( 0.0%)
40代	9 ( 2.7%)
50代	77 ( 22.7%)
60代	163 ( 48.1%)
70代	87 ( 25.7%)
80代以上	3 ( 0.9%)
計	339 ( 100.0%)

## 3) 設置形態

国立は19.6%、公立は12.9%、私立は67.5%であった。

平成13年度実施の学校教員基本調査における学長の設置形態別構成は、国立は15.1%、公立は11.3%、私立は73.6%であった。回答者は、実際の構成に比べて、国立大学学長が比較的多く回答し、私立大学学長が少なく回答していた。

表1-3 設置形態別構成

国立	67 ( 19.6%)
公立	44 ( 12.9%)
私立	231 ( 67.5%)
計	342 ( 100.0%)

## 4) 設置学部数

回答した学長の大学の学部数をみると、1学部のみは43.4%であった。

表1-4 学部数

1	145 ( 43.4%)
2	75 ( 22.5%)
3	39 ( 11.7%)
4	20 ( 6.0%)
5	21 ( 6.3%)
6	8 ( 2.4%)
7	11 ( 3.3%)
8	6 ( 1.8%)
9	2 ( 0.6%)
10	4 ( 1.2%)
11	1 ( 0.3%)
12	1 ( 0.3%)
13	1 ( 0.3%)
合計	334 ( 100.0%)

## 5) 設置年

回答した大学の設置年をみると、10.1%のみが戦前に設置されていた。

表1-5 設置年

戦前	34 ( 10.1%)
戦後	303 ( 89.9%)
計	337 ( 100.0%)

## 6) 専門分野

回答した学長の専門分野は、人文科学系が最も多く（21.7%）続いて、社会科学系（21.1%）、医歯薬学系（19.9%）、工学系（13.1%）となっていた。

表 1-6 専門分野

人文科学系	73 ( 21.7%)
社会科学系	71 ( 21.1%)
理学系	28 ( 8.3%)
工学系	44 ( 13.1%)
農学系	16 ( 4.8%)
医歯薬学系	67 ( 19.9%)
家政系	2 ( 0.6%)
教員養成系	10 ( 3.0%)
総合科学系	2 ( 0.6%)
教養教育系	3 ( 0.9%)
その他	20 ( 6.0%)
計	336 ( 100.0%)

## 7) 大学院の設置状況

回答大学の大学院設置状況を表 1-7に示した。大学院を持たない大学は19.3%で、博士課程をもつ大学は59.9%であった。

表 1-7 大学院の有無

修士課程まで	69 ( 20.8%)
博士課程まで	199 ( 59.9%)
なし	64 ( 19.3%)
計	332 ( 100.0%)

## 8) 全学レベルの委員の経験

全学レベルの各種委員の経験の有無について質問した結果が表 1-8である。

最も多くの経験されている委員が、入試系委員で、続いて、自己評価系委員、教務系委員、となっていた。

逆に、経験の少ない委員が、就職系委員と教養教育系委員、であった。

表 1-8 全学レベル委員の経験

入試系委員	228 ( 66.5%)
教務系委員	199 ( 58.0%)
就職系委員	84 ( 24.5%)
教養教育系委員	85 ( 24.8%)
自己評価系委員	210 ( 61.2%)
その他	58 ( 16.9%)

注)有効回答者数 343名

## 9) 所属大学への勤務年数

所属大学への勤務年数の分布を示したのが表 1-9である。

どの年齢階層にもほぼ同じ比率の人数が分布している。

表 1-9 所属大学への勤務年数

5年以下	85 ( 24.9%)
6～10年	50 ( 14.6%)
11～20年	51 ( 14.9%)
21～30年	86 ( 25.1%)
31年以上	70 ( 20.5%)
計	342 ( 100.0%)

#### 10) 外国で授業を受けた経験の有無

外国で授業を受けた経験の有無を質問した結果が表1-10である。

経験のある学長は47.0%であった。大学の国際化が叫ばれているにしては意外と外国での学習の経験が少ないようである。

さらに、留学経験者に留学先を質問した結果が表1-10-1である。留学先として、米国が最も多く(58.1%)、続いて、英国(14.8%)、ドイツ(13.5%)となっていた。

表1-10 外国で授業を受けた経験の有無

有る	155 ( 47.0%)
無い	175 ( 53.0%)
計	330 ( 100.0%)

表1-10-1 外国で授業を受けた国

米国	90 ( 58.1%)
英国	23 ( 14.8%)
ドイツ	21 ( 13.5%)
フランス	7 ( 4.5%)
中国	2 ( 1.3%)
その他	25 ( 16.1%)

注)有効回答者数 155名

#### 11) 授業担当の有無

現在の担当授業の有無について

表1-11 授業担当の有無

質問した結果が表1-11である。

授業を担当していない学長は33.6%で、残りの66.4%が授業を担当していた。

なお、教養教育のみ担当の学長は少ないようであった。

学士課程の共通・教養教育のみ	26 ( 7.7%)
学士課程の専門教育(専門基礎を含む)	70 ( 20.6%)
大学院修士課程	56 ( 16.5%)
大学院博士課程	73 ( 21.5%)
いずれの課程も担当していない	114 ( 33.6%)
計	339 ( 100.0%)

以上、学長の属性データの面から、本調査で回収したデータは、国公立に少し偏ってはいるものの、学長母集団の特徴を反映したものと言えるのではないかとと思われる。それ故に、本データを分析することによって、日本の学長の意識や大学の状況を明らかにできるものとする。

## 4 . 本報告書の内容

本報告書は、「FDの制度化の開始と展開」の観点から、日本の1980年代から開始されたFDの概念、FDの制度化研究、FDの制度化の展開を踏まえて、本調査研究の背景と

研究意図を概略した序章に続いて、5つの章から構成されている。

第1章では、調査の目的と方法について示した。

第2章では、日本の大学において、どのような目的の下で学士課程教育が実施されており、その質を維持・発展させるためにどのような工夫がなされているかについて、学長へのアンケート調査に基づいて明らかにする。

第3章では、FD活動の基本理念および実施状況に関する日本全体的な状況を把握するとともに、機関類型別にみたFD活動の特性について検討する。

第4章では、FD活動の現状の問題点、FD状況の総合的診断そしてFDの今後の課題について分析を進めていった。

最後に、調査結果全体のまとめと今後の調査・研究課題を示した。

## 第2章 学士課程教育に対する意識と実態



## 第2章 学士課程教育に対する意識と実態

大膳 司

本章では、日本の大学において、どのような目的の下で学士課程教育が実施されており、その質を維持・発展させるためにどのような工夫がなされているかについて、学長へのアンケート調査に基づいて明らかにすることを課題としている。

### 1. 学士課程教育の実態

#### 1) 学士課程レベル大学教育の目的

まず最初に、各大学ではどのような目的のもとに学士課程教育が実施されているのか探ることとした。そこで、その教育目的を図2-1の通り4つに分類した。

図2-1 「教育目的」の分類枠組み

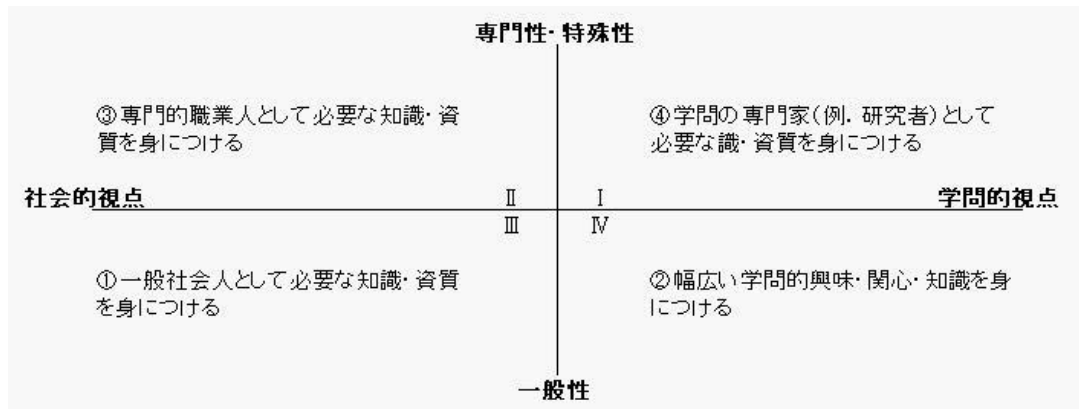


図2-1の縦軸は、教育目的を、専門性・特殊性(専門的な内容や特殊な内容を重視する)と一般性(一般的な内容を重視する)から分類する軸で、横軸は、学問的視点と社会的視点から分類する軸である。この2つの軸をクロスすることによって、理念としての教育目的を4種類に分類した。

左下の第Ⅲ象限は、一般性と社会的視点を重視する教育目的を指し、「一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」と表現した。第Ⅳ象限は、一般性と学問的視点を重視する教育目的を指し、「幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる」と表

現した。以下同様に、第 象限を、「 専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」、第 象限を、「 学問の専門家（例・研究者）として必要な知識・資質を身につけさせる」と表現した。

この4つの理念としての教育目的を用いて、各大学の学士課程の教育が目的とどの程度関連しているかを以下の通り質問した。

【問1】あなたの「大学・学部の教育」の目的は、以下の ~ の各事項とどの程度関連していると思われますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

	関連がある	ある程度 関連がある	どちらとも 言えない	あまり 関連がない	関連がない
一般社会人として必要な知識・ 資質を身につけさせる	1	2	3	4	5
幅広い学問的興味・関心・知識 を身につけさせる	1	2	3	4	5
専門的職業人として必要な知識 ・資質を身につけさせる	1	2	3	4	5
学問の専門家（例・研究者） として必要な知識・資質を 身につけさせる	1	2	3	4	5

単純集計結果が、表 2 -1-1である。

表 2 -1-1 各大学の学士課程教育の教育目的

	①一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる	②幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる	③専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる	④学問の専門家(例・研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる
関連がある	67.2%	67.8%	71.4%	23.7%
ある程度関連がある	29.9%	26.9%	23.6%	40.1%
どちらとも言えない	1.5%	4.1%	3.2%	19.6%
あまり関連がない	1.5%	1.2%	1.7%	14.9%
関連がない	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%
合計	341	342	343	342

「 一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」「 幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる」「 専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」

については、「関連がある」を選択した学長はそれぞれ67.2%、67.8%、71.4%とほぼ7割程度と多くの大学の学士課程教育目的と関連の強い項目であった。

なお、「④学問の専門家（例、研究者）として必要な知識・資質を身につけさせる」を「関連がある」と選択した大学は23.7%と少なかった。

日本の大学の学士課程教育の平均像は、「④学問の専門家（例、研究者）として必要な知識・資質を身につけさせる」以外の教育目的に対して強く配慮していることがわかった。

設置者、大学院の有無、学部数別に、学士課程教育の目的の関連度を示したのが表2-1-2である。

表2-1-2 大学属性別の各大学の学士課程教育の教育目的

① 一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
関連がある	60.6%	60.5%	70.6%	74.6%	65.5%	65.2%	64.1%	69.0%
ある程度関連がある	37.9%	27.9%	27.7%	20.9%	32.5%	30.3%	32.4%	28.3%
どちらとも言えない	0.0%	9.3%	0.4%	3.0%	0.5%	3.0%	2.1%	1.1%
あまり関連がない	1.5%	2.3%	1.3%	1.5%	1.5%	1.5%	1.4%	1.6%
合計	66	43	231	67	197	66	145	187

② 幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
関連がある	77.6%	52.3%	67.8%	69.1%	73.6%	50.0%	60.3%	73.3%
ある程度関連がある	19.4%	40.9%	26.5%	22.1%	23.4%	42.4%	32.2%	23.0%
どちらとも言えない	1.5%	6.8%	4.3%	7.4%	2.0%	6.1%	5.5%	3.2%
あまり関連がない	1.5%	0.0%	1.3%	1.5%	1.0%	1.5%	2.1%	0.5%
合計	67	44	230	68	197	66	146	187

③ 専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
関連がある	94.0%	81.8%	62.8%	69.1%	76.8%	54.5%	74.1%	68.4%
ある程度関連がある	6.0%	11.4%	31.2%	26.5%	19.7%	36.4%	20.4%	26.7%
どちらとも言えない	0.0%	4.5%	3.9%	1.5%	3.0%	4.5%	3.4%	3.2%
あまり関連がない	0.0%	2.3%	2.2%	2.9%	0.5%	4.5%	2.0%	1.6%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

④ 学問の専門家(例、研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
関連がある	37.9%	36.4%	17.3%	14.9%	33.3%	4.5%	24.7%	22.5%
ある程度関連がある	42.4%	40.9%	39.0%	34.3%	42.4%	33.3%	39.7%	41.2%
どちらとも言えない	10.6%	11.4%	23.8%	25.4%	15.7%	27.3%	17.8%	21.9%
あまり関連がない	9.1%	9.1%	17.7%	23.9%	7.6%	30.3%	15.1%	13.9%
関連がない	0.0%	2.3%	2.2%	1.5%	1.0%	4.5%	2.7%	0.5%
合計	66	44	231	67	198	66	146	187

注) \*\*\* p<0.001、 \*\* p<0.01、 \* p<0.05

設置者別にみて、国立大学が他の設置形態に比べて関連があるとする比率の高い目的は、「②幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる」「③専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」「④学問の専門家（例、研究者）として必要な知識・資質を

身につけさせる」であった。「①一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」は私立大学において関連があると回答した大学が多くなっていた。

大学院の有無別にみて、博士課程まで持っている大学が他の形態の大学に比べて関連があると回答した比率の高い目的は、「②幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる」「③専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」「④学問の専門家（例、研究者）として必要な知識・資質を身につけさせる」であった。これは、国立大学における学士課程教育の教育目的の特徴と似ている。

なお、学部数による教育目的の有意な違いは確認されなかった。

以上の結果から、単純集計レベルでは教育目的として高いレベルで指示されていなかった「④学問の専門家（例、研究者）として必要な知識・資質を身につけさせる」や「③専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」を、大学院博士課程まで設置した国立大学が掲げていることが明らかになった。

今後の知識社会化へ備えて、政府は、大学院博士課程まで設置した国立大学への戦略的支援が必要ではないか。

## 2) 学士課程教育の全般的評価

各大学の学士課程教育がうまくいっているかどうかをしらべるために、「あなたの「大学・学部の教育」を全般的にどのように評価されますか」と質問した（【問2】）。

表2-2のような集計結果となった。

「うまくいっている」と回答した大学は全体の11.3%しかなく、「ある程度うまくいっている」が76.8%であった。「どちらとも言えない」か「あまりうまくいっていない」か「うまくいっていない」を選択した大学は11.9%であった。

日本の大学の学士課程教育はある程度うまくいっているようであるが改善の余地もあるようである。

表2-2 学士課程教育の全般的評価（機関属性別）

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	**	単科	総合
うまくいっている	11.3%	11.9%	15.9%	10.3%	16.7%	11.9%	4.6%	15.3%	8.7%
ある程度うまくいっている	76.8%	83.6%	75.0%	75.0%	68.2%	80.9%	70.8%	73.6%	78.1%
どちらとも言えない	9.8%	4.5%	6.8%	12.1%	13.6%	5.7%	20.0%	9.0%	10.9%
あまりうまくいっていない	2.1%	0.0%	2.3%	2.7%	1.5%	1.5%	4.6%	2.1%	2.2%
合計	336	67	44	224	66	194	65	144	183

注) \*\*\* p<0.001、 \*\* p<0.01、 \* p<0.05

大学院の有無別についてみると、「修士まで」の大学が「うまくいっている」とする回答をする比率が最も高く（16.7%）、「大学院なし」の大学が、「どちらとも言えない」か

「あまりうまくいっていない」か「うまくいっていない」を選択する比率が最も高くなっていた(24.4%)

大学院のない大学における学士課程教育に対する評価は比較的低いようである。

### 3) どのような評価結果に基づいて学士課程教育を評価したか

どのような評価結果に基づいて【問2】で学士課程教育を自己評価したかを以下の通り質問した。

【問3】どのような評価結果に基づいて、上の【問2】のような回答をされましたか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

	重視した	ある程度重視した	どちらとも言えない	あまり重視しなかった	重視しなかった	実施していない
1. 在学生による評価	1	2	3	4	5	6
2. 卒業生による評価	1	2	3	4	5	6
3. 学生の就職状況	1	2	3	4	5	6
4. 学生の大学院進学状況	1	2	3	4	5	6
5. 留学生による評価	1	2	3	4	5	6
6. 受験産業・マスコミの評価 (偏差値等)	1	2	3	4	5	6
7. 卒業生に対する企業の評価	1	2	3	4	5	6
8. 教育の自己点検結果	1	2	3	4	5	6
9. 外部評価・第三者評価 による評価結果	1	2	3	4	5	6
10. その他 ( )	1	2	3	4	5	6

その単純集計結果が表2-3-1である。

最も多くの学長が「重視した」と回答した項目は「8. 教育の自己点検結果」(32.9%)であった。続いて、「1. 在学生による評価」(31.3%)、「3. 学生の就職状況」(29.6%)

であった。

表 2-3-1 どのような評価結果に基づいて学士課程教育を評価したか

	1. 在学生による評価	2. 卒業生による評価	3. 学生の就職状況	4. 学生の大学院進学状況	5. 留学生による評価	6. 受験産業・マスコミの評価(偏差値等)	7. 卒業生に対する企業の評価	8. 教育の自己点検結果	9. 外部評価・第三者評価による評価結果	10. その他
重視した	31.3%	13.0%	29.6%	9.4%	4.6%	5.7%	11.7%	32.9%	20.4%	34.5%
ある程度重視した	53.2%	38.4%	51.4%	34.7%	27.6%	34.7%	44.3%	54.4%	28.1%	44.8%
どちらとも言えない	7.6%	14.5%	8.5%	26.1%	22.1%	28.7%	18.5%	7.1%	6.6%	10.3%
あまり重視しなかった	2.0%	3.0%	2.1%	15.8%	8.0%	19.3%	3.7%	1.8%	3.3%	0.0%
重視しなかった	0.3%	1.5%	1.8%	7.3%	7.1%	8.2%	3.1%	0.6%	1.5%	0.0%
実施していない	5.6%	29.6%	6.6%	6.7%	30.7%	3.3%	18.9%	3.2%	40.1%	10.3%
合計	342	331	331	329	326	331	325	340	334	29

属性ごとに学士課程教育を評価する際に用いた視点の重視度の結果を示したのが表 2-3-2 である。

設置者と危険率 1% において有意な関連性のある事項のうち、国立大学が他の設置形態に比べてより重視したと回答された項目は、「4. 学生の大学院進学状況」「5. 留学生による評価」「9. 外部評価・第三者評価による評価結果」であった。また、国・公立大学が私立大学よりも重視した項目は、「2. 卒業生による評価」であった。

表 2-3-2 どのような評価結果に基づいて学士課程教育を評価したか (属性別)

1. 在学生による評価

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	31.3%	29.5%	31.7%	30.9%	33.3%	24.6%	26.7%	34.2%
ある程度重視した	50.7%	56.8%	53.0%	51.5%	50.5%	63.1%	58.2%	49.7%
どちらとも言えない	14.9%	6.8%	5.7%	5.9%	9.1%	4.6%	8.2%	7.0%
あまり重視しなかった	3.0%	2.3%	1.7%	4.4%	2.0%	0.0%	0.7%	3.2%
重視しなかった	0.0%	0.0%	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
実施していない	0.0%	4.5%	7.4%	5.9%	5.1%	7.7%	6.2%	5.3%
合計	67	44	230	68	198	65	146	187

2. 卒業生による評価

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	16.4%	16.7%	11.3%	18.2%	13.3%	6.9%	15.6%	9.9%
ある程度重視した	37.3%	40.5%	38.0%	30.3%	43.4%	31.0%	34.0%	42.3%
どちらとも言えない	23.9%	4.8%	13.6%	16.7%	12.8%	15.5%	16.3%	13.2%
あまり重視しなかった	10.4%	2.4%	0.9%	1.5%	3.6%	1.7%	2.1%	3.8%
重視しなかった	0.0%	0.0%	2.3%	1.5%	2.0%	0.0%	1.4%	1.1%
実施していない	11.9%	35.7%	33.9%	31.8%	25.0%	44.8%	30.5%	29.7%
合計	67	42	221	66	196	58	141	182

3. 学生の就職状況

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	28.4%	26.8%	30.6%	37.3%	33.0%	11.9%	31.7%	27.7%
ある程度重視した	61.2%	46.3%	49.1%	49.3%	51.0%	52.5%	38.8%	61.4%
どちらとも言えない	7.5%	12.2%	8.1%	10.4%	7.2%	10.2%	8.6%	7.6%
あまり重視しなかった	1.5%	0.0%	2.7%	1.5%	1.5%	5.1%	3.6%	1.1%
重視しなかった	0.0%	4.9%	1.8%	0.0%	3.1%	0.0%	2.9%	1.1%
実施していない	1.5%	9.8%	7.7%	1.5%	4.1%	20.3%	14.4%	1.1%
合計	67	41	222	67	194	59	139	184

4. 学生の大学院進学状況

	設置者			***			大学院			***		学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	修士まで	博士まで	なし	単科	総合		
重視した	20.9%	7.1%	6.4%	10.4%	10.7%	3.6%	7.9%	9.9%					
ある程度重視した	47.8%	38.1%	29.7%	20.9%	42.9%	18.2%	34.3%	36.5%					
どちらとも言えない	19.4%	21.4%	29.2%	31.3%	26.0%	20.0%	22.9%	28.2%					
あまり重視しなかった	10.4%	11.9%	18.3%	20.9%	14.8%	14.5%	15.0%	16.6%					
重視しなかった	1.5%	11.9%	8.2%	13.4%	4.1%	12.7%	8.6%	6.1%					
実施していない	0.0%	9.5%	8.2%	3.0%	1.5%	30.9%	11.4%	2.8%					
合計	67	42	219	67	196	55	140	181					

5. 留学生による評価

	設置者			***			大学院			***		学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	修士まで	博士まで	なし	単科	総合		
重視した	10.6%	0.0%	3.7%	4.6%	5.7%	1.8%	5.8%	3.9%					
ある程度重視した	31.8%	24.4%	26.6%	26.2%	26.4%	31.6%	24.5%	30.6%					
どちらとも言えない	36.4%	9.8%	20.2%	23.1%	24.4%	14.0%	16.5%	25.6%					
あまり重視しなかった	10.6%	12.2%	6.4%	7.7%	8.3%	5.3%	7.9%	8.3%					
重視しなかった	3.0%	4.9%	8.7%	4.6%	7.3%	7.0%	7.2%	6.1%					
実施していない	7.6%	48.8%	34.4%	33.8%	28.0%	40.4%	38.1%	25.6%					
合計	66	41	218	65	193	57	139	180					

6. 受験産業・マスコミの評価(偏差値等)

	設置者			***			大学院			**		学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	修士まで	博士まで	なし	単科	総合		
重視した	4.5%	4.8%	6.3%	4.5%	7.2%	3.4%	3.5%	7.7%					
ある程度重視した	28.4%	50.0%	33.5%	27.3%	41.5%	16.9%	29.8%	37.9%					
どちらとも言えない	40.3%	28.6%	25.3%	33.3%	26.7%	32.2%	29.1%	28.6%					
あまり重視しなかった	17.9%	11.9%	21.3%	24.2%	15.4%	25.4%	23.4%	16.5%					
重視しなかった	7.5%	2.4%	9.5%	7.6%	7.7%	11.9%	9.9%	6.6%					
実施していない	1.5%	2.4%	4.1%	3.0%	1.5%	10.2%	4.3%	2.7%					
合計	67	42	221	66	195	59	141	182					

7. 卒業生に対する企業の評価

	設置者			***			大学院			*		学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	修士まで	博士まで	なし	単科	総合		
重視した	18.2%	10.0%	10.1%	9.1%	15.0%	3.6%	11.0%	12.7%					
ある程度重視した	42.4%	32.5%	46.8%	45.5%	46.6%	34.5%	34.6%	51.9%					
どちらとも言えない	18.2%	20.0%	18.3%	21.2%	16.6%	20.0%	16.9%	19.3%					
あまり重視しなかった	6.1%	5.0%	2.8%	4.5%	2.6%	5.5%	5.1%	2.8%					
重視しなかった	1.5%	5.0%	3.2%	6.1%	2.6%	1.8%	2.9%	2.2%					
実施していない	13.6%	27.5%	18.8%	13.6%	16.6%	34.5%	29.4%	11.0%					
合計	66	40	218	66	193	55	136	181					

B. 教育の自己点検結果

	設置者			***			大学院			***		学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	修士まで	博士まで	なし	単科	総合		
重視した	40.3%	32.6%	31.0%	35.3%	35.4%	22.2%	32.4%	33.9%					
ある程度重視した	52.2%	53.5%	55.0%	50.0%	53.5%	60.3%	54.5%	53.2%					
どちらとも言えない	7.5%	4.7%	7.4%	10.3%	6.6%	6.3%	7.6%	7.0%					
あまり重視しなかった	0.0%	0.0%	2.6%	2.9%	1.5%	1.6%	0.7%	2.7%					
重視しなかった	0.0%	2.3%	0.4%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%					
実施していない	0.0%	7.0%	3.5%	1.5%	2.0%	9.5%	4.8%	2.2%					
合計	67	43	229	68	198	63	145	186					

9. 外部評価・第三者評価による評価結果

	設置者			***			大学院			***		学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	修士まで	博士まで	なし	単科	総合		
重視した	46.3%	14.0%	13.5%	16.2%	25.4%	5.1%	18.9%	21.3%					
ある程度重視した	43.3%	25.6%	24.2%	25.0%	33.0%	16.9%	22.4%	31.7%					
どちらとも言えない	9.0%	2.3%	6.7%	8.8%	6.6%	1.7%	5.6%	7.1%					
あまり重視しなかった	1.5%	2.3%	4.0%	2.9%	3.0%	3.4%	2.8%	3.8%					
重視しなかった	0.0%	0.0%	2.2%	1.5%	1.5%	1.7%	1.4%	1.6%					
実施していない	0.0%	55.8%	49.3%	45.6%	30.5%	71.2%	49.0%	34.4%					
合計	67	43	223	68	197	59	143	183					

その他

	設置者			***			大学院			***		学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	修士まで	博士まで	なし	単科	総合		
重視した	75.0%	20.0%	30.0%	40.0%	36.4%	27.3%	36.7%	33.3%					
ある程度重視した	0.0%	60.0%	50.0%	40.0%	45.5%	45.5%	57.1%	33.3%					
どちらとも言えない	25.0%	20.0%	5.0%	20.0%	9.1%	9.1%	7.1%	13.3%					
実施していない	0.0%	0.0%	15.0%	0.0%	9.1%	18.2%	0.0%	20.0%					
合計	4	5	20	5	11	11	14	15					

注) \*\*\* p<0.001、 \*\* p<0.01、 \* p<0.05

大学院の有無と危険率1%において有意な関連性のある事項のうち、博士課程をもつ大学がそうでない大学に比べて重視した項目は、「4. 学生の大学院進学状況」「6. 受験産業・マスコミの評価(偏差値等)」「9. 外部評価・第三者評価による評価結果」である。また、博士課程あるいは修士課程をもつ大学が大学院のない大学よりも重視した項目は、「3. 学生の就職状況」であった。

どのような大学も、「教育の自己点検結果」と「在学生による評価」を学士課程教育を評価する基本的な視点としている。

## 2. 大学の学士課程教育の改善状況

### 1) あなたの大学教育の達成レベルを高めるための事項

各大学は、学士課程教育の達成レベルを高めるためにどのような施策が重要であると認識しているのかを確認するために、38項目の施策を示して、どの程度重要であると思うか質問した。項目の詳細については、巻末の資料1のアンケート調査票【問2】をご参照いただきたい。

その結果が表2-4である。同表には、大学教育の達成レベルを高めるために最も重要であると思われる項目を明らかにするために、「重要である」を1、「ある程度重要である」を2、「どちらとも言えない」を3、「あまり重要でない」を4、「重要でない」を5として各事項の平均値を計算し、平均値の低い順(重要度の高い順)に項目を並べたものである。

学長が重要であるとした項目の上位4位までは、「教員が授業の準備を周到に行う」、「教員が授業内容を工夫する」、「教員が学生の質問や意見に関心を持つ」、「教員が効果的な講義方法を工夫する(例:ポータルフォリオ等)」など教員自身の努力項目であった。

逆に、学長が比較的に重要でないとした項目の上位7位までは、「英語を使って授業をする」、「国際的に標準とされるテキストを使って授業をする」、「(34)主専攻・副専攻制を設ける」、「(35)転学部・転学科制度を設ける」、「(38)大学が都市に位置している」、「(31)1学期に取得可能な単位数の上限を設定する(CAP制)」、「(33)他大学と単位互換を行う」など大学の組織的努力項目であった。

このように、学長が、大学教育の達成レベルを高めるために最も重要であると思っている項目は、教員の活動や構えに関する事項である。大学教育の達成レベルを高めるためには教師の資質開発(FD活動)の重要性が認識されている。



表2-4 「大学・学部の教育」の達成レベルを高めるための重要な事項

	重要である	ある程度重要である	どちらとも言えない	あまり重要でない	重要でない	合計	平均値	標準偏差
	1	2	3	4	5	==>		
㊦教員が授業の準備を周到に行う	271 79.0%	69 20.1%	3 0.9%	0 0.0%	0 0.0%	343 100.0%	1.2	0.44
㊦教員が授業内容を工夫する	288 84.0%	53 15.5%	2 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	343 100.0%	1.2	0.39
㊦教員が学生の質問や意見に関心を持つ	233 68.1%	102 29.8%	6 1.8%	1 0.3%	0 0.0%	342 100.0%	1.3	0.53
㊦教員が効果的な講義方法を工夫する (例. ポートフォリオ等)	257 74.9%	79 23.0%	6 1.7%	1 0.3%	0 0.0%	343 100.0%	1.3	0.50
㊦教育組織のカリキュラムを見直す	219 64.0%	111 32.5%	11 3.2%	1 0.3%	0 0.0%	342 100.0%	1.4	0.57
㊦学生が熱心に学習する	233 68.3%	92 27.0%	16 4.7%	0 0.0%	0 0.0%	341 100.0%	1.4	0.57
㊦教員の授業改善を組織的に支援する (例. 学生による授業評価やFD活動等)	226 66.5%	107 31.5%	7 2.1%	0 0.0%	0 0.0%	340 100.0%	1.4	0.52
(22)教員が学生による授業評価結果を参考 にして授業改善に努める	212 61.8%	120 35.0%	9 2.6%	2 0.6%	0 0.0%	343 100.0%	1.4	0.58
(36)教育活動の自己点検・評価を行う	231 67.5%	103 30.1%	7 2.0%	1 0.3%	0 0.0%	342 100.0%	1.4	0.54
㊦教員が学生の成長発達に関心を持つ	199 58.2%	128 37.4%	14 4.1%	1 0.3%	0 0.0%	342 100.0%	1.5	0.59
㊦教員が豊富な知識を持っている	181 52.8%	142 41.4%	19 5.5%	1 0.3%	0 0.0%	343 100.0%	1.5	0.62
㊦授業のシラバスを学生に提示する	213 62.6%	101 29.7%	22 6.5%	3 0.9%	1 0.3%	340 100.0%	1.5	0.68
(26)学生の学習施設・設備を充実させる (例. 図書館やハウスの整備等)	170 49.7%	163 47.7%	7 2.0%	2 0.6%	0 0.0%	342 100.0%	1.5	0.57
㊦教育組織の教育目的・目標を見直す	183 54.3%	123 36.5%	22 6.5%	8 2.4%	1 0.3%	337 100.0%	1.6	0.74
㊦教員が優れた研究力を持っている	153 44.9%	166 48.7%	14 4.1%	7 2.1%	1 0.3%	341 100.0%	1.6	0.69
㊦少人数で教育を行う	181 52.8%	133 38.8%	27 7.9%	1 0.3%	1 0.3%	343 100.0%	1.6	0.68
(27)教育施設・設備を充実させる(例. 視聴 覚機器の整備等)	162 47.4%	166 48.5%	12 3.5%	2 0.6%	0 0.0%	342 100.0%	1.6	0.59
(37)外部者・組織による教育活動の点検・ 評価を行う(外部評価、第三者評価等)	184 54.1%	124 36.5%	30 8.8%	1 0.3%	1 0.3%	340 100.0%	1.6	0.69
㊦教員が学生の授業参加を促す	130 38.0%	153 44.7%	50 14.6%	7 2.0%	2 0.6%	342 100.0%	1.8	0.80
(24)学生の学習活動を組織的に支援する (例. 学習相談室の設置等)	119 34.9%	190 55.7%	28 8.2%	4 1.2%	0 0.0%	341 100.0%	1.8	0.65

㊦ 視聴覚機器を有効に活用する	82 24.3%	196 58.0%	57 16.9%	3 0.9%	0 0.0%	338 100.0%	1.9	0.67
㊦ オフィスアワーを設ける	117 34.5%	155 45.7%	58 17.1%	8 2.4%	1 0.3%	339 100.0%	1.9	0.79
(23) 厳格な成績評価を行う(例・GPA制)	113 33.1%	145 42.5%	77 22.6%	6 1.8%	0 0.0%	341 100.0%	1.9	0.79
(21) ティーチング・アシスタント(TA)を活用する	73 21.5%	190 55.9%	73 21.5%	4 1.2%	0 0.0%	340 100.0%	2.0	0.69
㊦ 教員が学生をほめるよう努力する	64 18.7%	171 50.0%	95 27.8%	8 2.3%	4 1.2%	342 100.0%	2.2	0.80
(25) 学生の課外活動を組織的に支援する(例・クラブ専用施設の充実等)	62 18.1%	186 54.4%	77 22.5%	12 3.5%	5 1.5%	342 100.0%	2.2	0.81
(28) 学業成績上位者を表彰する制度を設ける	58 17.0%	168 49.1%	98 28.7%	11 3.2%	7 2.0%	342 100.0%	2.2	0.84
(29) リメディアル教育(補習授業)を充実させる	60 17.6%	184 54.0%	85 24.9%	10 2.9%	2 0.6%	341 100.0%	2.2	0.76
(30) セメスター制を採用する	90 26.4%	129 37.8%	106 31.1%	11 3.2%	5 1.5%	341 100.0%	2.2	0.90
(32) 他学部の授業が聴講可能である	67 21.3%	149 47.3%	80 25.4%	9 2.9%	10 3.2%	315 100.0%	2.2	0.91
㊦ 学生が豊富な知識を持っている	53 15.7%	165 48.8%	104 30.8%	16 4.7%	0 0.0%	338 100.0%	2.3	0.77
(33) 他大学と単位互換を行う	46 13.6%	169 50.0%	103 30.5%	13 3.8%	7 2.1%	338 100.0%	2.3	0.83
(31) 1学期に取得可能な単位数の上限を設定する(CAP制)	49 14.5%	145 42.8%	121 35.7%	16 4.7%	8 2.4%	339 100.0%	2.4	0.87
(38) 大学が都市に位置している	56 16.5%	134 39.4%	108 31.8%	30 8.8%	12 3.5%	340 100.0%	2.4	0.98
(35) 転学部・転学科制度を設ける	40 12.2%	148 45.1%	110 33.5%	14 4.3%	16 4.9%	328 100.0%	2.5	0.93
(34) 主専攻・副専攻制を設ける	19 5.7%	106 32.0%	166 50.2%	26 7.9%	14 4.2%	331 100.0%	2.7	0.85
㊦ 国際的に標準とされるテキストを使って授業をする	11 3.2%	73 21.3%	183 53.5%	64 18.7%	11 3.2%	342 100.0%	3.0	0.81
㊦ 英語を使って授業をする	9 2.6%	72 21.1%	177 51.9%	58 17.0%	25 7.3%	341 100.0%	3.1	0.88

なお、上に示した項目以外で、「大学・学部の教育」の質を改善するための重要な視点があれば記入してもらうよう依頼した(【問5】)。その結果以下のような項目内容の記述をいただいた。詳細について、巻末の資料3をご参照いただきたい。

【中学・高校の学力向上】【学生募集を成功させる】【入学前教育の充実】  
【建学の精神・大学の理念の共有】【教員の意識改善】  
【教育に意欲ある教員を採用・昇任させる】【チューター制度】  
【教職員と学生との関係】【キャンパス教育・学習環境の改善】

【勉学への動機づけ】【学生の視点にたった大学運営】【習熟度別クラス編成】  
 【教育の充実】【教養と専門の問題】【評価・FDに関する問題】  
 【学生の自主的な活動支援】【現場・地域から学ぶ】【実習等の問題】  
 【学生の国際交流】【教員相互の授業参観】【厳格な評価】【個性的な人材育成】  
 【大学院生の拡充】

## 2)「大学・学部」の教育目的・目標の組織的な検討

「大学・学部」の教育目的・目標の組織的な検討の状況を確認するために以下の通り質問した。

【問6】あなたの「大学・学部」の教育目的・目標について、ここ5年の間に、なんらかの組織的な検討（例えば、委員会のような形で）をされましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 検討して、新たな教育目標を設定した    2. 検討したが、新たな教育目標を設定できなかった  
 2. 検討していない    4. その他( )

表2-6-1が単純集計結果である。    表2-6-1 教育目的・目標についての組織的な検討

「検討して、新たな教育目標を設定した」は66.1%、「検討したが、新たな教育目標を設定できなかった」は7.7%、「検討していない」は12.2%、「その他」は14.0%であった。

1989年当時と比べて、「検討して、新たな教育目標を設定した」は20.4%増え、「検討したが、新たな教育目標を設定できなかった」や「検討していない」は10数%減少している。

	2003年 (a)	1989年 (b)	(a)-(b)
検討して、新たな教育目標を設定した	222 66.1%	59 45.7%	20.4%
検討したが、新たな教育目標を設定できなかった	26 7.7%	28 21.7%	-14.0%
検討しなかった	41 12.2%	37 28.7%	-16.5%
その他	47 14.0%	5 3.9%	10.1%
合計	336 100.0%	129 100.0%	*

表2-6-2には、属性別に大学の教育目的・目標の組織的な検討の状況が示されている。

危険率1%において有意な関連性のある属性は、設置者と大学院の有無である。国立大学及び博士課程まである大学において、教育目的・目標を組織的に検討して新たな教育目的を設定していた。

表 2 -6-2 教育目的・目標についての組織的な検討（機関属性別）

	設置者 ***			大学院 **			学部級	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
検討して、新たな教育目標を設定した	86.2%	48.8%	63.7%	61.2%	73.3%	46.8%	60.8%	69.4%
検討したが、新たな教育目標を設定できなかった	3.1%	4.7%	9.7%	10.4%	5.6%	12.9%	9.1%	7.1%
検討しなかった	0.0%	20.9%	13.7%	16.4%	8.2%	21.0%	12.6%	11.5%
その他	10.8%	25.6%	12.8%	11.9%	12.8%	19.4%	17.5%	12.0%
合計	65	43	226	67	195	62	143	183

### 3) 大学の教育内容（カリキュラム）の組織的な検討

「大学・学部」の教育内容の組織的な検討の状況を以下の通り質問した。

【問 7】あなたの「大学・学部」の教育内容（カリキュラム）について、ここ 5 年の間に、なんらかの組織的な検討（例えば、委員会のような形で）をされましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを 1 つお選び下さい。

1. 検討して、新たなカリキュラムを策定した      2. 検討したが、新たなカリキュラムを策定できなかった  
3. 検討しなかった      4. その他( )

表 2 -7-1 がその結果である。 表 2 -7-1 大学の教育内容についての組織的な検討

表 2 -7-1 の左列が 2003 年調査の単純集計結果である。

「検討して、新たなカリキュラムを策定した」は 84.1%、「検討したが、新たなカリキュラムを策定できなかった」は 1.5%、「検討しなかった」は 5.0%、「その他」は 9.4% であった。

1989 年の結果と比べると、「検討した」比率は低くなっていた。

	2003 年 (a)	1989 年 (b)	(a)-(b)
検討して、新たなカリキュラムを策定した	285 84.1%	118 91.5%	-5.9%
検討したが、新たなカリキュラムを策定できなかった	5 1.5%		
検討しなかった	17 5.0%	8 6.2%	-1.2%
その他	32 9.4%	3 2.3%	7.1%
合計	339 100.0%	129 100.0%	*

表 2 -7-2 には、属性別に「大学・学部」の教育内容の組織的な検討の状況も示されている。危険率 1% において有意な関連性のある属性は、設置者である。国立大学及び私立大学において、教育目的・目標を組織的に検討・設置していた。

表 2-7-2 「大学・学部」の教育内容についての組織的な検討

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
検討して、新たな教育目標を設定した	89.2%	61.9%	86.5%	89.7%	84.1%	76.6%	84.7%	83.2%
検討したが、新たな教育目標を設定できなかった	4.6%	2.4%	0.4%	1.5%	1.5%	1.6%	1.4%	1.6%
検討しなかった	3.1%	14.3%	3.9%	2.9%	5.6%	6.3%	2.8%	6.5%
その他	3.1%	21.4%	9.1%	5.9%	8.7%	15.6%	11.1%	8.6%
合計	65	42	230	68	195	64	144	185

大学の教育内容を組織的に検討した視点について以下の通り質問した。

【問 8】【問 7】で「1」か「2」を選択した方に質問します。どのような視点から検討されましたか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 教育のグローバル・スタンダード化のニーズ    2. 社会の国際化    3. 社会の情報化  
4. 教養教育に対する社会的ニーズ    5. 経営の合理化    6. 学生の大量化  
7. その他（    ）

表 2-8-1は単純集計結果である。多くの大学が教育内容を組織的に検討した視点は、「教養教育に対する社会的ニーズ」（42.3%）、「社会の情報化」（42.0%）、「教育のグローバル・スタンダード化のニーズ」（33.8%）、「社会の国際化」（33.5%）であった。

表 2-8-1 「大学・学部」の教育内容を組織的に検討した視点

	1. 教育のグローバル・スタンダード化のニーズ	2. 社会の国際化	3. 社会の情報化	4. 教養教育に対する社会的ニーズ	5. 経営の合理化	6. 学生の大量化	7. その他
当てはまる	33.8%	33.5%	42.0%	42.3%	9.9%	30.0%	23.3%
当てはまらない	66.2%	66.5%	58.0%	57.7%	90.1%	70.0%	76.7%
合計	343	343	343	343	343	343	343

表 2-8-2は、属性別に「大学・学部」の教育内容の組織的な検討の理由が示されている。危険率 1%において有意な関連性のある関係について示そう。

設置者別にみると、国立大学が「教養教育に対する社会的ニーズ」を、私立大学が「経営の合理化」を理由としている。大学院の有無については、博士課程までである大学は「教育のグローバル・スタンダード化のニーズ」を理由としている。学部数が複数ある総合大学は「社会の国際化」「教養教育に対する社会的ニーズ」を理由としている。

表 2-8-2 「大学・学部」の教育内容についての組織的な検討理由

1. 教育のグローバル・スタンダード化のニーズ

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	** なし	単科	総合
当てはまる	41.8%	25.0%	32.9%	26.5%	41.4%	18.2%	34.0%	34.8%
当てはまらない	58.2%	75.0%	67.1%	73.5%	58.6%	81.8%	66.0%	65.2%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

2. 社会の国際化

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	* 私立	修士まで	博士まで	* なし	単科	** 総合
当てはまる	40.3%	18.2%	34.6%	38.2%	36.9%	18.2%	25.2%	40.1%
当てはまらない	59.7%	81.8%	65.4%	61.8%	63.1%	81.8%	74.8%	59.9%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

3. 社会の情報化

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	* 総合
当てはまる	41.8%	29.5%	44.6%	45.6%	45.5%	31.8%	35.4%	47.6%
当てはまらない	58.2%	70.5%	55.4%	54.4%	54.5%	68.2%	64.6%	52.4%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

4. 教養教育に対する社会的ニーズ

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	** 私立	修士まで	博士まで	なし	単科	*** 総合
当てはまる	58.2%	22.7%	41.1%	50.0%	42.4%	33.3%	29.9%	51.3%
当てはまらない	41.8%	77.3%	58.9%	50.0%	57.6%	66.7%	70.1%	48.7%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

5. 経営の合理化

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	** 私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	1.5%	4.5%	13.4%	17.6%	7.6%	10.6%	7.5%	11.8%
当てはまらない	98.5%	95.5%	86.6%	82.4%	92.4%	89.4%	92.5%	88.2%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

6. 学生の大衆化

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	* 私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	25.4%	15.9%	34.2%	36.8%	27.3%	36.4%	25.9%	33.2%
当てはまらない	74.6%	84.1%	65.8%	63.2%	72.7%	63.6%	74.1%	66.8%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

7. その他

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	*** 総合
当てはまる	22.4%	29.5%	22.5%	25.0%	19.7%	30.3%	34.0%	15.0%
当てはまらない	77.6%	70.5%	77.5%	75.0%	80.3%	69.7%	66.0%	85.0%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

注) \*\*\* p<0.001、 \*\* p<0.01、 \* p<0.05

4) 学生の学習活動に対する組織的支援の実施

大学では、学生の学習活動に対する組織的支援（例・学習相談室の設置等）の実施につ

いて以下の通り質問した。

【問9】あなたの「大学・学部」では、学生の学習活動に対する組織的支援（例、学習相談室の設置等）を行っておられますか。次の選択肢から最も当てはまるものを選択して下さい。

1. 行っている 2. 今までには行っていないが、現在検討中 3. 行っていない

表2-9がその結果である。表2-9左列が単純集計結果である。「行っている」は55.0%、「今までには行っていないが、現在検討中」は27.6%、「行っていない」が17.4%であった。

表2-9には、属性別の学生の学習活動に対する組織的支援（例、学習相談室の設置等）の実施の状況も示されているが、危険率1%において有意な関連性のある属性は皆無であった。

表2-9 「大学・学部」の教育目的・目標についての組織的な検討

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
行っている	55.0%	53.1%	47.6%	56.6%	45.5%	59.4%	53.1%	59.6%	51.9%
今までには行っていないが、現在検討中	27.6%	37.5%	33.3%	23.9%	34.8%	27.1%	21.9%	24.8%	29.0%
行っていない	17.4%	9.4%	19.0%	19.5%	19.7%	13.5%	25.0%	15.6%	19.1%
合計	333	64	42	226	66	192	64	141	183

続いて、「どのような支援を行っておられますか。具体的にご記入下さい。」と質問し、実態を確認した。その結果を項目別に示したのが以下の通りである。詳細については、巻末の資料4をご参照いただきたい。

【学生相談室】【チューター制度】【オフィスアワーの開設】  
 【学習支援室・センター】【教官による履修指導】【学年担当制】  
 【なんでも相談室の設置】【補習教育の充実】  
 【水産高等学校出身者に対する学習支援】【学長研究奨励費】  
 【教室・図書館の開館時間の深夜利用可】  
 【情報ラボ等の課外時間における開放とサービススタッフ(学生)の配置】  
 【就職相談室の設置】【入学後のオリエンテーションの拡充】  
 【クラス単位ごとにライブラリー・ツアー】【演習室の整備】  
 【時間外に科目を設定】【少人数教育】【いつでも学生は自由に訪室】  
 【カウンセラーやクラス担任教官を置く】【学習活動をテーマとした基礎演習】  
 【「自主共同研究」に担当教員をつけて指導】【生涯学習研究センターの充実】  
 【学年顧問】【数学における学力差によるクラス分け】

**【専門分野、実習担当者による個別指導が常時行なわれている】**  
**【専攻制・コース制を設け、学生の学習活動に対する支援を組織的に工夫】**  
**【学生による自主的勉強会の奨励】【グループ主任制度】**  
**【教務委員会の中に、学習支援部会を設置】【学業優秀者に対する奨学金制度】**  
**【クラス担任制】【語学教育ラボラトリーを設け、外国語学習の支援】**  
**【自己学習の組織的な支援】【担任が面談・指導】**  
**【学内無線LANの設置、教育用ソフトの作成】【薬学教育推進室を設置】**  
**【補習学習室の充実】【フレッシュマンセンターの設置】**  
**【アカデミック・アドバイザー制度】【個別相談】**  
**【履修・生活全般の指導とカウンセリング】【医学教育担当教員を配置】**  
**【シラバスの電子化、講義室でのLANへのアクセス】**  
**【国試対策室、学生相談室の学習相談】**  
**【カウンセリング研究所等との連携した総合的指導体制】【副担任制を導入】**  
**【ホームルーム制】【コンピュータの利用能力を高めるための支援・指導】**  
**【資格取得に向けてのグループ別学習の支援】**  
**【学費減免制度、学資借入支援奨学金制度、診療費補助制度】【基礎ゼミ】**  
**【障害学生への支援】【体験学習】【指導教員制】【医学教育企画室の設置】**  
**【全ての学生に担当教員が付くことにより、履修指導を徹底】**  
**【学生による授業評価を導入】【TA・SAの導入】**  
**【低単位者に対する定期的修学相談】**  
**【学生の日本語能力向上のための課外授業】**  
**【各学科毎に「コモンルーム」の設置】**  
**【語学教育センター、情報教育センターを設置】【各学科における学生主事】**  
**【1年次から少人数ゼミ形式の課外授業】【補講の実施】【インストラクター制度】**  
**【基礎演習授業やチューター制活用によって、きめ細かい支援・指導】**

## 5) 大学の教育の質はどの程度改善されたか

続いて、過去5年間で、大学教育の質はどの程度改善されたと思うか質問した(【問10】)。

【問10】過去5年間で、あなたの「大学・学部の教育」の質はどの程度改善されたと思われますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 改善された                      2. ある程度改善された      3. どちらともいえない  
 2. どちらかと言えば悪くなった      5. 悪くなった

表2-10左列が単純集計結果である。「改善された」は13.6%、「ある程度改善された」は64.1%、「どちらともいえない」は20.5%、「どちらかと言えば悪くなった」は1.2%、「悪くなった」は0.6%であった。



大学の教育は完全に改善されたとは認識されていなかった。

表2-10には、属性別に「大学・学部の教育」の質の改善状況も示されている。

危険率1%において有意な関連性のある属性は、大学院の有無である。博士課程及び修士課程まである大学は、「大学・学部の教育」の質が改善されていた。

表2-10 「大学・学部の教育」の質はどの程度改善されたと思われますか

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	*** なし	単科	総合
改善された	13.6%	7.7%	14.3%	15.3%	17.6%	11.2%	14.5%	19.7%	9.7%
ある程度改善された	64.1%	80.0%	59.5%	60.3%	60.3%	73.0%	41.9%	60.6%	66.7%
どちらともいえない	20.5%	12.3%	26.2%	21.8%	20.6%	14.3%	40.3%	19.0%	21.0%
どちらかと言えば悪くなった	1.2%	0.0%	0.0%	1.7%	1.5%	0.5%	3.2%	0.7%	1.6%
悪くなった	0.6%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%
合計	337	65	42	229	68	196	62	142	186

#### 6) あなたの大学の教育の達成レベルを高めるための事項の状況

あなたの大学の教育の達成レベルを高めるための32種類の事項を示して、どの程度当てはまるか質問した。項目の詳細については、巻末の資料1のアンケート調査票【問11】をご参照いただきたい。

その結果が表2-11-1である。

表2-11-1は、大学教育の達成レベルを高めるために最も重要であると思われる項目を明らかにするために、「当てはまる」を1、「ある程度当てはまる」を2、「どちらとも言えない」を3、「あまり当てはまらない」を4、「当てはまらない」を5、として各事項の平均値を計算し、平均値の低い順（重要性の高い順）に項目を並べたものである。

達成レベルの高い事項は、高い順に「⑮授業のシラバスを学生に提示する」「⑰少人数で教育を行う」「④教員が学生の質問や意見に関心を持つ」「⑩教員が授業内容を工夫する」「(21)学生の学習施設・設備を充実させる(例、図書館やパソコンの整備等)」「⑧教員が豊富な知識を持っている」「⑨教員が授業の準備を周到に行う」「⑱教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める」「(23)教育施設・設備を充実させる(例、視聴覚機器の整備等)」であった。

達成レベルの低い事項は、低い順に、「(30)主専攻・副専攻制を設ける」「⑫英語を使って授業をする」「⑬国際的に標準とされるテキストを使って授業をする」となっていた。

表2-11-1 「大学・学部の教育」の達成レベルを高めるための重要な事項

	当てはまる	ある程度当てはまる	どちらともいえない	あまり当てはまらない	当てはまらない	合計 =>	平均 値	標準 偏差
	1	2	3	4	5			
㊦授業のシラバスを学生に提示する	197 57.9%	120 35.3%	21 6.2%	1 0.3%	1 0.3%	340 100.0%	1.5	0.65
㊧少人数で教育を行う	141 41.6%	153 45.1%	38 11.2%	7 2.1%	0 0.0%	339 100.0%	1.7	0.74
㊨教員が学生の質問や意見に関心を持つ	97 28.4%	204 59.8%	38 11.1%	2 0.6%	0 0.0%	341 100.0%	1.8	0.63
㊩教員が授業内容を工夫する	112 32.8%	185 54.3%	41 12.0%	3 0.9%	0 0.0%	341 100.0%	1.8	0.67
(21)学生の学習施設・設備を充実させる (例. 図書館やパソコンの整備等)	112 32.8%	197 57.8%	23 6.7%	9 2.6%	0 0.0%	341 100.0%	1.8	0.68
㊪教員が豊富な知識を持っている	85 25.1%	196 57.8%	53 15.6%	4 1.2%	1 0.3%	339 100.0%	1.9	0.69
㊫教員が授業の準備を周到に行う	104 30.5%	184 54.0%	48 14.1%	5 1.5%	0 0.0%	341 100.0%	1.9	0.70
㊬教員が学生による授業評価結果を参考 にして授業改善に努める	112 33.0%	166 49.0%	47 13.9%	7 2.1%	7 2.1%	339 100.0%	1.9	0.86
(23)教育施設・設備を充実させる(例. 視 聴覚機器の整備等)	101 29.7%	197 57.9%	33 9.7%	8 2.4%	1 0.3%	340 100.0%	1.9	0.70
㊭教員が学生の成長発達に関心を持つ	92 27.0%	182 53.4%	59 17.3%	8 2.3%	0 0.0%	341 100.0%	2.0	0.73
㊮教員が優れた研究力を持っている	77 22.6%	187 55.0%	65 19.1%	10 2.9%	1 0.3%	340 100.0%	2.0	0.75
㊯教員が効果的な講義方法を工夫する (例. ポートフォリオ等)	91 26.8%	170 50.1%	73 21.5%	5 1.5%	0 0.0%	339 100.0%	2.0	0.74
㊰オフィスアワーを設ける	121 35.7%	136 40.1%	59 17.4%	14 4.1%	9 2.7%	339 100.0%	2.0	0.97
㊱視聴覚機器を有効に活用する	62 18.2%	201 59.1%	71 20.9%	5 1.5%	1 0.3%	340 100.0%	2.1	0.69
㊲学生が熱心に学習する	75 22.0%	166 48.7%	75 22.0%	22 6.5%	3 0.9%	341 100.0%	2.2	0.87
㊳教員が学生の授業参加を促す	49 14.4%	186 54.5%	94 27.6%	9 2.6%	3 0.9%	341 100.0%	2.2	0.75
(22)学生の課外活動を組織的に支援する (例. クラブ専用施設の充実等)	51 15.0%	170 49.9%	93 27.3%	22 6.5%	5 1.5%	341 100.0%	2.3	0.85
(26)semester制を採用する	111 32.6%	108 31.7%	67 19.6%	18 5.3%	37 10.9%	341 100.0%	2.3	1.27
㊴ティーチング・アシスタント(TA)を活用 する	71 20.9%	155 45.7%	66 19.5%	16 4.7%	31 9.1%	339 100.0%	2.4	1.14
㊵教員が学生をほめるよう努力する	23 6.8%	141 41.6%	149 44.0%	23 6.8%	3 0.9%	339 100.0%	2.5	0.76
(24)学業成績上位者を表彰する制度を設 ける	76 22.4%	125 36.8%	76 22.4%	15 4.4%	48 14.1%	340 100.0%	2.5	1.28

(28)他学部の授業が聴講可能である	83 26.1%	105 33.0%	64 20.1%	14 4.4%	52 16.4%	318 100.0%	2.5	1.36
(29)他大学と単位互換を行う	86 25.4%	112 33.1%	77 22.8%	21 6.2%	42 12.4%	338 100.0%	2.5	1.28
㊦厳格な成績評価を行う(例: GPA制)	52 15.5%	109 32.4%	121 36.0%	32 9.5%	22 6.5%	336 100.0%	2.6	1.07
(25)リメディアル教育を(補習授業)充実させる	39 11.5%	148 43.7%	98 28.9%	29 8.6%	25 7.4%	339 100.0%	2.6	1.05
(31)転学部・転学科制度を設ける	80 24.5%	94 28.7%	85 26.0%	12 3.7%	56 17.1%	327 100.0%	2.6	1.36
①学生が豊富な知識を持っている	10 2.9%	130 38.3%	154 45.4%	41 12.1%	4 1.2%	339 100.0%	2.7	0.76
(27)1学期に取得可能な単位数の上限を設定する(CAP制)	75 22.1%	104 30.7%	74 21.8%	27 8.0%	59 17.4%	339 100.0%	2.7	1.37
(32)大学が都市に位置している	77 22.7%	100 29.5%	70 20.6%	38 11.2%	54 15.9%	339 100.0%	2.7	1.36
㊧国際的に標準とされるテキストを使って授業をする	5 1.5%	41 12.1%	162 47.9%	88 26.0%	42 12.4%	338 100.0%	3.4	0.90
㊨英語を使って授業をする	3 0.9%	53 15.6%	129 37.9%	97 28.5%	58 17.1%	340 100.0%	3.5	0.98
(30)主専攻・副専攻制を設ける	19 5.8%	65 19.8%	103 31.3%	30 9.1%	112 34.0%	329 100.0%	3.5	1.30

表2-11-2は、属性別に大学教育の達成レベルを高めるために最も重要であると思われる項目の当てはまり度を示したものである。

表2-11-2 大学教育の達成レベルを高めるための重要な事項 (属性別)

①学生が豊富な知識を持っている

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	*	単科	総合
当てはまる	1.5%	2.3%	3.1%	1.5%	3.6%	1.5%	2.7%	2.2%
ある程度当てはまる	44.8%	48.8%	34.6%	32.4%	44.3%	28.8%	34.9%	40.2%
どちらともいえない	50.7%	41.9%	44.7%	50.0%	43.3%	45.5%	47.9%	44.0%
あまり当てはまらない	3.0%	7.0%	15.8%	16.2%	7.2%	22.7%	13.7%	12.0%
当てはまらない	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	1.5%	1.5%	0.7%	1.6%
合計	67	43	228	68	194	66	146	184

②学生が熱心に学習する

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	*	単科	総合
当てはまる	22.4%	25.6%	21.3%	14.7%	23.5%	27.3%	22.4%	20.5%
ある程度当てはまる	49.3%	67.4%	44.8%	57.4%	49.0%	39.4%	54.4%	44.3%
どちらともいえない	26.9%	4.7%	24.3%	23.5%	21.9%	18.2%	17.0%	27.0%
あまり当てはまらない	1.5%	2.3%	8.3%	4.4%	4.6%	13.6%	5.4%	7.0%
当てはまらない	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	1.0%	1.5%	0.7%	1.1%
合計	67	43	230	68	196	66	147	185

③教員が学生の成長発達に関心を持つ

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	*	単科	総合
当てはまる	20.9%	16.3%	31.3%	22.1%	26.0%	37.9%	25.9%	27.0%
ある程度当てはまる	53.7%	60.5%	51.3%	64.7%	52.0%	45.5%	56.5%	50.8%
どちらともいえない	19.4%	20.9%	16.1%	7.4%	20.4%	15.2%	15.6%	19.5%
あまり当てはまらない	6.0%	2.3%	1.3%	5.9%	1.5%	1.5%	2.0%	2.7%
合計	67	43	230	68	196	66	147	185

④教員が学生の質問や意見に関心を持つ

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	26.9%	25.6%	30.0%	25.0%	30.1%	31.8%	25.9%	29.2%
ある程度当てはまる	59.7%	62.8%	58.7%	57.4%	61.7%	51.5%	64.6%	57.3%
どちらともいえない	11.9%	11.6%	10.9%	16.2%	7.7%	16.7%	9.5%	12.4%
あまり当てはまらない	1.5%	0.0%	0.4%	1.5%	0.5%	0.0%	0.0%	1.1%
合計	67	43	230	68	196	66	147	185

⑤教員が学生をはめるよう努力する

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	4.5%	0.0%	9.2%	5.9%	5.7%	12.1%	8.2%	5.5%
ある程度当てはまる	32.8%	41.9%	44.7%	44.1%	43.8%	37.9%	40.8%	43.7%
どちらともいえない	50.7%	46.5%	40.4%	47.1%	41.8%	40.9%	45.6%	42.1%
あまり当てはまらない	11.9%	9.3%	4.6%	2.9%	7.7%	7.6%	4.1%	8.7%
当てはまらない	0.0%	2.3%	0.9%	0.0%	1.0%	1.5%	1.4%	0.0%
合計	67	43	228	68	194	66	147	183

⑥教員が学生の授業参加を促す

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	6.0%	11.6%	17.8%	16.2%	15.3%	13.6%	17.7%	11.4%
ある程度当てはまる	58.2%	46.5%	54.8%	57.4%	53.6%	56.1%	53.1%	56.8%
どちらともいえない	32.8%	34.9%	24.3%	22.1%	28.6%	24.2%	24.5%	29.7%
あまり当てはまらない	1.5%	4.7%	2.6%	1.5%	2.0%	6.1%	2.7%	2.2%
当てはまらない	1.5%	2.3%	0.4%	2.9%	0.5%	0.0%	2.0%	0.0%
合計	67	43	230	68	196	66	147	185

⑦教員が優れた研究力を持っている

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	31.3%	27.9%	19.7%	17.6%	27.7%	16.7%	23.8%	22.3%
ある程度当てはまる	55.2%	53.5%	54.6%	60.3%	56.9%	40.9%	55.8%	53.8%
どちらともいえない	11.9%	16.3%	21.8%	17.6%	13.8%	34.8%	16.3%	21.7%
あまり当てはまらない	1.5%	2.3%	3.5%	4.4%	1.0%	7.6%	4.1%	1.6%
当てはまらない	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	67	43	229	68	195	66	147	184

⑧教員が豊富な知識を持っている

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	31.3%	23.3%	24.2%	22.1%	28.9%	21.5%	25.3%	25.1%
ある程度当てはまる	58.2%	55.8%	57.7%	55.9%	58.8%	53.8%	58.2%	57.4%
どちらともいえない	10.4%	16.3%	16.7%	19.1%	11.3%	23.1%	15.8%	15.3%
あまり当てはまらない	0.0%	4.7%	0.9%	2.9%	0.5%	1.5%	0.7%	1.6%
当てはまらない	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	67	43	227	68	194	65	146	183

⑨教員が授業の準備を周到に行う

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	29.9%	37.2%	30.4%	29.4%	28.6%	39.4%	32.0%	28.6%
ある程度当てはまる	58.2%	44.2%	53.5%	54.4%	58.2%	39.4%	54.4%	54.1%
どちらともいえない	10.4%	14.0%	15.2%	13.2%	12.2%	19.7%	13.6%	14.6%
あまり当てはまらない	1.5%	4.7%	0.9%	2.9%	1.0%	1.5%	0.0%	2.7%
合計	67	43	230	68	196	66	147	185

⑩教員が授業内容を工夫する

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	31.3%	34.9%	34.3%	33.8%	31.1%	39.4%	32.0%	33.5%
ある程度当てはまる	56.7%	53.5%	52.2%	52.9%	60.7%	34.8%	57.8%	51.4%
どちらともいえない	10.4%	7.0%	13.5%	10.3%	7.7%	25.8%	10.2%	13.5%
あまり当てはまらない	1.5%	4.7%	0.0%	2.9%	0.5%	0.0%	0.0%	1.6%
合計	67	43	230	68	196	66	147	185

⑩教員が効果的な講義方法を工夫する(例、ポートフォリオ等)

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	29.9%	23.3%	27.6%	29.9%	26.2%	30.3%	26.5%	26.8%
ある程度当てはまる	47.8%	60.5%	48.2%	46.3%	54.4%	39.4%	55.1%	47.5%
どちらともいえない	20.9%	11.6%	23.2%	20.9%	18.5%	28.8%	18.4%	23.0%
あまり当てはまらない	1.5%	4.7%	0.9%	3.0%	1.0%	1.5%	0.0%	2.7%
合計	67	43	228	67	195	66	147	183

⑪英語を使って授業をする

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.5%	3.0%	2.0%	0.0%
ある程度当てはまる	24.2%	14.0%	13.9%	5.9%	21.5%	10.6%	13.6%	17.4%
どちらともいえない	34.8%	46.5%	37.0%	41.2%	39.0%	30.3%	38.1%	38.6%
あまり当てはまらない	31.8%	25.6%	27.4%	35.3%	24.1%	28.8%	23.8%	32.1%
当てはまらない	9.1%	14.0%	20.4%	17.6%	14.9%	27.3%	22.4%	12.0%
合計	66	43	230	68	195	66	147	184

⑫国際的に標準とされるテキストを使って授業をする

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	0.0%	4.9%	1.3%	0.0%	2.1%	1.5%	2.1%	1.1%
ある程度当てはまる	24.2%	12.2%	9.1%	9.0%	16.9%	4.6%	10.3%	13.6%
どちらともいえない	45.5%	58.5%	46.5%	50.7%	49.2%	36.9%	47.6%	49.5%
あまり当てはまらない	24.2%	14.6%	27.8%	26.9%	22.1%	33.8%	25.5%	24.5%
当てはまらない	6.1%	9.8%	15.2%	13.4%	9.7%	23.1%	14.5%	11.4%
合計	66	41	230	67	195	65	145	184

⑬視覚機器を有効に活用する

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	17.9%	16.3%	18.8%	17.6%	20.5%	12.1%	20.4%	15.8%
ある程度当てはまる	55.2%	74.4%	58.5%	57.4%	57.9%	68.2%	59.9%	60.3%
どちらともいえない	25.4%	9.3%	20.5%	23.5%	20.5%	15.2%	17.7%	22.8%
あまり当てはまらない	1.5%	0.0%	1.7%	1.5%	1.0%	3.0%	2.0%	1.1%
当てはまらない	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.5%	100.0%	100.0%
合計	67	43	229	68	195	66		

⑭授業のシラバスを学生に提示する

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	58.2%	48.8%	61.1%	55.2%	61.7%	57.6%	63.9%	53.8%
ある程度当てはまる	37.3%	32.6%	34.1%	31.3%	32.7%	39.4%	30.6%	38.6%
どちらともいえない	4.5%	18.6%	3.9%	11.9%	5.1%	3.0%	5.4%	6.5%
あまり当てはまらない	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%
当てはまらない	0.0%	0.0%	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	67	43	229	67	196	66	147	184

⑮オフィスアワーを設ける

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	28.8%	11.9%	42.6%	39.7%	35.7%	36.9%	36.3%	34.2%
ある程度当てはまる	56.1%	38.1%	36.1%	32.4%	42.3%	43.1%	32.2%	46.7%
どちらともいえない	10.6%	35.7%	15.7%	19.1%	15.8%	13.8%	21.9%	14.1%
あまり当てはまらない	3.0%	11.9%	2.6%	4.4%	3.1%	6.2%	5.5%	3.3%
当てはまらない	1.5%	2.4%	3.0%	4.4%	3.1%	0.0%	4.1%	1.6%
合計	66	42	230	68	196	65	146	184

⑯少人数で教育を行う

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	40.3%	33.3%	42.4%	50.0%	37.4%	40.0%	45.9%	35.9%
ある程度当てはまる	47.8%	47.6%	45.0%	39.7%	47.2%	49.2%	40.4%	50.5%
どちらともいえない	10.4%	14.3%	10.9%	8.8%	12.8%	10.8%	11.0%	12.0%
あまり当てはまらない	1.5%	4.8%	1.7%	1.5%	2.6%	0.0%	2.7%	1.6%
合計	67	42	229	68	195	65	146	184

⑩ティーチング・アシスタント(TA)を活用する

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	31.3%	4.8%	20.1%	19.1%	24.7%	10.6%	21.2%	20.1%
ある程度当てはまる	55.2%	50.0%	43.7%	41.2%	51.0%	37.9%	45.2%	47.3%
どちらともいえない	11.9%	28.6%	19.2%	26.5%	16.0%	19.7%	16.4%	21.2%
あまり当てはまらない	1.5%	4.8%	5.7%	1.5%	3.1%	12.1%	6.2%	3.8%
当てはまらない	0.0%	11.9%	11.4%	11.8%	5.2%	19.7%	11.0%	7.6%
合計	67	42	229	68	194	66	146	184

⑪教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	31.3%	20.9%	35.1%	35.3%	29.4%	39.4%	36.7%	26.6%
ある程度当てはまる	59.7%	58.1%	45.2%	39.7%	55.7%	40.9%	48.3%	53.0%
どちらともいえない	9.0%	11.6%	15.4%	17.6%	13.4%	10.6%	11.6%	15.3%
あまり当てはまらない	0.0%	7.0%	1.8%	4.4%	0.0%	6.1%	2.0%	2.2%
当てはまらない	0.0%	2.3%	2.6%	2.9%	1.5%	3.0%	1.4%	2.7%
合計	67	43	228	68	194	66	147	183

⑫厳格な成績評価を行う(例. GPA制)

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	18.4%	15.0%	15.4%	10.4%	17.7%	15.2%	19.2%	12.6%
ある程度当てはまる	29.9%	20.0%	36.0%	26.9%	37.5%	24.2%	25.3%	37.4%
どちらともいえない	43.3%	42.5%	32.5%	47.8%	31.3%	36.4%	38.4%	34.6%
あまり当てはまらない	7.5%	15.0%	8.6%	9.0%	7.8%	13.6%	10.3%	9.3%
当てはまらない	3.0%	7.5%	7.5%	6.0%	5.7%	10.6%	6.8%	6.0%
合計	67	40	228	67	192	66	146	182

(21)学生の学習施設・設備を充実させる(例. 図書館やパソコンの整備等)

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	29.9%	34.9%	33.0%	27.9%	36.2%	27.3%	35.4%	28.1%
ある程度当てはまる	58.2%	53.5%	58.3%	64.7%	55.6%	56.1%	56.5%	61.1%
どちらともいえない	10.4%	7.0%	6.1%	1.5%	7.1%	12.1%	6.8%	7.0%
あまり当てはまらない	1.5%	4.7%	2.6%	5.9%	1.0%	4.5%	1.4%	3.8%
合計	67	43	230	68	196	66	147	185

(22)学生の課外活動を組織的に支援する(例. クラブ専用施設の充実等)

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	11.9%	7.0%	17.4%	16.2%	15.3%	12.1%	14.3%	15.7%
ある程度当てはまる	44.8%	53.5%	49.6%	52.9%	45.4%	59.1%	53.1%	46.5%
どちらともいえない	35.8%	34.9%	24.8%	14.7%	34.2%	22.7%	26.5%	28.6%
あまり当てはまらない	6.0%	4.7%	7.0%	14.7%	3.6%	6.1%	4.8%	8.1%
当てはまらない	1.5%	0.0%	1.3%	1.5%	1.5%	0.0%	1.4%	1.1%
合計	67	43	230	68	196	66	147	185

(23)教育施設・設備を充実させる(例. 視聴覚機器の整備等)

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	28.4%	19.0%	32.2%	22.1%	35.2%	23.1%	34.2%	25.9%
ある程度当てはまる	59.7%	64.3%	55.2%	64.7%	54.6%	56.9%	54.1%	60.0%
どちらともいえない	10.4%	14.3%	9.6%	10.3%	9.2%	12.3%	10.3%	10.3%
あまり当てはまらない	1.5%	0.0%	3.0%	2.9%	1.0%	6.2%	1.4%	3.2%
当てはまらない	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.5%
合計	67	42	230	68	196	65	146	185

(24)学業成績上位者を表彰する制度を設ける

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	20.9%	11.6%	24.9%	19.1%	27.2%	13.6%	22.6%	22.2%
ある程度当てはまる	26.9%	20.9%	42.8%	38.2%	36.4%	37.9%	30.1%	41.6%
どちらともいえない	25.4%	32.6%	19.2%	25.0%	19.5%	25.8%	24.0%	20.5%
あまり当てはまらない	7.5%	4.7%	3.5%	5.9%	2.6%	7.6%	5.5%	3.8%
当てはまらない	18.4%	30.2%	9.6%	11.8%	14.4%	15.2%	17.8%	11.9%
合計	67	43	229	68	195	66	146	185

## (25)リメディアル教育を(補習授業)充実させる

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	4.5%	7.3%	15.2%	11.8%	13.8%	9.2%	11.0%	13.0%
ある程度当てはまる	52.2%	26.8%	43.9%	38.2%	42.1%	52.3%	46.9%	40.0%
どちらともいえない	29.9%	31.7%	27.4%	29.4%	27.7%	27.7%	29.0%	28.6%
あまり当てはまらない	9.0%	12.2%	7.8%	10.3%	9.2%	4.6%	6.2%	10.3%
当てはまらない	4.5%	22.0%	5.7%	10.3%	7.2%	6.2%	6.9%	8.1%
合計	67	41	230	68	195	65	145	185

## (26)セメスター制を採用する

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	29.9%	20.9%	37.0%	35.3%	30.1%	42.4%	30.6%	35.7%
ある程度当てはまる	20.9%	39.5%	32.6%	32.4%	29.1%	36.4%	27.2%	34.6%
どちらともいえない	26.9%	27.9%	15.7%	19.1%	20.4%	13.6%	21.1%	18.4%
あまり当てはまらない	9.0%	2.3%	4.3%	1.5%	7.1%	3.0%	4.8%	4.3%
当てはまらない	13.4%	9.3%	10.4%	11.8%	13.3%	4.5%	16.3%	7.0%
合計	67	43	230	68	196	66	147	185

## (27)1学期に取得可能な単位数の上限を設定する(CAP制)

	設置者			大学院			学部数		**
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
当てはまる	26.9%	11.9%	23.6%	22.1%	25.3%	15.2%	17.2%	27.0%	
ある程度当てはまる	34.3%	26.2%	30.1%	38.2%	26.3%	37.9%	24.8%	34.1%	
どちらともいえない	19.4%	31.0%	20.5%	19.1%	21.1%	19.7%	23.4%	20.5%	
あまり当てはまらない	7.5%	9.5%	7.4%	7.4%	8.2%	7.6%	7.8%	8.1%	
当てはまらない	11.9%	21.4%	18.3%	13.2%	19.1%	19.7%	26.9%	10.3%	
合計	67	42	229	68	194	66	145	185	

## (28)他学部の授業が聴講可能である

	設置者			大学院			学部数		***
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
当てはまる	34.4%	10.0%	26.9%	23.4%	30.3%	19.3%	11.4%	36.2%	
ある程度当てはまる	29.7%	37.5%	33.5%	37.5%	32.4%	29.8%	24.4%	39.5%	
どちらともいえない	18.6%	22.5%	19.3%	17.2%	18.4%	24.6%	22.8%	16.8%	
あまり当てはまらない	6.3%	2.5%	4.2%	4.7%	3.8%	5.3%	4.9%	4.3%	
当てはまらない	10.9%	27.5%	16.0%	17.2%	15.1%	21.1%	36.6%	3.2%	
合計	64	40	212	64	185	57	123	185	

## (29)他大学と単位互換を行う

	設置者			大学院			学部数		**
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
当てはまる	43.3%	11.6%	23.3%	22.4%	29.1%	20.3%	20.1%	30.8%	
ある程度当てはまる	31.3%	30.2%	34.4%	35.8%	31.1%	39.1%	29.9%	36.8%	
どちらともいえない	20.9%	32.6%	20.7%	22.4%	23.5%	15.6%	24.3%	19.5%	
あまり当てはまらない	4.5%	4.7%	7.0%	6.0%	5.8%	6.3%	6.9%	5.9%	
当てはまらない	0.0%	20.9%	14.5%	13.4%	10.7%	18.8%	18.8%	7.0%	
合計	67	43	227	67	196	64	144	185	

## (30)主専攻・副専攻制を設ける

	設置者			大学院			学部数		**
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
当てはまる	7.7%	2.4%	5.9%	6.1%	6.3%	4.8%	5.1%	6.0%	
ある程度当てはまる	26.2%	9.8%	21.6%	21.2%	22.2%	17.5%	12.5%	26.6%	
どちらともいえない	33.8%	39.0%	27.9%	39.4%	26.5%	30.2%	30.9%	29.9%	
あまり当てはまらない	13.8%	4.9%	8.1%	7.6%	9.0%	9.5%	8.1%	10.3%	
当てはまらない	18.5%	43.9%	36.5%	25.8%	36.0%	38.1%	43.4%	27.2%	
合計	65	41	222	66	189	63	136	184	

## (31)転学部・転学科制度を設ける

	設置者			大学院			学部数		***
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
当てはまる	27.3%	10.0%	25.9%	22.7%	25.7%	22.0%	17.9%	28.8%	
ある程度当てはまる	31.8%	17.5%	30.5%	25.8%	31.4%	23.7%	19.4%	37.5%	
どちらともいえない	22.7%	35.0%	25.0%	37.9%	23.6%	18.6%	29.1%	21.7%	
あまり当てはまらない	7.6%	5.0%	2.3%	1.5%	4.7%	3.4%	4.5%	3.3%	
当てはまらない	10.6%	32.5%	16.4%	12.1%	14.7%	32.2%	29.1%	8.7%	
合計	66	40	220	66	191	59	134	184	

(32)大学が都市に位置している

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	* 私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	20.9%	11.9%	24.9%	14.7%	27.8%	16.7%	19.0%	25.1%
ある程度当てはまる	20.9%	28.6%	32.3%	32.4%	27.3%	34.8%	27.9%	31.7%
どちらともいえない	26.9%	21.4%	19.2%	19.1%	20.6%	21.2%	21.1%	20.8%
あまり当てはまらない	17.9%	7.1%	9.6%	11.8%	9.3%	13.6%	11.6%	9.8%
当てはまらない	13.4%	31.0%	14.0%	22.1%	14.9%	13.6%	20.4%	12.6%
合計	67	42	229	68	194	66	147	183

## まとめ

第2章の分析結果から得られた知見を、学長の認識する大学教育の目的と学士課程教育の実態の2つの点についてまとめておこう。

まず、大学教員の目的についてであるが、学長は、学士課程教育の目的を、教育の一般性の面と、専門性においては社会的視点を入れて認識しているようである。逆に言えば、学問・専門性という視点は教育目的としては少数意見であった。

なお、これらの教育目的認識は学長の所属機関特性によって異なっていた。例えば、国・公立で、博士課程まで設置している大学においては、そうでない大学形態に比べて、全体的には少数意見であった学問・専門性の視点を重視する教育目的が強く認識されていた。

続いて、学士課程教育の実態についての学長の認識であるが、上記のように目的が認識された学士課程教育はうまくいっているのかどうかを尋ねたところ、約1割強の大学でのみ「うまくいっている」ということになっていた。すなわち、何らかの改善が必要であるという認識である。では、学士課程教育の達成レベルを高めるためにどのような施策が重要であるか続けて質問したところ、上位に指摘された項目は、教員の教育活動に対する行動や意識の改善に関するものであった。

すなわち、日本の大学長は、大学教育を改善していくことが必要であり、その改善方策として「教員の資質開発（FD）」、「学生による授業評価」、「シラバスの提示」、「自己点検・評価」を主に意識しているようである。



### **第3章 大学の教育支援体制の意識と行動 -現状把握-**

### 第3章 大学の教育支援体制の意識と行動 現状把握

渡辺 達雄

#### はじめに

本章では、まず大学教育の改善を目的とする活動の具体的な状況と、それを支える組織体制について、学長がいかに意識し、また理想とする活動のあり方と現実の間にどれほどのギャップがあるのかを確認することからはじめ、次にそうした状況をブレイクスルーする方策を考えるさいの視点がどこにあるのか（あるいはあるべきか）ということにねらいをおいて、分析を進めていく。

日本におけるFD活動の状況を調査したものとして、広島大学大学教育研究センターが1989年に行った全国アンケート調査があり、FD導入前後の活動の問題点などが指摘されている。また、高等教育関連の学会や機関紙において、特集記事としてFDが取りあげられ、近年のFD活動・事業の紹介のみならず、さまざまな立場から「日本的な」課題や今後の方向性について論じられている<sup>(1)</sup>。

こうした調査が実施された時期と前後し、大学設置基準の大綱化などの大学教育政策の変化とFD活動の本格的導入が始まった90年代初め、「第3の大学改革」と言われるほど、大きな変化を経験することになったが、新しい世紀をむかえて、大学をとりまく環境はさらに激変している。とくに機能的分化、もっといえば大学の種別化がかなり進んできたものと考えられる。そこで、調査対象大学ごとの組織的志向性（たとえば、研究志向・教育志向・社会サービス志向）を、設置者(国立・公立・私立)、大学院の有無(修士まで・博士まで・なし)、そして学部数(単科・総合)の3つの要素を考慮することで類型化し、関連する質問項目について、単純集計およびクロス集計を行う。これにより、日本の全体的な状況把握と、機関類型別にみたFD活動の特性について検討していく。

本アンケートでは、問12から問38まで、直接「大学・学部におけるFD活動(教員資質開発活動)」について質問しているが、必要に応じて他の項目も若干援用している。

#### 1. FD活動の理想的条件

大学審議会など一連の答申で大学教育改革の重要なテーマとして取り上げられ、スローガンから義務化、設置基準上の制度化を経るなかで、FDが教員個人ではなく、教授団な

いし大学組織が関与し、推進・開発すべきであるとの意識がさまざまなレベルで備わっているだろうか。またFD活動に対してどのようなイメージを抱いているのか、照準をあてている内容および理想とする教員像を探る必要がある。

まず「あなたの大学・学部では、FDとは何かを明確に定義した組織レベルの方針等がありますか」（問12）との質問に対する回答をみたのが、表3-1である。単純集計で、「方針がある」のは4分の1程度で、過半数の大学が「検討中」である。設置者別でみて、方針がある国立大の割合が3分の1で、公立大・私立大に比べて多いことが分かる。

表3-1 組織レベルの方針等の有無

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	*	単科	総合
大学の方針がある	27.7%	35.9%	25.6%	25.9%	23.9%	34.0%	17.2%	26.4%	29.0%
大学の方針を検討中	56.5%	50.0%	51.2%	59.2%	53.7%	52.6%	65.6%	58.3%	54.6%
大学の方針は特になく検討もしていない	15.8%	14.1%	23.3%	14.9%	22.4%	13.4%	17.2%	15.3%	16.4%
合計	336	64	43	228	67	194	64	144	183

注) \* p<0.05

【問13】あなたの「大学・学部」では、FDの内容領域を、次のどれに照準されていますか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

- |            |            |              |                |
|------------|------------|--------------|----------------|
| 1. 教育活動    | 2. 研究活動    | 3. 社会サービス活動  | 4. 管理運営活動      |
| 5. 人事事項    | 6. 自己点検・評価 | 7. 教員のキャリア開発 | 8. あまり明確にしていない |
| 9. その他 ( ) |            |              |                |

組織レベルの方針といっても、FD活動そのものがさまざまな内容を包含していることから、各大学が、実際にどの領域に重点をあてているか見ていく必要がある。単純集計をした表3-2-1をみると、93.0%とほぼすべての大学が「教育活動」を挙げており、FD活動の中心に位置づいていることが分かる。

以下、比率の高いものを挙げて 表3-2-1 FDの内容領域

いくと、「自己点検・評価」(47.5%)、「研究活動」(31.8%)、「教員のキャリア開発」(22.0%)となっている。数次にわたる審議会答申で、自己点検評価の実施の必要性和併せ、大学構成員の資質開発も主要な課題として挙げられた経緯からも、この2つの領域があ

	はい	いいえ	計
1. 教育活動	93.0%	7.0%	100.0%
2. 研究活動	31.8%	68.2%	100.0%
3. 社会サービス活動	14.0%	86.0%	100.0%
4. 管理運営活動	9.9%	90.1%	100.0%
5. 人事事項	2.3%	97.7%	100.0%
6. 自己点検・評価	47.5%	52.5%	100.0%
7. 教員のキャリア開発	22.0%	78.0%	100.0%
8. あまり明確にしていない	5.8%	94.2%	100.0%
9. その他	2.3%	97.7%	100.0%

る程度関連づけられて、大学管理運営に位置づいていることが推測できる。

表3-2-2 FDの内容領域 (機関類型別)

1. 教育活動

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	97.0%	90.9%	92.2%	89.7%	95.5%	90.9%	91.8%	93.6%
いいえ	3.0%	9.1%	7.8%	10.3%	4.5%	9.1%	8.2%	6.4%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

2. 研究活動

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	11.9%	36.4%	36.8%	41.2%	26.3%	39.4%	33.3%	31.0%
いいえ	88.1%	63.6%	63.2%	58.8%	73.7%	60.6%	66.7%	69.0%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

3. 社会サービス活動

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	4.5%	18.2%	16.0%	23.5%	8.6%	19.7%	17.7%	10.7%
いいえ	95.5%	81.8%	84.0%	76.5%	91.4%	80.3%	82.3%	89.3%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

4. 管理運営活動

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	6.0%	15.9%	10.0%	11.8%	8.1%	13.6%	10.2%	9.1%
いいえ	94.0%	84.1%	90.0%	88.2%	91.9%	86.4%	89.8%	90.9%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

5. 人事事項

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	1.5%	4.5%	2.2%	2.9%	1.5%	3.0%	2.0%	2.7%
いいえ	98.5%	95.5%	97.8%	97.1%	98.5%	97.0%	98.0%	97.3%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

6. 自己点検・評価

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	38.8%	40.9%	51.1%	52.9%	47.5%	42.4%	47.6%	48.1%
いいえ	61.2%	59.1%	48.9%	47.1%	52.5%	57.6%	52.4%	51.9%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

7. 教員のキャリア開発

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	20.9%	25.0%	21.2%	22.1%	20.2%	24.2%	21.1%	21.9%
いいえ	79.1%	75.0%	78.8%	77.9%	79.8%	75.8%	78.9%	78.1%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

## 8. あまり明確にしていけない

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	4.5%	9.1%	5.6%	7.4%	4.5%	7.6%	7.5%	4.8%
いいえ	95.5%	90.9%	94.4%	92.6%	95.5%	92.4%	92.5%	95.2%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

## 9. その他

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	3.0%	4.5%	1.7%	1.5%	1.5%	3.0%	3.4%	1.6%
いいえ	97.0%	95.5%	98.3%	98.5%	98.5%	97.0%	96.6%	98.4%
合計	67	44	231	68	198	66	147	187

注) \*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, \* p<0.05

危険率 0.1 %において設置者と有意な関連性のある項目は「研究活動」のみで、どちらかという教育志向的と思われる公立・私立大学が国立大学に比べて比率の高いことは、意外な傾向である（表3-2-2）。

それではこうした方針や内容領域の下で、学長はどのようなタイプを理想としているのであろうか。問14では、「FDの取組において目的としているよい教員」を尋ねている。

【問14】あなたの「大学・学部」では、FDの取組において目的としている「よい教員」とは次のうちどのようなタイプでしょうか。次の選択肢から最も当てはまるものをお選び下さい。

1. 教育よりもむしろ専門分野の研究を重視し、学問業績に能力を発揮している教員
2. 研究よりもむしろ教育を重視し、授業にすぐれた能力を発揮している教員
3. 研究と教育を同じ程度に重視して双方に相応の力を発揮している教員
4. 研究や教育よりもむしろ社会サービスに力を発揮している教員
5. 研究や教育よりもむしろ管理運営やマネジメントに力を発揮している教員
6. その他（ ）

表3-3から、「研究と教育を同じ程度に重視して双方に力を発揮している」両立型教員が62.3%ともっとも高い割合をしめ、次に「むしろ教育を重視し、授業にすぐれた能力を発揮している」教育型教員がくる。歴史的にみても、国際比較の視点からみても「研究志向」が非常に強かった日本において、学長の意識が「両立型教員」を支持していることは望ましい傾向であると考えられる。

危険率 0.1 %において有意な関連性がみられたのは設置者のみで、国公立では全体的に「両立型教員」を支持しているのに対し、私立では、同様にそれがマジョリティであるものの、「教育重視型」が国公立に比べ高い割合をしめていることは注目される。

表3-3 FDの取組において目的としている「よい教員」

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	*** 私立	修士まで	博士まで	** なし	単科	総合
教育よりもむしろ専門分野の研究を重視し、学業に能力を発揮している教員	0.3%	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%
研究よりもむしろ教育を重視し、授業にすぐれた能力を発揮している教員	31.8%	16.4%	12.2%	39.9%	24.2%	29.2%	47.7%	31.0%	32.6%
研究と教育を同じ程度に重視して双方に相応の力を発揮している教員	62.3%	76.1%	78.0%	55.3%	71.2%	63.6%	52.3%	65.5%	59.0%
研究や教育よりもむしろ社会サービスに力を発揮している教員	0.3%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
その他	5.3%	6.0%	7.3%	4.8%	3.0%	7.2%	0.0%	2.8%	7.7%
合計	337	67	41	228	67	196	63	145	183

注) \*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, \* p<0.05

## 2. Student OrientedなFD活動へのシフト

そもそも「大学・学部の教育の改善や活性化は必要である」と(問 15)と学長は思っているのだろうか。

表3-4-1 教育の改善や活性化は必要か

表3-4-1から、「必要である」は90.1%、「ある程度必要である」は8.8%で、ほとんどの学長(98.9%)は、教育の改善や活性化を必要であると思っている。

ちなみに、1989年調査においても、98.5%の学長は、教育の改善や活性化を必要であると思っており、14年前から学長は教育の改善や活性化に対して積極的であったといえよう。

この問に対して、機関類型にそれほど関係なく90%前後の高い割合で「必要である」と認識している(表3-4-2)。

	2003年 (a)	1989年 (b)	(a)-(b)
必要である	308 90.1%	129 98.5%	0.4%
ある程度必要である	30 8.8%		
どちらともいえない	0 0.0%	2 1.5%	-1.5%
あまり必要でない	3 0.9%	0 0.0%	1.2%
必要でない	1 0.3%		
合計	342 100.0%	132 100.0%	*

表3-4-2 教育の改善や活性化は必要か(機関類型別)

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
必要である	92.5%	86.4%	90.0%	83.8%	92.9%	87.9%	89.8%	90.9%
ある程度必要である	6.0%	11.4%	9.1%	14.7%	6.6%	9.1%	9.5%	8.1%
あまり必要でない	1.5%	0.0%	0.9%	0.0%	0.5%	3.0%	0.0%	0.0%
必要でない	0.0%	2.3%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.7%	1.1%
合計	67	44	230	68	197	66	145	188

それでは、改善・活性化の必要性を感じさせる背景は何であろうか。問 16 では、そう考える理由について尋ねている。

【問 16】【問 15】で「1. 必要である」を選択された方に質問します。教育の改善と活性化が必要であるとお考えになる理由は何でしょうか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 学生に意欲を持って学習してもらうため
2. 学生に豊富な知識を習得してもらうため
3. 大学教育のグローバルスタンダード化への対応のため (JABEEなど)
4. 学生 (18歳) 人口の減少に伴う大学生生き残りのため
5. 外国人留学生に入学してもらうため
6. 生涯教育機関としての大学の役割が増大 (社会人学生の増加等) しているため
7. 社会や国民からの大学教育批判に応えるため
8. 社会の情報化・国際化に対応したカリキュラム編成の必要性のため
9. 高校教育との接続の問題 (学力の多様化など) に対応するため
10. 大学教員は大学教育の改善に努める責務があるため
11. 教育活動が大学評価の対象となっているため
12. その他 (具体的に記入下さい)

表 3-5-1 教育の改善や活性化を必要とする理由

	2003年			1989年			(a)-(a')
	はい (a)	いいえ (b)	合計	はい (a')	いいえ (b')	合計	
1. 学生に意欲を持って学習してもらうため	290 94.2%	18 5.8%	308 100.0%	*	*	*	*
2. 学生に豊富な知識を習得してもらうため	146 47.4%	162 52.6%	308 100.0%	*	*	*	*
3. 大学教育のグローバルスタンダード化への対応のため (JABEEなど)	119 38.6%	189 61.4%	308 100.0%	*	*	*	*
4. 学生 (18歳) 人口の減少に伴う大学生生き残りのため	153 49.7%	155 50.3%	308 100.0%	66 51.2%	63 48.8%	129 100.0%	-1.5%
5. 外国人留学生に入学してもらうため	27 8.8%	281 91.2%	308 100.0%	29 22.5%	100 77.5%	129 100.0%	-13.7%
6. 生涯教育機関としての大学の役割が増大 (社会人学生の増加等) しているため	130 42.2%	178 57.8%	308 100.0%	76 59.4%	52 40.6%	128 100.0%	-17.2%
7. 社会や国民からの大学教育批判に応えるため	80 26.0%	228 74.0%	308 100.0%	28 21.9%	100 78.1%	128 100.0%	4.1%
8. 社会の情報化・国際化に対応したカリキュラム編成の必要性のため	154 50.0%	154 50.0%	308 100.0%	73 56.6%	56 43.4%	129 100.0%	-6.6%
9. 高校教育との接続の問題 (学力の多様化など) に対応するため	130 42.2%	178 57.8%	308 100.0%	24 18.6%	105 81.4%	129 100.0%	23.6%
10. 大学教員は大学教育の改善に努める責務があるため	237 76.9%	71 23.1%	308 100.0%	83 64.8%	45 35.2%	128 100.0%	12.1%
11. 教育活動が大学評価の対象となっているため	120 39.0%	188 61.0%	308 100.0%	*	*	*	*
12. その他	23 7.5%	285 92.5%	308 100.0%	9 7.0%	120 93.0%	129 100.0%	-0.1%

教育の改善や活性化を必要とする理由として、選択率の高いトップ5の項目は、選択率の高い順に、「1. 学生に意欲を持って学習してもらうため」(94.2%)、「10. 大学教員は大学教育の改善に努める責務があるため」(76.9%)、「8. 社会の情報化・国際化に対応したカリキュラム編成の必要性のため」(50.0%)、「4. 学生(18歳)人口の減少に伴う大学生生き残りのため」(49.7%)、「2. 学生に豊富な知識を習得してもらうため」(47.4%)、となっていた。上位5項目のうちに、学生のインプット・アウトプットに関心を払っていることが見いだせる(表3-5-1)。

表3-5-2 教育の改善や活性化を必要とする理由(機関類型別)

1. 学生に意欲を持って学習してもらうため

	設置者 **			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	91.9%	81.6%	97.1%	94.8%	95.1%	91.1%	93.1%	94.7%
いいえ	8.1%	18.4%	2.9%	5.2%	4.9%	8.9%	6.9%	5.3%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171

2. 学生に豊富な知識を習得してもらうため

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	43.5%	39.5%	50.2%	46.6%	50.5%	39.3%	44.6%	48.5%
いいえ	56.5%	60.5%	49.8%	53.4%	49.5%	60.7%	55.4%	51.5%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171

3. 大学教育のグローバルスタンダード化への対応のため(JABEEなど)

	設置者 *			大学院 **			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	53.2%	42.1%	33.3%	25.9%	50.0%	16.1%	33.1%	42.1%
いいえ	46.8%	57.9%	66.7%	74.1%	50.0%	83.9%	66.9%	57.9%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171

4. 学生(18歳)人口の減少に伴う大学生生き残りのため

	設置者 **			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	22.6%	26.3%	62.3%	43.1%	49.5%	62.5%	48.5%	49.1%
いいえ	77.4%	73.7%	37.7%	56.9%	50.5%	37.5%	51.5%	50.9%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171



5. 外国人留学生に入学してもらうため

	設置者 *			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	16.1%	0.0%	8.2%	6.9%	9.8%	7.1%	5.4%	11.1%
いいえ	83.9%	100.0%	91.8%	93.1%	90.2%	92.9%	94.6%	88.9%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171

6. 生涯教育機関としての大学の役割が増大(社会人学生の増加等)しているため

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	40.3%	31.6%	44.4%	46.6%	40.2%	42.9%	38.5%	45.6%
いいえ	59.7%	68.4%	55.6%	53.4%	59.8%	57.1%	61.5%	54.4%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171

7. 社会や国民からの大学教育批判に応えるため

	設置者 **			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	40.3%	36.8%	19.8%	31.0%	26.1%	19.6%	20.0%	29.2%
いいえ	59.7%	63.2%	80.2%	69.0%	73.9%	80.4%	80.0%	70.8%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171

8. 社会の情報化・国際化に対応したカリキュラム編成の必要性のため

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	51.6%	63.2%	47.3%	55.2%	51.1%	41.1%	44.6%	54.4%
いいえ	48.4%	36.8%	52.7%	44.8%	48.9%	58.9%	55.4%	45.6%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171

9. 高校教育との接続の問題(学力の多様化など)に対応するため

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	35.5%	31.6%	46.4%	37.9%	42.9%	46.4%	43.1%	41.5%
いいえ	64.5%	68.4%	53.6%	62.1%	57.1%	53.6%	56.9%	58.5%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171

10. 大学教員は大学教育の改善に努める責務があるため

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	82.3%	81.6%	74.4%	74.1%	78.8%	69.6%	76.9%	76.6%
いいえ	17.7%	18.4%	25.6%	25.9%	21.2%	30.4%	23.1%	23.4%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171

11. 教育活動が大学評価の対象となっているため

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし *	単科	総合
はい	46.8%	28.9%	38.6%	48.3%	40.2%	26.8%	33.8%	41.5%
いいえ	53.2%	71.1%	61.4%	51.7%	59.8%	73.2%	66.2%	58.5%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171

12. その他

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	9.7%	13.2%	5.8%	6.9%	8.7%	3.6%	8.5%	7.0%
いいえ	90.3%	86.8%	94.2%	93.1%	91.3%	96.4%	91.5%	93.0%
合計	62	38	207	58	184	56	130	171

注) \*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, \* p<0.05

表3-5-2からは、機関類型により、異なる傾向を示していることが分かる。危険率0.1%において設置者と有意な関連性のある項目は、「学生（18歳）人口の減少に伴う大学生生き残りのため」で、国公立大学が私立大学より重視しており、国立大学法人化への移行後のさらに激しくなる学生獲得競争を見越して、何より教育の質を高めなければ生き残れないという危機意識を強めているのだと思われる。また、大学院の設置形態と有意な関連性のある項目は「大学教育のグローバルスタンダード化への対応のため」で、大学院のない大学が、修士ないし博士設置の大学に比べ重視していることが分かる。おそらく、研究志向大学が主に研究活動のグローバルスタンダードを意識しているのとは異なって、学士課程レベルの専門教育ないし専門職業教育に敏感になっていると推測される。いずれにしても、それぞれの立場がここからよみとれて興味深い。

表3-6-1 F D活動を実施しましたか

前調査、そして本調査でも「教育の改善や活性化は必要であるか」（前調査の問37）と認識しているが、その理由の変化を探ってみると（前調査の問38、但し一部の回答選択肢において不一致あり）、「学生人口の減少による大学生生き残りのため」「社会や国民からの大学教育批判」さらに「高校教育との接続問題」を理由として挙げる割合が高くなっていることが注目できる。

	2003年 (a)	1989年 (b)	(a)-(b)
実施した	239 72.4%	18 13.7%	58.7%
現在実施してい	61 18.5%	12 9.2%	9.3%
実施しなかった	29 8.8%	99 75.6%	-66.8%
わからない	1 0.3%	2 1.5%	-1.2%
合計	330 100.0%	131 100.0%	*

大学教育の改善・活性化の必要性を受けて、F D活動はどれほど普及しているのだろうか。問17では、「大学・学部では、過去5年の間に、教育に関するF D活動を実施したか」質問している。その単純集計結果が表3-6-1であるが、実施率は全体の73.3%とかなり高い割合を示している。

しかし、設置者を統制してみると（表3-6-2）、かなりのばらつきがあることが分かる。つまり、国立大学は98.5%とほぼ全てに普及しているが、私立大学（約70%）、公立大学の順で下降し（約60%）、公立大学でまだ実施していない割合が4分の1にも達している。単純に所属する教員および大学全体の意識が低いとも受け取れるが、それ以外の理由（財政的な問題や大学をとりまく利害関係者のあり方など）が影響しているとも考えられる。

表3-6-2 FD活動を実施しましたか（機関類型別）

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施した	98.5%	57.5%	69.1%	64.2%	80.6%	60.7%	73.8%	73.9%
現在実施していないが、検討中	0.0%	17.5%	22.4%	19.4%	15.7%	21.3%	17.0%	18.3%
実施しなかった	1.5%	25.0%	8.1%	14.9%	3.7%	18.0%	8.5%	7.8%
わからない	0.0%	0.0%	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%
合計	66	40	223	67	191	61	141	180

注) \*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, \* p<0.05

実際に実施されたFD活動がどのようなテーマや内容かを見ていくと（【問18】）、教育活動を有効に行う技法に関する内容がやはり多い（表3-7-1）。

表3-7-1 どのようなテーマや内容ですか

	2003年			1989年			(a)-(a)'
	実施した (a)	実施しな かった (b)	合計	実施した (a)'	実施しな かった (b)'	合計	
1. 講義方法	190 79.5%	49 20.5%	239 100.0%	11 61.1%	7 38.9%	18 100.0%	18.4%
2. 学生評価の仕方	123 51.5%	116 48.5%	239 100.0%	12 66.7%	6 33.3%	18 100.0%	-15.2%
3. 学生指導の方法	130 54.4%	109 45.6%	239 100.0%	13 72.2%	5 27.8%	18 100.0%	-17.8%
4. カリキュラムの組み方	113 47.3%	126 52.7%	239 100.0%	10 55.6%	8 44.4%	18 100.0%	-8.3%
5. テスト問題の作成	36 15.1%	203 84.9%	239 100.0%	5 27.8%	13 72.2%	18 100.0%	-12.7%
6. 討論の技法	30 12.6%	209 87.4%	239 100.0%	4 22.2%	14 77.8%	18 100.0%	-9.7%
7. 教員と学生との関係作り	104 43.5%	135 56.5%	239 100.0%	8 44.4%	10 55.6%	18 100.0%	-0.9%
8. 卒業論文の指導方法	23 9.6%	216 90.4%	239 100.0%	4 23.5%	13 76.5%	17 100.0%	-13.9%
9. 研究活動のあり方	20 8.4%	219 91.6%	239 100.0%	5 27.8%	13 72.2%	18 100.0%	-19.4%
10. 管理・運営のあり方	10 4.2%	229 95.8%	239 100.0%	4 23.5%	13 76.5%	17 100.0%	-19.3%
11. 社会サービスのあり方	11 4.6%	228 95.4%	239 100.0%	3 17.6%	14 82.4%	17 100.0%	-13.0%
12. 大学・高等教育論	32 13.4%	207 86.6%	239 100.0%	4 23.5%	13 76.5%	17 100.0%	-10.1%
13. その他	29 12.1%	210 87.9%	239 100.0%	1 5.6%	17 94.4%	18 100.0%	6.6%

設置者と有意な関連性のあるFD活動内容をみていくと（表3-7-2）、国立大学で「講義方法」や「学生指導の方法」「カリキュラムの組み方」「大学・高等教育論」が、

公立・私立大学に比べて高く、教育の質的改善を語るのに、教員が学生と過ごす内容・時間を重要視している姿勢がうかがえるのではないかと。

このようにFD活動の具体的な状況が大学によって異なるものの、大学をとりまく環境の変化は、大学人そして大学に安住を許してはくれない。いずれ、従来の活動内容に新たなものが加えられ充実していくと思われる。

表3-7-2 その行事は、どのようなテーマや内容ですか(機関類型別)

1. 講義方法

	設置者			大学院			学部教	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	82.8%	73.9%	78.9%	72.1%	82.4%	74.3%	76.5%	81.1%
いいえ	17.2%	26.1%	21.1%	27.9%	17.6%	25.7%	23.5%	18.9%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

2. 学生評価の仕方

	設置者			大学院			学部教	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	50.0%	34.8%	54.6%	34.9%	58.2%	40.0%	51.0%	52.3%
いいえ	50.0%	65.2%	45.4%	65.1%	41.8%	60.0%	49.0%	47.7%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

3. 学生指導の方法

	設置者			大学院			学部教	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	70.3%	39.1%	50.0%	51.2%	54.2%	57.1%	55.9%	53.0%
いいえ	29.7%	60.9%	50.0%	48.8%	45.8%	42.9%	44.1%	47.0%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

4. カリキュラムの組み方

	設置者			大学院			学部教	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	60.9%	39.1%	42.8%	39.5%	51.6%	37.1%	52.0%	43.9%
いいえ	39.1%	60.9%	57.2%	60.5%	48.4%	62.9%	48.0%	56.1%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

5. テスト問題の作成

	設置者			大学院			学部教	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	15.6%	0.0%	17.1%	7.0%	20.3%	0.0%	19.6%	11.4%
いいえ	84.4%	100.0%	82.9%	93.0%	79.7%	100.0%	80.4%	88.6%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

6. 討論の技法

	設置者			大学院			学部教	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	15.6%	8.7%	11.8%	4.7%	15.0%	11.4%	13.7%	11.4%
いいえ	84.4%	91.3%	88.2%	95.3%	85.0%	88.6%	86.3%	88.6%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

## 7. 教員と学生との関係作り

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	42.2%	30.4%	46.1%	46.5%	42.5%	45.7%	42.2%	43.9%
いいえ	57.8%	69.6%	53.9%	53.5%	57.5%	54.3%	57.8%	56.1%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

## 8. 卒業論文の指導方法

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	4.7%	8.7%	11.8%	7.0%	9.8%	14.3%	8.8%	10.6%
いいえ	95.3%	91.3%	88.2%	93.0%	90.2%	85.7%	91.2%	89.4%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

## 9. 研究活動のあり方

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	0.0%	13.0%	11.2%	9.3%	4.6%	22.9%	13.7%	3.8%
いいえ	100.0%	87.0%	88.8%	90.7%	95.4%	77.1%	86.3%	96.2%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

## 10. 管理・運営のあり方

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	0.0%	8.7%	5.3%	4.7%	2.6%	11.4%	6.9%	2.3%
いいえ	100.0%	91.3%	94.7%	95.3%	97.4%	88.6%	93.1%	97.7%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

## 11. 社会サービスのあり方

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	6.3%	4.3%	3.9%	7.0%	3.3%	5.7%	4.9%	4.5%
いいえ	93.8%	95.7%	96.1%	93.0%	96.7%	94.3%	95.1%	95.5%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

## 12. 大学・高等教育論

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	21.9%	4.3%	11.2%	9.3%	16.3%	8.6%	6.9%	17.4%
いいえ	78.1%	95.7%	88.8%	90.7%	83.7%	91.4%	93.1%	82.6%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

## 13. その他

	設置者			大学院			学部数	
	国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	10.9%	17.4%	11.8%	14.0%	11.1%	14.3%	9.8%	14.4%
いいえ	89.1%	82.6%	88.2%	86.0%	88.9%	85.7%	90.2%	85.6%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132
いいえ	89.1%	82.6%	88.2%	86.0%	88.9%	85.7%	90.2%	85.6%
合計	64	23	152	43	153	35	102	132

注) \*\*\*  $p < 0.001$ , \*\*  $p < 0.01$ , \*  $p < 0.05$

「今後、FD活動がどの程度必要だと思うか」質問してみると（問19）、全体の約8割が「必要である」と回答している。また有意性はないものの、国立大学が92.4%と公立・私立大学に比べてもかなり高く、その積極性が見てとれる（表3-8）。

表3-8 今後、FD活動がどの程度必要だと思うか

	単純集計	設置者			大学院		*	学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで		単科	総合
必要である	78.4%	92.4%	78.6%	74.7%	71.6%	83.4%	71.9%	75.7%	80.1%
ある程度必要である	19.5%	7.6%	19.0%	22.7%	22.4%	15.5%	26.6%	21.5%	18.2%
あまり必要ない	1.8%	0.0%	2.4%	2.2%	6.0%	0.5%	1.6%	2.8%	1.1%
必要ない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%
合計	334	66	42	225	67	193	64	144	181

注) \*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, \* p<0.05

それでは、FD活動を全学的に進めていく制度的枠組みはどれほど整っているのだろうか。問20で「大学では、FD活動実施の委員会は設置されているか」、問22で「FDの実施結果を点検・評価するための委員会等が設置されているか」、さらに問24で「大学教育を調査したり、教育改善を支援するような組織（例、大学教育研究センター等）はあるか」それぞれ尋ねている。表3-9、表3-10、表3-11はその結果である。

表3-9 FD活動実施の委員会は設置されているか

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
設置している	65.4%	83.3%	57.1%	62.0%	62.1%	69.4%	57.6%	67.6%	63.6%
設置していないが設置を検討中	21.0%	10.6%	23.8%	23.1%	19.7%	20.9%	21.2%	17.9%	23.4%
設置していないし検討もしていない	13.6%	6.1%	19.0%	14.8%	18.2%	9.7%	21.2%	14.5%	13.0%
合計	338	66	42	229	66	196	66	145	184

表3-10 FDの実施結果を点検・評価するための委員会等の設置

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
委員会等を設置している	37.1%	48.5%	23.8%	36.4%	38.2%	38.3%	34.8%	36.3%	39.0%
委員会等を設置していないが設置する予定	17.8%	13.6%	26.2%	17.1%	20.6%	15.5%	16.7%	17.8%	15.9%
委員会等を設置していない	45.1%	37.9%	50.0%	46.5%	41.2%	46.1%	48.5%	45.9%	45.1%
合計	337	66	42	228	68	193	66	146	182

単純集計から、FD活動実施の委員会が設置されている大学は全体の65.4%と高い割合を示すが、点検・評価委員会や調査し教育改善を支援するような組織はそれぞれ37.1%、27.7%とまだまだ不十分な状況であるといえる。FDを実施する実働部

門があっても、それを実質的に支えてくれる組織に恵まれず、また活動状況をきちんと点検・評価し、フィードバックしていく仕組みがないと、地にきちんと足が付いた活動は望めない。

表3-11 大学教育を調査したり、教育改善を支援するような組織の有無

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	*** 私立	修士まで	博士まで	** なし	単科	** 総合
ある	27.7%	43.3%	14.0%	25.4%	22.4%	34.2%	12.3%	24.1%	31.4%
現在ないが、検討中	16.8%	23.9%	14.0%	15.4%	11.9%	17.3%	18.5%	11.7%	21.1%
ない	55.5%	32.8%	72.1%	59.2%	65.7%	48.5%	69.2%	64.1%	47.6%
合計	339	67	43	228	67	196	65	145	185

注) \*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01

設置者別にみた場合、国立大学>私立大学>公立大学の順で、FD活動の推進組織がおかれている割合が高く、公立大学は活動のみならず、こうした環境整備の段階で、他の類型から立ち遅れていることは大きな課題であるといえよう。近年は大学教育研究センターの新設が続いているが、修士設置大学・大学院のない大学より博士設置の大学が、また単科大学より総合大学の方が、センター設置の割合が高く、財政的に弱小である大学群にあって大学教育の質改善をどのように支えていくのか、考えていかなければならない。

FD活動がより大きな効果を得られるように、さまざまな制度的装置がこれまで、一部の大学で試験的に導入されたり、また全国的に政策的に推奨されてきた。それらは、学生の学習意欲を高め、ある一定のレベルの達成をクリアさせる仕組みを含む学生に対する組織的な対処であり、また大学教育の根幹に位置するカリキュラムの調整など、教員全体の関与を求めるような体制づくりの方策であるともいえる。

そこで、そうした道具がどれほど浸透しているのか確認してみたい。問21では、20の具体的な項目を挙げて、その実施状況を尋ねている。

多くの大学で実施されているもの（50%以上の比率を示したもの）を順に挙げると、「シラバス」（96.5%）で、次に「自己点検・評価」（90.1%）が、以下「学生による授業評価」（86.3%）、「少人数教育」（81.6%）、「 Semester制」（65.3%）、「他大学との単位互換制」（64.1%）、「ティーチング・アシスタント（TA）の活用」（62.7%）、「オフィスアワー」（62.4%）、「教養教育の重視」（53.1%）と続く（表3-12）。

【問21】あなたの「大学・学部」では、次の事柄を実施していますか。実施してしているものを全て選んで番号を で囲んで下さい。なお、学長は全学レベルでの実施、学部長は学部レベルの実施についてご回答下さい。 さらに、実施している場合、その開始時期（A = 1991年以前、B = 1992-1998年、C = 1999年以降）を（ ）内にA、B、Cのいずれかの記号でご記入下さい。

- |                   |                                     |
|-------------------|-------------------------------------|
| ( ) 1. シラバス       | ( ) 11. 大学基準協会の相互評価                 |
| ( ) 2. 学生による授業評価  | ( ) 12. 教養教育のコアカリキュラム               |
| ( ) 3. AO入試       | ( ) 13. CAP制(単位の上限設定)               |
| ( ) 4. オフィスアワー    | ( ) 14. 授業におけるモニター制(授業参観)           |
| ( ) 5. 少人数教育      | ( ) 15. リメディアル教育(補習授業の実施)           |
| ( ) 6. 授業を外国語で行う  | ( ) 16. セメスター制(一つの授業をセメスターごとに完結させる) |
| ( ) 7. 他大学との単位互換制 | ( ) 17. ティーチング・アシスタント(TA)の活用        |
| ( ) 8. 教養教育の重視    | ( ) 18. GPA制(厳格な成績評価)               |
| ( ) 9. 主専攻・副専攻制   | ( ) 19. 教員任用時における教育能力・資質の重視         |
| ( ) 10. 自己点検・評価   | ( ) 20. 教員昇任時における教育能力・資質の重視         |

表3-12 教育改善のための道具

	実施している	実施していない	計
1. シラバス	96.5%	3.5%	100.0%
2. 学生による授業評価	86.3%	13.7%	100.0%
3. AO入試	46.4%	53.6%	100.0%
4. オフィスアワー	62.4%	37.6%	100.0%
5. 少人数教育	81.6%	18.4%	100.0%
6. 授業を外国語で行う	22.4%	77.6%	100.0%
7. 他大学との単位互換制	64.1%	35.9%	100.0%
8. 教養教育の重視	53.1%	46.9%	100.0%
9. 主専攻・副専攻制	10.5%	89.5%	100.0%
10. 自己点検・評価	90.1%	9.9%	100.0%
11. 大学基準協会の相互評価	31.2%	68.8%	100.0%
12. 教養教育のコアカリキュラム	18.4%	81.6%	100.0%
13. CAP制(単位の上限設定)	39.4%	60.6%	100.0%
14. 授業におけるモニター制(授業参観)	20.1%	79.9%	100.0%
15. リメディアル教育(補習授業の実施)	39.7%	60.3%	100.0%
16. セメスター制(一つの授業をセメスターごとに完結させる)	65.3%	34.7%	100.0%
17. ティーチング・アシスタント(TA)の活用	62.7%	37.3%	100.0%
18. GPA制(厳格な成績評価)	17.5%	82.5%	100.0%
19. 教員任用時における教育能力・資質の重視	49.6%	50.4%	100.0%
20. 教員昇任時における教育能力・資質の重視	42.6%	57.4%	100.0%



大学教育の改善が、教員のみ活動に偏っているだけではその効果は期待できない。独りよがりな自己満足的な活動に陥らないためにも、授業を形づくるもう一方の主体である学生の関与が重要である。FDの導入とともに、学生による授業評価が広く取り入れられてきた。学生の大学教育に対する満足度を図る指標にもなる授業評価は、日本の大学においてどのように位置づけられているのだろうか。問 23 は、その活用の仕方を尋ねている。

【問 23】あなたの「大学・学部」で実施している学生による授業評価結果をどのように活用されていますか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1. 教員に評価結果を返却        | 2. 学生に評価結果を公表       |
| 3. 評価結果の良い授業を参観      | 4. 評価結果を教員の昇給や昇進に利用 |
| 5. その他 ( )           |                     |
| 6. 学生による授業評価を実施していない |                     |

表 3-13 から、全体的には「教員に評価結果を返却」するが、さらに一歩進んで「評価結果の良い授業を参観」を行ったり、「評価結果を教員の昇給や昇進に利用」するところまでいかないのが現在の状況である。

表 3-13 学生による授業評価結果の活用方法

1. 教員に評価結果を返却

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	79.0%	92.5%	63.6%	77.9%	63.2%	86.9%	68.2%	74.8%	82.4%
いいえ	21.0%	7.5%	36.4%	22.1%	36.8%	13.1%	31.8%	25.2%	17.6%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

2. 学生に評価結果を公表

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	34.1%	46.3%	25.0%	32.5%	33.8%	37.4%	25.8%	36.7%	32.1%
いいえ	65.9%	53.7%	75.0%	67.5%	66.2%	62.6%	74.2%	63.3%	67.9%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

3. 評価結果の良い授業を参観

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	5.3%	13.4%	0.0%	4.3%	4.4%	7.1%	3.0%	4.1%	7.0%
いいえ	94.7%	86.6%	100.0%	95.7%	95.6%	92.9%	97.0%	95.9%	93.0%
合計	337	67	44	231	68	198	66	147	187

4. 評価結果を教員の昇給や昇進に利用

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	2.3%	1.5%	0.0%	3.0%	5.9%	1.5%	1.5%	2.0%	2.7%
いいえ	97.7%	98.5%	100.0%	97.0%	94.1%	98.5%	98.5%	98.0%	97.3%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

### 5. その他

	単純集計	設置者 *			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	16.9%	22.4%	27.3%	13.4%	22.1%	15.7%	15.2%	17.7%	17.1%
いいえ	83.1%	77.6%	72.7%	86.6%	77.9%	84.3%	84.8%	82.3%	82.9%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

### 6. 学生による授業評価を実施していない

	単純集計	設置者 *			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	9.0%	1.5%	13.6%	10.4%	10.3%	7.6%	12.1%	7.5%	10.7%
いいえ	91.0%	98.5%	86.4%	89.6%	89.7%	92.4%	87.9%	92.5%	89.3%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

注) \*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, p<0.05

機関類型別にみた場合、公・私立大学に比べ国立大学が（「教員に評価結果を返却」および「評価結果の良い授業を参観」で統計的に有意）、さらに博士設置大学が他の類型より、わずかではあるが進んでいることが確認できた（「教員に評価結果を返却」で統計的に有意）。

### 3. 「日本的な」改善効果

これまでFDに関する大学の条件についてみてきたが、気になるのはその効果である。問26は、大学教員の主要な4つの役割に対する成果を測っている。

【問26】 貴学では、FD活動実施の結果、どの程度成果が得られましたか。次の各質問の選択肢から最も当てはまるものをお選び下さい。	高まった				ある程度高まった		あまり高まっていない		高まっていない		対象としていない	
	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
①教員の教育能力・資質	1	2	3	4	5							
②教員の研究能力・資質	1	2	3	4	5							
③教員の社会サービスの能力・資質	1	2	3	4	5							
④教員の管理運営能力・資質	1	2	3	4	5							

表3-14から、全体・機関類型を問わず、「教員の教育能力・資質向上」において「高まった」あるいは「ある程度高まった」と肯定的な回答をしている学長が70%前後に達しているが、それ以外の「研究」「社会サービス」「管理運営能力」については効果が疑問視されている実態が分かる。

つまり、教育授業改善に特化して、大学教員の学事そして学識（スカラシップ）

を構成する能力資質を統合し向上させるものとなっていないと指摘できよう。

表3-14 F D活動実施の成果

①教員の教育能力・資質

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
高まった	9.2%	9.1%	3.8%	10.1%	7.5%	9.1%	8.7%	8.5%	9.4%
ある程度高まった	66.8%	74.2%	65.4%	64.2%	66.0%	70.7%	54.3%	70.1%	63.8%
あまり高まっていない	16.2%	12.1%	23.1%	16.8%	11.3%	15.9%	23.9%	15.4%	17.4%
高まっていない	3.0%	1.5%	0.0%	3.9%	5.7%	1.2%	6.5%	2.6%	3.4%
対象としていない	4.8%	3.0%	7.7%	5.0%	9.4%	3.0%	6.5%	3.4%	6.0%
合計	271	66	26	179	53	164	46	117	149

②教員の研究能力・資質

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
高まった	1.9%	0.0%	0.0%	2.9%	5.9%	0.0%	4.5%	2.7%	1.4%
ある程度高まった	23.2%	14.1%	25.0%	26.3%	19.6%	25.6%	15.9%	24.3%	22.3%
あまり高まっていない	27.8%	25.0%	25.0%	29.1%	23.5%	26.3%	36.4%	26.1%	29.1%
高まっていない	5.3%	1.6%	0.0%	7.4%	3.9%	5.0%	9.1%	5.4%	5.4%
対象としていない	41.8%	59.4%	50.0%	34.3%	47.1%	43.1%	34.1%	41.4%	41.9%
合計	263	64	24	175	51	160	44	111	148

③教員の社会サービスの能力・資質

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
高まった	1.5%	0.0%	0.0%	2.3%	3.8%	0.6%	2.2%	0.9%	2.0%
ある程度高まった	20.5%	17.2%	23.1%	21.3%	21.2%	17.6%	31.1%	25.7%	16.3%
あまり高まっていない	28.4%	23.4%	15.4%	32.2%	23.1%	28.3%	28.9%	27.4%	29.3%
高まっていない	4.5%	1.6%	3.8%	5.7%	7.7%	3.1%	6.7%	5.3%	4.1%
対象としていない	45.1%	57.8%	57.7%	38.5%	44.2%	50.3%	31.1%	40.7%	48.3%
合計	264	64	26	174	52	159	45	113	147

④教員の管理運営能力・資質

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
高まった	0.4%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
ある程度高まった	18.8%	12.5%	16.0%	21.5%	17.3%	19.3%	17.8%	21.9%	15.5%
あまり高まっていない	25.6%	20.3%	20.0%	28.2%	25.0%	25.5%	24.4%	23.7%	27.7%
高まっていない	6.8%	4.7%	8.0%	7.3%	9.6%	5.0%	11.1%	6.1%	7.4%
対象としていない	48.5%	62.5%	56.0%	42.4%	48.1%	49.7%	46.7%	47.4%	49.3%
合計	266	64	25	177	52	161	45	114	148

注) \*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, p<0.05

こうした目に見える成果はいうまでもないが、継続的にかつ効果的にF D活動が発展してしていくためには、大学風土の転換が必須になってこよう。そこで問27で「大学・学部では、F D活動実施の結果、教員の使命・役割・資質に関して真剣に考える風土や雰囲気醸成されたか」質問した。その結果を示す表3-15をみると、「醸成された」あるいは「ある程度醸成された」との肯定的な回答は、全般的に約80%を占めている。さらに、問41で「教員は一般に教育の改善に対して熱心だと思われる」かどうか質問した結果(表3-16)、「熱心である」「ある程度熱心である」を合わせれば約80%に達する。また「重視されている」を1、「ある程度重視されている」を2、「どちらとも言えない」を3、「あまり重視されていない」を4、「重視されていない」を

5、として平均値を計算して1989年調査と比べ、どれほど教員が熱心になったのかみると2003年調査の平均値は2.1で、1989年調査の平均値は2.5であった。この14年間で教員は教育熱心の方向に変化したことがわかる。しかし、平均値が2点台であることは、実際のところ、熱心であるというよりも、まだ「どちらともいえない」というふうに認識されているということかもしれない。

表3-15 教員の使命・役割・資質に関して真剣に考える風土や雰囲気が醸成されたか

	単純集計	設置者			大学院		**	学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
醸成された	6.9%	7.8%	3.4%	7.2%	3.7%	7.8%	8.9%	6.0%	7.3%
ある程度醸成された	71.9%	73.4%	72.4%	71.3%	75.9%	74.3%	57.8%	74.4%	69.5%
あまり醸成されていない	18.6%	18.8%	17.2%	18.8%	11.1%	18.0%	28.9%	17.9%	19.9%
醸成されていない	2.6%	0.0%	6.9%	2.8%	9.3%	0.0%	4.4%	1.7%	3.3%
合計	274	64	29	181	54	167	45	117	151

表3-16 教員は教育の改善に対して熱心だと思うか

		2003年	1989年
熱心である	1	41 12.2%	9 6.8%
ある程度熱心である	2	230 68.7%	63 47.7%
どちらともいえない	3	47 14.0%	50 37.9%
あまり熱心ではない	4	17 5.1%	10 7.6%
熱心ではない	5	0 0.0%	0 0.0%
合計		335 100.0%	132 100.0%

||  
||  
∨

平均値	2.1	2.5
標準偏差	0.67	0.74

## まとめ

以上の分析にもとづき、知見をまとめると次のようになる。

F Dの中心に「教育活動」が位置づいていることは、実際の活動内容や実施理由、さらにその効果に関する項目の回答傾向から明らかであろう。基本は、学生の学習意欲と学習効果を高めるために、教員と学生の関係においてインプットからアウトプットに至る全てのプロセスを活性化することにある。そして、F Dを制度的に支える委員会・センターをコアに、統合的に活動を組織化していくことにはかなり努力していることが分かった。

類型別にみれば、国立大学が、他の類型に比べ良好であって、活動の底上げが図られていることが見いだせた。問題なのは、類型如何にかかわらず、教育授業改善に特化するばかり、研究や社会サービスなど教員の他の役割も含めた総合的な資質向上にまだまだ至っていない段階ということである。

## 【註】

(1) 有本章編、1990年『大学教育の改善に関する調査研究 - 全国大学教員調査報告書』(高等教育研究叢書5)、広島大学大学教育研究センター

関正夫編、1990年『大学教育改革の方法に関する研究 - Faculty Developmentの観点から』(高等教育研究叢書2)、広島大学大学教育研究センター

日本私立大学連盟編、1999年『1大学の教育・授業をどうする - F Dのすすめ』(シリーズ大学の教育・授業を考える)、東海大学出版会

三尾忠男・吉田文編、2002年『F D (ファカルティ・ディベロップメント) が大学教育を変える - 大学教員と授業改善 その実践と課題』、文葉社

民主教育協会『IDE 現代の高等教育』「F Dの課題と展望」(1999年10月号) 5-70頁

など。

## 第4章 FD活動と支援体制の今後の課題

## 第4章 F D活動と支援体制の今後の課題

渡辺 達雄

2章では、F D活動の基本理念および実施状況についてみてきた。本章では、F D活動の現状の問題点、F D状況の総合的診断そしてF Dの今後の課題について分析を進めていく。

### 1. ボトムアップ型F Dの条件は整っているか？

【問28】次の～まではF D活動の現状の問題点とその回答を示しております。次の各質問の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

	当てはまる	ある程度 当てはまる	あまり 当てはまらない	当てはまらない
F D活動の理念や概念が組織全体の 教員に十分認識されていない。	1	2	3	4
F D活動が概してトップダウンになって、 ボトムアップの取組がなかなか育たない悩みがある。	1	2	3	4
F D活動の概念や内容に関する専門家が 学内にいない	1	2	3	4
F D活動に無関心な教員がかなり見られる。	1	2	3	4

「1. 当てはまる」または「2. ある程度当てはまる」を選択された場合、あなたの「大学・学部はその種の教員は何パーセントぐらい見られますかお示し下さい。( %ぐらい)

F D活動の連携や協力を推進する全国組織が必要であるとお考えですか。

1. 必要である 2. ある程度必要である 3. あまり必要はない 4. 必要ない

F Dに関する組織レベルの方針があるとしても、その理念や概念が教員全体に果たして共有されているだろうか。表4-1から、「あてはまる」「ある程度あてはまる」をあわせた場合、全体では約80%、機関類型別にみても総じて70～80%の幅で、「認識がまだ不十分である」と学長は感じている。

表 4-1 F D活動の理念や概念が組織全体の教員に十分認識されていない

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	16.6%	13.6%	25.6%	16.0%	23.4%	15.0%	17.2%	12.0%	19.7%
ある程度当てはまる	61.4%	71.2%	43.6%	61.5%	59.4%	65.8%	50.0%	62.4%	60.7%
あまり当てはまらない	17.9%	12.1%	25.6%	18.3%	12.5%	16.0%	27.6%	20.3%	16.3%
当てはまらない	4.1%	3.0%	5.1%	4.2%	4.7%	3.2%	5.2%	5.3%	3.4%
合計	319	66	39	213	64	187	58	133	178

アメリカから概念を輸入してきた形で発展してきた、日本の大学におけるFD活動の経緯から予想できるように、FD活動の企画・実行が大学の執行部など上位主導で進みトップダウンになりやすく、上からの押し付けであると、実際に研修を受ける教員は感ずることが避けられなかった。しかし、10年前に比べれば、それなりに日本の大学全体にFDが普及して、ある種の抵抗感が弱まっていると思われる中で、それならば教員自らがあるいは組織の末端から自主的に活動を進められるだけの条件が整っているだろうか。②で「ボトムアップの取組がなかなか育たない悩みがある」か質問している。その結果が表4-2であるが、概して60%前後が「あてはまる」「ある程度あてはまる」と回答している。

表 4-2 F D活動が概してトップダウンになって、ボトムアップの取組がなかなか育たない悩みがある

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	9.0%	7.6%	13.5%	8.7%	12.9%	7.7%	10.7%	10.1%	8.6%
ある程度当てはまる	53.9%	56.1%	37.8%	55.8%	46.8%	55.5%	53.6%	54.3%	54.0%
あまり当てはまらない	28.7%	31.8%	32.4%	27.2%	30.6%	28.6%	26.8%	27.1%	28.7%
当てはまらない	8.4%	4.5%	16.2%	8.3%	9.7%	8.2%	8.9%	8.5%	8.6%
合計	310	66	37	206	62	182	56	129	174

問22や問24で委員会・センターなど各大学の体制について確認したが(2章参照)、「計画(plan)－実行(do)－評価(see)」のサイクルが円滑に進むためには、FD活動について専門的な知識と経験をもったスタッフがやはり必要不可欠である。③の質問に対する回答結果から(表4-3)、不足感は、全体の約70%に達することが分かる。

表 4-3 F D活動の概念や内容に関する専門家が学内にいない

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	28.0%	33.3%	39.5%	24.4%	31.3%	25.9%	29.1%	29.5%	27.1%
ある程度当てはまる	45.2%	39.4%	31.6%	49.3%	56.3%	42.7%	41.8%	43.4%	46.3%
あまり当てはまらない	19.7%	19.7%	26.3%	18.7%	12.5%	22.7%	18.2%	21.7%	18.1%
当てはまらない	7.0%	7.6%	2.6%	7.7%	0.0%	8.6%	10.9%	5.4%	8.5%
合計	314	66	38	209	64	185	55	129	177



最後に、そもそも教員がFD活動に無関心でいられるのだろうか。「FD活動に無関心な教員がかなり見られる」(問28④)かという問いに、さすがに「あてはまる」との回答は10%台であるが、それでも「ある程度あてはまる」まで含めると、かなりの割合に達する(表4-4)。ただ公立大学は「あまりあてはまらない」が41%と回答しており、(2章の「2. FDの実施形態」で述べたように)他の類型に比べ体制的に後れているという学長の認識とは裏腹に、無関心教員が少ないという認識は、矛盾している。

表4-4 FD活動に無関心な教員がかなり見られる

	単純集計	設置者			大学院			学部数 *	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	12.9%	16.7%	15.4%	11.3%	17.5%	11.8%	12.1%	9.0%	14.7%
ある程度当てはまる	54.7%	65.2%	38.5%	54.2%	46.0%	58.3%	50.0%	49.6%	60.5%
あまり当てはまらない	29.2%	18.2%	41.0%	30.7%	36.5%	27.3%	29.3%	36.8%	22.6%
当てはまらない	3.1%	0.0%	5.1%	3.8%	0.0%	2.7%	8.6%	4.5%	2.3%
合計	318	66	39	212	63	187	58	133	177

注) \* p<0.05

## 2. 連携・協力の時代

個々の大学のFD活動をバックアップする学内大学教育センターの役割は、今後ますます重要性を増していくであろう。しかし、FD活動に含まれる内容には、教授法のみならず、さまざまなものが含まれるのだから、その全面的な発展を促すためにも、センターや大学間の連携・協力活動にも力を注ぐことは大きな成果を生むであろう。すでに知られているように、日本でもメディア教育開発センターや私立大学教育連盟、大学コンソーシアム京都主催FDフォーラムなど全国規模の活動が展開されていて、日本の大学教員の資質開発に大きな役割を果たしている。それは「FD活動の連携や協力を推進する全国組織が必要であると考えている」(問28⑤)学長は、「あてはまる」「ある程度あてはまる」を合わせて、全体の約70%にのぼる数字に表れている(表4-5)。

表4-5 FD活動の連携や協力を推進する全国組織が必要である

	単純集計	設置者			大学院			学部数 *	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
必要である	20.2%	21.2%	25.0%	19.1%	25.8%	20.4%	13.3%	16.5%	22.9%
ある程度必要である	54.0%	56.1%	45.0%	54.9%	45.5%	55.4%	58.3%	59.0%	50.3%
あまり必要はない	22.4%	22.7%	27.5%	21.4%	27.3%	22.0%	18.3%	21.6%	22.9%
必要ない	3.4%	0.0%	2.5%	4.7%	1.5%	2.2%	10.0%	2.9%	4.0%
合計	322	66	40	215	66	186	60	139	175

注) \* p<0.05

それでは、具体的にどのような機能を期待しているのだろうか。問 29 では、5 つの内容を挙げて、回答を求めている(複数回答可)。

【問 29】上記の組織にはどのような機能を期待されますか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

1. 全国の大学で行われているFD活動の協議会的役割(情報交換やFD活動に関する調査・研究)
2. モデルとなるFD活動の開発・開催
3. 全国の大学のFD活動に対する指導・助言
4. 全国の大学へのFD活動に関する情報提供
5. 教員個々人の教育改善活動の支援
6. その他( )

表 4-6はその結果であるが、単純集計レベルで、比率の高い順で内容を並べてみると、「全国の大学へのFD活動に関する情報提供」(51.6%)、「モデルとなるFD活動の開発・開催」(44.9%)、「全国の大学で行われているFD活動の協議会的役割(情報交換やFD活動に関する調査・研究)」(42.3%)と続く。

機関類型別にみた場合でも、全体的な趨勢と大きな差は見出せないが、「モデルとなるFD活動の開発・開催」について国立大学が58%と、他の類型に比べ高い比率を示していることは興味深い。これらのことから、全国の学長は、何よりもFDに関する情報を求めており、かつてに比べればFD関連の一般書や教授法・講義法(Tips など)に関するガイドブックにそれほど事欠かない状況にあっても、さらに目に見える形のおそらくすぐに導入・適用できそうな指針を求めていることが分かる。

表 4-6 FD活動の連携や協力を推進する全国組織にどのような機能を期待しますか

1. 全国の大学で行われているFD活動の協議会的役割(情報交換やFD活動に関する調査・研究)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	58.8%	52.9%	46.4%	63.3%	55.3%	61.7%	57.1%	55.8%	61.7%
いいえ	41.2%	47.1%	53.6%	36.7%	44.7%	38.3%	42.9%	44.2%	38.3%
合計	238	51	28	158	47	141	42	104	128

2. モデルとなるFD活動の開発・開催

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	62.6%	74.5%	39.3%	62.7%	70.2%	63.8%	45.2%	57.7%	68.8%
いいえ	37.4%	25.5%	60.7%	37.3%	29.8%	36.2%	54.8%	42.3%	31.3%
合計	238	51	28	158	47	141	42	104	128

3. 全国の大学のFD活動に対する指導・助言

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	45.4%	43.1%	46.4%	45.6%	46.8%	46.8%	40.5%	41.3%	47.7%
いいえ	54.6%	56.9%	53.6%	54.4%	53.2%	53.2%	59.5%	58.7%	52.3%
合計	238	51	28	158	47	141	42	104	128

#### 4. 全国の大学へのFD活動に関する情報提供

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	71.8%	70.6%	71.4%	72.8%	61.7%	75.2%	73.8%	70.2%	75.0%
いいえ	28.2%	29.4%	28.6%	27.2%	38.3%	24.8%	26.2%	29.8%	25.0%
合計	238	51	28	158	47	141	42	104	128

#### 5. 教員個々人の教育改善活動の支援

	単統集計	設置者			大学院			学部数 *	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	34.0%	33.3%	32.1%	34.8%	38.3%	32.6%	31.0%	26.0%	41.4%
いいえ	66.0%	66.7%	67.9%	65.2%	61.7%	67.4%	69.0%	74.0%	58.6%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

#### 6. その他

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	1.3%	3.9%	0.0%	0.6%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	1.6%
いいえ	98.7%	96.1%	100.0%	99.4%	100.0%	97.9%	100.0%	100.0%	98.4%
合計	238	51	28	158	47	141	42	104	128

注) \*\*  $p < 0.01$

### 3. 日本のFD状況の総合的診断

第2章から前節までにわたり、FD活動の状況とその問題点について概観してきた。そこで、それらを総合的に評価する意味でも、FD活動の制度化がどの程度進んでいるのか、学長に診断してもらった(表4-7)。

【問30】あなたの「大学・学部」のFD活動の現状を総合的に考えると、次のうちのどの段階にあると診断されるでしょうか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. FDとはフロッピーディスクだと多くの教員が思っているような段階
2. FDの委員会を設置して研修会等を行うような比較的初期的な段階
3. 委員会活動等が軌道にのってかなり安定した状態にある段階
4. ボトムアップの取組が育たないなどの種々の問題が生じている段階
5. FDを最初からやり直すべく新たな体制による創意工夫を開始した段階

全体的にみると、過半数の大学が「FDの委員会を設置して研修会等を行うような比較的初期的な段階」(53.0%)にあり、次に「委員会活動等が軌道にのってかなり安定した状態にある段階」(20.9%)が続く。

機関類型別にみていくと、私立大学が国公立大学に比べ、「ボトムアップの取組が育たないなどの種々の問題が生じている段階」「FDを最初からやり直すべく新たな体制による創意工夫を開始した段階」と診断した比率が高い。生き残り競争において一番危機感を抱いていると思われる私立大学が、大学教育の質向上を目指し、新たなFDのあり方を模

索し、今産みの苦しみに直面しているといえるが、裏返せば一歩先を行っているとも評価できよう。またもう1つ確認できる傾向は、国立大学では、「初期的段階」(選択肢 2)から「問題発生段階=挫折期」(選択肢 4)まで、比較的まとまった状況にある一方、公立・私立大学では「フロッピーディスク段階」(選択肢 1)から「新たな創意工夫段階」(選択肢 5)まで、さまざまな段階に広く分散していることである。さらに、大学院の設置形態で分けた場合、博士設置大学は比較的まとまった状況にあり、それ以外の種類の大学は分散していることが分かる。

表 4-7 FD活動の発展段階

	単純集計	設置者			**		**		学部数	
		国立	公立	私立	大学院 修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
FDとはフロッピーディスクだと多くの教員が思っているような段階	4.7%	0.0%	8.1%	5.5%	7.6%	2.2%	10.0%	5.2%	3.9%	
FDの委員会を設置して研修会等を行うような比較的初期的な段階	53.0%	56.1%	64.9%	49.8%	47.0%	53.0%	56.7%	54.8%	51.1%	
委員会活動等が軌道にのってかなり安定した状態にある段階	20.9%	31.8%	10.8%	19.4%	15.2%	25.9%	10.0%	18.5%	23.0%	
ボトムアップの取組が育たないなどの種々の問題が生じている段階	14.3%	12.1%	5.4%	16.6%	21.2%	14.1%	10.0%	14.1%	15.2%	
FDを最初からやり直すべく新たな体制による創意工夫を開始した段階	7.2%	0.0%	10.8%	8.8%	9.1%	4.9%	13.3%	7.4%	6.7%	
合計	321	66	37	217	66	185	60	133	179	

注) \*\*  $p < 0.01$

以上のような診断が、FDの実績に対する評価にもそのまま表れているように思う。つまり、「大学・学部でのFDの実施に関するこれまでの実績はどのようなもの」(問 31)か尋ねてみると、国立大学が公・私立大学より、また博士設置大学が他の類型よりも、「良好」ないし「ある程度良好」と学長は回答している(表 4-8)。

表 4-8 FDの実施に関するこれまでの実績

	単純集計	設置者			*			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合			
良好	4.6%	6.2%	2.5%	4.5%	1.5%	6.3%	3.1%	4.2%	4.5%			
ある程度良好	38.6%	55.4%	30.0%	35.4%	38.5%	40.7%	29.7%	42.3%	35.4%			
どちらともいえない	34.7%	30.8%	45.0%	34.1%	33.8%	35.4%	35.9%	33.1%	37.1%			
あまり良好ではない	8.8%	7.7%	10.0%	9.0%	10.8%	9.5%	6.3%	7.0%	10.7%			
良好でない	0.6%	0.0%	0.0%	0.9%	1.5%	0.0%	1.6%	0.7%	0.6%			
実施していない	12.8%	0.0%	12.5%	16.1%	13.8%	7.9%	23.4%	12.7%	11.8%			
合計	329	65	40	223	65	189	64	142	178			

注) \*  $p < 0.05$

#### 4. ディベロップメント領域の再考

F D実施の状況把握とともに、その有効性などさまざまな問題が浮かび上がってきた。F D活動を実施しているにもかかわらず、期待した効果が表れない原因として、さまざまなものが考えられるが、活動そのものが大学構成員の一部のみによって担われ、または教員個人の問題として捉えられる狭い理解の枠組みから、抜け出さなければならないことは、繰り返し指摘されていることである。F Dは、個人・組織・社会などのさまざまなレベルを通じて、相互に補う形で改善がなされなければ、持続的に最大の効果が得られない状況にあることを認識する必要があるだろう。そこで、問 32 では、「大学・学部の教育改善を目的とした教員能力開発活動（F D活動）を推進するには」どういった「要因が重要で」（複数回答）あるか尋ねている（表 4 -9）。

【問 3 2】あなたの「大学・学部」の教育改善を目的とした教員能力開発活動（F D活動）を推進するには、次の選択肢のうちどの要因が重要でしょうか。当てはまるものを全てお選び下さい。

- |                      |                        |
|----------------------|------------------------|
| 1. 学外のF D実施組織の支援     | 2. 学長や副学長など執行部のリーダーシップ |
| 3. 各部署の長のリーダーシップ     | 4. 全学の教員一人一人の取組        |
| 5. 全学の職員一人一人の取組      | 6. 全学の学生一人一人の協力        |
| 7. 文部科学省のF Dに関する政策提言 | 8. 文部科学省のF Dに対する資金的支援  |
| 9. その他( )            |                        |

単純集計レベルで多くの学長が理由として挙げたのは、「全学の教員一人一人の取組」（88.3 %）で、次に「学長や副学長など執行部のリーダーシップ」（63.0 %）、以下「各部署の長のリーダーシップ」（50.4 %）、「全学の職員一人一人の取組」（41.1 %）がきている（表 4 -9）。

機関類型別でみると、全体的には、学長など執行部および部署長のリーダーシップや、全学の教員一人一人に期待している点は共通している。しかし、他の類型と多少異なって、執行部以上に各部署のリーダーシップに期待をよせたり（60 %台）、「全学の学生一人一人の協力」も視野に入れて考える国立大学の立場や、「全学の職員一人一人の取組み」も積極的に組み込もうとする私立のあり方は、日本の大学のアンビバレントな状況を反映しているように思うが、個々人（パーツ）ではなく集団（教授団だけでなく職員団、さらに学生集団すべて）としての大学を発達させるという、ある意味F Dの根本的な発想を再考するさい、示唆的でもある。

表4-9 FD活動を推進するための要因

1. 学外のFD実施組織の支援

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	18.7%	17.9%	29.5%	16.9%	19.1%	17.7%	16.7%	19.0%	17.6%
いいえ	81.3%	82.1%	70.5%	83.1%	80.9%	82.3%	83.3%	81.0%	82.4%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

2. 学長や副学長など執行部のリーダーシップ

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	63.0%	55.2%	65.9%	64.9%	66.2%	62.6%	63.6%	63.9%	62.0%
いいえ	37.0%	44.8%	34.1%	35.1%	33.8%	37.4%	36.4%	36.1%	38.0%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

3. 各部署の長のリーダーシップ

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	50.4%	59.7%	47.7%	48.1%	52.9%	53.5%	37.9%	38.8%	62.0%
いいえ	49.6%	40.3%	52.3%	51.9%	47.1%	46.5%	62.1%	61.2%	38.0%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

4. 全学の教員一人一人の取組

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	88.3%	88.1%	79.5%	90.0%	80.9%	89.9%	89.4%	89.1%	87.7%
いいえ	11.7%	11.9%	20.5%	10.0%	19.1%	10.1%	10.6%	10.9%	12.3%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

5. 全学の職員一人一人の取組

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	41.1%	34.3%	29.5%	45.5%	41.2%	40.9%	39.4%	43.5%	40.1%
いいえ	58.9%	65.7%	70.5%	54.5%	58.8%	59.1%	60.6%	56.5%	59.9%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

6. 全学の学生一人一人の協力

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	19.0%	25.4%	13.6%	18.2%	19.1%	20.7%	10.6%	19.7%	18.2%
いいえ	81.0%	74.6%	86.4%	81.8%	80.9%	79.3%	89.4%	80.3%	81.8%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

7. 文部科学省のFDIに関する政策提言

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	5.5%	1.5%	9.1%	6.1%	10.3%	3.0%	6.1%	5.4%	5.3%
いいえ	94.5%	98.5%	90.9%	93.9%	89.7%	97.0%	93.9%	94.6%	94.7%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

8. 文部科学省のFDIに対する資金的支援

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	23.3%	32.8%	20.5%	21.2%	30.9%	22.7%	15.2%	21.1%	25.7%
いいえ	76.7%	67.2%	79.5%	78.8%	69.1%	77.3%	84.8%	78.9%	74.3%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

その他

	単統集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	2.9%	7.5%	0.0%	2.2%	0.0%	3.5%	3.0%	4.1%	2.1%
いいえ	97.1%	92.5%	100.0%	97.8%	100.0%	96.5%	97.0%	95.9%	97.9%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

注) \* p<0.05

## 5. 教育改善の報われない大学風土

大学教育の質を高めることがFD活動導入の大きな理由であり、そして目的であることはいままでのない。研究重視の意識をもつ教員が多いことが、日本の大学風土の特質であるとしばしば指摘されるが、FDの普及につれて、こうした大学風土に風穴が開き始めているのだろうか。つまり、教育重視の報奨体系に移行しつつあるのかを、学長の認識レベルで確認してみる。

まず「優れた授業や教育改善の試みに対して大学・学部ではどのようにして」いるか(問33)と質問してみたところ、「既に、何らかのかたちで報いている」ところはわずか13.5%で、「現在のところ何も考えていない」が48.8%、「何らかのかたちで報いる方向で準備している」大学が35.9%と、合わせて実に80%以上の高い比率で、報奨制度が整えられていない実態が見いだせる(表4-10)。

表4-10 優れた授業や教育改善の試みに対して大学ではどのようにしているか

	単純集計	設置者			大学院			学部教	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
既に、何らかのかたちで報いている	13.5%	22.7%	9.5%	11.6%	14.7%	14.7%	9.4%	12.5%	14.9%
何らかのかたちで報いる方向で準備している	35.9%	48.5%	28.6%	33.8%	26.5%	42.4%	28.1%	38.9%	33.7%
現在のところ何も考えていない	48.8%	27.3%	57.1%	53.3%	57.4%	41.9%	59.4%	46.5%	49.7%
そのようなことには反対である	1.8%	1.5%	4.8%	1.3%	1.5%	1.0%	3.1%	2.1%	1.7%
合計	334	66	42	225	68	191	64	144	181

注) \*\*\* p<0.001, \*\* p<0.01, \* p<0.05

機関類型別にみても、国立大学が22.7%と約4分の1の割合で何らかの報奨があるだけで、教育志向であると考えられている私立大学で53.3%、大学院のない学士課程のみの大学で59.4%の高い割合で「現在のところ何も考えていない」と回答していることは、深刻な問題であるといえよう。

何らかの報奨制度がある大学がまだ少ないのが実状であるが、それらの大学では具体的にどのような方法を用いているのか、また効果があるのか、改善する必要がある場合何らかの対応策を講じているのか。問34から問38まで、これらの項目についてそれぞれ質問を試みている。質問の構成上、「報奨制度がある」と肯定的な回答をした大学に限定しており、サンプル数が少ないことに注意する必要があることを付け加えておく。

【問34】【問33】で「1. 既に、何らかのかたちで報いている」を選択された方に質問します。実際にどのような方法で報いておりますか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

1. 教育賞のような賞を与える
2. 昇進時に重視する
3. 給料やボーナスを上げる
4. 教育の準備や研究のための特別休暇を与える
5. 研究費や研究旅費を給付する
6. その他 ( )

問34では5つの具体的な方法を列挙したが、「教育賞のような賞を与える」が34.8%で一番採用されているが、総じて制度が浸透していないことが分かる(表4-11)。

表4-11 優れた授業や教育改善の試みに対する報い方

1. 教育賞のような賞を与える

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	34.8%	40.0%	0.0%	37.0%	10.0%	48.3%	16.7%	16.7%	46.4%
いいえ	65.2%	60.0%	100.0%	63.0%	90.0%	51.7%	83.3%	83.3%	53.6%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

2. 昇進時に重視する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	21.7%	20.0%	0.0%	25.9%	10.0%	24.1%	33.3%	33.3%	14.3%
いいえ	78.3%	80.0%	100.0%	74.1%	90.0%	75.9%	66.7%	66.7%	85.7%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

3. 給料やボーナスを上げる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	15.2%	6.7%	0.0%	22.2%	20.0%	10.3%	33.3%	16.7%	14.3%
いいえ	84.8%	93.3%	100.0%	77.8%	80.0%	89.7%	66.7%	83.3%	85.7%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

4. 教育の準備や研究のための特別休暇を与える

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	2.2%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	3.6%
いいえ	97.8%	93.3%	100.0%	100.0%	100.0%	96.6%	100.0%	100.0%	96.4%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

5. 研究費や研究旅費を給付する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	23.9%	26.7%	75.0%	14.8%	20.0%	24.1%	33.3%	27.8%	21.4%
いいえ	76.1%	73.3%	25.0%	85.2%	80.0%	75.9%	66.7%	72.2%	78.6%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	23.9%	33.3%	25.0%	18.5%	30.0%	20.7%	16.7%	22.2%	25.0%
いいえ	76.1%	66.7%	75.0%	81.5%	70.0%	79.3%	83.3%	77.8%	75.0%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

注) \*  $p < 0.05$



「大学・学部の授業や教育の改善に効果があったと思われるか」尋ねてみると（問 35）、「効果があった」「ある程度効果があった」を合わせて 70 %前後の肯定的な評価が得られたが、大学院のない大学で 57.1 %もの高い比率で「どちらともいえない」とその効果に疑問を投げかけている状況に驚かされる（表 4-12）。

表 4-12 授業や教育の改善に効果があったと思われるか

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
効果があった	21.7%	6.7%	25.0%	29.6%	40.0%	17.2%	16.7%	16.7%	25.0%
ある程度効果があった	50.0%	66.7%	50.0%	40.7%	40.0%	55.2%	33.3%	55.6%	46.4%
どちらともいえない	28.3%	26.7%	25.0%	29.6%	20.0%	27.6%	50.0%	27.8%	28.6%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

【問 36】逆に、学生による授業評価が悪いなど、教育活動の改善が必要と思われる教員に対して、あなたの「大学・学部」では何らかの対応をされていますか。最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 既に、何らかのかたちで対応している
2. 何らかのかたちで対応する方向で準備している
3. 現在のところ何も考えていない
4. そのようなことには反対である

「逆に、学生による授業評価が悪いなど、教育活動の改善が必要と思われる教員に対して、何らかの対応を」（問 36）しているかとの質問に対しては、単純集計レベルで「既に、何らかのかたちで対応している」が 21.8 %で報奨制度と同様、あまり振るわない結果に終わっている。さらに機関類型別にみて、特異であるのは国立大学で、「既に、何らかのかたちで対応している」と回答した学長は 10 %にも満たない（表 4-13）。

表 4-13 学生による授業評価が悪いなど、教育活動の改善が必要と思われる教員に対して何らかの対応をされていますか

	単純集計	設置者			大学院			学部数		*
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
既に、何らかのかたちで対応している	21.8%	9.5%	25.0%	24.9%	21.5%	21.5%	25.4%	28.3%	16.7%	
何らかのかたちで対応する方向で準備している	38.3%	44.4%	27.5%	38.7%	35.4%	38.7%	37.3%	37.0%	39.1%	
現在のところ何も考えていない	39.6%	46.0%	47.5%	35.9%	43.1%	39.8%	35.6%	34.1%	44.3%	
そのようなことには反対である	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	1.7%	0.7%	0.0%	
合計	321	63	40	217	65	186	59	138	174	

注) \*  $p < 0.05$

表 4-14から、「このような対応が授業や教育の改善に効果があった」との肯定的な回答はそれなりに得られているものの、「口答で直接注意する」という方法が、比較的採用さ

れていることを除けば、「FD活動への参加を促す」わけでも「授業改善計画を提出させる」わけでもなく、まして「昇進時に考慮する」とか「給料やボーナスに影響させる」といった制裁的な手段を心理的に用いにくいのであろうか（表4-15）。

表4-14 このような対応が授業や教育の改善に効果があったか

	単純集計	設置者			大学院			学部数		*
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
効果があった	13.2%	16.7%	0.0%	15.4%	26.7%	10.0%	8.3%	2.7%	26.7%	
ある程度効果があった	63.2%	50.0%	80.0%	61.5%	46.7%	62.5%	83.3%	73.0%	50.0%	
どちらともいえない	23.5%	33.3%	20.0%	23.1%	26.7%	27.5%	8.3%	24.3%	23.3%	
合計	68	6	10	52	15	40	12	37	30	

注) \* p<0.05

表4-15 学生による授業評価が悪いなど、教育活動の改善が必要と思われる教員に対する制裁の手段

1. 文章で注意する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	18.6%	33.3%	20.0%	16.7%	20.0%	17.5%	21.4%	15.8%	16.7%
いいえ	81.4%	66.7%	80.0%	83.3%	80.0%	82.5%	78.6%	84.2%	83.3%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

2. 口答で直接注意する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	71.4%	33.3%	70.0%	75.9%	80.0%	67.5%	71.4%	73.7%	70.0%
いいえ	28.6%	66.7%	30.0%	24.1%	20.0%	32.5%	28.6%	26.3%	30.0%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

3. リストを学内・学部内に公表する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	11.4%	16.7%	0.0%	13.0%	13.3%	12.5%	7.1%	5.3%	20.0%
いいえ	88.6%	83.3%	100.0%	87.0%	86.7%	87.5%	92.9%	94.7%	80.0%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

4. FD活動への参加を促す

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	14.3%	16.7%	10.0%	14.8%	20.0%	12.5%	7.1%	13.2%	13.3%
いいえ	85.7%	83.3%	90.0%	85.2%	80.0%	87.5%	92.9%	86.8%	86.7%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

5. 授業改善計画を提出させる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	14.3%	16.7%	10.0%	14.8%	6.7%	15.0%	21.4%	13.2%	16.7%
いいえ	85.7%	83.3%	90.0%	85.2%	93.3%	85.0%	78.6%	86.8%	83.3%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

6. 昇進時に考慮する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	14.3%	16.7%	0.0%	16.7%	20.0%	10.0%	14.3%	21.1%	6.7%
いいえ	85.7%	83.3%	100.0%	83.3%	80.0%	90.0%	85.7%	78.9%	93.3%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

7. 給料やボーナスに影響させる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	8.6%	0.0%	0.0%	11.1%	20.0%	5.0%	7.1%	7.9%	10.0%
いいえ	91.4%	100.0%	100.0%	88.9%	80.0%	95.0%	92.9%	92.1%	90.0%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

8. 研究費や研究旅費の査定に影響させる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	4.3%	16.7%	0.0%	3.7%	0.0%	2.5%	7.1%	5.3%	3.3%
いいえ	95.7%	83.3%	100.0%	96.3%	100.0%	97.5%	92.9%	94.7%	96.7%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

9. その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	8.6%	0.0%	10.0%	9.3%	20.0%	5.0%	7.1%	7.9%	10.0%
いいえ	91.4%	100.0%	90.0%	90.7%	80.0%	95.0%	92.9%	92.1%	90.0%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

注) \*\* p<0.01

以上の分析で明らかになったことは、国立大学の教員に対する処遇（とくに処罰）の難しさが如実に表れたということであろう。しかし、2004年国立大学が法人化されれば、何らかの影響を受けることから、この部分については予断を許さないところである。

## 6. 教員の昇進審査基準と時系列的変化

さらに、問 39 で「教員の昇進審査に際して、以下に示した各活動は、それぞれどの程度重視することを望ましい」か、問 40 で「教員の昇進審査に際して、以下に示した各活動は、現実にどの程度重視されているか尋ね、教員の4つの活動領域の昇進審査基準における重要度を測っている。

表4-16-1は、教員の昇進審査に際して、以下に示した各活動は、それぞれどの程度重視することを望ましいことだと思ふかについて明らかにするために、「重視がするのが望ましい」を1、「ある程度重視がするのが望ましい」を2、「どちらとも言えない」を3、「あまり重視しないのが望ましい」を4、「重視しないのが望ましい」を5、として各事項の平均値を計算し、平均値の低い順（重要性の高い順）に項目を並べたものである。

教員の昇進審査に際して、学長が重要であるとした項目を順に示せば、「教育活動」「研究活動」「学内の管理・運営活動」「社会サービス活動」である。

この順位は、1989年調査においては、「研究活動」「教育活動」「学内の管理・運営活動」「社会サービス活動」となっており、「研究活動」と「教育活動」の順位が逆になっている。

【問39】あなたの「大学・学部」では、教員の昇進審査に際して、以下に示した各活動は、それぞれどの程度重視することを望ましいことだと思われますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものをしつづつお選び下さい。

	重視する のが望ましい ↓	ある程度 重視する のが望ましい ↓	どちらとも 言えない ↓	あまり 重視しない のが望ましい ↓	重視しない のが望ましい ↓
①研究活動	1	2	3	4	5
②教育活動	1	2	3	4	5
③学内の管理・運営活動	1	2	3	4	5
④社会サービス活動	1	2	3	4	5
⑤その他 ( )	1	2	3	4	5

表4-16-1 教員の昇進審査に際して各活動はどの程度重視することが望ましいと思うか

	重視するの が望ましい	ある程度重 視するの が望ましい	どちらとも 言えない	あまり重視 しないの が望ましい	重視しない のが望まし い	合計 =>	2003年		1989年	
	1	2	3	4	5		平均 値	標準 偏差	平均 値	標準 偏差
①研究活動	210 62.3%	121 35.9%	6 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	337 100.0%	1.4	0.53	1.3	0.62
②教育活動	259 76.9%	74 22.0%	4 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	337 100.0%	1.2	0.46	2.0	1.24
③学内の管理・運営活動	68 20.4%	208 62.3%	51 15.3%	5 1.5%	2 0.6%	334 100.0%	2.0	0.69	2.5	1.09
④社会サービス活動	52 15.7%	197 59.5%	76 23.0%	6 1.8%	0 0.0%	331 100.0%	2.1	0.67	2.7	1.16

教員の昇進審査に際して、以下に示した各活動は、現実それぞれどの程度重視されていると思うかについて以下の通り質問した。結果は表1-17である。

表1-17は、「重視されている」を1、「ある程度重視されている」を2、「どちらとも言えない」を3、「あまり重視されていない」を4、「重視されていない」を5、として各事項の平均値を計算し、平均値の低い順（重要性の高い順）に項目を並べたものである。

教員の昇進審査に際して、学長が重要であるとした項目を順に示せば、「研究活動」「教育活動」「学内の管理・運営活動」「社会サービス活動」である。

この順位は、1989年調査と同じであった。

なお、問39で示した結果と比較してみると、教員の昇進審査に際して、学長の意識は、「教育活動」を「研究活動」よりも重視したいというふうに変化しているにも関わらず、

らず、実際には、相変わらず、「研究活動」が「教育活動」よりも重視されているようである。

【問40】あなたの「大学・学部」では、教員の昇進審査に際して、以下に示した各活動は、現実にどの程度重視されていますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものをしつづつお選び下さい。

	重視されて いる	ある程度 重視されて いる	どちらとも 言えない いない	あまり 重視されて いない	重視されて いない
	↓	↓	↓	↓	↓
①研究活動	1	2	3	4	5
②教育活動	1	2	3	4	5
③学内の管理・運営活動	1	2	3	4	5
④社会サービス活動	1	2	3	4	5
⑤その他（ ）	1	2	3	4	5

表4-17 教員の昇進審査に際して各活動は現実にどの程度重視されていますか

	重視されて いる	ある程度重 視されてい る	どちらとも 言えない	あまり重視 されていな い	重視されて いない	合計 =>	2003年		1989年	
	1	2	3	4	5		平均 値	標準 偏差	平均 値	標準 偏差
①研究活動	241 72.8%	77 23.3%	8 2.4%	2 0.6%	3 0.9%	331 100.0%	1.3	0.65	1.4	0.76
②教育活動	103 31.1%	153 46.2%	41 12.4%	24 7.3%	10 3.0%	331 100.0%	2.1	1.00	2.4	1.12
③学内の管理・運営活動	28 8.5%	142 43.0%	93 28.2%	40 12.1%	27 8.2%	330 100.0%	2.7	1.06	2.7	1.14
④社会サービス活動	15 4.6%	105 32.2%	130 39.9%	50 15.3%	26 8.0%	326 100.0%	2.9	0.99	3.1	1.23

全体的にみると、「昇進の審査に際して、重視するのがよいと思われる活動」として、かつては研究活動が優先されていたが、14年経って、あくまで建て前（意識）として、研究活動と併せ、教育活動の重視度が極めて高まってきたことが分かる。一方で、現実には「昇進の審査に際して、現実に重視されている活動」はやはり研究活動なのであり、若干改善されているとはいえ、まだまだ教育活動を積極的に評価する方向に向っていないことが分かる。

図 4 - 1 教員の昇進審査における「教育」「研究」活動の重要性（国立）

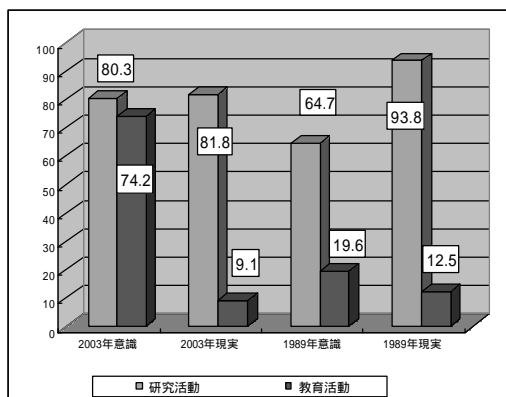


図 4 - 2 教員の昇進審査における「教育」「研究」活動の重要性（公立）

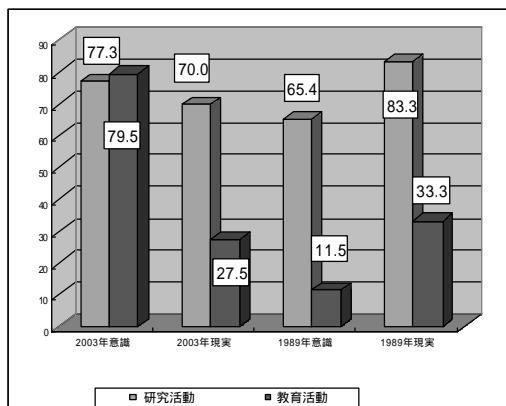
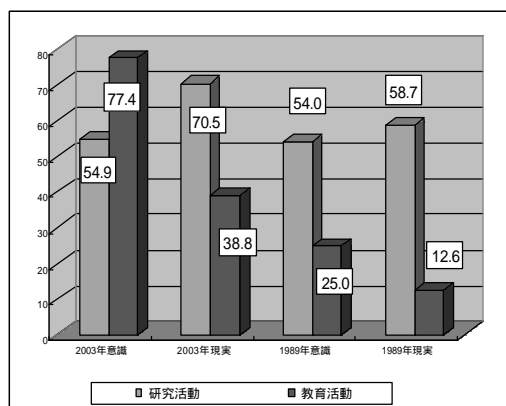


図 4 - 3 教員の昇進審査における「教育」「研究」活動の重要性（私立）



さらに機関類型別にみると、興味深い傾向が表れている（図4-1、図4-2、図4-3）。大学教員の4つの活動領域の中で、とくに重要な位置をしめる「研究活動」と「教育活動」について、「重視するのが望ましい」（理想）および「重視されている」（現実）<sup>(1)</sup>を選択した割合を1989年調査と比較して、審査基準におけるこの2つの活動の葛藤状況に、何らかの変化が表れているかみた。審査基準における研究活動の扱いに対する理想と現実とのギャップは、1989年調査と比べ若干縮まったか、平衡を保っている状態であるが、教育活動については、そのギャップが拡大していることが一目瞭然である。1989年調査では、理想と現実との間に10～20%程度しかなかったのが、今回の調査で公立・私立大学が40%前後、国立大学の場合、実に70%と大幅に拡大しており、昇進基準として教育活動を重視しようとする意識は高まっているのだが、制度が追いついていかない実態が明らかになった。

## 7. 教育改善のための方策

大学教育を活性化するための課題や方策を以下の通り質問した。

主要な内容の項目を挙げると、以下のようになるが、改めて教員の教授法改善といった狭義のFDに収まらない、カリキュラム開発や組織開発など広範囲な領域を活性化する必要を感じていることが分かる。詳細については、巻末の資料6をご参照いただきたい。

【問42】大学教育を活性化するための課題や方策についてご提案がございましたらご記入下さい。

【教員の意識改革】【教員の授業改善】【一般的な方策なし】【新たなFD等の構築】  
【教員採用・昇任における教育業績の重視】【教員の数を増やす】【基礎教育・教養教育重視】  
【評価】【卒業時の質の保証の提示】【施設・設備等の充実】【地域重視】【カリキュラム改革】  
【既存の規制の撤廃、除去】【開かれた大学】【文部科学省主導型からの脱却】  
【大学の社会的評価の把握】【高大連携】【学外との交流】【学長のリーダーシップ】【奨学金制度の充実】  
【学内コミュニケーションの活性化】【大学の明確な理念】【任期制の導入とリストラ】【研究交流】  
【研究活動の活発化】

## まとめにかえて

3章の分析から得られた知見を簡単に整理しよう。

F D活動さらに教育の質的改善に対する教員の意識は、全体的に高まっているようにみえるが、ボトムアップ型のF D育成の難しさ、無関心な教員層の存在、教育活動を正当に評価ないし報奨する制度(風土)が不十分であることなど、解決すべき問題が山積みである。約10年の時間を要して、F D活動が日本の大学全体に広く定着するにはしたが、「初期的段階」か「安定した段階」に留まっていると学長は診断する。

こうした現状を打開するために、全国規模のF D推進組織や活動協力・情報提供に対する期待と、また類型別の違いはあるが、学生や職員も含め大学関係者の積極的な関与を求めたいと考えている。

こうした学長の認識にもとづき、教育活動の改善を含め、大学運営を効率的かつ効果的に推し進めるために、あらためて学長が果たすべき役割を見直す必要がある。天野郁夫氏が多数の学長とのインタビューをもとに指摘しているように、「曖昧でとらえどころのない日本の学長の仕事を、めりはりのきいた活力あふれるもの」<sup>(2)</sup>にするために、つまりリーダーシップを発揮することが容易であるような環境作りが必要である。

さらにいえば、大学教育改善に関する大テーマを、各大学がおかれた文脈に適合するように組み立てなす過程(「画一化」ではなく「個性化」)が重要になると思われるが、学長自身も含めて教職員のもっている資質なり現実感覚(“センス”といってもいい)が重要になる。そのための共同作業の場が確保されなければならない。そして最後に、F D活動への参加により、実際に、構成員がどれくらい活性化され、どの程度効果的であったか、さまざまな観点で評価する「指標(インディケータ)」を開発し、効果を測定し、さらにフィードバックする仕組みの構築が求められる。教育重視の評価も含め、そうした大学文化の創造がますます必須となろう。

### 【註】

(1) 1989年調査のアンケート票では、選択肢の語句が「きわめて重視する」(理想)および「きわめて重視されている」(現実)となって、2003年調査のそれと若干異なっている。

(2) 天野郁夫『学長 大学改革への挑戦』2000年、249-265頁。



## 終章 全体のまとめと今後の課題

## 終章 全体のまとめと今後の課題

有本 章・大膳 司

最後に、以上の研究結果を5つの視点からまとめ、それを踏まえて、大学教育の一層の質的向上を実現するために、本調査研究が今後果たすべき課題について若干考察しておきたい。

### 1. 研究成果のまとめ

#### 1) 大学の教育目的

各大学の学士課程レベルの教育目的では、一般的な教育目的の内容を重視する一般性の側面は基本的には関連があると認識されている。また、専門的な内容や特殊な内容を重視する専門性の側面は、その中に純粋な学問的視点よりも社会的視点を入れるという条件のもとでは関連があるとの回答が得られた。すなわち、学士課程の教育目的としては、「一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる」、「幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる」、「専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる」などが重視され、「学問の専門家(例、研究者)としての必要な知識・資質を身につけさせる」はそれほど重視されていないことが判明した。は教養教育との関係が大きく、は専門学部との関係が大きいのに対して、はむしろ大学院との関係が深い側面である。このような一般的な区別と学長の学士課程教育目的観とは関係が見られると言える結果である。

なお、これらの教育目的認識は機関属性によって異なっている。国・公立の博士課程を設置している大学においては、それ以外の大学形態に比べて、の視点を教育目的の中に取り入れる傾向があった。このことは、大学院の重点化が進行している現在、学問の専門家としての研究者養成への比重を重視する傾向がそこに存在するのは当然予想されるところであり、その観点から学士課程教育を見る傾向があるものと推察される。

#### 2) 学士課程教育の状況と改善意識

それでは、そのように目的が認識された学士課程教育はうまくいっているのかどうかを質問してみたところ、約1割強の大学でのみ「うまくいっている」という回答が得られた。大半は「ある程度うまくいっている」から、完全に悪い状態になるとの認識になっているとは言えないが、それでも何らかの改善が必要であるという認識が学長の回答には反映さ

れていると解される。

そこで、学士課程教育の達成レベルを高めるためにどのような施策が重要であるか尋ねたところ、上位に指摘された項目は、「教員が授業の準備を周到に行う」「教員が授業内容を工夫する」「教員が学生の質問や意見に関心を持つ」「教員が効果的な講義方法を工夫する（例、ポートフォリオ等）」といった教員自身の教育活動に対する行動や意識の改善に関するものによって占められていることが分かった。関連した調査項目の分析を考慮すると、日本の大学長は、大学教育を改善していくことが極めて必要であると考えており、その改善方策としては「教員の資質開発（FD）」を中心として、「学生による授業評価」、「シラバスの提示」、「自己点検・評価」等を意識していると分析できる。概して、教育改善活動を中心とした「狭義のFD」への強い関心が払われていることが浮き彫りにされるのである。

### 3) FD活動の状況

FDとは何かを明確に定義した組織レベルの方針等があるか尋ねたところ、「大学としての方針がある」と回答した学長は僅かに3割弱に留まった。FDの制度化は遅れている様子が窺える数字である。何を遂行するかの方針が曖昧である限り、理念、目的、目標の連関性も樹立できないことになるのは当然の成り行きであり、方向性を喪失してしまうのは自明であると危惧される。

続いて、FDの内容領域について質問したところ、ほとんどの大学で「教育活動」を領域としおり、「研究活動」を領域としているのは大学院を持たない私立大学であるというやや不思議な結果が得られた。大学院を持たない私立は教育活動志向であると常識的には想定できることからすれば、この回答はやや意外である。従来、研究志向の強い国立（あるいは公立）大学が10年間に教育志向あるいは少なくとも「研究と教育の両立型」へと変化してきている時に、研究志向を追求しているのは、「アメリカ型FD」への同調よりも従来型の「日本型FD」への固執が見られる現象として捉えられるかもしれない。教育志向が不可欠なはずの大学院を持たない「教養教育型大学」での反応としては「文化遅滞」の現象を形成していると解釈できるかもしれない。

そのような問題はあるが、FD活動は現在では大概の大学において実施されているとしており、その中で取り上げられているテーマは、講義方法や学生指導の方法など学生教育の場面に關わる項目となっている。「学生による授業評価」、「シラバスの提示」、「自己点検・評価」等も、90%前後の大学で実施されている。学長は、比較的熱心に教育改善施策が実施されていると指摘していることが理解できる。

### 4) FD活動の成果

しかしながら、FD活動によって教員の教育能力・資質が実際に高まっているかと言え

ば、必ずしもそうではなく、その比率は9.2%と低率を示しており、教員の使命・役割・資質に関して真剣に考える風土や雰囲気醸成されたとする比率も僅かに6.9%に過ぎない。この数字には、学長はFD活動による改善の効果が殆ど出ていないと判断していることが読みとれるのである。期待と現実の落差が極めて大きいことに驚かされざるを得ない。

### 5) FD活動の問題点と推進課題

実際、FDの実施に関するこれまでの実績を良好であると認識している学長は4.6%しかいない。例えば、「FD活動の理念や概念が組織全体の教員に十分認識されていない」

「FD活動が概してトップダウンになって、ボトムアップの取組がなかなか育たない悩みがある」、「FD活動の概念や内容に関する専門家が学内にいない」などの問題点が縷々指摘されている。このうち、については、上で見たように、大学にFDの理念をしっかりと確立していない状態がある以上、組織全体の教員が十分認識できないのは無理からぬことであると解釈してさしつかえあるまい。まず、理念や目的を確立することが先決であるに違いない。については、トップ・ダウンが強い従来の傾向の中で、ボトム・アップを育てることが両立しないことを示唆している。トップとボトムの双方向のベクトルを強化する以外に方法はないであろう。については、大学教育研究センターなどのFD関連装置を設置する大学はまだ少数である事実の裏返しであろう。この回答結果は、個々の機関に自己研究装置を設置し、専門家を配備することは必要な段階に来ており、さらに全国レベルの組織的ネットワークの形成が急がれる段階に来ていることを暗示している。

それでは、FD活動を推進するためには何が大切なのであろうか。この質問をしたところ、「学長や副学長など執行部のリーダーシップ」や「全学の教員一人一人の取組」が強く指摘されているのである。この回答はトップ・ダウンとボトム・アップの両方のベクトルへ言及している点で、各論的であるよりも総論的であると言えるだろう。従来のFDの動向は、どちらかと言えば後者よりも前者の主導で行われてきたのであり、FDの制度化が比較的進行している大学では、学長や副学長など執行部のリーダーシップが強い傾向が窺われる。現在、FDがある程度発展して、伸び悩みに直面しているのは、後者の教員一人一人の取組が執行部の期待ほど行われなことが原因になっている場合が少なくないと推察される。したがって、二つのベクトルが合流して、統合されれば、FDの制度化の進捗状態は改善されると見込まれるが、当面は前者よりも後者への期待が大きいと解されるに違いない。

実際に「全学の教員一人一人の取組」を促進するためには、どのような方策が必要になるのであろうか。一概には言えないけれども、「にんじんと鞭」が必要ではないだろうか。優れた授業や教育改善の取り組みに対して何らかの形で報いるとか、逆に、教育改善が必要と思われる教員に対して何らかの対応を行うなどである。実は、それらの行為や制度が日本の大学に欠けている。その理由は、研究志向が制度的にも組織的にも強い中で、研究

を奨励したり評価したりする報賞制度が発達した半面、教育志向を促進するための制度的かつ組織的な力学が十分に作用せず、その観点からの報賞制度の発達が立ち遅れた点に見出されるはずである。その意味で、FDの制度化には、評価の問題と同時に報賞体系の問題が重要な位置を占めていることを指摘せざるを得ない。

## 2. 今後の課題

この度、日本における教育改善活動を中心とした教育活動の実態調査を、学長・学部長・教員を対象として、アンケート調査手法によって行った。その中で本報告は、学長調査の結果の分析に焦点を合わせたものである。

調査項目が必ずしも適切ではなかったことを含めアンケート調査自体にも課題は残されていると思われるので、それに関しては各調査を総合して改めて検討する必要があるが、FDの制度化の実態を踏まえて、大学教育活動の質的保証を実現するための仕組み作りを考える場合に、どのような課題があるかを検討することも重要である。その角度から以下に7点ほど指摘してみたい。

第1に、この度は学長の意識調査を主体に分析したが、その他の学部長や教員のデータ分析を逐次行い、3者の類似点と相違点を整理し、教育改善に向けての総合的な取組を明確にすることが要請される。おそらく大学機関内では3者の意識には合意された部分と葛藤状況にある部分が混合して存在しているに違いないから、そうした意識の構造を解明することによって、日本の大学の問題点と課題が鮮明になるものと考えられる。

第2に、その種の比較検討に入る前に、現段階では学長の意識構造の特徴を基本的に理解しておくことが欠かせない。本報告で整理した点を踏まえると、いくつかの特徴が指摘できるはずである。学長の回答は個人的な見解を基礎に成り立っているから、個々の学長の個性が発揮されていることが十分予想される。しかし本調査研究では、巻末に付録としてつけた自由記述にその種の特徴が具現しているとしても、全体には集団としての学長の見解を分析しているのだから、セクター（設置者）、大学院の区分、学部数などの属性による比較が主体となっている。その点で、各属性による類似点や相違点が個々の質問毎に理解できたと言える。

例えば、セクター間の相違を例として取り上げてみると、全体に国立大学におけるFDの制度化はかなり均質的であり、特に先行したり立ち遅れたりする機関が少ないことが分かるのに対して、私立・公立では比較的先進的な段階に到達している大学といまだに立ち遅れた段階に停滞したままの大学との広がり大きい事実が把握できる。研究志向の国立が概して教育志向への切り替えを積極的に行っている現状であるのに対して、他のセクタ

一では案外、研究志向へ執着して意識の転換が立ち遅れている現状があると察知される。また、FDが必要と考える学長はセクター間に大差はなく概して大きな割合を示し、教育改善の必要性を肯定する度合いも大きい点で大同小異であるのに対して、その実際の実現度では私立や公立セクターにおいて期待との落差が大きい機関がより多く見られるのは、FDの制度化の内容にセクター間の粗密があることの表れと解される。

こうしたセクター間の相違に関しては、さらに学部長、教員調査によって同様の結果が出るのか、あるいはかなり異なった結果が出るのか、比較検討する必要がある。

第3に、セクターをはじめ、属性間の比較が重要であると同時に、日本の大学システムにおけるFDの制度化が全体にいかなる状態にあるかを明確にして、それと他のシステムとの比較を行うことが欠かせない。今回の学長調査では、制度化の段階は、「フロッピーディスク段階」、「委員会・研修会段階」、「安定状態段階」、「種々の問題出現段階」、「新たな創意工夫段階」という5段階に位置づければ、は少なく、が最頻値を占め、中には多少だがに展開している機関もある、といった状態にあることが分かった。が最頻値を占める事実は、全体にFDは初期の第1段階にあることを物語っているとみなしてさしつかえあるまい。徐々にが増加し始めている事実は、FDの第2段階へ移行する機関が登場してきていることを示しているのである。

このことは、教育に特化した「狭義のFD」への同調を模索する段階にとどまり、研究やサービスなどを意識し、学識の再考や評価を問うような「広義のFD」を考慮するまでに深化しているとは言えないから、これをFD先進国のアメリカに比較すると彼我の差が少なくないことが歴然としていることにほかならない。アメリカに限らず、諸外国との比較は、日本の状況を客観的に把握して、所期の目的である教育改善の課題を明確にし、教育の質的保証を追求する場合には不可欠な課題である。

第4に、アンケート調査の対象からはずれた大学評価・学位授与機構や大学基準協会のような国レベルや大学以外の組織レベルでの教育改善活動の情報収集に努めることが肝要である。質問紙調査では困難な問題の解明には、面接調査、参与観察、事例研究などの手法が必要であろう。対象となった大学機関や大学教員に対してインタビュー調査などによって詳細なデータを収集することも必要である。これらは、本調査の分析がある程度進み、質問紙調査の長所や短所が明らかになった時点において、実施することが期待される。

第5に、授業や教育の主要構成要素はカリキュラム、教員、学生、それに事務職員を加えるとすれば、本調査では対象となっていないカリキュラム、学生、事務職員などを対象とした調査・研究を進めていくことが肝要である。事務職員を対象としたSD活動に関しては、本調査とは別に実施しているので、その分析結果との照合はある程度可能である。その他のカリキュラム、学生に関しては、21世紀COEプログラムの研究計画に含めて構想しているので、早晚実施することになる見込みである。これらの主要構成要素の検討を通して、授業や教育の改善と質的保証の具体的な展開が推進されるはずである。

第6に、第3と関連するが、FDのみならず、広く研究、教育、サービス、管理運営などの問題を対象にして外国の大学や教員との比較研究を行うことが必要である。特に、FDを中心に教育改善に熱心な取組がみられる米国との比較研究、日本と同じアジアの中国、韓国、タイなどとの比較研究は、日本の大学教員の国際的位置づけ、あるいは日本の大学教育改善を進める上で重要な知見を得ることができよう。本プロジェクトでは、目下、具体的な計画を検討中である。

第7に、この度の調査でも1989年実施の質問紙調査と2003年実施の質問紙調査の比較によって、長期間のスパンを考慮した研究の重要性が明らかになったとおり、システムの教育改善活動の有効性を探るためには、数年間隔の継続調査が必要であろう。改革や改善のその場限りのやりっぱなしではなく、絶えず点検・評価し、中期・長期的なグランド・デザイン構想との関連性の中でシステム、機関、組織、集団の各層における有効な改善手法の構築に努めなければならない。FDの制度化に限れば、広義のFDを担保しながら、狭義のFDに集中的に取り組むことは、このような中期・長期のスパンを考慮した戦略の中で可能になると考えられる。

以上、現状を踏まえ本調査研究の今後の課題を考察したが、最後に、活動レベルの課題として一言述べるとすれば、次の点が重要である。調査結果の分析によって実証的に明らかになったように、教員自身には、教育活動を改善する意識や行動がかなり高まっている事実がある。それにもかかわらず、本調査結果からは、それを一層持続させ、大学全体の教育改善に十分活かすために必要な、教員の資質改善を行う仕組みや活動がいまだ未発達の状態に留まっていることが明らかになったとすることができる。今後は、それらの課題を克服するために各大学が創意・工夫するとともに、米国におけるPOD Network (Professional and Organizational Development Network in Higher Education, URLは、<http://www.podnetwork.org/>) のように、各大学毎の個別の活動を全国的に交流させるためのネットワーク作りが必要なのではないかと考えられる。それは、上述したように、FDの第1段階から第2段階への離陸にほかならない。

## 資 料

- 1 . 資料 1 アンケート調査票
- 2 . 資料 2 データ集計結果
- 3 . 資料 3 自由記述 (【問 5】)
- 4 . 資料 4 自由記述 (【問 9】)
- 5 . 資料 5 自由記述 (【問 1 9】)
- 6 . 資料 6 自由記述 (【問 4 2】)

資料 2 のクロス表の検定結果を下記の通り示した。

\*  $p < 0.05$ , \*\*  $p < 0.01$ , \*\*\*  $p < 0.001$

資料 3 ~ 資料 6 における各回答には回答者の属性を ( ) 内に示した。属性は、左から、【設置者】、【大学院の有無】、【学部数】である。



## 資料1 アンケート調査票

### 大学における教育活動の改善に関するアンケート調査

#### - ご協力のお願い -

本アンケート調査は、わが国の国公私立大学における教育の改善活動に対する意識や現状を明らかにし、日本の大学教育の活性化に向けての課題や今後の方策を検討することを目的としたものです。

本調査は、文部科学省科学研究費の支援を受けて全国大学教育研究センター等協議会の協力を得て実施している「大学におけるFD・SD（教員職員資質開発）の制度化と質的保証に関する総合的研究」（代表者 有本章）と21世紀COEプログラム「21世紀型高等教育システム構築と質的保証」（拠点リーダー 有本章）の一環として実施しております。ご多忙とは存じますが、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

調査の結果につきましては、本センターの研究刊行物を通して公表し、日本の大学教育の改善に資したいと考えています。なお、結果の公表によって皆様にご迷惑をおかけすることのないよう、細心の注意を払う所存です。どうか率直なご意見をお寄せ下さいますよう、よろしくようお願い申し上げます。

研究代表者 広島大学高等教育研究開発センター長 有本章

#### ご記入上の注意

1. 本アンケートでは、あなたの大学・学部の学士課程における教育活動及び教員資質開発活動（FD活動）に関して質問します。
2. 学長は大学全体の学士課程教育、学部長は学部の学士課程教育（以下では、あなたの「大学・学部」やあなたの「大学・学部の教育」と呼びます）を想定してお答え下さい。
3. 各問の各項目について、該当する番号を  で囲んで下さい。回答の「その他」には、用意した選択肢に該当するものがない場合に、あなたのご意見や必要事項を、  
(  ) または \_\_\_\_\_ の部分にご記入下さい。
4. 本アンケートに関する質問等がございましたら、以下までお問い合わせ下さい。  
大膳 司 (0824-24-6709 / tdaizen@hiroshima-u.ac.jp)  
小方 直幸 (0824-24-6237 / nogata@hiroshima-u.ac.jp)  
渡辺 達雄 (0824-24-6241 / tatsuode@hiroshima-u.ac.jp)
5. 回答がお済みになりましたら、同封の返信用封筒に入れて、7月14日(月)までにご投函下さい。

同様のアンケート調査を、貴校の教員にも実施しております。この度のアンケートの目的上、それらの回答を対応させて分析する必要があります。趣旨をご理解いただき、以下の下線部分に、学長は大学名を、学部長は大学名と学部・学群名をご記入いただければ幸いです。アンケート情報が漏れ出ることがないように細心の注意を払いますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。

大学 \_\_\_\_\_

学部・学群 \_\_\_\_\_

最初に、～)までは、あなたご自身のことについてお伺いします。次の各項目について、該当する番号を で囲んで下さい。また、( )内にご記入下さい。

- ・あなたの性 1. 男 2. 女
- ・あなたの年齢 1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代  
6. 70代 7. 80代以上
- ・貴大学の設置形態 1. 国立 2. 公立 3. 私立
- ・貴大学の設置学部数 ( ) 学部
- ・貴大学・学部の学生定員数 ( ) 人  
(学長は大学の、学部長は学部の学生定員数を回答してください)
- ・貴所属大学・学部の設置年 1. 戦前 2. 戦後 ( 19 ) 年  
(学長は大学の、学部長は学部の設置年を回答してください)
- ・貴大学・学部の専門分野(当てはまるものを全て選択して下さい) 1. 人文科学系 2. 社会科学系 3. 理学系 4. 工学系  
5. 農学系 6. 医歯薬学系 7. 家政系 8. 教員養成系  
9. 総合科学系 10. 教養教育系 11. その他 ( )  
(学長は大学全学部の、学部長は学部の専門分野を回答してください)
- ・あなたの専門分野 1. 人文科学系 2. 社会科学系 3. 理学系 4. 工学系  
5. 農学系 6. 医歯薬学系 7. 家政系 8. 教員養成系  
9. 総合科学系 10. 教養教育系 11. その他 ( )
- ・貴大学・学部の 1. 修士課程まで 2. 博士課程まで 3. なし  
大学院の有無(学長は大学について、学部長は学部について回答してください)
- ・あなたの現職名 1. 理事長 2. 学長 3. 副学長 4. 研究科長 5. 学部長  
(当てはまるものを全て選択して下さい) 6. 学科学長 7. 教授 8. 助教授 9. 講師  
10. その他 ( )
- ・あなたがこれまで 1. 入試系委員 2. 教務系委員 3. 就職系委員  
に所属大学で経験した 4. 教養教育系委員 5. 自己評価系委員 6. その他( )  
全学レベルの委員(当てはまるものを全て選択して下さい)
- ・現在所属している 1. 5年以下 2. 6~10年 3. 11~20年 4. 21~30年  
大学での通算勤務年数 5. 31年以上
- ・あなたは外国で授業を受けた経験がありますか。もし「1. 有る」なら、どこの国ですか。  
1. 有る どの国ですか。 1. 米国 2. 英国 3. ドイツ 4. フランス 5. 中国  
2. 無い 6. その他 ( )
- ・現在、あなたは次の段階の授業を担当されていますか。(当てはまるものを全て選択して下さい)  
1. 学士課程の共通・教養教育(専門基礎は除く) 2. 学士課程の専門教育(専門基礎を含む)  
3. 大学院修士課程 4. 大学院博士課程 5. いずれの課程も担当していない

【問1】から【問11】までは、あなたの「大学・学部の教育」(学士課程レベル)について質問します。学長は大学全体の学士課程教育、学部長は学部の学士課程教育を想定してご回答下さい。

【問1】あなたの「大学・学部の教育」の目的は、以下の ~ の各事項とどの程度関連していると思われませんか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

	関連がある	ある程度 関連がある	どちらとも 言えない	あまり 関連がない	関連がない
一般社会人として必要な知識・ 資質を身につけさせる	1	2	3	4	5
幅広い学問的興味・関心・知識 を身につけさせる	1	2	3	4	5

次頁に続く ==>

	関連がある	ある程度 関連がある	どちらとも 言えない	あまり 関連がない	関連がない
専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる	1	2	3	4	5
学問の専門家(例:研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる	1	2	3	4	5

【問2】あなたの「大学・学部の教育」を全般的にどのように評価されますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. うまくいっている      2. ある程度うまくいっている      3. どちらともいえない  
 3. あまりうまくいっていない      4. うまくいっていない

【問3】どのような評価結果に基づいて、上の【問2】のような回答をされましたか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

	重視した	ある程度 重視した	どちらとも 言えない	あまり 重視しな かった	重視しな かった	実施 してい ない
1. 在学生による評価	1	2	3	4	5	6
2. 卒業生による評価	1	2	3	4	5	6
3. 学生の就職状況	1	2	3	4	5	6
4. 学生の大学院進学状況	1	2	3	4	5	6
5. 留学生による評価	1	2	3	4	5	6
6. 受験産業・マスコミの評価 (偏差値等)	1	2	3	4	5	6
7. 卒業生に対する企業の評価	1	2	3	4	5	6
8. 教育の自己点検結果	1	2	3	4	5	6
9. 外部評価・第三者評価 による評価結果	1	2	3	4	5	6
10. その他 ( )	1	2	3	4	5	6

【問4】あなたの「大学・学部の教育」の達成レベルを高めるためには、それぞれの事項はどの程度重要であると思われますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

	重要である	ある程度 重要である	どちらとも いえない	あまり 重要でない	重要でない
教育組織の教育目的・ 目標を見直す	1	2	3	4	5
教育組織のカリキュラムを 見直す	1	2	3	4	5
学生が豊富な知識を持っている	1	2	3	4	5
学生が熱心に学習する	1	2	3	4	5
教員の授業改善を組織的に支援する (例:学生による授業評価やFD活動等)	1	2	3	4	5
教員が学生の成長発達に関心を持つ	1	2	3	4	5
教員が学生の質問や意見に 関心を持つ	1	2	3	4	5
教員が学生をほめるよう努力する	1	2	3	4	5
教員が学生の授業参加を促す	1	2	3	4	5

次頁に続く ==>

	重要である	ある程度重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない
教員が優れた研究力を持っている	1	2	3	4	5
教員が豊富な知識を持っている	1	2	3	4	5
教員が授業の準備を周到に行う	1	2	3	4	5
教員が授業内容を工夫する	1	2	3	4	5
教員が効果的な講義方法を工夫する (例：ポートフォリオ等)	1	2	3	4	5
英語を使って授業をする	1	2	3	4	5
国際的に標準とされるテキスト を使って授業をする	1	2	3	4	5
視聴覚機器を有効に活用する	1	2	3	4	5
授業のシラバスを学生に提示する	1	2	3	4	5
オフィスパワーを設ける	1	2	3	4	5
少人数で教育を行う	1	2	3	4	5
(21)ティーチング・アシスタント (TA)を活用する	1	2	3	4	5
(22)教員が学生による授業評価結果を 参考にして授業改善に努める	1	2	3	4	5
(23)厳格な成績評価を行う (例：GPA制)	1	2	3	4	5
(24)学生の学習活動を組織的に支援 する(例：学習相談室の設置等)	1	2	3	4	5
(25)学生の課外活動を組織的に支援 する(例：クラブ専用施設の充実等)	1	2	3	4	5
(26)学生の学習施設・設備を充実させ る(例：図書館やパソコンの整備等)	1	2	3	4	5
(27)教育施設・設備を充実させる (例：視聴覚機器の整備等)	1	2	3	4	5
(28)学業成績上位者を表彰する制度を 設ける	1	2	3	4	5
(29)リメディアル教育(補習授業)を 充実させる	1	2	3	4	5
(30)セメスター制を採用する	1	2	3	4	5
(31)1学期に取得可能な単位数 の上限を設定する(CAP制)	1	2	3	4	5
(32)他学部の授業が聴講可能である	1	2	3	4	5
(33)他大学と単位互換を行う	1	2	3	4	5
(34)主専攻・副専攻制を設ける	1	2	3	4	5
(35)転学部・転学科制度を設ける	1	2	3	4	5
(36)教育活動の自己点検・評価を 行う	1	2	3	4	5
(37)外部者・組織による教育活動の 点検・評価を行う(外部評価、第三者評価等)	1	2	3	4	5
(38)大学が都市に位置している	1	2	3	4	5

【問5】上の【問4】で示した事項以外に、あなたの「大学・学部の教育」の質を改善するための重要な視点があれば以下にご記入下さい。

( )

【問6】あなたの「大学・学部」の教育目的・目標について、ここ5年の間に、なんらかの組織的な検討（例えば、委員会のような形で）をされましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 検討して、新たな教育目標を設定した    2. 検討したが、新たな教育目標を設定できなかった  
3. 検討していない    4. その他( )

【問7】あなたの「大学・学部」の教育内容（カリキュラム）について、ここ5年の間に、なんらかの組織的な検討（例えば、委員会のような形で）をされましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 検討して、新たなカリキュラムを策定した    2. 検討したが、新たなカリキュラムを策定できなかった  
3. 検討しなかった    4. その他( )

【問8】【問7】で「1」か「2」を選択した方に質問します。どのような視点から検討されましたか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 教育のグローバル・スタンダード化のニーズ    2. 社会の国際化    3. 社会の情報化  
4. 教養教育に対する社会的ニーズ    5. 経営の合理化    6. 学生の大衆化  
7. その他( )

【問9】あなたの「大学・学部」では、学生の学習活動に対する組織的支援（例、学習相談室の設置等）を行っておられますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 行っている    2. 今までに行っていないが、現在検討中    3. 行っていない  
どのような支援を行っておられますか。具体的にご記入下さい。

( )

【問10】過去5年間で、あなたの「大学・学部の教育」の質はどの程度改善されたと思われますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 改善された    2. ある程度改善された    3. どちらともいえない  
4. どちらかと言えば悪くなった    5. 悪くなった

【問11】以下～(32)には、教育達成レベル（教育の質）を高めための事項が示されています。それぞれの事項は、あなたの「大学・学部」の現状に、どの程度当てはまりますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

	当てはまる	ある程度 当てはまる	どちらとも いえない	あまり 当てはまらない	当てはまらない
学生が豊富な知識を持っている	1	2	3	4	5
学生が熱心に学習する	1	2	3	4	5
教員が学生の成長発達に関心を持つ	1	2	3	4	5
教員が学生の質問や意見に関心を持つ	1	2	3	4	5

次頁に続く ==>

	当てはまる	ある程度 当てはまる	どちらとも いえない	あまり 当てはまらない	当てはまらない
教員が学生をほめるよう努力する	1	2	3	4	5
教員が学生の授業参加を促す	1	2	3	4	5
教員が優れた研究力を持っている	1	2	3	4	5
教員が豊富な知識を持っている	1	2	3	4	5
教員が授業の準備を周到に行う	1	2	3	4	5
教員が授業内容を工夫する	1	2	3	4	5
教員が効果的な講義方法を工夫する (例・ポートフォリオ等)	1	2	3	4	5
英語を使って授業をする	1	2	3	4	5
国際的に標準とされるテキスト を使って授業をする	1	2	3	4	5
視聴覚機器を有効に活用する	1	2	3	4	5
授業のシラバスを学生に提示する	1	2	3	4	5
オフィスアワーを設ける	1	2	3	4	5
少人数で教育を行う	1	2	3	4	5
ティーチング・アシスタント (T A) を活用する	1	2	3	4	5
教員が学生による授業評価結果を 参考にして授業改善に努める	1	2	3	4	5
厳格な成績評価を行う (例・G P A制)	1	2	3	4	5
(21) 学生の学習施設・設備を充実させる (例・図書館やパソコンの整備等)	1	2	3	4	5
(22) 学生の課外活動を組織的に支援 する(例・クラブ専用施設の充実等)	1	2	3	4	5
(23) 教育施設・設備を充実させる (例・視聴覚機器の整備等)	1	2	3	4	5
(24) 学業成績上位者を表彰する制度を 設ける	1	2	3	4	5
(25) リメディアル教育を(補習授業) 充実させる	1	2	3	4	5
(26) セメスター制を採用する	1	2	3	4	5
(27) 1学期に取得可能な単位数 の上限を設定する(C A P制)	1	2	3	4	5
(28) 他学部の授業が聴講可能である	1	2	3	4	5
(29) 他大学と単位互換を行う	1	2	3	4	5
(30) 主専攻・副専攻制を設ける	1	2	3	4	5
(31) 転学部・転学科制度を設ける	1	2	3	4	5
(32) 大学が都市に位置している	1	2	3	4	5

【問12】から【問38】まで、あなたの「大学・学部」におけるFD活動（教員資質開発活動）について質問します。

### < FDの理念 >

【問12】あなたの「大学・学部」では、FDとは何かを明確に定義した組織レベルの方針等がありますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。もし「1. 大学の方針がある」を選択された場合は、( )内に具体的な資料名をご記入下さい。

1. 大学の方針がある（具体的な資料：\_\_\_\_\_）
2. 大学の方針を検討中 もしよければ資料を同封いただけませんか
3. 大学の方針は特になく検討もしていない

【問13】あなたの「大学・学部」では、FDの内容領域を、次のどれに照準されていますか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 教育活動      2. 研究活動      3. 社会サービス活動      4. 管理運営活動
5. 人事事項      6. 自己点検・評価      7. 教員のキャリア開発      8. あまり明確にしていない
9. その他 ( )

【問14】あなたの「大学・学部」では、FDの取組において目的としている「よい教員」とは次のようなタイプでしょうか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 教育よりもむしろ専門分野の研究を重視し、学問業績に能力を発揮している教員
2. 研究よりもむしろ教育を重視し、授業にすぐれた能力を発揮している教員
3. 研究と教育を同じ程度に重視して双方に相応の力を発揮している教員
4. 研究や教育よりもむしろ社会サービスに力を発揮している教員
5. 研究や教育よりもむしろ管理運営やマネジメントに力を発揮している教員
2. その他 ( )

### < FDの実施形態 >

【問15】あなたは、あなたの「大学・学部」の教育の改善や活性化は必要であると思われますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 必要である      2. ある程度必要である      3. どちらともいえない
4. あまり必要でない      5. 必要でない

【問16】【問15】で「1. 必要である」を選択された方に質問します。教育の改善と活性化が必要であるとお考えになる理由は何でしょうか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 学生に意欲を持って学習してもらうため
2. 学生に豊富な知識を習得してもらうため
3. 大学教育のグローバルスタンダード化への対応のため（JABEEなど）
4. 学生（18歳）人口の減少に伴う大学生生き残りのため
5. 外国人留学生に入学してもらうため
6. 生涯教育機関としての大学の役割が増大（社会人学生の増加等）しているため
7. 社会や国民からの大学教育批判に応えるため
8. 社会の情報化・国際化に対応したカリキュラム編成の必要性のため
9. 高校教育との接続の問題（学力の多様化など）に対応するため
10. 大学教員は大学教育の改善に努める責務があるため
11. 教育活動が大学評価の対象となっているため
12. その他（具体的にご記入下さい：\_\_\_\_\_）





【問 2 3】あなたの「大学・学部」で実施している学生による授業評価結果をどのように活用されていますか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 教員に評価結果を返却
2. 学生に評価結果を公表
3. 評価結果の良い授業を参観
4. 評価結果を教員の昇給や昇進に利用
5. その他 ( )
6. 学生による授業評価を実施していない

【問 2 4】あなたの「大学・学部」には、大学教育を調査したり、教育改善を支援するような組織（例、大学教育研究センター等）はありますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。  
「1. ある」を選択された場合、その組織の名称を( )内にご記入下さい。

1. ある (名称: ) 【問 2 5】から回答
2. 現在ないが、検討中 【問 2 6】から回答
3. ない 【問 2 6】から回答

【問 2 5】上の教育改善を支援するような組織（例、大学教育研究センター等）は、FD活動の実施や点検・評価などの役割を果たしていますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 果たしている
2. ある程度果たしている
3. どちらともいえない
4. あまり果たしていない
5. 果たしていない

### < FD 活動の成果 >

【問 2 6】貴学では、FD活動実施の結果、どの程度成果が得られましたか。次の各質問の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

	高まった	ある程度高まった	あまり高まっていない	高まっていない	対象としていない
教員の教育能力・資質	1	2	3	4	5
教員の研究能力・資質	1	2	3	4	5
教員の社会サービスの能力・資質	1	2	3	4	5
教員の管理運営能力・資質	1	2	3	4	5

【問 2 7】あなたの「大学・学部」では、FD活動実施の結果、教員の使命・役割・資質に関して真剣に考える風土や雰囲気醸成されましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

1. 醸成された
2. ある程度醸成された
3. あまり醸成されていない
4. 醸成されていない

### < FD の問題点 >

【問 2 8】次の ~ まではFD活動の現状の問題点とその回答を示しております。次の各質問の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

	当てはまる	ある程度当てはまる	あまり当てはまらない	当てはまらない
FD活動の理念や概念が組織全体の教員に十分認識されていない。	1	2	3	4
FD活動が概してトップダウンになって、ボトムアップの取組がなかなか育たない悩みがある。	1	2	3	4
FD活動の概念や内容に関する専門家が学内にいない	1	2	3	4

次頁に続く ==>



【問34】【問33】で「1.既に、何らかのかたちで報いている」を選択された方に質問します。実際にどのような方法で報いておられますか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

- 1.教育賞のような賞を与える
- 2.昇進時に重視する
- 3.給料やボーナスを上げる
- 4.教育の準備や研究のための特別休暇を与える
- 5.研究費や研究旅費を給付する
- 6.その他( )

【問35】【問33】で「1.既に、何らかのかたちで報いている」を選択された方に質問します。そのような施策はあなたの「大学・学部」の授業や教育の改善に効果があったと思われませんか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

- 1.効果があった
- 2.ある程度効果があった
- 3.どちらともいえない
- 2.あまり効果がなかった
- 5.効果がなかった

【問36】逆に、学生による授業評価が悪いなど、教育活動の改善が必要と思われる教員に対して、あなたの「大学・学部」では何らかの対応をされていますか。最も当てはまるものを1つお選び下さい。

- 1.既に、何らかのかたちで対応している
- 2.何らかのかたちで対応する方向で準備している
- 3.現在のところ何も考えていない
- 4.そのようなことには反対である

【問37】【問36】で「1.既に、何らかのかたちで対応している」を選択された方に質問します。実際にどのような方法で対応されておられますか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

- 1.文章で注意する
- 2.口答で直接注意する
- 3.リストを学内・学部内に公表する
- 4.FD活動への参加を促す
- 5.授業改善計画を提出させる
- 6.昇進時に考慮する
- 7.給料やボーナスに影響させる
- 8.研究費や研究旅費の査定に影響させる
- 9.その他( )

【問38】【問36】で「1.既に、何らかのかたちで対応している」を選択された方に質問します。そのような対応はあなたの「大学・学部」の授業や教育の改善に効果がありましたか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

- 1.効果があった
- 2.ある程度効果があった
- 3.どちらともいえない
- 4.あまり効果がなかった
- 5.効果がなかった

最後に、【問39】～【問41】は、あなたの「大学・学部」の教員の諸活動に対するあなたのご意見をお聞きします。

【問39】あなたの「大学・学部」では、教員の昇進審査に際して、以下に示した各活動は、それぞれの程度重視することを望ましいことだと思われませんか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	重視する のが望ましい	ある程度 重視する のが望ましい	どちらとも 言えない	あまり 重視しない のが望ましい	重視しない のが望ましい
研究活動	1	2	3	4	5
教育活動	1	2	3	4	5
学内の管理・運営活動	1	2	3	4	5
社会サービス活動	1	2	3	4	5
その他( )	1	2	3	4	5



## 資料2 データ集計結果

【問1】あなたの「大学・学部の教育」の目的は、以下の①～④の各事項とどの程度関連していると思われますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

①一般社会人として必要な知識・資質を身につけさせる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
関連がある	67.2%	60.6%	60.5%	70.6%	74.6%	65.5%	65.2%	64.1%	69.0%
ある程度関連がある	29.9%	37.9%	27.9%	27.7%	20.9%	32.5%	30.3%	32.4%	28.3%
どちらとも言えない	1.5%	0.0%	9.3%	0.4%	3.0%	0.5%	3.0%	2.1%	1.1%
あまり関連がない	1.5%	1.5%	2.3%	1.3%	1.5%	1.5%	1.5%	1.4%	1.6%
合計	341	66	43	231	67	197	66	145	187

②幅広い学問的興味・関心・知識を身につけさせる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
関連がある	67.8%	77.6%	52.3%	67.8%	69.1%	73.6%	50.0%	60.3%	73.3%
ある程度関連がある	26.9%	19.4%	40.9%	26.5%	22.1%	23.4%	42.4%	32.2%	23.0%
どちらとも言えない	4.1%	1.5%	6.8%	4.3%	7.4%	2.0%	6.1%	5.5%	3.2%
あまり関連がない	1.2%	1.5%	0.0%	1.3%	1.5%	1.0%	1.5%	2.1%	0.5%
合計	342	67	44	230	68	197	66	146	187

③専門的職業人として必要な知識・資質を身につけさせる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
関連がある	71.4%	94.0%	81.8%	62.8%	69.1%	76.8%	54.5%	74.1%	68.4%
ある程度関連がある	23.6%	6.0%	11.4%	31.2%	26.5%	19.7%	36.4%	20.4%	26.7%
どちらとも言えない	3.2%	0.0%	4.5%	3.9%	1.5%	3.0%	4.5%	3.4%	3.2%
あまり関連がない	1.7%	0.0%	2.3%	2.2%	2.9%	0.5%	4.5%	2.0%	1.6%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

④学問の専門家(例:研究者)として必要な知識・資質を身につけさせる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
関連がある	23.7%	37.9%	36.4%	17.3%	14.9%	33.3%	4.5%	24.7%	22.5%
ある程度関連がある	40.1%	42.4%	40.9%	39.0%	34.3%	42.4%	33.3%	39.7%	41.2%
どちらとも言えない	19.6%	10.6%	11.4%	23.8%	25.4%	15.7%	27.3%	17.8%	21.9%
あまり関連がない	14.9%	9.1%	9.1%	17.7%	23.9%	7.6%	30.3%	15.1%	13.9%
関連がない	1.8%	0.0%	2.3%	2.2%	1.5%	1.0%	4.5%	2.7%	0.5%
合計	342	66	44	231	67	198	66	146	187

【問2】あなたの「大学・学部の教育」を全般的にどのように評価されますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
うまくいっている	11.3%	11.9%	15.9%	10.3%	16.7%	11.9%	4.6%	15.3%	8.7%
ある程度うまくいっている	76.8%	83.6%	75.0%	75.0%	68.2%	80.9%	70.8%	73.6%	78.1%
どちらともいえない	9.8%	4.5%	6.8%	12.1%	13.6%	5.7%	20.0%	9.0%	10.9%
あまりうまくいっていない	2.1%	0.0%	2.3%	2.7%	1.5%	1.5%	4.6%	2.1%	2.2%
合計	336	67	44	224	66	194	65	144	183

【問3】どのような評価結果に基づいて、上の【問2】のような回答をされましたか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

1. 在学生による評価

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	31.3%	31.3%	29.5%	31.7%	30.9%	33.3%	24.6%	26.7%	34.2%
ある程度重視した	53.2%	50.7%	56.8%	53.0%	51.5%	50.5%	63.1%	58.2%	49.7%
どちらとも言えない	7.6%	14.9%	6.8%	5.7%	5.9%	9.1%	4.6%	8.2%	7.0%
あまり重視しなかった	2.0%	3.0%	2.3%	1.7%	4.4%	2.0%	0.0%	0.7%	3.2%
重視しなかった	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
実施していない	5.6%	0.0%	4.5%	7.4%	5.9%	5.1%	7.7%	6.2%	5.3%
合計	342	67	44	230	68	198	65	146	187

2. 卒業生による評価

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	13.0%	16.4%	16.7%	11.3%	18.2%	13.3%	6.9%	15.6%	9.9%
ある程度重視した	38.4%	37.3%	40.5%	38.0%	30.3%	43.4%	31.0%	34.0%	42.3%
どちらとも言えない	14.5%	23.9%	4.8%	13.6%	16.7%	12.8%	15.5%	16.3%	13.2%
あまり重視しなかった	3.0%	10.4%	2.4%	0.9%	1.5%	3.6%	1.7%	2.1%	3.8%
重視しなかった	1.5%	0.0%	0.0%	2.3%	1.5%	2.0%	0.0%	1.4%	1.1%
実施していない	29.6%	11.9%	35.7%	33.9%	31.8%	25.0%	44.8%	30.5%	29.7%
合計	331	67	42	221	66	196	58	141	182

## 3. 学生の就職状況

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	29.6%	28.4%	26.8%	30.6%	37.3%	33.0%	11.9%	31.7%	27.7%
ある程度重視した	51.4%	61.2%	46.3%	49.1%	49.3%	51.0%	52.5%	38.8%	61.4%
どちらとも言えない	8.5%	7.5%	12.2%	8.1%	10.4%	7.2%	10.2%	8.6%	7.6%
あまり重視しなかった	2.1%	1.5%	0.0%	2.7%	1.5%	1.5%	5.1%	3.6%	1.1%
重視しなかった	1.8%	0.0%	4.9%	1.8%	0.0%	3.1%	0.0%	2.9%	1.1%
実施していない	6.6%	1.5%	9.8%	7.7%	1.5%	4.1%	20.3%	14.4%	1.1%
合計	331	67	41	222	67	194	59	139	184

## 4. 学生の大学院進学状況

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	9.4%	20.9%	7.1%	6.4%	10.4%	10.7%	3.6%	7.9%	9.9%
ある程度重視した	34.7%	47.8%	38.1%	29.7%	20.9%	42.9%	18.2%	34.3%	36.5%
どちらとも言えない	26.1%	19.4%	21.4%	29.2%	31.3%	26.0%	20.0%	22.9%	28.2%
あまり重視しなかった	15.8%	10.4%	11.9%	18.3%	20.9%	14.8%	14.5%	15.0%	16.6%
重視しなかった	7.8%	1.5%	11.9%	8.2%	13.4%	4.1%	12.7%	8.6%	6.1%
実施していない	6.7%	0.0%	9.5%	8.2%	3.0%	1.5%	30.9%	11.4%	2.8%
合計	329	67	42	219	67	196	55	140	181

## 5. 留学生による評価

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	4.6%	10.6%	0.0%	3.7%	4.6%	5.7%	5.8%	5.8%	3.9%
ある程度重視した	27.6%	31.8%	24.4%	26.6%	26.2%	26.4%	31.6%	24.5%	30.6%
どちらとも言えない	22.1%	36.4%	9.8%	20.2%	23.1%	24.4%	14.0%	16.5%	25.6%
あまり重視しなかった	8.0%	10.6%	12.2%	6.4%	7.7%	8.3%	5.3%	7.9%	8.3%
重視しなかった	7.1%	3.0%	4.9%	8.7%	4.6%	7.3%	7.0%	7.2%	6.1%
実施していない	30.7%	7.6%	48.8%	34.4%	33.8%	28.0%	40.4%	38.1%	25.6%
合計	326	66	41	218	65	193	57	139	180

## 6. 受験産業・マスコミの評価(偏差値等)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	5.7%	4.5%	4.8%	6.3%	4.5%	7.2%	3.4%	3.5%	7.7%
ある程度重視した	34.7%	28.4%	50.0%	33.5%	27.3%	41.5%	16.9%	29.8%	37.9%
どちらとも言えない	28.7%	40.3%	28.6%	25.3%	33.3%	26.7%	32.2%	29.1%	28.6%
あまり重視しなかった	19.3%	17.9%	11.9%	21.3%	24.2%	15.4%	25.4%	23.4%	16.5%
重視しなかった	8.2%	7.5%	2.4%	9.5%	7.6%	7.7%	11.9%	9.9%	6.6%
実施していない	3.3%	1.5%	2.4%	4.1%	3.0%	1.5%	10.2%	4.3%	2.7%
合計	331	67	42	221	66	195	59	141	182

## 7. 卒業生に対する企業の評価

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	11.7%	18.2%	10.0%	10.1%	9.1%	15.0%	3.1%	11.0%	12.7%
ある程度重視した	44.3%	42.4%	32.5%	46.8%	45.5%	46.6%	34.5%	34.6%	51.9%
どちらとも言えない	18.5%	18.2%	20.0%	18.3%	21.2%	16.6%	20.0%	16.9%	19.3%
あまり重視しなかった	3.7%	6.1%	5.0%	2.8%	4.5%	2.6%	5.5%	5.1%	2.8%
重視しなかった	3.1%	1.5%	5.0%	3.2%	6.1%	2.6%	1.8%	2.9%	2.2%
実施していない	18.8%	13.6%	27.5%	18.8%	13.6%	16.6%	34.5%	29.4%	11.0%
合計	325	66	40	218	66	193	55	136	181

## 8. 教育の自己点検結果

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	32.9%	40.3%	32.6%	31.0%	35.3%	35.4%	22.2%	32.4%	33.9%
ある程度重視した	54.4%	52.2%	53.5%	55.0%	50.0%	53.5%	60.3%	54.5%	53.2%
どちらとも言えない	7.1%	7.5%	4.7%	7.4%	10.3%	6.6%	6.3%	7.6%	7.0%
あまり重視しなかった	1.8%	0.0%	0.0%	2.6%	2.9%	1.5%	1.6%	0.7%	2.7%
重視しなかった	0.6%	0.0%	2.3%	0.4%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%
実施していない	3.2%	0.0%	7.0%	3.5%	1.5%	2.0%	9.5%	4.8%	2.2%
合計	340	67	43	229	68	198	63	145	186

## 9. 外部評価-第三者評価による評価結果

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	20.4%	46.3%	14.0%	13.5%	16.2%	25.4%	5.1%	18.9%	21.3%
ある程度重視した	28.1%	43.3%	25.6%	24.2%	25.0%	33.0%	16.9%	22.4%	31.7%
どちらとも言えない	6.6%	9.0%	2.3%	6.7%	8.8%	6.6%	1.7%	5.6%	7.1%
あまり重視しなかった	3.3%	1.5%	2.3%	4.0%	2.9%	3.0%	3.4%	2.8%	3.8%
重視しなかった	1.5%	0.0%	0.0%	2.2%	1.5%	1.5%	1.7%	1.4%	1.6%
実施していない	40.1%	0.0%	55.8%	49.3%	45.6%	30.5%	71.2%	49.0%	34.4%
合計	334	67	43	223	68	197	59	143	183

その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視した	34.5%	75.0%	20.0%	30.0%	40.0%	36.4%	27.3%	35.7%	33.3%
ある程度重視した	44.8%	0.0%	60.0%	50.0%	40.0%	45.5%	45.5%	57.1%	33.3%
どちらともいえない	10.3%	25.0%	20.0%	5.0%	20.0%	9.1%	9.1%	7.1%	13.3%
実施していない	10.3%	0.0%	0.0%	15.0%	0.0%	9.1%	18.2%	0.0%	20.0%
合計	29	4	5	20	5	11	11	14	15

【問4】あなたの「大学・学部の教育」の達成レベルを高めるためには、それぞれの事項はどの程度重要であると思われますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

①教育組織の教育目的・目標を見直す

	単純集計	設置者			大学院			* 学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	54.3%	44.8%	57.1%	56.8%	56.5%	58.7%	39.3%	53.1%	54.1%
ある程度重要である	36.5%	44.8%	33.3%	34.4%	29.0%	34.2%	49.2%	34.3%	38.9%
どちらともいえない	6.5%	6.0%	4.8%	7.0%	11.6%	5.1%	6.6%	8.4%	5.4%
あまり重要でない	2.4%	4.5%	2.4%	1.8%	1.4%	2.0%	4.9%	3.5%	1.6%
重要でない	0.3%	0.0%	2.4%	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%
合計	337	67	42	227	69	196	61	143	185

②教育組織のカリキュラムを見直す

	単純集計	設置者			大学院			* 学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	64.3%	65.7%	65.1%	64.1%	64.7%	69.0%	50.0%	62.6%	65.1%
ある程度重要である	32.2%	32.8%	32.6%	31.6%	33.8%	28.4%	40.9%	32.0%	32.8%
どちらともいえない	3.2%	1.5%	2.3%	3.9%	1.5%	2.5%	7.6%	4.8%	2.2%
あまり重要でない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.5%	0.7%	0.0%
合計	342	67	43	231	68	197	66	147	186

③学生が豊富な知識を持っている

	単純集計	設置者			大学院			* 学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	15.4%	7.6%	16.3%	17.5%	20.0%	17.8%	4.6%	18.1%	12.4%
ある程度重要である	49.1%	59.1%	48.8%	46.5%	38.5%	53.3%	47.7%	44.4%	53.0%
どちらともいえない	30.8%	28.8%	32.6%	30.7%	38.5%	23.9%	41.5%	32.6%	30.3%
あまり重要でない	4.7%	4.5%	2.3%	5.3%	3.1%	5.1%	6.2%	4.9%	4.3%
合計	338	66	43	228	65	197	65	144	185

④学生が熱心に学習する

	単純集計	設置者			大学院			* 学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	67.4%	72.7%	60.5%	67.5%	64.2%	71.6%	60.6%	69.2%	66.7%
ある程度重要である	27.6%	21.2%	39.5%	27.3%	28.4%	25.9%	31.8%	25.3%	28.5%
どちらともいえない	5.0%	6.1%	0.0%	5.2%	7.5%	2.5%	7.6%	5.5%	4.8%
合計	341	66	43	231	67	197	66	146	186

⑤教員の授業改善を組織的に支援する(例、学生による授業評価やFD活動等)

	単純集計	設置者			大学院			* 学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	66.5%	71.6%	64.3%	65.7%	62.7%	71.6%	56.9%	66.9%	64.5%
ある程度重要である	31.5%	26.9%	33.3%	32.2%	32.8%	26.4%	43.1%	31.7%	32.8%
どちらともいえない	2.1%	1.5%	2.4%	2.2%	4.5%	2.0%	0.0%	1.4%	2.7%
合計	340	67	42	230	67	197	65	145	186

⑥教員が学生の成長発達に関心を持つ

	単純集計	設置者			* 大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	57.9%	46.3%	44.2%	64.1%	63.2%	57.4%	56.1%	55.8%	59.1%
ある程度重要である	37.7%	50.7%	48.8%	31.6%	33.8%	38.6%	39.4%	38.8%	37.1%
どちらともいえない	4.1%	3.0%	7.0%	3.9%	2.9%	3.6%	4.5%	4.8%	3.8%
あまり重要でない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.7%	0.0%
合計	342	67	43	231	68	197	66	147	186

⑦教員が学生の質問や意見に関心を持つ

	単純集計	設置者			大学院			* 学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	68.1%	73.1%	59.1%	68.7%	70.6%	71.2%	60.0%	66.7%	69.0%
ある程度重要である	29.8%	23.9%	36.4%	30.0%	26.5%	27.8%	36.9%	31.3%	28.9%
どちらともいえない	1.8%	3.0%	2.3%	1.3%	1.5%	1.0%	3.1%	2.0%	1.6%
あまり重要でない	0.3%	0.0%	2.3%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	342	67	44	230	68	198	65	147	187

⑩教員が学生をほめるよう努力する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	18.7%	10.4%	9.3%	22.9%	11.6%	21.2%	18.8%	20.8%	15.9%
ある程度重要である	50.0%	53.7%	53.5%	48.1%	53.6%	51.0%	45.3%	47.9%	52.4%
どちらともいえない	27.8%	29.9%	27.9%	27.3%	29.0%	25.3%	32.8%	29.2%	27.5%
あまり重要でない	2.3%	4.5%	7.0%	0.9%	4.3%	1.5%	1.6%	2.1%	2.1%
重要でない	1.2%	1.5%	2.3%	0.9%	1.4%	1.0%	1.6%	0.0%	2.1%
合計	342	67	43	231	69	198	64	144	189

⑪教員が学生の授業参加を促す

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	37.7%	32.8%	20.9%	42.4%	36.8%	41.1%	31.8%	38.1%	36.6%
ある程度重要である	45.3%	43.3%	51.2%	44.6%	47.1%	41.1%	56.1%	44.9%	46.8%
どちらともいえない	14.3%	17.9%	23.3%	11.7%	13.2%	14.7%	10.6%	13.6%	14.5%
あまり重要でない	2.0%	6.0%	4.7%	0.4%	2.9%	2.0%	1.5%	2.7%	1.6%
重要でない	0.6%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	1.0%	0.0%	0.7%	0.5%
合計	342	67	43	231	68	197	66	147	186

⑫教員が優れた研究力を持っている

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	45.4%	53.0%	59.1%	40.4%	48.5%	48.0%	33.3%	45.6%	44.9%
ある程度重要である	48.1%	43.9%	34.1%	51.7%	45.5%	47.5%	51.5%	49.7%	46.5%
どちらともいえない	4.5%	1.5%	4.5%	5.2%	3.0%	3.0%	10.6%	2.0%	6.5%
あまり重要でない	2.1%	1.5%	2.3%	2.2%	1.5%	1.5%	4.5%	2.0%	2.2%
重要でない	337.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%
合計	341	66	44	230	66	198	66	147	185

⑬教員が豊富な知識を持っている

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	52.8%	56.7%	47.7%	52.8%	50.0%	59.6%	36.4%	55.1%	50.8%
ある程度重要である	41.1%	35.8%	43.2%	42.0%	44.1%	34.8%	56.1%	38.1%	43.9%
どちらともいえない	5.8%	7.5%	9.1%	4.8%	5.9%	5.1%	7.6%	6.8%	4.8%
あまり重要でない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

⑭教員が授業の準備を周到に行う

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	78.7%	74.6%	79.5%	79.7%	72.1%	80.8%	78.8%	78.9%	78.6%
ある程度重要である	20.4%	23.9%	18.2%	19.9%	25.0%	19.2%	19.7%	19.7%	20.9%
どちらともいえない	0.9%	1.5%	2.3%	0.4%	2.9%	0.0%	1.5%	1.4%	0.5%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

⑮教員が授業内容を工夫する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	83.9%	83.6%	81.8%	84.3%	79.4%	84.8%	84.6%	82.9%	84.5%
ある程度重要である	15.5%	14.9%	18.2%	15.2%	19.1%	15.2%	13.8%	15.8%	15.5%
どちらともいえない	0.6%	1.5%	0.0%	0.4%	1.5%	0.0%	1.5%	1.4%	0.0%
合計	342	67	44	230	68	198	65	146	187

⑯教員が効果的な講義方法を工夫する(例:ポートフォリオ等)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	74.9%	73.1%	77.3%	74.9%	75.0%	75.6%	72.7%	76.9%	72.7%
ある程度重要である	23.0%	25.4%	20.5%	22.9%	22.1%	23.2%	22.7%	19.7%	26.2%
どちらともいえない	1.7%	1.5%	0.0%	2.2%	2.9%	1.0%	3.0%	2.7%	1.1%
あまり重要でない	0.3%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.7%	0.0%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

⑰英語を使って授業をする

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	2.6%	1.5%	0.0%	3.5%	0.0%	2.5%	6.2%	2.0%	3.2%
ある程度重要である	21.7%	26.9%	23.3%	19.6%	8.8%	29.9%	10.8%	17.7%	24.7%
どちらともいえない	51.3%	58.2%	65.1%	47.0%	67.6%	48.2%	43.1%	55.1%	48.9%
あまり重要でない	16.7%	9.0%	2.3%	21.7%	16.2%	12.7%	27.7%	16.3%	16.7%
重要でない	7.6%	4.5%	9.3%	8.3%	7.4%	6.6%	12.3%	8.8%	6.5%
合計	341	67	43	230	68	197	65	147	186



## ⑩国際的に標準とされるテキストを使って授業をする

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	3.2%	1.5%	11.6%	2.2%	5.9%	3.0%	1.5%	4.1%	2.7%
ある程度重要である	21.6%	29.9%	23.3%	18.6%	13.2%	29.4%	9.1%	19.0%	22.6%
どちらともいえない	53.2%	55.2%	58.1%	51.9%	60.3%	49.7%	53.0%	53.7%	54.3%
あまり重要でない	18.4%	10.4%	4.7%	23.4%	14.7%	15.2%	31.8%	19.7%	16.7%
重要でない	3.5%	3.0%	2.3%	3.9%	5.9%	2.5%	4.5%	3.4%	3.8%
合計	342	67	43	231	68	197	66	147	186

## ⑪視聴覚機器を有効に活用する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	24.3%	24.2%	23.3%	24.1%	29.4%	24.1%	18.8%	27.6%	21.1%
ある程度重要である	58.3%	57.6%	48.8%	60.5%	45.6%	60.5%	65.6%	55.9%	61.1%
どちらともいえない	16.6%	16.7%	23.3%	15.4%	23.5%	14.9%	14.1%	15.2%	17.3%
あまり重要でない	0.9%	1.5%	4.7%	0.0%	1.5%	0.5%	1.6%	1.4%	0.5%
合計	338	66	43	228	68	195	64	145	185

## ⑫授業のシラバスを学生に提示する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	63.2%	66.7%	62.8%	62.2%	63.2%	65.3%	55.4%	63.7%	61.8%
ある程度重要である	29.7%	28.8%	27.9%	30.4%	30.9%	27.0%	36.9%	30.8%	29.6%
どちらともいえない	5.9%	4.5%	7.0%	6.1%	4.4%	6.6%	6.2%	4.8%	7.0%
あまり重要でない	0.9%	0.0%	2.3%	0.9%	0.0%	1.0%	1.5%	0.7%	1.1%
重要でない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	340	66	43	230	68	196	65	146	186

## ⑬オフィスアワーを設ける

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	35.1%	33.3%	22.0%	38.1%	36.8%	38.5%	27.7%	31.9%	36.0%
ある程度重要である	45.4%	51.5%	51.2%	42.4%	45.6%	44.6%	49.2%	45.1%	46.2%
どちらともいえない	16.8%	13.6%	19.5%	17.3%	11.8%	14.9%	21.5%	18.1%	16.7%
あまり重要でない	2.4%	1.5%	7.3%	1.7%	5.9%	2.1%	0.0%	4.2%	1.1%
重要でない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.5%	0.7%	0.0%
合計	339	66	41	231	68	195	65	144	186

## ⑭少人数で教育を行う

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	52.8%	50.7%	47.7%	54.5%	55.9%	55.1%	42.4%	55.1%	50.8%
ある程度重要である	38.8%	41.8%	36.4%	38.1%	39.7%	35.9%	47.0%	36.7%	41.2%
どちらともいえない	7.9%	6.0%	15.9%	6.9%	2.9%	9.1%	10.6%	8.2%	7.0%
あまり重要でない	0.3%	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
重要でない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.5%
合計	343	67	44	231				147	187

## (21)ティーチング・アシスタント(TA)を活用する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	21.2%	29.9%	19.0%	19.1%	19.1%	26.2%	10.6%	19.9%	22.2%
ある程度重要である	56.8%	58.2%	59.5%	56.1%	51.5%	60.5%	50.0%	53.4%	58.9%
どちらともいえない	20.9%	11.9%	19.0%	23.5%	29.4%	12.3%	36.4%	25.3%	17.8%
あまり重要でない	1.2%	0.0%	2.4%	1.3%	0.0%	1.0%	3.0%	1.4%	1.1%
合計	340	67	42	230	68	195	66	146	185

## (22)教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	61.8%	59.7%	63.6%	62.3%	58.8%	64.1%	57.6%	59.9%	63.1%
ある程度重要である	35.3%	38.8%	31.8%	34.6%	35.3%	34.8%	36.4%	37.4%	33.7%
どちらともいえない	2.3%	1.5%	2.3%	2.6%	4.4%	1.0%	4.5%	2.0%	2.7%
あまり重要でない	0.6%	0.0%	2.3%	0.4%	1.5%	0.0%	1.5%	0.7%	0.5%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

## (23)厳格な成績評価を行う(例. GPA制)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	33.7%	40.3%	27.9%	33.0%	30.9%	39.3%	19.7%	41.5%	28.6%
ある程度重要である	42.5%	46.3%	41.9%	41.3%	33.8%	43.4%	48.5%	33.3%	48.6%
どちらともいえない	22.0%	13.4%	20.9%	24.8%	29.4%	17.3%	28.8%	21.8%	22.2%
あまり重要でない	1.8%	0.0%	9.3%	0.9%	5.9%	0.0%	3.0%	3.4%	0.5%
合計	341	67	43	230	68	196	66	147	185

## (24)学生の学習活動を組織的に支援する(例、学習相談室の設置等)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	34.6%	43.3%	32.6%	32.6%	29.9%	40.1%	25.8%	36.3%	32.8%
ある程度重要である	56.0%	52.2%	44.2%	59.1%	55.2%	54.8%	60.6%	52.1%	59.1%
どちらともいえない	8.2%	4.5%	23.3%	6.5%	13.4%	4.1%	12.1%	10.3%	7.0%
あまり重要でない	1.2%	0.0%	0.0%	1.7%	1.5%	1.0%	1.5%	1.4%	1.1%
合計	341	67	43	230	67	197	66	146	186

## (25)学生の課外活動を組織的に支援する(例、クラブ専用施設の充実等)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	17.8%	19.4%	11.6%	18.6%	19.1%	18.8%	15.2%	17.7%	17.2%
ある程度重要である	55.0%	58.2%	51.2%	54.5%	61.8%	51.8%	57.6%	51.7%	58.1%
どちらともいえない	22.5%	17.9%	32.6%	22.1%	10.3%	25.9%	24.2%	25.9%	19.9%
あまり重要でない	3.5%	4.5%	4.7%	3.0%	5.9%	2.5%	3.0%	3.4%	3.8%
重要でない	1.2%	0.0%	0.0%	1.7%	2.9%	1.0%	0.0%	1.4%	1.1%
合計	342	67	43	231	68	197	66	147	186

## (26)学生の学習施設・設備を充実させる(例、図書館やパソコンの整備等)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	48.8%	47.8%	58.1%	47.2%	51.5%	51.8%	37.9%	49.7%	46.8%
ある程度重要である	48.5%	49.3%	37.2%	50.6%	45.6%	46.2%	57.6%	46.9%	51.1%
どちらともいえない	2.0%	3.0%	2.3%	1.7%	1.5%	1.5%	4.5%	3.4%	1.1%
あまり重要でない	0.6%	0.0%	2.3%	0.4%	1.5%	0.5%	0.0%	0.0%	1.1%
合計	342	67	43	231	68	197	66	147	186

## (27)教育施設・設備を充実させる(例、視聴覚機器の整備等)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	47.1%	46.3%	58.1%	45.0%	48.5%	50.8%	33.3%	47.6%	45.2%
ある程度重要である	48.8%	49.3%	37.2%	51.1%	44.1%	46.7%	60.6%	46.3%	52.2%
どちらともいえない	3.5%	4.5%	2.3%	3.5%	5.9%	2.0%	6.1%	6.1%	1.6%
あまり重要でない	0.6%	0.0%	2.3%	0.4%	1.5%	0.5%	0.0%	0.0%	1.1%
合計	342	67	43	231	68	197	66	147	186

## (28)学業成績上位者を表彰する制度を設ける

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	17.8%	11.9%	11.6%	20.8%	22.1%	19.8%	9.1%	14.3%	20.4%
ある程度重要である	48.5%	46.3%	32.6%	51.9%	41.2%	50.3%	51.5%	44.2%	51.1%
どちらともいえない	28.4%	38.8%	48.8%	21.6%	29.4%	26.9%	30.3%	35.4%	23.7%
あまり重要でない	3.2%	3.0%	0.0%	3.9%	5.9%	1.0%	6.1%	2.7%	3.8%
重要でない	2.0%	0.0%	7.0%	1.7%	1.5%	2.0%	3.0%	3.4%	1.1%
合計	342	67	43	231	68	197	66	147	186

## (29)リメディアル教育(補習授業)を充実させる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	17.6%	9.0%	2.4%	22.9%	16.2%	19.9%	13.6%	15.1%	19.9%
ある程度重要である	54.3%	59.7%	42.9%	54.5%	50.0%	51.5%	66.7%	57.5%	51.1%
どちらともいえない	24.6%	29.9%	45.2%	19.5%	29.4%	25.5%	15.2%	21.2%	27.4%
あまり重要でない	2.9%	1.5%	4.8%	3.0%	2.9%	3.1%	3.0%	4.8%	1.6%
重要でない	0.6%	0.0%	4.8%	0.0%	1.5%	0.0%	1.5%	1.4%	0.0%
合計	341	67	42	231	68	196	66	146	186

## (30)セメスター制を採用する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	27.3%	19.4%	23.3%	30.4%	32.4%	26.0%	27.3%	24.7%	28.5%
ある程度重要である	37.2%	41.8%	46.5%	33.9%	39.7%	35.2%	39.4%	34.9%	38.7%
どちらともいえない	30.8%	28.4%	25.6%	32.6%	26.5%	33.7%	27.3%	34.9%	28.5%
あまり重要でない	3.2%	7.5%	2.3%	2.2%	0.0%	4.1%	3.0%	3.4%	3.2%
重要でない	1.5%	3.0%	2.3%	0.9%	1.5%	1.0%	3.0%	2.1%	1.1%
合計	341	67	43	230	68	196	66	146	186

## (31)1学期に取得可能な単位数の上限を設定する(CAP制)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	15.0%	16.4%	16.7%	14.4%	14.7%	18.6%	6.1%	11.8%	17.2%
ある程度重要である	42.8%	46.3%	31.0%	43.7%	48.5%	41.2%	43.9%	38.9%	45.7%
どちらともいえない	35.1%	31.3%	38.1%	35.8%	29.4%	33.0%	42.4%	39.6%	31.7%
あまり重要でない	4.7%	4.5%	11.9%	3.5%	4.4%	5.2%	4.5%	6.3%	3.8%
重要でない	2.4%	1.5%	2.4%	2.6%	2.9%	2.1%	3.0%	3.5%	1.6%
合計	339	67	42	229	68	194	66	144	186

## (32)他学部の授業が聴講可能である

	単純集計	設置者			大学院			学部数 ***	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	21.9%	20.3%	15.4%	23.7%	14.5%	24.7%	21.4%	14.0%	26.9%
ある程度重要である	46.7%	46.9%	51.3%	45.5%	61.3%	45.7%	32.1%	32.2%	55.9%
どちらともいえない	25.4%	29.7%	28.2%	23.7%	21.0%	23.7%	35.7%	41.3%	15.1%
あまり重要でない	2.9%	3.1%	5.1%	2.4%	3.2%	2.2%	5.4%	4.1%	2.2%
重要でない	3.2%	0.0%	0.0%	4.7%	0.0%	3.8%	5.4%	8.3%	0.0%
合計	315	64	39	211	62	186	56	121	186

## (33)他大学と単位互換を行う

	単純集計	設置者			大学院			学部数 *	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	14.5%	16.4%	14.3%	14.0%	13.2%	16.8%	7.9%	11.9%	16.7%
ある程度重要である	49.1%	56.7%	45.2%	47.4%	45.6%	52.6%	42.9%	43.4%	53.8%
どちらともいえない	30.5%	22.4%	35.7%	32.0%	38.2%	24.5%	41.3%	37.1%	25.3%
あまり重要でない	3.8%	4.5%	4.8%	3.5%	2.9%	4.1%	3.2%	3.5%	3.8%
重要でない	2.1%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	2.0%	4.8%	4.2%	0.5%
合計	338	67	42	228	68	196	63	143	186

## (34)主専攻・副専攻制を設ける

	単純集計	設置者 *			大学院			学部数 **	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	5.7%	9.1%	4.8%	4.5%	4.4%	7.4%	1.6%	3.6%	7.0%
ある程度重要である	33.2%	37.9%	19.0%	34.7%	35.3%	36.5%	27.0%	23.4%	40.0%
どちらともいえない	48.9%	50.0%	54.8%	47.7%	51.5%	45.5%	52.4%	56.2%	44.9%
あまり重要でない	7.9%	1.5%	19.0%	7.7%	8.8%	6.9%	9.5%	9.5%	5.9%
重要でない	4.2%	1.5%	2.4%	5.4%	0.0%	3.7%	9.5%	7.3%	2.2%
合計	331	66	42	222	68	189	63	137	185

## (35)転学部・転学科制度を設ける

	単純集計	設置者			大学院			学部数 ***	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	12.8%	18.2%	2.4%	13.2%	15.2%	14.7%	5.0%	7.5%	16.2%
ある程度重要である	44.8%	53.0%	39.0%	43.2%	40.9%	48.7%	38.3%	35.1%	53.5%
どちらともいえない	33.2%	22.7%	41.5%	35.0%	39.4%	29.3%	40.0%	41.8%	25.4%
あまり重要でない	4.3%	3.0%	9.8%	3.6%	1.5%	3.1%	8.3%	6.7%	2.7%
重要でない	4.9%	3.0%	7.3%	5.0%	3.0%	4.2%	8.3%	9.0%	2.2%
合計	328	66	41	220	66	191	60	134	185

## (36)教育活動の自己点検・評価を行う

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	68.1%	59.7%	67.4%	70.6%	70.6%	67.5%	65.2%	70.1%	66.1%
ある程度重要である	29.5%	38.8%	32.6%	26.4%	25.0%	30.5%	33.3%	27.9%	31.2%
どちらともいえない	2.0%	1.5%	0.0%	2.6%	4.4%	1.5%	1.5%	2.0%	2.2%
あまり重要でない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	342	67	43	231	68	197	66	147	186

## (37)外部者・組織による教育活動の点検・評価を行う(外部評価、第三者評価等)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	54.3%	61.2%	46.5%	53.5%	59.7%	57.4%	39.4%	53.1%	55.1%
ある程度重要である	36.7%	31.3%	41.9%	37.4%	31.3%	35.0%	47.0%	38.1%	35.7%
どちらともいえない	8.5%	6.0%	11.6%	8.7%	9.0%	7.1%	12.1%	8.2%	8.6%
あまり重要でない	0.3%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%
重要でない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.5%	0.7%	0.0%
合計	341	67	43	230	67	197	66	147	185

## (38)大学が都市に位置している

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重要である	16.5%	10.4%	14.0%	18.8%	8.8%	20.0%	16.7%	14.5%	18.3%
ある程度重要である	39.1%	37.3%	32.6%	41.0%	42.6%	36.9%	42.4%	38.6%	39.8%
どちらともいえない	32.1%	40.3%	32.6%	29.3%	29.4%	34.4%	25.8%	31.7%	32.8%
あまり重要でない	8.8%	7.5%	16.3%	7.9%	11.8%	6.7%	10.6%	11.0%	5.9%
重要でない	3.5%	4.5%	4.7%	3.1%	7.4%	2.1%	4.5%	4.1%	3.2%
合計	340	67	43	229	68	195	66	145	186

【問6】あなたの「大学・学部」の教育目的・目標について、ここ5年の間に、なんらかの組織的な検討(例えば、委員会のような形で)をされましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者 ***			大学院 **			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
検討して、新たな教育目標を設定した	66.3%	86.2%	48.8%	63.7%	61.2%	73.3%	46.8%	60.8%	69.4%
検討したが、新たな教育目標を設定できなかった	7.8%	3.1%	4.7%	9.7%	10.4%	5.6%	12.9%	9.1%	7.1%
検討しなかった	11.9%	0.0%	20.9%	13.7%	16.4%	8.2%	21.0%	12.6%	11.5%
その他	14.0%	10.6%	25.6%	12.8%	11.9%	12.8%	19.4%	17.5%	12.0%
合計	335	65	43	226	67	195	62	143	183

【問7】あなたの「大学・学部」の教育内容(カリキュラム)について、ここ5年の間に、なんらかの組織的な検討(例えば、委員会のような形で)をされましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者 ***			大学院 **			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
検討して、新たな教育目標を設定した	84.0%	89.2%	61.9%	86.5%	89.7%	84.1%	76.6%	84.7%	83.2%
検討したが、新たな教育目標を設定できなかった	1.5%	4.6%	2.4%	0.4%	1.5%	1.5%	1.6%	1.4%	1.6%
検討しなかった	5.0%	3.1%	14.3%	3.9%	2.9%	5.6%	6.3%	2.8%	6.5%
その他	9.5%	3.1%	21.4%	9.1%	5.9%	8.7%	15.6%	11.1%	8.6%
合計	339	65	42	230	68	195	64	144	185

【問8】【問7】で「1」か「2」を選択した方に質問します。どの様な視点から検討されましたか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 教育のグローバル・スタンダード化のニーズ

	単純集計	設置者 ***			大学院 **			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	38.3%	44.3%	37.0%	36.3%	28.6%	46.4%	22.4%	38.2%	39.6%
いいえ	61.7%	55.7%	63.0%	63.7%	71.4%	53.6%	77.6%	61.8%	60.4%
合計	290	61	27	201	63	168	49	123	159

2. 社会の国際化

	単純集計	設置者 ***			大学院 *			学部数 **	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	39.3%	44.3%	25.9%	39.8%	42.9%	42.9%	22.4%	28.5%	47.8%
いいえ	60.7%	55.7%	74.1%	60.2%	57.1%	57.1%	77.6%	71.5%	52.2%
合計	290	61	27	201	63	168	49	123	159

3. 社会の情報化

	単純集計	設置者 ***			大学院 **			学部数 **	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	49.3%	45.9%	44.4%	51.2%	50.8%	53.0%	40.8%	40.7%	56.6%
いいえ	50.7%	54.1%	55.6%	48.8%	49.2%	47.0%	59.2%	59.3%	43.4%
合計	290	61	27	201	63	168	49	123	159

4. 教養教育に対する社会的ニーズ

	単純集計	設置者 *			大学院 **			学部数 **	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	49.3%	62.3%	37.0%	46.8%	55.6%	49.4%	40.8%	34.1%	60.4%
いいえ	50.7%	37.7%	63.0%	53.2%	44.4%	50.6%	59.2%	65.9%	39.6%
合計	290	61	27	201	63	168	49	123	159

5. 経営の合理化

	単純集計	設置者 ***			大学院 **			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	11.7%	1.6%	7.4%	15.4%	19.0%	8.9%	14.3%	8.9%	13.8%
いいえ	88.3%	98.4%	92.6%	84.6%	81.0%	91.1%	85.7%	91.1%	86.2%
合計	290	61	27	201	63	168	49	123	159

6. 学生の大衆化

	単純集計	設置者 *			大学院 **			学部数 **	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	34.8%	26.2%	25.9%	38.8%	41.3%	31.0%	46.9%	29.3%	39.0%
いいえ	65.2%	73.8%	74.1%	61.2%	58.7%	69.0%	53.1%	70.7%	61.0%
合計	290	61	27	201	63	168	49	123	159

7. その他

	単純集計	設置者 *			大学院 **			学部数 **	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	27.2%	26.2%	48.1%	24.9%	27.0%	24.4%	34.7%	38.2%	18.9%
いいえ	72.8%	73.8%	51.9%	75.1%	73.0%	75.6%	65.3%	61.8%	81.1%
合計	290	100.0%	100.0%	100.0%	63	168	49	123	159

【問9】あなたの「大学・学部」では、学生の学習活動に対する組織的支援(例、学習相談室の設置等)を行っておられますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
行っている	55.0%	53.1%	47.6%	56.6%	45.5%	59.4%	53.1%	59.6%	51.9%
今までは行っていないが、現在検討中	27.6%	37.5%	33.3%	23.9%	34.8%	27.1%	21.9%	24.8%	29.0%
行っていない	17.4%	9.4%	19.0%	19.5%	19.7%	13.5%	25.0%	15.6%	19.1%
合計	333	64	42	226	66	192	64	141	183

【問10】過去5年間で、あなたの「大学・学部の教育」の質はどの程度改善されたと思われますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
改善された	13.6%	7.7%	14.3%	15.3%	17.6%	11.2%	14.5%	19.7%	9.7%
ある程度改善された	64.1%	80.0%	59.5%	60.3%	60.3%	73.0%	41.9%	60.6%	66.7%
どちらともいえない	20.5%	12.3%	26.2%	21.8%	20.6%	14.3%	40.3%	19.0%	21.0%
どちらかと言えば悪くなった	1.2%	0.0%	0.0%	1.7%	1.5%	0.5%	3.2%	0.7%	1.6%
悪くなった	0.6%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	1.1%
合計	337	65	42	229	68	196	62	142	186

【問11】以下①～(32)には、教育達成レベル(教育の質)を高めたための事項が示されています。それぞれの事項は、あなたの「大学・学部」の現状に、どの程度当てはまりますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

①学生が豊富な知識を持っている

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	2.7%	1.5%	2.3%	3.1%	1.5%	3.6%	1.5%	2.7%	2.2%
ある程度当てはまる	38.8%	44.8%	48.8%	34.6%	32.4%	44.3%	28.8%	34.9%	40.2%
どちらともいえない	44.8%	50.7%	41.9%	44.7%	50.0%	43.3%	45.5%	47.9%	44.0%
あまり当てはまらない	12.5%	3.0%	7.0%	15.8%	16.2%	7.2%	22.7%	13.7%	12.0%
当てはまらない	1.2%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	1.5%	1.5%	0.7%	1.6%
合計	335	67	43	228	68	194	66	146	184

②学生が熱心に学習する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	22.0%	22.4%	25.6%	21.3%	14.7%	23.5%	27.3%	22.4%	20.5%
ある程度当てはまる	48.4%	49.3%	67.4%	44.8%	57.4%	49.0%	39.4%	54.4%	44.3%
どちらともいえない	22.6%	26.9%	4.7%	24.3%	23.5%	21.9%	18.2%	17.0%	27.0%
あまり当てはまらない	8.2%	1.5%	2.3%	8.3%	4.4%	4.6%	13.6%	5.4%	7.0%
当てはまらない	0.9%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	1.0%	1.5%	0.7%	1.1%
合計	341	67	43	230	68	196	66	147	185

③教員が学生の成長発達に関心を持つ

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	27.3%	20.9%	16.3%	31.3%	22.1%	26.0%	37.9%	25.9%	27.0%
ある程度当てはまる	53.1%	53.7%	60.5%	51.3%	64.7%	52.0%	45.5%	56.5%	50.8%
どちらともいえない	17.3%	19.4%	20.9%	16.1%	7.4%	20.4%	15.2%	15.6%	19.5%
あまり当てはまらない	2.3%	6.0%	2.3%	1.3%	5.9%	1.5%	1.5%	2.0%	2.7%
合計	341	67	43	230	68	196	66	147	185

④教員が学生の質問や意見に関心を持つ

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	28.7%	26.9%	25.6%	30.0%	25.0%	30.1%	31.8%	25.9%	29.2%
ある程度当てはまる	59.5%	59.7%	62.8%	58.7%	57.4%	61.7%	51.5%	64.6%	57.3%
どちらともいえない	11.1%	11.9%	11.6%	10.9%	16.2%	7.7%	16.7%	9.5%	12.4%
あまり当てはまらない	0.6%	1.5%	0.0%	0.4%	1.5%	0.5%	0.0%	0.0%	1.1%
合計	341	67	43	230	68	196	66	147	185

⑤教員が学生をほめるよう努力する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	7.1%	4.5%	0.0%	9.2%	5.9%	5.7%	12.1%	8.2%	5.5%
ある程度当てはまる	41.9%	32.8%	41.9%	44.7%	44.1%	43.8%	37.9%	40.8%	43.7%
どちらともいえない	43.4%	50.7%	46.5%	40.4%	47.1%	41.8%	40.9%	45.6%	42.1%
あまり当てはまらない	6.8%	11.9%	9.3%	4.8%	2.9%	7.7%	7.6%	4.1%	8.7%
当てはまらない	0.9%	0.0%	2.3%	0.9%	0.0%	1.0%	1.5%	1.4%	0.0%
合計	339	67	43	228	68	194	66	147	183

⑥教員が学生の授業参加を促す

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	14.7%	6.0%	11.6%	17.8%	16.2%	15.3%	13.6%	17.7%	11.4%
ある程度当てはまる	54.5%	58.2%	46.5%	54.8%	57.4%	53.6%	56.1%	53.1%	56.8%
どちらともいえない	27.3%	32.8%	34.9%	24.3%	22.1%	28.6%	24.2%	24.5%	29.7%
あまり当てはまらない	2.6%	1.5%	4.7%	2.6%	1.5%	2.0%	6.1%	2.7%	2.2%
当てはまらない	0.9%	1.5%	2.3%	0.4%	2.9%	0.5%	0.0%	2.0%	0.0%
合計	341	67	43	230	68	196	66	147	185

⑦教員が優れた研究力を持っている

	単純集計	設置者			大学院			**	学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
当てはまる	22.9%	31.3%	27.9%	19.7%	17.6%	27.7%	16.7%	23.8%	22.3%	
ある程度当てはまる	54.7%	55.2%	53.5%	54.6%	60.3%	56.9%	40.9%	55.8%	53.8%	
どちらともいえない	19.1%	11.9%	16.3%	21.8%	17.6%	13.8%	34.8%	16.3%	21.7%	
あまり当てはまらない	2.6%	1.5%	2.3%	3.5%	4.4%	1.0%	7.6%	4.1%	1.6%	
当てはまらない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%	
合計	340	67	43	229	68	195	66	147	184	

⑧教員が豊富な知識を持っている

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	25.4%	31.3%	23.3%	24.2%	22.1%	28.9%	21.5%	25.3%	22.3%
ある程度当てはまる	57.7%	58.2%	55.8%	57.7%	55.9%	58.8%	53.8%	58.2%	57.4%
どちらともいえない	15.4%	10.4%	16.3%	16.7%	19.1%	11.3%	23.1%	15.8%	15.3%
あまり当てはまらない	1.2%	0.0%	4.7%	0.9%	2.9%	0.5%	1.5%	0.7%	1.6%
当てはまらない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	338	67	43	227	68	194	65	146	183

⑨教員が授業の準備を周到に行う

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	31.1%	29.9%	37.2%	30.4%	29.4%	28.6%	39.4%	32.0%	28.6%
ある程度当てはまる	53.4%	58.2%	44.2%	53.5%	54.4%	58.2%	39.4%	54.4%	54.1%
どちらともいえない	14.1%	10.4%	14.0%	15.2%	13.2%	12.2%	19.7%	13.6%	14.6%
あまり当てはまらない	1.5%	1.5%	4.7%	0.9%	2.9%	1.0%	1.5%	0.0%	2.7%
合計	341	67	43	230	68	196	66	147	185

⑩教員が授業内容を工夫する

	単純集計	設置者			大学院			***	学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
当てはまる	33.7%	31.3%	34.9%	34.3%	33.8%	31.1%	39.4%	32.0%	33.5%	
ある程度当てはまる	53.4%	56.7%	53.5%	52.2%	52.9%	60.7%	34.8%	57.8%	51.4%	
どちらともいえない	12.0%	10.4%	7.0%	13.5%	10.3%	7.7%	25.8%	10.2%	13.5%	
あまり当てはまらない	0.9%	1.5%	4.7%	0.0%	2.9%	0.5%	0.0%	0.0%	1.6%	
合計	341	67	43	230	68	196	66	147	185	

⑪教員が効果的な講義方法を工夫する(例:ポートフォリオ等)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	27.4%	29.9%	23.3%	27.6%	29.9%	26.2%	30.3%	26.5%	26.8%
ある程度当てはまる	49.6%	47.8%	60.5%	48.2%	46.3%	54.4%	39.4%	55.1%	47.5%
どちらともいえない	21.5%	20.9%	11.6%	23.2%	20.9%	18.5%	28.8%	18.4%	23.0%
あまり当てはまらない	1.5%	1.5%	4.7%	0.9%	3.0%	1.0%	1.5%	0.0%	2.7%
合計	339	67	43	228	67	195	66	147	183

⑫英語を使って授業をする

	単純集計	設置者			大学院			**	学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
当てはまる	0.9%	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.5%	3.0%	2.0%	0.0%	
ある程度当てはまる	15.9%	24.2%	14.0%	13.9%	5.9%	21.5%	10.6%	13.6%	17.4%	
どちらともいえない	37.9%	34.8%	46.5%	37.0%	41.2%	39.0%	30.3%	38.1%	38.6%	
あまり当てはまらない	27.9%	31.8%	25.6%	27.4%	35.3%	24.1%	28.8%	23.8%	32.1%	
当てはまらない	17.4%	9.1%	14.0%	20.4%	17.6%	14.9%	27.3%	22.4%	12.0%	
合計	340	66	43	230	68	195	66	147	184	

⑬国際的に標準とされるテキストを使って授業をする

	単純集計	設置者			**	大学院		*	学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
当てはまる	1.5%	0.0%	4.9%	1.3%	0.0%	2.1%	1.5%	2.1%	1.1%	
ある程度当てはまる	12.7%	24.2%	12.2%	9.1%	9.0%	16.9%	4.6%	10.3%	13.6%	
どちらともいえない	47.6%	45.5%	58.5%	46.5%	50.7%	49.2%	36.9%	47.6%	49.5%	
あまり当てはまらない	25.4%	24.2%	14.6%	27.8%	26.9%	22.1%	33.8%	25.5%	24.5%	
当てはまらない	12.7%	6.1%	9.8%	15.2%	13.4%	9.7%	23.1%	14.5%	11.4%	
合計	338	66	41	230	67	195	65	145	184	

## ⑩視聴覚機器を有効に活用する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	18.2%	17.9%	16.3%	18.8%	17.6%	20.5%	12.1%	20.4%	15.8%
ある程度当てはまる	59.7%	55.2%	74.4%	58.5%	57.4%	57.9%	68.2%	59.9%	60.3%
どちらともいえない	20.3%	25.4%	9.3%	20.5%	23.5%	20.5%	15.2%	17.7%	22.8%
あまり当てはまらない	1.5%	1.5%	0.0%	1.7%	1.5%	1.0%	3.0%	2.0%	1.1%
当てはまらない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	1.5%	100.0%	100.0%
合計	340	67	43	229	68	195	66		

## ⑪授業のシラバスを学生に提示する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	58.8%	58.2%	48.8%	61.1%	55.2%	61.7%	57.6%	63.9%	53.8%
ある程度当てはまる	34.7%	37.3%	32.6%	34.1%	31.3%	32.7%	39.4%	30.6%	38.6%
どちらともいえない	5.9%	4.5%	18.6%	3.9%	11.9%	5.1%	3.0%	5.4%	6.5%
あまり当てはまらない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.5%
当てはまらない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
合計	340	67	43	229	67	196	66	147	184

## ⑫オフィスアワーを設ける

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	***	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	36.0%	28.8%	11.9%	42.6%	39.7%	35.7%	36.9%	63.9%	34.2%
ある程度当てはまる	40.1%	56.1%	38.1%	36.1%	32.4%	42.3%	43.1%	32.2%	46.7%
どちらともいえない	17.1%	10.6%	35.7%	15.7%	19.1%	15.8%	13.8%	21.9%	14.1%
あまり当てはまらない	4.1%	3.0%	11.9%	2.8%	4.4%	3.1%	6.2%	5.5%	3.3%
当てはまらない	2.7%	1.5%	2.4%	3.0%	4.4%	3.1%	0.0%	4.1%	1.6%
合計	339	66	42	230	68	196	65	146	184

## ⑬少人数で教育を行う

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	40.7%	40.3%	33.3%	42.4%	50.0%	37.4%	40.0%	45.9%	35.9%
ある程度当てはまる	45.7%	47.8%	47.6%	45.0%	39.7%	47.2%	49.2%	40.4%	50.5%
どちらともいえない	11.5%	10.4%	14.3%	10.9%	8.8%	12.8%	10.8%	11.0%	12.0%
あまり当てはまらない	2.1%	1.5%	4.8%	1.7%	1.5%	2.6%	0.0%	2.7%	1.6%
合計	339	67	42	229	68	195	65	146	184

## ⑭ティーチング・アシスタント(TA)を活用する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	**	修士まで	博士まで	***	単科	総合
当てはまる	20.4%	31.3%	4.8%	20.1%	19.1%	24.7%	10.6%	21.2%	20.1%
ある程度当てはまる	46.9%	55.2%	50.0%	43.7%	41.2%	51.0%	37.9%	45.2%	47.3%
どちらともいえない	18.9%	11.9%	28.6%	19.2%	26.5%	16.0%	19.7%	16.4%	21.2%
あまり当てはまらない	4.7%	1.5%	4.8%	5.7%	1.5%	3.1%	12.1%	6.2%	3.8%
当てはまらない	9.1%	0.0%	11.9%	11.4%	11.8%	5.2%	19.7%	11.0%	7.6%
合計	339	67	42	229	68	194	66	146	184

## ⑮教員が学生による授業評価結果を参考にして授業改善に努める

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	*	単科	総合
当てはまる	32.4%	31.3%	20.9%	35.1%	35.3%	29.4%	39.4%	36.7%	26.8%
ある程度当てはまる	49.9%	59.7%	58.1%	45.2%	39.7%	55.7%	40.9%	48.3%	53.0%
どちらともいえない	13.6%	9.0%	11.6%	15.4%	17.6%	13.4%	10.6%	11.6%	15.3%
あまり当てはまらない	2.1%	0.0%	7.0%	1.8%	4.4%	0.0%	6.1%	2.0%	2.2%
当てはまらない	2.1%	0.0%	2.3%	2.6%	2.9%	1.5%	3.0%	1.4%	2.7%
合計	339	67	43	228	68	194	66	147	183

## ⑯厳格な成績評価を行う(例. GPA制)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	15.5%	16.4%	15.0%	15.4%	10.4%	17.7%	15.2%	19.2%	12.6%
ある程度当てはまる	32.7%	29.9%	20.0%	36.0%	26.9%	37.5%	24.2%	25.3%	37.4%
どちらともいえない	35.7%	43.3%	42.5%	32.5%	47.8%	31.3%	36.4%	38.4%	34.6%
あまり当てはまらない	9.5%	7.5%	15.0%	8.8%	9.0%	7.8%	13.6%	10.3%	9.3%
当てはまらない	6.5%	3.0%	7.5%	7.5%	6.0%	5.7%	10.6%	6.8%	6.0%
合計	336	67	40	228	67	192	66	146	182

## (21)学生の学習施設・設備を充実させる(例.図書館やパソコンの整備等)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	*	単科	総合
当てはまる	32.6%	29.9%	34.9%	33.0%	27.9%	36.2%	27.3%	35.4%	28.1%
ある程度当てはまる	57.8%	58.2%	53.5%	58.3%	64.7%	55.6%	56.1%	56.5%	61.1%
どちらともいえない	7.0%	10.4%	7.0%	6.1%	1.5%	7.1%	12.1%	6.8%	7.0%
あまり当てはまらない	2.6%	1.5%	4.7%	2.6%	5.9%	1.0%	4.5%	1.4%	3.8%
合計	341	67	43	230	68	196	66	147	185

## (22)学生の課外活動を組織的に支援する(例. クラブ専用施設の充実等)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	**	単科	総合
当てはまる	15.0%	11.9%	7.0%	17.4%	16.2%	15.3%	12.1%	14.3%	15.7%
ある程度当てはまる	49.3%	44.8%	53.5%	49.6%	52.9%	45.4%	59.1%	53.1%	46.5%
どちらともいえない	28.2%	35.8%	34.9%	24.8%	14.7%	34.2%	22.7%	26.5%	28.6%
あまり当てはまらない	6.5%	6.0%	4.7%	7.0%	14.7%	3.6%	6.1%	4.8%	8.1%
当てはまらない	1.2%	1.5%	0.0%	1.3%	1.5%	1.5%	0.0%	1.4%	1.1%
合計	341	67	43	230	68	196	66	147	185

## (23)教育施設・設備を充実させる(例. 視聴覚機器の整備等)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	29.7%	28.4%	19.0%	32.2%	22.1%	35.2%	23.1%	34.2%	25.9%
ある程度当てはまる	57.4%	59.7%	64.3%	55.2%	64.7%	54.6%	56.9%	54.1%	60.0%
どちらともいえない	10.3%	10.4%	14.3%	9.6%	10.3%	9.2%	12.3%	10.3%	10.3%
あまり当てはまらない	2.4%	1.5%	0.0%	3.0%	2.9%	1.0%	6.2%	1.4%	3.2%
当てはまらない	0.3%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.5%
合計	340	67	42	230	68	196	65	146	185

## (24)学業成績上位者を表彰する制度を設ける

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	22.4%	20.9%	11.6%	24.9%	19.1%	27.2%	13.6%	22.6%	22.2%
ある程度当てはまる	37.1%	26.9%	20.9%	42.8%	38.2%	36.4%	37.9%	30.1%	41.6%
どちらともいえない	22.1%	25.4%	32.6%	19.2%	25.0%	19.5%	25.8%	24.0%	20.5%
あまり当てはまらない	4.4%	7.5%	4.7%	3.5%	5.9%	2.6%	7.6%	5.5%	3.8%
当てはまらない	14.1%	19.4%	30.2%	9.6%	11.8%	14.4%	15.2%	17.8%	11.9%
合計	340	67	43	229	68	195	66	146	185

## (25)リメディアル教育を(補習授業)充実させる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	12.1%	4.5%	7.3%	15.2%	11.8%	13.8%	9.2%	11.0%	13.0%
ある程度当てはまる	43.4%	52.2%	26.8%	43.9%	38.2%	42.1%	52.3%	46.9%	40.0%
どちらともいえない	28.6%	29.9%	31.7%	27.4%	29.4%	27.7%	27.7%	29.0%	28.6%
あまり当てはまらない	8.6%	9.0%	12.2%	7.8%	10.3%	9.2%	4.6%	6.2%	10.3%
当てはまらない	7.4%	4.5%	22.0%	5.7%	10.3%	7.2%	6.2%	6.9%	8.1%
合計	339	67	41	230	68	195	65	145	185

## (26)セメスター制を採用する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	33.4%	29.9%	20.9%	37.0%	35.3%	30.1%	42.4%	30.6%	35.7%
ある程度当てはまる	31.4%	20.9%	39.5%	32.6%	32.4%	29.1%	36.4%	27.2%	34.6%
どちらともいえない	19.4%	26.9%	27.9%	15.7%	19.1%	20.4%	13.6%	21.1%	18.4%
あまり当てはまらない	5.0%	9.0%	2.3%	4.3%	1.5%	7.1%	3.0%	4.8%	4.3%
当てはまらない	10.9%	13.4%	9.3%	10.4%	11.8%	13.3%	4.5%	16.3%	7.0%
合計	341	67	43	230	68	196	66	147	185

## (27)1学期に取得可能な単位数の上限を設定する(CAP制)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	**
当てはまる	22.7%	26.9%	11.9%	23.6%	22.1%	25.3%	15.2%	17.2%	27.0%
ある程度当てはまる	30.7%	34.3%	26.2%	30.1%	38.2%	26.3%	37.9%	24.8%	34.1%
どちらともいえない	21.5%	19.4%	31.0%	20.5%	19.1%	21.1%	19.7%	23.4%	20.5%
あまり当てはまらない	7.7%	7.5%	9.5%	7.4%	7.4%	8.2%	7.6%	7.6%	8.1%
当てはまらない	17.4%	11.9%	21.4%	18.3%	13.2%	19.1%	19.7%	26.9%	10.3%
合計	339	67	42	229	68	194	66	145	185

## (28)他学部の授業が聴講可能である

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	***
当てはまる	26.2%	34.4%	10.0%	26.9%	23.4%	30.3%	19.3%	11.4%	36.2%
ある程度当てはまる	33.4%	29.7%	37.5%	33.5%	37.5%	32.4%	29.8%	24.4%	39.5%
どちらともいえない	19.6%	18.8%	22.5%	19.3%	17.2%	18.4%	24.6%	22.8%	16.8%
あまり当てはまらない	4.4%	6.3%	2.5%	4.2%	4.7%	3.8%	5.3%	4.9%	4.3%
当てはまらない	16.4%	10.9%	27.5%	16.0%	17.2%	15.1%	21.1%	36.6%	3.2%
合計	317	64	40	212	64	185	57	123	185



## (29)他大学と単位互換を行う

	単純集計	設置者 **			大学院			学部数 **	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	25.7%	43.3%	11.6%	23.3%	22.4%	29.1%	20.3%	20.1%	30.8%
ある程度当てはまる	33.4%	31.3%	30.2%	34.4%	35.8%	31.1%	39.1%	29.9%	36.8%
どちらともいえない	22.2%	20.9%	32.6%	20.7%	22.4%	23.5%	15.6%	24.3%	19.5%
あまり当てはまらない	6.2%	4.5%	4.7%	7.0%	6.0%	5.6%	6.3%	6.9%	5.9%
当てはまらない	12.4%	0.0%	20.9%	14.5%	13.4%	10.7%	18.8%	18.8%	7.0%
合計	338	67	43	227	67	196	64	144	185

## (30)主専攻・副専攻制を設ける

	単純集計	設置者			大学院			学部数 **	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	5.8%	7.7%	2.4%	5.9%	6.1%	6.3%	4.6%	5.1%	6.0%
ある程度当てはまる	21.0%	26.2%	9.8%	21.6%	21.2%	22.2%	17.5%	12.5%	26.6%
どちらともいえない	30.4%	33.8%	39.0%	27.9%	39.4%	26.5%	30.2%	30.9%	29.9%
あまり当てはまらない	9.1%	13.8%	4.9%	8.1%	7.6%	9.0%	9.5%	8.1%	10.3%
当てはまらない	33.7%	18.5%	43.9%	36.5%	25.8%	36.0%	38.1%	43.4%	27.2%
合計	329	65	41	222	66	189	63	136	184

## (31)転学部・転学科制度を設ける

	単純集計	設置者 *			大学院 *			学部数 ***	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	24.2%	27.3%	10.0%	25.9%	22.7%	25.7%	22.0%	17.9%	28.8%
ある程度当てはまる	29.4%	31.8%	17.5%	30.5%	25.8%	31.4%	23.7%	19.4%	37.5%
どちらともいえない	25.7%	22.7%	35.0%	25.0%	37.9%	23.6%	18.6%	29.1%	21.7%
あまり当てはまらない	3.7%	7.6%	5.0%	2.3%	1.5%	4.7%	3.4%	4.5%	3.3%
当てはまらない	17.1%	10.6%	32.5%	16.4%	12.1%	14.7%	32.2%	29.1%	8.7%
合計	327	66	40	220	66	191	59	134	184

## (32)大学が都市に位置している

	単純集計	設置者 *			大学院 *			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	22.4%	20.9%	11.9%	24.9%	14.7%	27.8%	16.7%	19.0%	25.1%
ある程度当てはまる	29.8%	20.9%	28.6%	32.3%	32.4%	27.3%	34.8%	27.9%	31.7%
どちらともいえない	20.9%	26.9%	21.4%	19.2%	19.1%	20.6%	21.2%	21.1%	20.8%
あまり当てはまらない	10.9%	17.9%	7.1%	9.6%	11.8%	9.3%	13.6%	11.6%	9.8%
当てはまらない	15.9%	13.4%	31.0%	14.0%	22.1%	14.9%	13.6%	20.4%	12.6%
合計	339	67	42	229	68	194	66	147	183

【問12】あなたの「大学・学部」では、FDとは何かを明確に定義した組織レベルの方針等がありますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。もし「1. 大学の方針がある」を選択された場合は、( )内に具体的な資料名をご記入下さい。

	単純集計	設置者 *			大学院 *			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
大学の方針がある	27.7%	35.9%	25.6%	25.9%	23.9%	34.0%	17.2%	26.4%	29.0%
大学の方針を検討中	56.5%	50.0%	51.2%	59.2%	53.7%	52.6%	65.6%	58.3%	54.6%
大学の方針は特になく検討中	15.8%	14.1%	23.3%	14.9%	22.4%	13.4%	17.2%	15.3%	16.4%
合計	336	64	43	228	67	194	64	144	183

【問13】あなたの「大学・学部」では、FDの内容領域を、次のどれに照準されていますか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

## 1. 教育活動

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	93.0%	97.0%	90.9%	92.2%	89.7%	95.5%	90.9%	91.8%	93.6%
いいえ	7.0%	3.0%	9.1%	7.8%	10.3%	4.5%	9.1%	8.2%	6.4%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

## 2. 研究活動

	単純集計	設置者 ***			大学院 *			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	31.8%	11.9%	36.4%	36.8%	41.2%	26.3%	39.4%	33.3%	31.0%
いいえ	68.2%	88.1%	63.6%	63.2%	58.8%	73.7%	60.6%	66.7%	69.0%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

## 3. 社会サービス活動

	単純集計	設置者 *			大学院 **			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	14.0%	4.5%	18.2%	16.0%	23.5%	8.6%	19.7%	17.7%	10.7%
いいえ	86.0%	95.5%	81.8%	84.0%	76.5%	91.4%	80.3%	82.3%	89.3%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

## 4. 管理運営活動

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	9.9%	6.0%	15.9%	10.0%	11.8%	8.1%	13.6%	10.2%	9.1%
いいえ	90.1%	94.0%	84.1%	90.0%	88.2%	91.9%	86.4%	89.8%	90.9%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

## 5. 人事事項

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	2.3%	1.5%	4.5%	2.2%	2.9%	1.5%	3.0%	2.0%	2.7%
いいえ	97.7%	98.5%	95.5%	97.8%	97.1%	98.5%	97.0%	98.0%	97.3%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

## 6. 自己点検・評価

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	47.5%	38.8%	40.9%	51.1%	52.9%	47.5%	42.4%	47.6%	48.1%
いいえ	52.5%	61.2%	59.1%	48.9%	47.1%	52.5%	57.6%	52.4%	51.9%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

## 7. 教員のキャリア開発

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	22.0%	20.9%	25.0%	21.2%	22.1%	20.2%	24.2%	21.1%	21.9%
いいえ	78.0%	79.1%	75.0%	78.8%	77.9%	79.8%	75.8%	78.9%	78.1%
合計	337	67	44	231	68	198	66	147	187

## 8. あまり明確にしていない

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	5.8%	4.5%	9.1%	5.6%	7.4%	4.5%	7.6%	7.5%	4.8%
いいえ	94.2%	95.5%	90.9%	94.4%	92.6%	95.5%	92.4%	92.5%	95.2%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

## 9. その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	2.3%	3.0%	4.5%	1.7%	1.5%	1.5%	3.0%	3.4%	1.6%
いいえ	97.7%	97.0%	95.5%	98.3%	98.5%	98.5%	97.0%	96.6%	98.4%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

【問14】あなたの「大学・学部」では、FDの取組において目的としている「よい教員」とは次のうちどのようなタイプでしょうか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
教育よりもむしろ専門分野の研究を重視し、学問業績に能力を発揮している教員	0.3%	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%
研究よりもむしろ教育を重視し、授業にすぐれた能力を発揮している教員	31.8%	16.4%	12.2%	39.9%	24.2%	29.2%	47.7%	31.0%	32.8%
研究と教育を同じ程度に重視して双方に相応の力を発揮している教員	62.3%	76.1%	78.0%	55.3%	71.2%	63.6%	52.3%	65.5%	59.0%
研究や教育よりもむしろ社会サービスに力を発揮している教員	0.3%	0.0%	2.4%	0.0%	3.0%	7.2%	0.0%	0.0%	0.5%
その他	5.3%	6.0%	7.3%	4.8%	100.0%	100.0%	100.0%	2.8%	7.7%
合計	337	67	41	228				145	183

【問15】あなたは、あなたの「大学・学部」の教育の改善や活性化は必要であると思われますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
必要である	90.1%	92.5%	86.4%	90.0%	83.8%	92.9%	87.9%	89.8%	90.9%
ある程度必要である	8.8%	6.0%	11.4%	9.1%	14.7%	6.6%	9.1%	9.5%	8.1%
あまり必要でない	0.9%	1.5%	0.0%	0.9%	0.0%	0.5%	3.0%	0.7%	1.1%
必要でない	0.3%	0.0%	2.3%	0.0%	1.5%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
合計	342	67	44	230	68	197	66		

【問16】【問15】で「1. 必要である」を選択された方に質問します。教育の改善と活性化が必要であるとお考えになる理由は何でしょうか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 学生に意欲を持って学習してもらうため

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	94.2%	91.9%	81.6%	97.1%	94.8%	95.1%	91.1%	93.1%	94.7%
いいえ	5.8%	8.1%	18.4%	2.9%	5.2%	4.9%	8.9%	6.9%	5.3%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

2. 学生に豊富な知識を習得してもらうため

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	47.4%	43.5%	39.5%	50.2%	46.6%	50.5%	39.3%	44.6%	48.5%
いいえ	52.6%	56.5%	60.5%	49.8%	53.4%	49.5%	60.7%	55.4%	51.5%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

3. 大学教育のグローバルスタンダード化への対応のため(JABEEなど)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	38.6%	53.2%	42.1%	33.3%	25.9%	50.0%	16.1%	33.1%	42.1%
いいえ	61.4%	46.8%	57.9%	66.7%	74.1%	50.0%	83.9%	66.9%	57.9%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

4. 学生(18歳)人口の減少に伴う大学生き残りのため

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	49.7%	22.6%	26.3%	62.3%	43.1%	49.5%	62.5%	48.5%	49.1%
いいえ	50.3%	77.4%	73.7%	37.7%	56.9%	50.5%	37.5%	51.5%	50.9%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

5. 外国人留学生に入学してもらうため

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	8.8%	16.1%	0.0%	8.2%	6.9%	9.8%	7.1%	5.4%	11.1%
いいえ	91.2%	83.9%	100.0%	91.8%	93.1%	90.2%	92.9%	94.6%	88.9%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

6. 生涯教育機関としての大学の役割が増大(社会人学生の増加等)しているため

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	42.2%	40.3%	31.6%	44.4%	46.6%	40.2%	42.9%	38.5%	45.6%
いいえ	57.8%	59.7%	68.4%	55.6%	53.4%	59.8%	57.1%	61.5%	54.4%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

7. 社会や国民からの大学教育批判に応えるため

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	26.0%	40.3%	36.8%	19.8%	31.0%	26.1%	19.6%	20.0%	29.2%
いいえ	74.0%	59.7%	63.2%	80.2%	69.0%	73.9%	80.4%	80.0%	70.8%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

8. 社会の情報化・国際化に対応したカリキュラム編成の必要性のため

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	50.0%	51.6%	63.2%	47.3%	55.2%	51.1%	41.1%	44.6%	54.4%
いいえ	50.0%	48.4%	36.8%	52.7%	44.8%	48.9%	58.9%	55.4%	45.6%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

9. 高校教育との接続の問題(学力の多様化など)に対応するため

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	42.2%	35.5%	31.6%	46.4%	37.9%	42.9%	46.4%	43.1%	41.5%
いいえ	57.8%	64.5%	68.4%	53.6%	62.1%	57.1%	53.6%	56.9%	58.5%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

10. 大学教員は大学教育の改善に努める責務があるため

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	76.9%	82.3%	81.6%	74.4%	74.1%	78.8%	69.6%	76.9%	76.6%
いいえ	23.1%	17.7%	18.4%	25.6%	25.9%	21.2%	30.4%	23.1%	23.4%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

11. 教育活動が大学評価の対象となっているため

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	39.0%	46.8%	28.9%	38.6%	48.3%	40.2%	26.8%	33.8%	41.5%
いいえ	61.0%	53.2%	71.1%	61.4%	51.7%	59.8%	73.2%	66.2%	58.5%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

## 12. その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	7.5%	9.7%	13.2%	5.8%	6.9%	8.7%	3.6%	8.5%	7.0%
いいえ	92.5%	90.3%	86.8%	94.2%	93.1%	91.3%	96.4%	91.5%	93.0%
合計	308	62	38	207	58	184	56	130	171

【問17】あなたの「大学・学部」では、過去5年の間に、教育に関するFD活動を実施しましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	**	単科	総合
実施した	73.3%	98.5%	57.5%	69.1%	64.2%	80.6%	60.7%	73.8%	73.9%
現在実施していないが、検討中	17.6%	0.0%	17.5%	22.4%	19.4%	15.7%	21.3%	17.0%	18.3%
実施しなかった	8.8%	1.5%	25.0%	8.1%	14.9%	3.7%	18.0%	8.5%	7.8%
わからない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%
合計	330	66	40	223	67	191	61	141	180

【問18】【問17】で「1. 実施した」を選択された方におたずねします。その行事は、どのようなテーマや内容ですか。以下の項目のうち当てはまるものを全て選択して下さい。

## 1. 講義方法

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	79.5%	82.8%	73.9%	78.9%	72.1%	82.4%	74.3%	76.5%	81.1%
いいえ	20.5%	17.2%	26.1%	21.1%	27.9%	17.6%	25.7%	23.5%	18.9%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 2. 学生評価の仕方

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	*	単科	総合
はい	51.5%	50.0%	34.8%	54.6%	34.9%	58.2%	40.0%	51.0%	52.3%
いいえ	48.5%	50.0%	65.2%	45.4%	65.1%	41.8%	60.0%	49.0%	47.7%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 3. 学生指導の方法

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	54.4%	70.3%	39.1%	50.0%	51.2%	54.2%	57.1%	55.9%	53.0%
いいえ	45.6%	29.7%	60.9%	50.0%	48.8%	45.8%	42.9%	44.1%	47.0%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 4. カリキュラムの組み方

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	79.5%	60.9%	39.1%	42.8%	39.5%	51.6%	37.1%	52.0%	43.9%
いいえ	20.5%	39.1%	60.9%	57.2%	60.5%	48.4%	62.9%	48.0%	56.1%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 5. テスト問題の作成

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	**	単科	総合
はい	15.1%	15.6%	0.0%	17.1%	7.0%	20.3%	0.0%	19.6%	11.4%
いいえ	84.9%	84.4%	100.0%	82.9%	93.0%	79.7%	100.0%	80.4%	88.6%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 6. 討論の技法

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	12.6%	15.6%	8.7%	11.8%	4.7%	15.0%	11.4%	13.7%	11.4%
いいえ	87.4%	84.4%	91.3%	88.2%	95.3%	85.0%	88.6%	86.3%	88.6%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 7. 教員と学生との関係作り

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	43.5%	42.2%	30.4%	46.1%	46.5%	42.5%	45.7%	42.2%	43.9%
いいえ	56.5%	57.8%	69.6%	53.9%	53.5%	57.5%	54.3%	57.8%	56.1%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 8. 卒業論文の指導方法

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	9.6%	4.7%	8.7%	11.8%	7.0%	9.8%	14.3%	8.8%	10.6%
いいえ	90.4%	95.3%	91.3%	88.2%	93.0%	90.2%	85.7%	91.2%	89.4%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 9. 研究活動のあり方

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	8.4%	0.0%	13.0%	11.2%	9.3%	4.6%	22.9%	13.7%	3.8%
いいえ	91.6%	100.0%	87.0%	88.8%	90.7%	95.4%	77.1%	86.3%	96.2%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 10. 管理・運営のあり方

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	4.2%	0.0%	8.7%	5.3%	4.7%	2.6%	11.4%	6.9%	2.3%
いいえ	95.8%	100.0%	91.3%	94.7%	95.3%	97.4%	88.6%	93.1%	97.7%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 11. 社会サービスのあり方

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	4.6%	6.3%	4.3%	3.9%	7.0%	3.3%	5.7%	4.9%	4.5%
いいえ	95.4%	93.8%	95.7%	96.1%	93.0%	96.7%	94.3%	95.1%	95.5%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 12. 大学・高等教育論

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	13.4%	21.9%	4.3%	11.2%	9.3%	16.3%	8.6%	6.9%	17.4%
いいえ	86.6%	78.1%	95.7%	88.8%	90.7%	83.7%	91.4%	93.1%	82.6%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

## 13. その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	12.1%	10.9%	17.4%	11.8%	14.0%	11.1%	14.3%	9.8%	14.4%
いいえ	87.9%	89.1%	82.6%	88.2%	86.0%	88.9%	85.7%	90.2%	85.6%
合計	239	64	23	152	43	153	35	102	132

【問19】あなたの「大学・学部」では、今後、FD活動がどの程度必要だと思われますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
必要である	78.4%	92.4%	78.6%	74.7%	71.6%	83.4%	71.9%	75.7%	80.1%
ある程度必要である	19.5%	7.6%	19.0%	22.7%	22.4%	15.5%	26.6%	21.5%	18.2%
あまり必要ない	1.8%	0.0%	2.4%	2.2%	6.0%	0.5%	1.6%	2.8%	1.1%
必要ない	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.6%
合計	334	66	42	225	67	193	64	144	181

【問20】あなたの「大学・学部」では、FD活動実施の委員会は設置されていますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
設置している	65.4%	83.3%	57.1%	62.0%	62.1%	69.4%	57.6%	67.6%	63.6%
設置していないが設置を検討中	21.0%	10.6%	23.8%	23.1%	19.7%	20.9%	21.2%	17.9%	23.4%
設置していないし検討もしていない	13.6%	6.1%	19.0%	14.8%	18.2%	9.7%	21.2%	14.5%	13.0%
合計	338	66	42	229	66	196	66	145	184

【問21】あなたの「大学・学部」では、次の事柄を実施していますか。実施しているものを全て選んで番号を○で囲んで下さい。なお、学長は全学レベルでの実施、学部長は学部レベルの実施についてご回答下さい。さらに、実施している場合、その開始時期(A=1991年以前、B=1992-1998年、C=1999年以降)を( )内にA、B、Cのいずれかの記号でご記入下さい。

## 1. シラバス

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	96.5%	98.5%	93.2%	96.5%	92.8%	97.5%	96.9%	96.6%	96.3%
実施していない	3.5%	1.5%	6.8%	3.5%	7.2%	2.5%	3.1%	3.4%	3.7%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 2. 学生による授業評価

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	86.3%	97.0%	79.5%	84.4%	79.7%	89.4%	81.3%	83.4%	88.4%
実施していない	13.7%	3.0%	20.5%	15.6%	20.3%	10.6%	18.8%	16.6%	11.6%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 3. AO入試

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	46.6%	17.9%	9.1%	61.9%	50.7%	41.2%	60.9%	37.9%	55.0%
実施していない	53.4%	82.1%	90.9%	38.1%	49.3%	58.8%	39.1%	62.1%	45.0%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 4. オフィスアワー

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	62.4%	65.7%	36.4%	66.7%	66.7%	60.8%	67.2%	55.2%	66.7%
実施していない	37.6%	34.3%	63.6%	33.3%	33.3%	39.2%	32.8%	44.8%	33.3%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 5. 少人数教育

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	81.6%	88.1%	72.7%	81.8%	79.7%	81.9%	82.8%	82.1%	81.5%
実施していない	18.4%	11.9%	27.3%	18.2%	20.3%	18.1%	17.2%	17.9%	18.5%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 6. 授業を外国語で行う

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	22.7%	23.9%	25.0%	22.1%	24.6%	24.6%	14.1%	22.8%	23.3%
実施していない	77.3%	76.1%	75.0%	77.9%	75.4%	75.4%	85.9%	77.2%	76.7%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 7. 他大学との単位互換制

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	64.1%	92.5%	54.5%	57.6%	68.1%	68.8%	46.9%	57.9%	69.8%
実施していない	35.9%	7.5%	45.5%	42.4%	31.9%	31.2%	53.1%	42.1%	30.2%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 8. 教養教育の重視

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	53.1%	79.1%	50.0%	46.3%	63.8%	51.8%	46.9%	49.0%	56.6%
実施していない	46.9%	20.9%	50.0%	53.7%	36.2%	48.2%	53.1%	51.0%	43.4%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 9. 主攻・副専攻制

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	10.5%	9.0%	6.8%	11.7%	10.1%	12.1%	7.8%	7.6%	13.2%
実施していない	89.5%	91.0%	93.2%	88.3%	89.9%	87.9%	92.2%	92.4%	86.8%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 10. 自己点検・評価

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	90.1%	91.0%	84.1%	90.9%	92.8%	91.0%	84.4%	86.2%	92.6%
実施していない	9.9%	9.0%	15.9%	9.1%	7.2%	9.0%	15.6%	13.8%	7.4%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 11. 大学基準協会の相互評価

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	31.2%	19.4%	25.0%	35.5%	23.2%	40.2%	14.1%	23.4%	36.0%
実施していない	68.8%	80.6%	75.0%	64.5%	76.8%	59.8%	85.9%	76.6%	64.0%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 12. 教養教育のコアカリキュラム

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	17.8%	35.8%	13.6%	13.4%	14.5%	19.1%	14.1%	17.2%	18.0%
実施していない	82.2%	64.2%	86.4%	86.6%	85.5%	80.9%	85.9%	82.8%	82.0%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 13. CAP制(単位の上限定)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	39.1%	50.7%	18.2%	39.8%	40.6%	39.2%	35.9%	26.9%	48.1%
実施していない	60.9%	49.3%	81.8%	60.2%	59.4%	60.8%	64.1%	73.1%	51.9%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 14. 授業におけるモニター制(授業参観)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	19.8%	34.3%	11.4%	17.3%	21.7%	21.1%	15.6%	18.6%	20.6%
実施していない	80.2%	65.7%	88.6%	82.7%	78.3%	78.9%	84.4%	81.4%	79.4%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 15. リメディアル教育(補習授業の実施)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	39.7%	55.2%	29.5%	37.2%	31.9%	42.2%	37.5%	45.5%	36.0%
実施していない	60.3%	44.8%	70.5%	62.8%	68.1%	57.8%	62.5%	54.5%	64.0%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 16. セミナー制(一つの授業をセミナーごとに完結させる)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	64.7%	58.2%	61.4%	67.1%	68.1%	61.8%	70.3%	57.9%	70.9%
実施していない	35.3%	41.8%	38.6%	32.9%	31.9%	38.2%	29.7%	42.1%	29.1%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 17. ティーチング・アシスタント(TA)の活用

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	62.7%	92.5%	56.8%	55.0%	52.2%	77.4%	26.6%	57.9%	67.2%
実施していない	37.3%	7.5%	43.2%	45.0%	47.8%	22.6%	73.4%	42.1%	32.8%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 18. GPA制(厳格な成績評価)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	17.5%	22.4%	11.4%	17.3%	10.1%	22.6%	9.4%	12.4%	21.2%
実施していない	82.5%	77.6%	88.6%	82.7%	89.9%	77.4%	90.6%	87.6%	78.8%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 19. 教員任用時における教育能力・資質の重視

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	49.9%	41.8%	45.5%	53.2%	60.9%	45.7%	53.1%	53.1%	47.1%
実施していない	50.1%	58.2%	54.5%	46.8%	39.1%	54.3%	46.9%	46.9%	52.9%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 20. 教員昇任時における教育能力・資質の重視

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
実施している	42.9%	29.9%	38.6%	47.6%	52.2%	38.7%	43.8%	46.9%	39.7%
実施していない	57.1%	70.1%	61.4%	52.4%	47.8%	61.3%	56.3%	53.1%	60.3%
合計	343	67	44	231	69	199	64	145	189

## 【開始時期】

## 1. シラバス

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	19.5%	13.0%	8.8%	23.4%	17.0%	25.5%	5.5%	18.9%	20.3%
1992-1998年	59.6%	75.9%	55.9%	55.3%	60.4%	62.1%	49.1%	52.5%	64.9%
1999年以降	20.9%	11.1%	35.3%	21.3%	22.6%	12.4%	45.5%	28.7%	14.9%
合計	277	54	34	188	53	161	55	122	148

## 2. 学生による授業評価

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	3.2%	1.9%	0.0%	4.2%	0.0%	4.6%	2.1%	3.8%	2.2%
1992-1998年	43.2%	37.0%	32.1%	46.7%	43.2%	48.3%	27.7%	39.0%	47.1%
1999年以降	53.6%	61.1%	67.9%	49.1%	56.8%	47.0%	70.2%	57.1%	50.7%
合計	250	54	28	167	44	151	47	105	138

## 3. AO入試

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	0.7%	0.0%	0.0%	0.8%	3.6%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%
1992-1998年	16.3%	0.0%	0.0%	17.2%	21.4%	17.4%	8.3%	10.4%	19.5%
1999年以降	83.0%	100.0%	100.0%	82.0%	75.0%	82.6%	91.7%	87.5%	80.5%
合計	135	8	4	122	28	69	36	48	87

## 4. オフィスアワー

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	11.0%	2.9%	8.3%	13.6%	2.9%	12.5%	13.2%	7.5%	14.1%
1992-1998年	40.7%	42.9%	33.3%	40.8%	48.6%	42.7%	31.6%	41.8%	40.4%
1999年以降	48.3%	54.3%	58.3%	45.6%	48.6%	44.8%	55.3%	50.7%	45.5%
合計	172	35	12	125	35	96	38	67	99

## 5. 少人数教育

	単純集計	設置者			大学院			***	学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし		単科	総合
1991年以前	46.5%	47.9%	34.6%	48.1%	55.6%	52.3%	21.3%	35.3%	55.3%	
1992-1998年	33.9%	37.5%	46.2%	30.8%	28.9%	34.1%	38.3%	36.3%	32.5%	
1999年以降	19.6%	14.6%	19.2%	21.2%	15.6%	13.6%	40.4%	28.4%	12.2%	
合計	230	48	26	156	45	132	47	102	123	

## 6. 授業を外国語で行う

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	37.7%	25.0%	11.1%	47.5%	38.5%	41.0%	25.0%	37.9%	38.7%
1992-1998年	21.3%	16.7%	33.3%	20.0%	15.4%	23.1%	25.0%	20.7%	19.4%
1999年以降	41.0%	58.3%	55.6%	32.5%	46.2%	35.9%	50.0%	41.4%	41.9%
合計	61	12	9	40	13	39	8	29	31

## 7. 他大学との単位互換制

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	9.8%	15.4%	5.3%	8.0%	13.2%	8.7%	7.4%	8.1%	10.3%
1992-1998年	33.7%	40.4%	21.1%	33.0%	23.7%	39.1%	29.6%	32.4%	35.5%
1999年以降	56.5%	44.2%	73.7%	58.9%	63.2%	52.2%	63.0%	59.5%	54.2%
合計	184	52	19	112	38	115	27	74	107

## 8. 教養教育の重視

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	39.3%	44.2%	35.3%	37.6%	40.0%	45.0%	26.9%	49.2%	32.9%
1992-1998年	33.8%	41.9%	35.3%	29.4%	31.4%	35.0%	30.8%	28.8%	37.8%
1999年以降	26.9%	14.0%	29.4%	32.9%	28.6%	20.0%	42.3%	22.0%	29.3%
合計	145	43	17	85	35	80	26	59	82

## 9. 主専攻・副専攻制

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	25.0%	50.0%	33.3%	19.0%	50.0%	22.2%	0.0%	33.3%	21.1%
1992-1998年	21.4%	25.0%	0.0%	23.8%	0.0%	27.8%	25.0%	33.3%	15.8%
1999年以降	53.6%	25.0%	66.7%	57.1%	50.0%	50.0%	75.0%	33.3%	63.2%
合計	28	4	3	21	6	18	4	9	19

## 10. 自己点検・評価

	単純集計	設置者			大学院			***	学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし		単科	総合
1991年以前	8.5%	18.0%	6.3%	8.2%	9.6%	10.6%	0.0%	8.1%	9.2%	
1992-1998年	65.8%	76.0%	50.0%	65.5%	61.5%	79.5%	30.0%	56.8%	73.2%	
1999年以降	25.8%	6.0%	43.8%	28.2%	28.8%	9.9%	70.0%	35.1%	17.6%	
合計	260	50	32	177	52	151	50	111	142	

## 11. 大学基準協会の相互評価

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	2.4%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	3.7%
1992-1998年	40.0%	60.0%	33.3%	36.9%	27.3%	46.2%	0.0%	39.3%	40.7%
1999年以降	57.6%	40.0%	66.7%	60.0%	72.7%	50.8%	100.0%	60.7%	55.6%
合計	85	10	9	65	11	65	7	28	54



## 12. 教養教育のコアカリキュラム

	単純集計	設置者			* 大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	10.4%	0.0%	40.0%	11.5%	42.9%	3.2%	12.5%	13.6%	8.3%
1992-1998年	50.0%	64.7%	0.0%	50.0%	28.6%	54.8%	50.0%	40.9%	62.5%
1999年以降	39.6%	35.3%	60.0%	38.5%	28.6%	41.9%	37.5%	45.5%	29.2%
合計	48	17	5	26	7	31	8	22	24

## 13. CAP制(単位の上限定)

	単純集計	設置者			* 大学院			学部数 **	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	23.2%	3.7%	40.0%	28.8%	25.0%	27.3%	9.1%	9.4%	29.9%
1992-1998年	18.8%	11.1%	0.0%	22.5%	10.0%	24.2%	13.6%	9.4%	23.4%
1999年以降	58.0%	85.2%	60.0%	48.8%	65.0%	48.5%	77.3%	81.3%	46.8%
合計	112	27	5	80	20	66	22	32	77

## 14. 授業におけるモニター制(授業参観)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	1.6%	0.0%	0.0%	2.6%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%
1992-1998年	14.8%	10.5%	50.0%	13.2%	14.3%	13.5%	22.2%	12.5%	14.3%
1999年以降	83.6%	89.5%	50.0%	84.2%	78.6%	86.5%	77.8%	87.5%	82.9%
合計	61	19	4	38	14	37	9	24	35

## 15. リメディアル教育(補習授業の実施)

	単純集計	設置者			* 大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	5.3%	3.4%	0.0%	6.8%	5.0%	5.8%	4.8%	5.3%	5.5%
1992-1998年	38.6%	62.1%	41.7%	28.8%	30.0%	46.4%	19.0%	42.1%	34.5%
1999年以降	56.1%	34.5%	58.3%	64.4%	65.0%	47.8%	76.2%	52.6%	60.0%
合計	114	29	12	73	20	69	21	57	55

## 16. セメスター制(一つの授業をセメスターごとに完結させる)

	単純集計	設置者			* 大学院			** 学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	13.0%	28.1%	8.3%	10.2%	8.1%	16.7%	5.1%	17.6%	10.3%
1992-1998年	45.1%	53.1%	45.8%	42.5%	40.5%	53.9%	28.2%	39.2%	47.7%
1999年以降	41.8%	18.8%	45.8%	47.2%	51.4%	29.4%	66.7%	43.2%	42.1%
合計	184	32	24	127	37	102	39	74	107

## 17. ティーチング・アシスタント(TA)の活用

	単純集計	設置者			* 大学院			*** 学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	7.7%	3.8%	4.5%	10.4%	3.3%	10.0%	0.0%	5.6%	9.4%
1992-1998年	58.0%	80.8%	40.9%	50.0%	40.0%	64.6%	26.7%	59.7%	56.6%
1999年以降	34.3%	15.4%	54.5%	39.6%	56.7%	25.4%	73.3%	34.7%	34.0%
合計	181	52	22	106	30	130	15	72	106

## 18. GPA制(厳格な成績評価)

	単純集計	設置者			* 大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	10.6%	0.0%	0.0%	16.1%	14.3%	11.8%	0.0%	14.3%	9.7%
1992-1998年	23.4%	8.3%	25.0%	29.0%	28.6%	20.6%	50.0%	21.4%	22.6%
1999年以降	66.0%	91.7%	75.0%	54.8%	57.1%	67.6%	50.0%	64.3%	67.7%
合計	47	12	4	31	7	34	4	14	31

## 19. 教員任用時における教育能力・資質の重視

	単純集計	設置者			* 大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	22.8%	13.0%	6.3%	27.8%	30.3%	25.7%	7.1%	17.9%	27.3%
1992-1998年	31.6%	39.1%	50.0%	26.8%	18.2%	36.5%	35.7%	35.8%	27.3%
1999年以降	45.6%	47.8%	43.8%	45.4%	51.5%	37.8%	57.1%	46.3%	45.5%
合計	136	23	16	97	33	74	28	67	66

## 20. 教員昇任時における教育能力・資質の重視

	単純集計	設置者			* 大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
1991年以前	27	20.0%	14.3%	30.2%	32.1%	31.7%	12.5%	18.6%	35.8%
1992-1998年	29.6%	26.7%	42.9%	27.9%	10.7%	38.3%	33.3%	35.6%	22.6%
1999年以降	43.5%	53.3%	42.9%	41.9%	57.1%	30.0%	54.2%	45.8%	41.5%
合計	115	15	14	86	28	60	24	59	53

【問22】あなたの「大学・学部」では、FDの実施結果を点検・評価するための委員会等を設置されていますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
委員会等を設置している	37.1%	48.5%	23.8%	36.4%	38.2%	38.3%	34.8%	38.3%	39.0%
委員会等を設置していない	17.8%	13.6%	26.2%	17.1%	20.6%	15.5%	16.7%	17.8%	15.9%
委員会等を設置していない	45.1%	37.9%	50.0%	46.5%	41.2%	46.1%	48.5%	45.9%	45.1%
合計	337	66	42	228	68	193	66	146	182

【問23】あなたの「大学・学部」で実施している学生による授業評価結果をどのように活用されていますか。次の選択肢から当てはまるものを全て選択して下さい。

1. 教員に評価結果を返却

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	79.0%	92.5%	63.6%	77.9%	63.2%	86.9%	68.2%	74.8%	82.4%
いいえ	21.0%	7.5%	36.4%	22.1%	36.8%	13.1%	31.8%	25.2%	17.6%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

2. 学生に評価結果を公表

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	34.1%	46.3%	25.0%	32.5%	33.8%	37.4%	25.8%	36.7%	32.1%
いいえ	65.9%	53.7%	75.0%	67.5%	66.2%	62.6%	74.2%	63.3%	67.9%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

3. 評価結果の良い授業を参観

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	5.3%	13.4%	0.0%	4.3%	4.4%	7.1%	3.0%	4.1%	7.0%
いいえ	94.7%	86.6%	100.0%	95.7%	95.6%	92.9%	97.0%	95.9%	93.0%
合計	337	67	44	231	68	198	66	147	187

4. 評価結果を教員の昇給や昇進に利用

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	2.3%	1.5%	0.0%	3.0%	5.9%	1.5%	1.5%	2.0%	2.7%
いいえ	97.7%	98.5%	100.0%	97.0%	94.1%	98.5%	98.5%	98.0%	97.3%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

5. その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	16.9%	22.4%	27.3%	13.4%	22.1%	15.7%	15.2%	17.7%	17.1%
いいえ	83.1%	77.6%	72.7%	86.6%	77.9%	84.3%	84.8%	82.3%	82.9%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

6. 学生による授業評価を実施していない

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	9.0%	1.5%	13.6%	10.4%	10.3%	7.6%	12.1%	7.5%	10.7%
いいえ	91.0%	98.5%	86.4%	89.6%	89.7%	92.4%	87.9%	92.5%	89.3%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

【問24】あなたの「大学・学部」には、大学教育を調査したり、教育改善を支援するような組織(例、大学教育研究センター等)はありますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。「1. ある」を選択された場合、その組織の名称を( )内にご記入下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
ある	27.7%	43.3%	14.0%	25.4%	22.4%	34.2%	12.3%	24.1%	31.4%
現在ないが、検討中	16.8%	23.9%	14.0%	15.4%	11.9%	17.3%	18.5%	11.7%	21.1%
ない	55.5%	32.8%	72.1%	59.2%	65.7%	48.5%	69.2%	64.1%	47.6%
合計	339	67	43	228	67	196	65	145	185

【問25】上の教育改善を支援するような組織(例、大学教育研究センター等)は、FD活動の実施や点検・評価などの役割を果たしていますか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
果たしている	30.8%	41.9%	20.0%	27.7%	21.1%	33.3%	25.0%	22.2%	35.3%
ある程度果たしている	48.6%	41.9%	30.0%	55.4%	52.6%	49.3%	50.0%	58.3%	45.6%
どちらともいえない	12.1%	16.1%	40.0%	6.2%	21.1%	10.7%	0.0%	8.3%	13.2%
あまり果たしていない	4.7%	0.0%	0.0%	6.2%	5.3%	2.7%	12.5%	5.6%	4.4%
果たしていない	3.7%	0.0%	10.0%	4.6%	0.0%	4.0%	12.5%	5.6%	1.5%
合計	107	31	10	65	19	75	8	36	68

【問26】貴学では、FD活動実施の結果、どの程度成果が得られましたか。次の各質問の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

①教員の教育能力・資質

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
高まった	9.2%	9.1%	3.8%	10.1%	7.5%	9.1%	8.7%	8.5%	9.4%
ある程度高まった	66.8%	74.2%	65.4%	64.2%	66.0%	70.7%	54.3%	70.1%	63.8%
あまり高まっていない	16.2%	12.1%	23.1%	16.8%	11.3%	15.9%	23.9%	15.4%	17.4%
高まっていない	3.0%	1.5%	0.0%	3.9%	5.7%	1.2%	6.5%	2.6%	3.4%
対象としていない	4.8%	3.0%	7.7%	5.0%	9.4%	3.0%	6.5%	3.4%	6.0%
合計	271	66	26	179	53	164	46	117	149

②教員の研究能力・資質

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
高まった	1.9%	0.0%	0.0%	2.9%	5.9%	0.0%	4.5%	2.7%	1.4%
ある程度高まった	23.2%	14.1%	25.0%	26.3%	19.6%	25.6%	15.9%	24.3%	22.3%
あまり高まっていない	27.8%	25.0%	25.0%	29.1%	23.5%	26.3%	36.4%	26.1%	29.1%
高まっていない	5.3%	1.6%	0.0%	7.4%	3.9%	5.0%	9.1%	5.4%	5.4%
対象としていない	41.8%	59.4%	50.0%	34.3%	47.1%	43.1%	34.1%	41.4%	41.9%
合計	263	64	24	175	51	160	44	111	148

③教員の社会サービスの能力・資質

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
高まった	1.5%	0.0%	0.0%	2.3%	3.8%	0.6%	2.2%	0.9%	2.0%
ある程度高まった	20.5%	17.2%	23.1%	21.3%	21.2%	17.6%	31.1%	25.7%	16.3%
あまり高まっていない	28.4%	23.4%	15.4%	32.2%	23.1%	28.3%	28.9%	27.4%	29.3%
高まっていない	4.5%	1.6%	3.8%	5.7%	7.7%	3.1%	6.7%	5.3%	4.1%
対象としていない	45.1%	57.8%	57.7%	38.5%	44.2%	50.3%	31.1%	40.7%	48.3%
合計	264	64	26	174	52	159	45	113	147

④教員の管理運営能力・資質

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
高まった	0.4%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.6%	0.0%	0.9%	0.0%
ある程度高まった	18.8%	12.5%	16.0%	21.5%	17.3%	19.3%	17.8%	21.9%	15.5%
あまり高まっていない	25.6%	20.3%	20.0%	28.2%	25.0%	25.5%	24.4%	23.7%	27.7%
高まっていない	6.8%	4.7%	8.0%	7.3%	9.6%	5.0%	11.1%	6.1%	7.4%
対象としていない	48.5%	62.5%	56.0%	42.4%	48.1%	49.7%	46.7%	47.4%	49.3%
合計	266	64	25	177	52	161	45	114	148

【問27】あなたの「大学・学部」では、FD活動実施の結果、教員の使命・役割・資質に関して真剣に考える風土や雰囲気は醸成されましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
醸成された	6.9%	7.8%	3.4%	7.2%	3.7%	7.8%	8.9%	6.0%	7.3%
ある程度醸成された	71.9%	73.4%	72.4%	71.3%	75.9%	74.3%	57.8%	74.4%	69.5%
あまり醸成されていない	18.6%	18.8%	17.2%	18.8%	11.1%	18.0%	28.9%	17.9%	19.9%
醸成されていない	2.6%	0.0%	6.9%	2.8%	9.3%	0.0%	4.4%	1.7%	3.3%
合計	274	64	29	181	54	167	45	117	151

【問28】次の①～⑤まではFD活動の現状の問題点とその回答を示しております。次の各質問の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

①FD活動の理念や概念が組織全体の教員に十分認識されていない。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	16.6%	13.6%	25.6%	16.0%	23.4%	15.0%	17.2%	12.0%	19.7%
ある程度当てはまる	61.4%	71.2%	43.6%	61.5%	59.4%	65.8%	50.0%	62.4%	60.7%
あまり当てはまらない	17.9%	12.1%	25.6%	18.3%	12.5%	16.0%	27.6%	20.3%	16.3%
当てはまらない	4.1%	3.0%	5.1%	4.2%	4.7%	3.2%	5.2%	5.3%	3.4%
合計	319	66	39	213	64	187	58	133	178

②FD活動が概してトップダウンになって、ボトムアップの取組がなかなか育たない悩みがある。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	9.0%	7.6%	13.5%	8.7%	12.9%	7.7%	10.7%	10.1%	8.6%
ある程度当てはまる	53.9%	56.1%	37.8%	55.8%	46.8%	55.5%	53.6%	54.3%	54.0%
あまり当てはまらない	28.7%	31.8%	32.4%	27.2%	30.6%	28.6%	26.8%	27.1%	28.7%
当てはまらない	8.4%	4.5%	16.2%	8.3%	9.7%	8.2%	8.9%	8.5%	8.6%
合計	310	66	37	206	62	182	56	129	174

③FD活動の概念や内容に関する専門家が学内にいない

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	28.0%	33.3%	39.5%	24.4%	31.3%	29.9%	29.1%	29.5%	27.1%
ある程度当てはまる	45.2%	39.4%	31.6%	49.3%	56.3%	42.7%	41.8%	43.4%	46.3%
あまり当てはまらない	19.7%	19.7%	26.3%	18.7%	12.5%	22.7%	18.2%	21.7%	18.1%
当てはまらない	7.0%	7.6%	2.6%	7.7%	0.0%	8.6%	10.9%	5.4%	8.5%
合計	314	66	38	209	64	185	55	129	177

④FD活動に無関心な教員がかなり見られる。

	単純集計	設置者			大学院			学部数 *	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
当てはまる	12.9%	16.7%	15.4%	11.3%	17.5%	11.8%	12.1%	9.0%	14.7%
ある程度当てはまる	54.7%	65.2%	38.5%	54.2%	46.0%	58.3%	50.0%	49.6%	60.5%
あまり当てはまらない	29.2%	18.2%	41.0%	30.7%	36.5%	27.3%	29.3%	36.8%	22.6%
当てはまらない	3.1%	0.0%	5.1%	3.8%	0.0%	2.7%	8.6%	4.5%	2.3%
合計	318	66	39	212	63	187	58	133	177

FD活動に無関心な教員の平均比率

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
平均値	38.7	37.8	42.6	38.3	38.5	38.6	38.3	35.8	40.4

⑤FD活動の連携や協力を推進する全国組織が必要であるとお考えですか。

	単純集計	設置者			大学院			学部数 *	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
必要である	20.2%	21.2%	25.0%	19.1%	25.8%	20.4%	13.3%	16.5%	22.9%
ある程度必要である	54.0%	56.1%	45.0%	54.9%	45.5%	55.4%	58.3%	59.0%	50.3%
あまり必要はない	22.4%	22.7%	27.5%	21.4%	27.3%	22.0%	18.3%	21.6%	22.9%
必要ない	3.4%	0.0%	2.5%	4.7%	1.5%	2.2%	10.0%	2.9%	4.0%
合計	322	66	40	215	66	186	60	139	175

【問29】上記の組織にはどのような機能を期待されますか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

1. 全国の大学で行われているFD活動の協議会的役割(情報交換やFD活動に関する調査・研究)

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	58.8%	52.9%	46.4%	63.3%	55.3%	61.7%	57.1%	55.8%	61.7%
いいえ	41.2%	47.1%	53.6%	36.7%	44.7%	38.3%	42.9%	44.2%	38.3%
合計	238	51	28	158	47	141	42	104	128

2. モデルとなるFD活動の開発・開催

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	62.6%	74.5%	39.3%	62.7%	70.2%	63.8%	45.2%	57.7%	68.8%
いいえ	37.4%	25.5%	60.7%	37.3%	29.8%	36.2%	54.8%	42.3%	31.3%
合計	238	51	28	158	47	141	42	104	128

3. 全国の大学のFD活動に対する指導・助言

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	45.4%	43.1%	46.4%	45.6%	46.8%	46.8%	40.5%	41.3%	47.7%
いいえ	54.6%	56.9%	53.6%	54.4%	53.2%	53.2%	59.5%	58.7%	52.3%
合計	238	51	28	158	47	141	42	104	128

4. 全国の大学へのFD活動に関する情報提供

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	71.8%	70.6%	71.4%	72.8%	61.7%	75.2%	73.8%	70.2%	75.0%
いいえ	28.2%	29.4%	28.6%	27.2%	38.3%	24.8%	26.2%	29.8%	25.0%
合計	238	51	28	158	47	141	42	104	128

5. 教員個々人の教育改善活動の支援

	単純集計	設置者			大学院			学部数 *	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	34.0%	33.3%	32.1%	34.8%	38.3%	32.6%	31.0%	26.0%	41.4%
いいえ	66.0%	66.7%	67.9%	65.2%	61.7%	67.4%	69.0%	74.0%	58.6%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

6. その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	1.3%	3.9%	0.0%	0.6%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	1.6%
いいえ	98.7%	96.1%	100.0%	99.4%	100.0%	97.9%	100.0%	100.0%	98.4%
合計	238	51	28	158	47	141	42	104	128

【問30】あなたの「大学・学部」のFD活動の現状を総合的に考えると、次のうちのどの段階にあると診断されるでしょうか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
FDとはフロッピーディスクだと多くの教員が思っているような段階	4.7%	0.0%	8.1%	5.5%	7.6%	2.2%	10.0%	5.3%	3.9%
FDの委員会を設置して研修会等を行うような比較的初期的な段階	53.0%	56.1%	64.9%	49.8%	47.0%	53.0%	56.7%	54.9%	50.8%
委員会活動等が軌道にのってかなり安定した状態にある段階	20.9%	31.8%	10.8%	19.4%	15.2%	25.9%	10.0%	18.8%	22.3%
ポトムアップの取組が育たないなどの種々の問題が生じている段階	14.3%	12.1%	5.4%	16.6%	21.2%	14.1%	10.0%	14.3%	15.6%
FDを最初からやり直すべく新たな体制による創意工夫を開始した段階	7.2%	0.0%	10.8%	8.8%	9.1%	4.9%	13.3%	6.8%	7.3%
合計	321	66	37	217	66	185	60	133	179

【問31】あなたの「大学・学部」でのFDの実施に関するこれまでの実績はどのようなものですか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
良好	4.6%	6.2%	2.5%	4.5%	1.5%	6.3%	3.1%	4.2%	4.5%
ある程度良好	38.6%	55.4%	30.0%	35.4%	38.5%	40.7%	29.7%	42.3%	35.4%
どちらともいえない	34.7%	30.8%	45.0%	34.1%	33.8%	35.4%	35.9%	33.1%	37.1%
あまり良好ではない	8.8%	7.7%	10.0%	9.0%	10.8%	9.5%	6.3%	7.0%	10.7%
良好でない	0.6%	0.0%	0.0%	0.9%	1.5%	0.0%	1.6%	0.7%	0.6%
実施していない	12.8%	0.0%	12.5%	16.1%	13.8%	7.9%	23.4%	12.7%	11.8%
合計	329	65	40	223	65	189	64	142	178

【問32】あなたの「大学・学部」の教育改善を目的とした教員能力開発活動(FD活動)を推進するには、次の選択肢のうちどの要因が重要でしょうか。当てはまるものを全てお選び下さい。

1. 学外のFD実施組織の支援

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	18.7%	17.9%	29.5%	16.9%	19.1%	17.7%	16.7%	19.0%	17.6%
いいえ	81.3%	82.1%	70.5%	83.1%	80.9%	82.3%	83.3%	81.0%	82.4%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

2. 学長や副学長など執行部のリーダーシップ

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	63.0%	55.2%	65.9%	64.9%	66.2%	62.6%	63.6%	63.9%	62.0%
いいえ	37.0%	44.8%	34.1%	35.1%	33.8%	37.4%	36.4%	36.1%	38.0%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

3. 各部署の長のリーダーシップ

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	50.4%	59.7%	47.7%	48.1%	52.9%	53.5%	37.9%	38.8%	62.0%
いいえ	49.6%	40.3%	52.3%	51.9%	47.1%	46.5%	62.1%	61.2%	38.0%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

4. 全学の教員一人一人の取組

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	88.3%	88.1%	79.5%	90.0%	80.9%	89.9%	89.4%	89.1%	87.7%
いいえ	11.7%	11.9%	20.5%	10.0%	19.1%	10.1%	10.6%	10.9%	12.3%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

5. 全学の職員一人一人の取組

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	41.1%	34.3%	29.5%	45.5%	41.2%	40.9%	39.4%	43.5%	40.1%
いいえ	58.9%	65.7%	70.5%	54.5%	58.8%	59.1%	60.6%	56.5%	59.9%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

6. 全学の学生一人一人の協力

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	19.0%	25.4%	13.6%	18.2%	19.1%	20.7%	10.6%	19.7%	18.2%
いいえ	81.0%	74.6%	86.4%	81.8%	80.9%	79.3%	89.4%	80.3%	81.8%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

## 7. 文部科学省のFDに関する政策提言

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	5.5%	1.5%	9.1%	6.1%	10.3%	3.0%	6.1%	5.4%	5.3%
いいえ	94.5%	98.5%	90.9%	93.9%	89.7%	97.0%	93.9%	94.6%	94.7%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

## 8. 文部科学省のFDに対する資金的支援

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	23.3%	32.8%	20.5%	21.2%	30.9%	22.7%	15.2%	21.1%	25.7%
いいえ	76.7%	67.2%	79.5%	78.8%	69.1%	77.3%	84.8%	78.9%	74.3%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	2.9%	7.5%	0.0%	2.2%	0.0%	3.5%	3.0%	4.1%	2.1%
いいえ	97.1%	92.5%	100.0%	97.8%	100.0%	96.5%	97.0%	95.9%	97.9%
合計	343	67	44	231	68	198	66	147	187

【問33】優れた授業や教育改善の試みに対して、何らかのかたちで報われるのがよい、という考えがありますが、あなたの「大学・学部」ではどのようにしておられますか。最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
既に、何らかのかたちで報われている	13.5%	22.7%	9.5%	11.6%	14.7%	14.7%	9.4%	12.5%	14.9%
何らかのかたちで報いる方向で準備している	35.9%	48.5%	28.6%	33.8%	26.5%	42.4%	28.1%	38.9%	33.7%
現在のところ何も考えていない	48.8%	27.3%	57.1%	53.3%	57.4%	41.9%	59.4%	46.5%	49.7%
そのようなことには反対である	1.8%	1.5%	4.8%	1.3%	1.5%	1.0%	3.1%	2.1%	1.7%
合計	334	66	42	225	68	191	64	144	181

【問34】【問33】で「1. 既に、何らかのかたちで報われている」を選択された方に質問します。実際にどのような方法で報われておられますか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

## 1. 教育賞のような賞を与える

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	34.8%	40.0%	0.0%	37.0%	10.0%	48.3%	16.7%	16.7%	46.4%
いいえ	65.2%	60.0%	100.0%	63.0%	90.0%	51.7%	83.3%	83.3%	53.6%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

## 2. 昇進時に重複する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	21.7%	20.0%	0.0%	25.9%	10.0%	24.1%	33.3%	33.3%	14.3%
いいえ	78.3%	80.0%	100.0%	74.1%	90.0%	75.9%	66.7%	66.7%	85.7%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

## 3. 給料やボーナスを上げる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	15.2%	6.7%	0.0%	22.2%	20.0%	10.3%	33.3%	16.7%	14.3%
いいえ	84.8%	93.3%	100.0%	77.8%	80.0%	89.7%	66.7%	83.3%	85.7%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

## 4. 教育の準備や研究のための特別休暇を与える

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	2.2%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	3.6%
いいえ	97.8%	93.3%	100.0%	100.0%	100.0%	96.6%	100.0%	100.0%	96.4%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

## 5. 研究費や研究旅費を給付する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	23.9%	26.7%	75.0%	14.8%	20.0%	24.1%	33.3%	27.8%	21.4%
いいえ	76.1%	73.3%	25.0%	85.2%	80.0%	75.9%	66.7%	72.2%	78.6%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	23.9%	33.3%	25.0%	18.5%	30.0%	20.7%	16.7%	22.2%	25.0%
いいえ	76.1%	66.7%	75.0%	81.5%	70.0%	79.3%	83.3%	77.8%	75.0%
合計	46	15	4	27	10	29	6	18	28

【問35】【問33】で「1. 既に、何らかのかたちで報いている」を選択された方に質問します。そのような施策はあなたの「大学・学部」の授業や教育の改善に効果があったと思われますか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
効果があった	21.7%	6.7%	25.0%	29.6%	40.0%	17.2%	16.7%	25.0%	
ある程度効果があった	50.0%	66.7%	50.0%	40.7%	40.0%	55.2%	33.3%	46.4%	
どちらともいえない	28.3%	26.7%	25.0%	29.6%	20.0%	27.6%	50.0%	27.8%	
合計	46	15	4	27	10	29	6	28	

【問36】逆に、学生による授業評価が悪いなど、教育活動の改善が必要と思われる教員に対して、あなたの「大学・学部」では何らかの対応をされていますか。最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数 *	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
既に、何らかのかたちで報いている	21.8%	9.5%	25.0%	24.9%	21.5%	21.5%	25.4%	28.3%	16.7%
何らかのかたちで対応する方向で準備している	38.3%	44.4%	27.5%	38.7%	35.4%	38.7%	37.3%	37.0%	39.1%
現在のところ何も考えていない	39.6%	46.0%	47.5%	35.9%	43.1%	39.8%	35.6%	34.1%	44.3%
そのようなことには反対である	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	1.7%	0.7%	0.0%
合計	321	63	40	217	65	186	59	138	174

【問37】【問36】で「1. 既に、何らかのかたちで対応している」を選択された方に質問します。実際にどのような方法で対応されていますか。次の選択肢から当てはまるものを全てお選び下さい。

1. 文章で注意する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	18.6%	33.3%	20.0%	16.7%	20.0%	17.5%	21.4%	15.8%	16.7%
いいえ	81.4%	66.7%	80.0%	83.3%	80.0%	82.5%	78.6%	84.2%	83.3%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

2. 口答で直接注意する

	単純集計	設置者 **			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	71.4%	33.3%	70.0%	75.9%	80.0%	67.5%	71.4%	73.7%	70.0%
いいえ	28.6%	66.7%	30.0%	24.1%	20.0%	32.5%	28.6%	26.3%	30.0%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

3. リストを学内・学部内に公表する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	11.4%	16.7%	0.0%	13.0%	13.3%	12.5%	7.1%	5.3%	20.0%
いいえ	88.6%	83.3%	100.0%	87.0%	86.7%	87.5%	92.9%	94.7%	80.0%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

4. FD活動への参加を促す

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	14.3%	16.7%	10.0%	14.8%	20.0%	12.5%	7.1%	13.2%	13.3%
いいえ	85.7%	83.3%	90.0%	85.2%	80.0%	87.5%	92.9%	86.8%	86.7%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

5. 授業改善計画を提出させる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	14.3%	16.7%	10.0%	14.8%	6.7%	15.0%	21.4%	13.2%	16.7%
いいえ	85.7%	83.3%	90.0%	85.2%	93.3%	85.0%	78.6%	86.8%	83.3%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

6. 昇進時に考慮する

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	14.3%	16.7%	0.0%	16.7%	20.0%	10.0%	14.3%	21.1%	6.7%
いいえ	85.7%	83.3%	100.0%	83.3%	80.0%	90.0%	85.7%	78.9%	93.3%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

7. 給料やボーナスに影響させる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	8.6%	0.0%	0.0%	11.1%	20.0%	5.0%	7.1%	7.9%	10.0%
いいえ	91.4%	100.0%	100.0%	88.9%	80.0%	95.0%	92.9%	92.1%	90.0%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

## 8. 研究費や研究旅費の査定に影響させる

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	4.3%	16.7%	0.0%	3.7%	0.0%	2.5%	7.1%	5.3%	3.3%
いいえ	95.7%	83.3%	100.0%	96.3%	100.0%	97.5%	92.9%	94.7%	96.7%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

## 9. その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
はい	8.6%	0.0%	10.0%	9.3%	20.0%	5.0%	7.1%	7.9%	10.0%
いいえ	91.4%	100.0%	90.0%	90.7%	80.0%	95.0%	92.9%	92.1%	90.0%
合計	70	6	10	54	15	40	14	38	30

【問38】【問36】で「1. 既に、何らかのかたちで対応している」を選択された方に質問します。そのような対応はあなたの「大学・学部」の授業や教育の改善に効果がありましたか。次の選択肢から最も当てはまるものを全てお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数		*
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合	
効果があった	13.2%	16.7%	0.0%	15.4%	26.7%	10.0%	8.3%	2.7%	26.7%	
ある程度効果があった	63.2%	50.0%	80.0%	61.5%	46.7%	62.5%	83.3%	73.0%	50.0%	
どちらともいえない	23.5%	33.3%	20.0%	23.1%	26.7%	27.5%	8.3%	24.3%	23.3%	
合計	68	6	10	52	15	40	12	37	30	

【問39】あなたの「大学・学部」では、教員の昇進審査に際して、以下に示した各活動は、それぞれの程度重視することを望ましいことと思われるますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

## ①研究活動

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視するのが望ましい	62.6%	80.3%	77.3%	54.9%	58.8%	70.5%	41.5%	61.4%	62.3%
ある程度重視するのが望ましい	35.9%	19.7%	22.7%	42.9%	39.7%	29.5%	52.3%	35.9%	37.2%
どちらともいえない	1.5%	0.0%	0.0%	2.2%	1.5%	0.0%	6.2%	2.8%	0.5%
合計	337	66	44	226	68	193	65	145	183

## ②教育活動

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視するのが望ましい	76.9%	74.2%	79.5%	77.4%	72.1%	79.3%	76.9%	77.9%	75.4%
ある程度重視するのが望ましい	22.0%	25.8%	18.2%	21.2%	26.5%	20.2%	20.0%	21.4%	23.0%
どちらともいえない	1.2%	0.0%	2.3%	1.3%	1.5%	0.5%	3.1%	0.7%	1.6%
合計	337	66	44	226	68	193	65	145	183

## ③学内の管理・運営活動

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視するのが望ましい	21.0%	19.7%	30.2%	19.6%	28.4%	19.3%	18.8%	20.0%	20.0%
ある程度重視するのが望ましい	61.7%	59.1%	62.8%	62.5%	61.2%	60.9%	68.8%	66.2%	58.9%
どちらともいえない	15.3%	18.2%	4.7%	16.1%	7.5%	17.7%	10.9%	11.7%	18.9%
あまり重視しないのが望ましい	1.5%	3.0%	2.3%	0.9%	3.0%	1.0%	1.6%	1.4%	1.7%
重視しないのが望ましい	0.6%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	1.0%	0.0%	0.7%	0.6%
合計	334	66	43	224	67	192	64	145	180

## ④社会サービス活動

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視するのが望ましい	16.0%	18.2%	25.6%	13.6%	16.4%	16.4%	12.5%	14.0%	16.2%
ある程度重視するのが望ましい	59.5%	62.1%	60.5%	58.8%	67.2%	56.6%	62.5%	65.0%	56.4%
どちらともいえない	22.7%	18.2%	14.0%	25.3%	16.4%	23.8%	25.0%	20.3%	24.6%
あまり重視しないのが望ましい	1.8%	1.5%	0.0%	2.3%	0.0%	3.2%	0.0%	0.7%	2.8%
合計	331	66	43	221	67	189	64	143	179

## ⑤その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視するのが望ましい	31.0%	50.0%	33.3%	25.0%	20.0%	35.3%	33.3%	35.7%	26.7%
ある程度重視するのが望ましい	44.8%	16.7%	66.7%	50.0%	80.0%	41.2%	16.7%	42.9%	46.7%
どちらともいえない	24.1%	33.3%	0.0%	25.0%	0.0%	23.5%	50.0%	21.4%	26.7%
合計	29	6	3	20	5	17	6	14	15



【問40】あなたの「大学・学部」では、教員の昇進審査に際して、以下に示した各活動は、現実にとどの程度重視されていますか。次の各事項内の選択肢から最も当てはまるものを1つずつお選び下さい。

①研究活動

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視されている	72.8%	81.8%	70.0%	70.5%	67.2%	78.6%	62.3%	71.2%	73.8%
ある程度重視されている	23.3%	16.7%	22.5%	25.4%	28.4%	18.2%	31.1%	23.7%	23.5%
どちらとも言えない	2.4%	1.5%	2.5%	2.7%	3.0%	1.6%	4.9%	3.6%	1.6%
あまり重視されていない	0.6%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.5%	1.6%	0.7%	0.0%
重視されていない	0.9%	0.0%	5.0%	0.4%	1.5%	1.0%	0.0%	0.7%	1.1%
合計	331	66	40	224	67	192	61	139	183

②教育活動

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視されている	31.4%	9.1%	27.5%	38.8%	37.3%	25.5%	44.3%	36.7%	27.9%
ある程度重視されている	45.9%	56.1%	50.0%	42.0%	47.8%	45.8%	42.6%	48.9%	43.7%
どちらとも言えない	12.4%	21.2%	7.5%	10.7%	7.5%	15.6%	8.2%	9.4%	13.7%
あまり重視されていない	7.3%	9.1%	7.5%	6.7%	6.0%	8.9%	3.3%	2.9%	10.9%
重視されていない	3.0%	4.5%	7.5%	1.8%	1.5%	4.2%	1.6%	2.2%	3.8%
合計	331	66	40	224	67	192	61	139	183

③学内の管理・運営活動

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視されている	9.1%	3.0%	5.0%	11.7%	16.4%	4.7%	14.8%	12.9%	5.5%
ある程度重視されている	42.1%	30.3%	37.5%	46.6%	50.7%	36.1%	54.1%	46.0%	40.7%
どちらとも言えない	28.5%	27.3%	30.0%	28.7%	16.4%	34.0%	21.3%	23.7%	31.9%
あまり重視されていない	12.1%	25.8%	12.5%	7.6%	9.0%	14.1%	8.2%	10.8%	12.6%
重視されていない	8.2%	13.6%	15.0%	5.4%	7.5%	11.0%	1.6%	6.5%	9.3%
合計	330	66	40	223	67	191	61	139	182

④社会サービス活動

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視されている	4.9%	0.0%	5.1%	6.4%	6.1%	3.7%	6.7%	5.1%	5.0%
ある程度重視されている	31.9%	31.8%	33.3%	31.8%	42.4%	24.9%	41.7%	36.5%	28.2%
どちらとも言えない	39.9%	34.8%	30.8%	43.2%	31.8%	43.4%	38.3%	41.6%	39.2%
あまり重視されていない	15.3%	24.2%	15.4%	12.3%	13.6%	16.9%	11.7%	10.9%	18.2%
重視されていない	8.0%	9.1%	15.4%	6.4%	6.1%	11.1%	1.7%	5.8%	9.4%
合計	326	66	39	220	66	189	60	137	181

⑤その他

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視されている	14.7%	22.2%	0.0%	13.6%	11.1%	15.8%	16.7%	21.4%	10.0%
ある程度重視されている	35.3%	33.3%	66.7%	31.8%	66.7%	21.1%	33.3%	28.6%	40.0%
どちらとも言えない	38.2%	44.4%	33.3%	36.4%	22.2%	52.6%	16.7%	42.9%	35.0%
あまり重視されていない	5.9%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	5.3%	16.7%	7.1%	5.0%
重視されていない	5.9%	0.0%	0.0%	9.1%	0.0%	5.3%	16.7%	0.0%	10.0%
合計	34	9	3	22	9	19	6	14	20

【問41】あなたの「大学・学部」の教員は一般に教育の改善に対して熱心だと思われませんか。次の選択肢から最も当てはまるものを1つお選び下さい。

	単純集計	設置者			大学院			学部数	
		国立	公立	私立	修士まで	博士まで	なし	単科	総合
重視されている	12.2%	6.2%	11.4%	14.2%	16.7%	11.9%	10.8%	18.3%	7.6%
ある程度重視されている	68.7%	72.3%	72.7%	67.1%	62.1%	72.2%	63.1%	67.6%	69.6%
どちらとも言えない	14.0%	15.4%	9.1%	14.2%	12.1%	11.9%	21.5%	11.3%	16.3%
あまり重視されていない	5.1%	6.2%	6.8%	4.4%	9.1%	4.1%	4.6%	2.8%	6.5%
合計	335	65	44	225	66	194	65	142	184

### 資料3 自由記述【問5】

【問5】上の【問4】で示した事項以外に、あなたの「大学・学部の教育」の質を改善するための重要な視点があれば以下にご記入下さい。

#### 【中学・高校の学力向上】

- ・中学・高等学校の学力の向上（私立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【学生募集を成功させる】

- ・広報活動をさらに充実し、学生募集を成功させることが急務である。（私立・大学院なし・1学部）
- ・附属高校からの入学者に教育の一貫性を生かせるように工夫する。・各種入試による入学者がその特性を生かせるよう工夫する。・留学生の特性を生かせるよう工夫し、学力の底上げを図るよう工夫する。（私立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【入学前教育の充実】

- ・入学前教育や導入教育の充実を図る（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・基礎教育に関して高大連携を図り、スムーズな導入教育を実施する。（私立・修士課程まで・1学部）

#### 【建学の精神・大学の理念の共有】

- ・建学の精神の再確認と教育研究への具現化（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・建学の精神の保持（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・大学のミッション、理念の明示化、ティーチングメソッドの改善・改革、最先端の教育を行う、学生のやる気を起こさす。（私立・大学院なし・2学部以上）
- ・建学の精神を大切に、アイデンティティを確立する（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・目的・理念を共有する（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・建学の精神の理解とそれに基づいた教育（私立・大学院なし・2学部以上）
- ・大学の存在根拠を教職員・学生に周知徹底させるためにミッションステートメントを掲げる（私立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【教員の意識改善】

- ・教員の意識の改善（国立・博士課程まで・1学部）
- ・教育研究を行うべき機能集団との意識を全教官が持つこと 育てるべき学生像を明確にし、それに沿った教育の内容方法を全教官が心

- がけること（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・大学は教育機関であることを総ての構成員が理解すること。（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員のプロ意識、若手教員への任期付任用、教員の評価システム、設置者の熱意（公立・博士課程まで・1学部）
- ・教員の意識改革、自己改造（公立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員同士の連絡を密にする（公立・修士課程まで・1学部）
- ・教員の姿勢を重視したい。研究意欲、指導力及び学生の主体性など芽を伸ばさせる努力など。（私立・修士課程まで・1学部）
- ・教職員の協力的体制の確立。（私立・博士課程まで・1学部）
- ・教職員の意識改革（私立・修士課程まで・1学部）
- ・担任制（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・教員の教育に対する熱意（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員が教育に情熱をもつこと（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員と職員の協働（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・いろいろな側面から、教員と学生のコミュニケーションを深めるために意識改革、システムづくりが重要と考えている。（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員が相互に教育活動の重要性を認め合い、日常的に研鑽の積めるような体制作りをし、研究偏重に終わらない空気を醸成する。（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・専任教員の意識改革を伴わなければ、大学はよくなる。研究も不十分、教育も熱意不足の教員がいる。（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・1.個々の学生の資質を各教員が如何に把握するか 2.科目間のリンケージ（私立・博士課程まで・1学部）
- ・教員の教育に対する能力を向上させる努力を、例えば互いの評価、学生からの評価、FD活動を通じて継続させる。（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生の心に火を点すような「教育力」を各教員は涵養する必要がある。（私立・博士課程まで・1学部）

- ・現代の学生の気質に対する教員の理解（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員間の意見・情報・体験等の交換、教員間の相互評価（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・いろいろな側面から、教員と学生のコミュニケーションを深めるために意識改革、システムづくりが重要と考えている。（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員が学生の求めているものを、できるだけ個別に把握し、それに応じて指導していきりたい（私立・大学院なし・2学部以上）

#### 【教育に意欲ある教員を採用・昇任させる】

- ・教員の採用に際して十分な審査を行い、教育に対する意欲ある人材を求める。（公立・博士課程まで・2学部以上）
- ・実務経験の豊かな人材を教員に登用する。海外留学の支援体制を充実する。実学教育の重視、及びインターシップやボランティア活動の推進による社会との連携を強化する。（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生による授業評価の結果を教員昇任基準に導入すること（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・いい先生を採用する（私立・大学院なし・不明）

#### 【チューター制度】

- ・歯科医学教育には、臨床技能の習得と向上を担保しておくことが必須の条件である。そのためにチューター制等を積極的に採り入れて行きたい。ただし、昔の徒弟制度にならないように注意しながら。（私立・不明・1学部）

#### 【教職員と学生との関係】

- ・教職員と学生との接点、関係を改善する。（私立・大学院なし・1学部）
- ・学生も教員も教育がよくなるために相互批判を行う。特に教員の授業公開を行う。（私立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【キャンパス教育・学習環境の改善】

- ・キャンパスのインテリジェント化を図り、学生・教職員に最適な情報を提供する。（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生の理解を容易にするために教育工学機器の一層の活用をはかる。（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・スペースの確保、談話室・スポーツ場・駐車場（私立・大学院なし・1学部）

#### 【勉学への動機づけ】

- ・学生が勉学する動機づけがきちりできるようになる。その事が質を改善することになる。（国立・博士課程まで・1学部）
- ・学生の自主性と勉学意欲の喚起（国立・博士課程まで・2学部以上）

- ・学生の創造性を高めるための各種の実験の充実（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生に勉学意欲をもたせる工夫（例えばチュートリアル教育）のための設備（国立・博士課程まで・1学部）
- ・大学に入学した目的（医師、看護師）、動機を維持向上させるカリキュラムの構築（国立・博士課程まで・1学部）

#### 【学生の視点にたった大学運営】

- ・学生の視点に合わせた大学運営を行う・教員がきめ細やかな個別指導を行う（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・1.学生同士のつながりを育成 2.教員同士のつながりを育成 3.教職員と学生とのつながりの育成 4.キャリア教育（私立・博士課程まで・1学部）

#### 【習熟度別クラス編成】

- ・習熟度別クラス編成（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・習熟度別教育、体験的学習、接続教育（国立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【教育の充実】

- ・初年次での教育の充実（学生に、大学は主体的に勉強する所であると自覚させる）、教育をやることの評価（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・大学の教育の重点をしめすために、教員が共同編集した『滋賀大学で環境を学ぶ』を新入生全員に配り、全員の環境意識の改善を試みた（国立・不明・2学部以上）
- ・教員及び教員組織において、教育へのインセンティブを高めること。（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学校教育実践に関する学生のインターシップを強化する。（国立・博士課程まで・1学部）
- ・教育目的の明示とそれを全構成員（教員・事務職員・学生）が共有していること（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・高校までの教育と、大学で望まれる教育とのGapが多きい。学生は「教わり方」と「受験の仕方」は知っているが、「自ら学ぶ方法」を知らない。読み方、考え方、書き方から教える必要があるの、入学1年次の補習教育が求められている。（公立・博士課程まで・1学部）
- ・シラバスの改善、FD、教育貢献に対するリターン（公立・修士課程まで・不明）
- ・全学共通カリキュラムの実施（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教育方法の改善と共に、大学カリキュラムの見直し、個々の授業内容・レベルの再検討（私立・大学院なし・1学部）
- ・大学の独自性を重視した、より特色ある教育体制・内容の確立（私立・博士課程まで・1学部）

部)

- ・明確な教育理念と教育到達目標を示すよう心がけている。これは入学者受け入れ方針にも言え、高校生・高校教師から一定の評価を得ている。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・カリキュラムの一貫性(入学から進路指導まで、資格取得の可能性)、リベラルアーツ学習の十分な配慮と専門基礎教育の確立("only-one") (私立・大学院なし・1学部)
- ・態度教育の充実、技能教育の充実(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・small group learning、初期体験学習、インターンシップの活用、単位互換(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・全学で「指導教授制」を導入し、学生の学習、学生生活などの相談・指導にあたっている。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・学生の多様化に対応するカリキュラムを作成する。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・学生の社会性を促進し、自己表現の能力を育てる。(私立・大学院なし・2学部以上)
- ・教育全体をコーディネートできる大学内の機関の存在(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・課題探求能力の育成、国際化社会で活躍できる外国語能力・倫理観の涵養。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・TOEICなどを選択科目とする(私立・博士課程まで・1学部)
- ・PBL Tutorial教育(少人数5~6名)(私立・博士課程まで・1学部)
- ・専門家養成教育の面で、各専門領域の現場の状況を、実習以外にボランティアや見学を通して、可能な限り早く・広く・深く理解させること。(私立・修士課程まで・2学部以上)
- ・カリキュラムとその到達レベルの設定(私立・大学院なし・2学部以上)
- ・各専門分野で社会の第一線で活躍している人を特別講師として招く。(私立・博士課程まで・1学部)
- ・語学教育において到達目標を設定する。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・1年次教育を充実させる(私立・修士課程まで・1学部)

#### 【教養と専門の問題】

- ・学部の専門性を教養として、教養科目に専門性を加味する(国立・修士課程まで・1学部)

#### 【評価・FDに関する問題】

- ・教員の教育に対する貢献を評価すること。(公立・博士課程まで・2学部以上)
- ・FD及び評価等に基づくカリキュラムの策定(公立・修士課程まで・1学部)
- ・実習指導評価(公立・大学院なし・1学部)
- ・定期的な自己点検・評価が必要(公立・大学院なし・1学部)
- ・教員の教育評価を昇任などの資料として活用す

ることが重要である。現在は研究業績の評価に大きな重点が置かれている。学生による教員の教育評価を取り入れる予定である。(公立・博士課程まで・1学部)

- ・教職員の組織機能の継続的な点検・評価・改善(私立・博士課程まで・1学部)
- ・自己点検の評価、教育者の質、少人数教育(私立・博士課程まで・1学部)
- ・大切だと思うが実行が十分でない項目、例えばGPAなどがあります。昨年末に自己点検・評価を公表、H15より学科の改組。(私立・博士課程まで・不明)
- ・教員の教育活動評価を深化させる。(私立・博士課程まで・1学部)
- ・FD活動の導入である(私立・大学院なし・1学部)
- ・FDの重要性の認識(私立・博士課程まで・1学部)

#### 【学生の自主的な活動支援】

- ・学生自治会活動、学生の自主的な学校行事などについての支援、教員の海外研修の奨励、米国コロラド大学との学科姉妹校締結などの国際交流を行っている(公立・大学院なし・1学部)

#### 【現場・地域から学ぶ】

- ・現職教育者との交流、教育ボランティアの活用(国立・博士課程まで・1学部)
- ・現場に学ぶ視点(国立・博士課程まで・2学部以上)
- ・学生に地域社会、産業に興味を持つようにさせる・学生にいわゆる「大志」を抱かせる(公立・博士課程まで・1学部)
- ・"京都市"という地域がもつ国際性・歴史性・文化的伝統等の特性を十分に活かした特色ある教育を重視したい。(公立・博士課程まで・2学部以上)
- ・地域の保健医療機関との連携を更に強化し、教育の場の拡大と教育スタッフとしての一層の協力を依頼する。(公立・博士課程まで・1学部)
- ・地域により一層貢献できる研究および教育(公立・大学院なし・1学部)
- ・地方に立地しているため、「地域」について特に教えていく必要がある(私立・博士課程まで・1学部)
- ・実践による体験を重視する。(私立・修士課程まで・1学部)
- ・ボランティア型教育の充実、クォーター制の必要性、実践型教育の充実、集中教育の実現(公立・修士課程まで・2学部以上)

#### 【実習等の問題】

- ・実習施設が近くにあるとありがたい。あるいは、移動のための車(小型バス)の利用。(公立・修士課程まで・1学部)
- ・実習施設の質の向上と連携を密にする(公立・修士課程まで・1学部)

- ・薬剤師実習(病院、薬局) ・実習の導入、増加(私立・博士課程まで・1学部)
- ・患者確保と臨床実習の充実(私立・博士課程まで・1学部)
- ・多くの実習とfieldwork(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【学生の国際交流】

- ・学生の国際交流を促す(公立・博士課程まで・1学部)
- ・国際交流 ・関係する学校法人、社会福祉法人、教会等のネットワーク(私立・博士課程まで・不明)

#### 【教員相互の授業参観】

- ・授業公開、授業改善の研究交流(私立・大学院なし・1学部)
- ・教員相互の授業見学を通して、各教員の授業方法の改善点を検討、実行することにより、教育の質をあげる。(私立・博士課程まで・1学部)
- ・教員が相互の授業を観察し、改善のための意見交換を行う。共通のテキスト ・資料等を開発する(スタンダードな科目について)。(私立・博士課程まで・2学部以上)

- ・同一科目の共同(交替)授業(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・双方向性の授業を行い、発言や意思表示の機会を多くする。(私立・大学院なし・2学部以上)
- ・ネット授業(e-learning)、クラスアドバイザー制度(私立・大学院なし・1学部)

#### 【厳格な評価】

- ・試験の評価を厳格にする。再試験(落ちた学生に対し)を認めない(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・定量的かつ客観的な成績評価(国立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【個性的な人材育成】

- ・個性的な人材育成(私立・博士課程まで・1学部)

#### 【大学院生の拡充】

- ・大学院レベルの学生の拡充(留学生 ・社会人等)、教学(学部 ・大学院レベル共に)での外部アクセスの強化(インターシップ導入等)(私立・博士課程まで・2学部以上)

## 資料4 自由記述【問9】

【問9】あなたの「大学・学部」では、どのような学生の学習活動に対する組織的支援（例・学習相談室の設置等）を行っておられますか。

### 【学生相談室】

- ・学生相談室、オフィスアワーの提示（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生相談制度、シラバスで可能な教官はオフィスアワー明示（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・オフィスアワーの設定、教務委員による学生との面談（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生相談室、オフィスアワー、スタディアドバイザー、TAによる履修相談、補習科目の設置（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生相談室の他にクラスアドバイザー制を設け、専任教員が相談指導にあっている。留学生に対し留学生センターを設け、留学生情報の一元化指導の充実を期した。（私立・大学院なし・1学部）
- ・相談室の設置、チューター制度の積極的活用（私立・博士課程まで・1学部）
- ・学習に限らず、学生生活全般における相談の窓口として「学生相談室」を設置している。（公立・大学院なし・1学部）
- ・学生相談室（教員、専門相談員、医師による）（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生相談室の設置（私立・大学院なし・1学部）
- ・学生支援室の設置（学生生活、修学支援業務）（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学習そのものに限らず、広範な課題に相談室が対応している。（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・学生相談室（カウンセラー出勤曜日に開設）（私立・博士課程まで・1学部）
- ・学生相談室および相談員制度（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生相談室の設置 専門の相談員の配置 国際交流センター設置（外国留学生） 1年次生より全員少数ゼミ制の採用（私立・修士課程まで・1学部）
- ・相談室、個別指導（私立・博士課程まで・1学部）
- ・学習相談室、就職相談室（私立・大学院なし・1学部）
- ・学生相談室制度を全教員に拡充し、一人の教員の学生数を10名以内/1学年に減らした。（私立・博士課程まで・1学部）
- ・学習相談室、資格学習支援センターの設置（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生が抱えている問題全般の相談窓口として

- 「学生相談室」があり、学習に関する特別の問題についてはオフィスアワー、教務担当教員及び教務課、個別教員へのふり分けを行っている。（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学習相談室の設置、オフィスアワーを設ける。担任制をひく、表彰制度（私立・大学院なし・2学部以上）
- ・アドバイザー制度、オフィス・アワー（私立・大学院なし・2学部以上）
- ・学習相談を行うTAを専門学科等に配置（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生支援センターの設置（平成15年度より省令施設として発足）（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・幾つかの学部で相談員体制作り、オフィスアワーの設定（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・「なんでも相談室」における学生相談委員の配置（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生相談室、進路（全生涯を通じて）支援センター、ボランティア・インターンサポート窓口の設置など（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生生活支援室・学生相談室による学生生活の支援活動を展開。学生の学習に資するよう教員のFD活動を支援する教育支援センターを設置し、間接的な形での学習支援も行っている。（私立・博士課程まで・2学部以上）

### 【チューター制度】

- ・チューター制度（国立・博士課程まで・1学部）
- ・チューター制や学年担当制など（公立・博士課程まで・1学部）
- ・教員による担当学生の学習・生活指導、「チューター制」昭和50年以降の伝統（公立・修士課程まで・2学部以上）
- ・教員がチューターとなり、週1度必ず学生と授業をもち、コミュニケーションを交わすシステムが確立されている。（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・演習担当教員をチューターとし、演習時間をその連絡にあてる（私立・大学院なし・1学部）
- ・チュートリアル制度、オフィスアワーの実施・図書館に個人学習室(4)、共同学習室(4)を設置（私立・大学院なし・1学部）
- ・組織的とはいえないが、1年次チュートリアルを実施、そのグループメンバーが当該教員と深くかかわることが多く、卒業時まで、

- 学習についての相談にあたっている(いわばチューターとして)(私立・不明・2学部以上)
- 留學生に対するチューター制度(全学)、課程(学科)によっては助言教官制度による支援を行っている。オフィス・アワー制度(全学)(国立・博士課程まで・1学部)
- 1. 助言教員制度 2. 助言教員による小クラスセミナー(私立・博士課程まで・1学部)
- 1. アドバイザー制をとり、各教員がオフィスアワーを設定し、相談にのっている。2. 教務委員会委員・教務事務センター職員が履修指導を行っている。(私立・修士課程まで・2学部以上)
- 担任制度、チューター制度と補講の実施、オフィスアワー(私立・博士課程まで・1学部)
- 学習相談室は設置していないが、教務課で対応している。又、クラス担任制、並びにプレゼミ及び基礎ゼミ等でも対応している。(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【オフィスアワーの開設】

- オフィスアワーの開設、学生の自主研究に研究費の支給(公立・博士課程まで・2学部以上)
- オフィスアワーの導入、キャリアデザインルームの設置(私立・博士課程まで・2学部以上)
- オフィスアワー、コンピュータでの自習プログラムソフト導入(私立・博士課程まで・1学部)
- オフィスアワー、チューター制(私立・修士課程まで・1学部)
- チューター制度、オフィスアワー制度(私立・修士課程まで・1学部)
- オフィスアワー、少人数教育(私立・博士課程まで・2学部以上)
- オフィスアワーの設置、図書館・パソコン等施設の使用時間の延長(私立・大学院なし・1学部)
- 専任教員によるオフィスアワーの開設及び学習支援センターの設置。学習支援センター：学習相談、数学・物理・英語の基礎学習を支援。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- 助言教員制度・学生相談室の設置(私立・博士課程まで・1学部)
- 教員のアドバイザー(助言)制度、学長のe-mailの公開(公立・博士課程まで・1学部)
- 担当教員、教務委員会、予算委員会を置く(公立・博士課程まで・1学部)
- 担任制度を設けて、担任教員が相談にあずかっている。(公立・博士課程まで・1学部)
- 担任制度を設け、学生ひとりひとりが自分の担任に学習面・生活面の相談が出来る様にしている(私立・博士課程まで・2学部以上)
- 全学教育に関しては、クラス担任によるオフィスアワーの開設、履修時期(4月、10月)には、相談室を設置(国立・博士課程まで・2学部以上)
- オフィスアワーの設定(国立・博士課程まで・

- 2学部以上)
- オフィスアワーの設置(教官が時間を決めて学生の相談を行う)(国立・博士課程まで・2学部以上)
- オフィスアワーの設定(国立・修士課程まで・不明)
- オフィスアワーを設けている。(公立・博士課程まで・1学部)
- オフィスアワー制度を設け、その中で対応している。(公立・博士課程まで・2学部以上)
- オフィスアワーの活用(全教員が分担)(私立・大学院なし・1学部)
- 学部ごとのオフィスアワーの実施(私立・修士課程まで・2学部以上)
- 各教員のオフィスアワーを設定している。(私立・博士課程まで・1学部)
- オフィスアワーの全学的実施(私立・博士課程まで・1学部)
- Office Hour体制の導入(私立・修士課程まで・2学部以上)
- 各教員がオフィスアワーを設け、学生からの学習相談に応じている。(私立・修士課程まで・1学部)
- オフィスアワーの設置(私立・修士課程まで・1学部)
- オフィスアワー等(私立・博士課程まで・1学部)
- オフィスアワーの設定(あまり有効に機能していない)、チューター制の導入(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【学習支援室・センター】

- 基礎教育支援センターを設置した。高校教育の教育経験者を14人採用し、1対1で教育指導を行うチューターが現在活動している。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- 学業支援室の設置、医師国家試験のための強化教育対策室の設置(私立・博士課程まで・1学部)
- 学習相談、3組織(数理・専門基礎・英語)(私立・博士課程まで・1学部)
- 平成14年度から学習支援室を設置して、修学に関する相談を受けている。平成15年度からは、6月より週3回各3時間の学習室(英語)を開設し、希望学生に語学学習を指導している。(私立・修士課程まで・2学部以上)
- 「学生中心の教育」の理念のもとで、オフィスアワーを設けて、アドバイザーである教員が学生と面談して、学生の学習活動用のカルテを作成し、学習目標の達成などのための相談や指導を行う。(私立・大学院なし・2学部以上)
- 各学科の教務委員による履修指導を行っている(ガイダンス以外)。1年次からゼミ制(アドバイザー)を設けている。オフィスアワーにより学生相談に対応している。(私立・大学院なし・1学部)

- ・教育学習支援センター………各種の資格取得支援、国際交流センター………海外留学等支援（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・大学全体としては実施していないが、今年より法学部において履修相談室を設置し、学業全般に関するきめ細かな相談と指導を行っている。（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・10月から設置される大学教育開発センターに「修学相談室」を設けているが、4月に実施した試行でニーズの大きいことを確認している。（国立・修士課程まで・2学部以上）
- ・学習支援センターの存在。アドバイザー制。学習支援センターに詰めてのオフィス・アワー設置。（私立・大学院なし・2学部以上）
- ・ガイダンス室、学生相談室を設け、学生の勉学と進路選択の相談にのっている。（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・一部の学部で「学びの相談室」を開設している。他学部でも開設を予定している。（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学習アドバイザー制度（公立・修士課程まで・不明）
- ・アドバイザー制の採用（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・一部の学部においては、学習相談室等を設置し、大学院生がTAとして、学部生の学習上の支援を行っている。（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・Academic Resource Center(ARC)を設置し、手空きの教員が学生の学習補助を行なっている。（私立・大学院なし・1学部）
- ・入学から卒業までの教育の一貫性をみるための教育センターの設置（私立・博士課程まで・1学部）
- ・教育開発センターでの学習支援（私立・修士課程まで・1学部）
- ・相談教授制度＝全教授が各学年数名ずつの学生を受け持ち、学年縦断的に交流と親睦、情報の交換などが行われるようにしている 学年担任制度＝全学年にそれぞれ主任教授をおき、担任教授としてその学年全体の問題に対処している（私立・博士課程まで・1学部）
- ・1.チューター(院生)を配した学習相談室がある。 2.CC(コミュニケーションサークル)制度による個別指導 3.夏季特別補習(有料)（私立・博士課程まで・1学部）
- ・学習支援室の設置、少人数ゼミの実施（国立・修士課程まで・1学部）

#### 【教官による履修指導】

- ・1、2年次生は履修指導教官が、3、4年次生は研究指導担当教官が履修指導等を行う。3、4年次で研究指導に所属していない学生に対しては、所属学科で履修指導を行う（国立・修士課程まで・1学部）

#### 【学年担当制】【学生課に相談室】

- ・学年担当制をとっている。相談室(学生課に)を設けている。（国立・不明・1学部）

#### 【なんでも相談室の設置】

- ・なんでも相談室の設置（国立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【補習教育の充実】

- ・補習教育の充実、全学的にオフィスアワーを設ける(計画中)（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・補習授業（私立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【水産高等学校出身者に対する学習支援】

- ・水産高等学校出身者に対する学習支援（国立・博士課程まで・1学部）

#### 【学長研究奨励費】【なんでも相談室】【オフィスアワー】【アドバイス教官制】【学長表彰】

- ・学長研究奨励費 ・なんでも相談室「よるまっし」の設置 ・オフィスアワー ・アドバイス教官制 ・学長表彰（国立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【教室・図書館の開館時間の深夜利用可】

- ・平成13年2月から各種国家試験及び卒業試験に向けて、グループ学習を行う学生の為に講義室、演習室を17:00～23:00まで利用許可している。また、学習に際し、教員の指導が必要な場合は、直接その教員に申し出て、指導が受けられるよう支援している。（国立・博士課程まで・1学部）
- ・図書館の開館時間の延長、自習室の提供(国立・博士課程まで・1学部)

#### 【情報ラボ等の課外時間における開放とサービスタッフ(学生)の配置】

- ・学生の自発的な学習を促進するために情報ラボ等の課外時間における開放とサービスタッフ(学生)の配置（国立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【就職相談室の設置】

- ・就職相談室の設置、TA制度の充実（国立・博士課程まで・1学部）
- ・キャリア支援センターにて入学から卒業まで個々の学生の支援をする。（私立・博士課程まで・1学部）

#### 【入学後のオリエンテーションの拡充】

- ・入学後のオリエンテーションの拡充、一泊研修、学生何でも相談室の設置（国立・不明・2学部以上）

#### 【クラス単位ごとにライブラリー・ツアー】

- ・図書館において、ゼミなどのクラス単位ごとにライブラリー・ツアーを随時実施して、学



生の学習活動を支援している。(国立・修士課程まで・1学部)

#### 【演習室の整備】

- ・少人数用の演習室(20室)の整備(公立・不明・2学部以上)

#### 【時間外に科目を設定】

- ・時間外に科目を設定し、教員は学生の要望に答えている。(公立・修士課程まで・1学部)

#### 【少人数教育】

- ・看護学科は、基本的に少人数教育プログラム(実習指導は2-3人~5-6人単位)が大半を占めている。(公立・大学院なし・1学部)
- ・少人数教育を重視し、教員は積極的に学生の求めに応じて助言する。(私立・博士課程まで・1学部)

#### 【いつでも学生は自由に訪室】

- ・いつでも学生は自由に訪室している。単科大学で小規模のため、アット・ホームな雰囲気がある。(公立・修士課程まで・1学部)
- ・相談室もあるが、学生が随時教員の研究室に入りするようにしている。(私立・大学院なし・2学部以上)

#### 【カウンセラーやクラス担任教官を置く】

- ・学内でカウンセラーを置くと共に学生相談のためクラス担任教官を置いている。学長が毎年新入生との懇談の場を設けている。(公立・博士課程まで・1学部)
- ・カウンセリングの専門家の配置、学生個別面談の実施(私立・修士課程まで・2学部以上)
- ・学生生活上の色々な悩み等に対して、学生カウンセラーが相談にのっている。(私立・大学院なし・2学部以上)
- ・各学科に担当教員を置く、カウンセラーも必要に応じて対応(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・体育系大学で初めて、スポーツカウンセリングを導入し、本学の特性から生じる学生相談に対応している。(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【学習活動をテーマとした基礎演習】

- ・オフィスアワーの設定。基礎演習の中で学習活動をテーマにしている。(公立・大学院なし・1学部)

#### 【「自主共同研究」に担当教員をつけて指導】

- ・問8-7の「自主共同研究」に担当教員をつけて指導あるいは支援(公立・修士課程まで・1学部)

#### 【生涯学習研究センターの充実】

- ・生涯学習研究センターの充実(公立・博士課程

まで・2学部以上)

#### 【学年顧問】

- ・学年顧問を置く(公立・修士課程まで・1学部)

#### 【数学における学力差によるクラス分け】

- ・数学における学力差によるクラス分け及び、数学・物理・化学における補習授業(私立・修士課程まで・1学部)

#### 【専門分野、実習担当者による個別指導が常時行なわれている】

- ・専門分野、実習担当者による個別指導が常時行なわれている。(私立・大学院なし・1学部)

#### 【専攻制・コース制を設け、学生の学習活動に対する支援を組織的に工夫】

- ・新たな教育システムとして専攻制・コース制を設け、学生の学習活動に対する支援を組織的に工夫している。(私立・大学院なし・1学部)

#### 【学生による自主的勉強会の奨励】

- ・学科によって必要度や必要点が異なる。が、資格取得(国家試験受験)を目指し、学生達が自主的に勉強会を設けているのを奨励したり、卒業した先輩による指導を組入れた勉強会の支援など(私立・大学院なし・1学部)

#### 【グループ主任制度】

- ・グループ主任制度、TAの活用、学生の授業評価、シラバスの提示、セメスター完結型授業の推進(不明・不明・2学部以上)

#### 【教務委員会の中に、学習支援部会を設置】

- ・教務委員会の中に、学習支援部会を設置(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【学業優秀者に対する奨学金制度】

- ・学業優秀者に対する奨学金制度の設置・アカデミックアドバイザー制の導入・実習指導室、就職指導室の設置(私立・博士課程まで・1学部)

#### 【クラス担任制】

- ・クラス担任制と学生の意見のメールによる収集と回答(私立・博士課程まで・不明)
- ・クラス担任制、オフィスアワーの設定(私立・博士課程まで・1学部)

#### 【語学教育ラボラトリーを設け、外国語学習の支援】

- ・語学教育ラボラトリーを設け、外国語学習の支援を実施している。日本語学習支援システムにより、留学生の日本語能力を向上させるべく努力している。TAを活用し、質問などへの一次対応を図っている。オフィスアワーを推進している(現在はボランティアベース)。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【自己学習の組織的な支援】**

- ・自己学習の組織的な支援。(私立・博士課程まで・1学部)

**【担任が面談・指導】**

- ・担任が面談・指導する(私立・修士課程まで・2学部以上)

**【学内無線LANの設置、教育用ソフトの作成】**

- ・学内無線LANの設置、教育用ソフト(Web)の作成
  - ・臨床基礎実習シミュレーション室の設置、実習机に情報コンセント設置・講義・実習を統合した授業が可能な一体型実習講義室の整備・クラス主任・学年主任の設置
- ・セミナー室の開放(私立・博士課程まで・1学部)

**【薬学教育推進室を設置】**

- ・薬学教育推進室を設置、薬剤師国家試験の対策を学生の個人的なレベルで行っている。(私立・博士課程まで・1学部)

**【補習学習室の充実】**

- ・導入、補習学習室の充実(私立・大学院なし・1学部)

**【フレッシュマンセンターの設置】**

- ・フレッシュマンセンターの設置、アカデミック・アドバイザー制度(私立・博士課程まで・1学部)

**【個別相談】**

- ・学生と授業に対する個別相談。数学が苦手な学生に対する数学講習会。レポート・論文作成に関する講習会等。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・定期的な個別面談による学生の学習目標と到達度の確認・助言を行っている。(私立・博士課程まで・1学部)
- ・高等学校教科(理系)の補習授業の制度化、留年生の補習授業システムの構築(選任教員の配置)(私立・博士課程まで・1学部)
- ・履修および習得単位数の少ない学生を呼び出して個別に指導している(公立・大学院なし・1学部)
- ・指導教授制による個別的な支援の体制(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【履修・生活全般の指導とカウンセリング】**

- ・履修・生活全般の指導とカウンセリング(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【医学教育担当教員を配置】**

- ・西新橋、国領の両キャンパスに専任の医学教育担当教員を配置し、学生が相談しやすい環境を提供している。(私立・博士課程まで・1学部)

部)

**【シラバスの電子化、講義室でのLANへのアクセス】**

- ・シラバスの電子化、公開、講義室でのLANへのアクセス。学習相談教員(リソースパーソン)の配置等。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【国試対策室、学生相談室の学習相談】**

- ・国試対策室、学生相談室の学習相談(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【カウンセリング研究所等との連携した総合的指導体制】**

- ・カウンセリング研究所等との連携した総合的指導体制、実施機関による個別指導の充実、学年担当制による個別指導(私立・博士課程まで・不明)

**【副担任制を導入】**

- ・現在、副担任制を導入したが、今後副担任制によるきめ細かな学習相談など。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【ホームルーム制】**

- ・ホームルーム制(私立・博士課程まで・1学部)

**【コンピュータの利用能力を高めるための支援・指導】**

- ・コンピュータの利用能力を高めるために、学生にノートパソコンを安価に貸与又は斡旋すると同時に、学内LAN環境の整備を行い、基礎教育支援室(情報)のスタッフが、授業後の支援・指導にあたっている。(私立・修士課程まで・2学部以上)

**【資格取得に向けてのグループ別学習の支援】**

- ・資格取得に向けてのグループ別学習の支援(私立・大学院なし・1学部)

**【学費減免制度、学資借入支援奨学金制度、診療費補助制度】**

- ・学費減免制度、資格取得支援制度、国際交流支援制度、学資借入支援奨学金制度、診療費補助制度、学習相談室他(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【基礎ゼミ】**

- ・入学時からの基礎ゼミ、アドバイザー・アワー制度を導入。(私立・大学院なし・2学部以上)
- ・基礎ゼミ、クラス担任の複数制(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【障害学生への支援】**

- ・障害学生への支援(ノートテイク等)(私立・修

士課程まで・2学部以上)

**【体験学習】**

- ・体験学習(私立・大学院なし・1学部)

**【指導教員制】**

- ・指導教員制、オフィスアワーの活用など、学生が個人的に教員とコミュニケーションを取りやすいよう配慮している。(私立・大学院なし・2学部以上)

**【医学教育企画室の設置】**

- ・医学教育企画室の設置(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【全ての学生に担当教員が付くことにより、履修指導を徹底】**

- ・クラスアドバイザー(1・2回生)、ゼミ担当教員(3・4回生) - 全ての学生に担当教員が付くことにより、履修指導を徹底している。また、TA(ティーチングアシスタント)・CA(キャリア支援アシスタント)・SA(スチューデントアシスタント)制度を運用している。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【学生による授業評価を導入】**

- ・学生による授業評価を導入し、教員の授業改善に役立てている。・パソコンスキル、英語運用能力支援(キャリア・サポート・ラボ設置)・チューター制度を設け、学生の個人指導に努めている。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【TA・SAの導入】**

- ・TA(ティーチング・アシスタント)、SA(スチューデント・アシスタント)の導入(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・T・A制度を大学院学生に適用している(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・共同研究室にTAを配置している。(私立・大学院なし・1学部)
- ・TA(teaching assistant)制の導入(特に情報教育)、地域産業・住民との相互交流による地域開発プログラムへの学生のインターンの参加、共同調査などの実験的導入(私立・大学院なし・1学部)
- ・1.TA経費の共通教育への優先的使用 2.物理・数学・英語での未履修者への対応(入門講義等の単位化)(国立・博士課程まで・1学部)

**【低単位者に対する定期的修学相談】**

- ・標準より低単位者に対する定期的修学相談(私

立・大学院なし・2学部以上)

**【学生の日本語能力向上のための課外授業】**

- ・現在は、学生の日本語能力向上のための課外授業を行っています。(私立・博士課程まで・1学部)

**【各学科毎に「コモンルーム」の設置】**

- ・各学科毎に「コモンルーム」を置いて、教員と学生が密接なコミュニケーションが取れるように工夫し、学習の場として活用している。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【語学教育センター、情報教育センターを設置】**

- ・語学教育センター、情報教育センターを設け常に学生の相談に対処している。オフィスアワーを設け学生の学習支援を行っている(私立・博士課程まで・1学部)

**【各学科における学生主事】**

- ・各学科における学生主事を古くからおいている  
・教務課が窓口で相談を受けている  
・オフィスアワーをおいている(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【1年次から少人数ゼミ形式の課外授業】**

- ・1年次から少人数ゼミ形式の課外授業を実施、自習室の充実、国家試験受験対策ゼミ、模擬テスト・対策講座の実施、資格取得奨励奨学金制度の充実(私立・大学院なし・1学部)

**【補講の実施】**

- ・教員採用試験対策補講、簿記試験対策補講(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・補習授業、大学院進学希望者などの特別指導、資格取得のための特別指導(私立・大学院なし・1学部)

**【インストラクター制度】**

- ・インストラクター制度：本学卒業生で薬剤師国試合格した者を、各教室に所属させ、学習相談、実習支援させている。(私立・大学院なし・1学部)

**【基礎演習授業やチューター制活用によって、きめ細かい支援・指導】**

- ・基礎演習授業やチューター制活用によって、きめ細かい支援・指導を行っている。(私立・博士課程まで・2学部以上)

## 資料5 自由記述（【問19】）

【問19】どのような内容のFD活動が必要だと思われますか。

### 【学生指導の方法】

- ・学生指導の方法（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生への教育的指導（私立・大学院なし・1学部）

### 【2006年問題の認識】

- ・2006年問題(学力の低下について)を認識する（私立・博士課程まで・1学部）

### 【学生に学問のおもしろさを実感させる】

- ・学生に学問のおもしろさを実感させる。学ぶことに興味をもたせる。（私立・大学院なし・2学部以上）

### 【講義のあり方】【学生の満足度】【研究活動】

- ・講義のあり方、学生の満足度、教員の研究活動等（私立・修士課程まで・2学部以上）

### 【ティーチングメソッド'の開発、モデル作り】

- ・ティーチングメソッドの開発、モデル作り（私立・大学院なし・2学部以上）
- ・学生評価、講義方法（私立・博士課程まで・2学部以上）

### 【教育のための教員の能力開発】

- ・教育のための教員の能力開発（私立・博士課程まで・1学部）

### 【教育評価】

- ・教育評価に関する事項（私立・博士課程まで・1学部）

### 【学生の主体的授業参画】

- ・学生の主体的授業参画と、授業評価による授業改善、IT化に対応したシステム開発等（私立・博士課程まで・2学部以上）

### 【学生の研究動機を刺激する授業の確保】

- ・学生の研究動機を刺激する授業の確保（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・学生のモチベーションを上げるための指導・授業方法（私立・博士課程まで・2学部以上）

### 【全入時代を迎えて、どのように学生の實力を向上させるのか、の検討】

- ・全入時代を迎えて、どのように学生の實力を向上させるのか、の検討。（私立・博士課程まで・

2学部以上）

### 【学生評価の仕方】

- ・学生の評価の仕方とその活用の仕方（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生評価の仕方、社会サービスのあり方（私立・大学院なし・1学部）
- ・学生、成績評価の仕方・現代の大学(学部)教育論（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生評価の仕方、学生指導の方法（私立・大学院なし・1学部）
- ・学生評価、講義方法、学生指導方法（私立・大学院なし・1学部）
- ・問18の2.学生評価の仕方、3.学生指導の方法、7.教員と学生との関係作り（私立・博士課程まで・1学部）
- ・学業成績評価方法（私立・博士課程まで・2学部以上）

### 【学生による教員の評価】

- ・学生による教員の評価、教育活動、自己点検と評価（私立・博士課程まで・2学部以上）

### 【学生による授業評価】

- ・「学生による授業評価」と組合わせた(連携させた)FD、教員同士の授業評価や授業見学等（私立・博士課程まで・1学部）
- ・学生による授業評価（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・学生による授業評価を主として（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生による授業評価、シラバスの改良改善、教材・授業方法の改善、教員間の研究発表、他（私立・博士課程まで・1学部）

### 【教員が学生と対話する能力】

- ・教員が学生と対話する能力（私立・博士課程まで・1学部）

### 【学生指導の方法】【研究と教育活動のあり方】

- ・学生指導の方法、研究と教育活動のあり方（私立・博士課程まで・2学部以上）

### 【ワークショップ型のFD】

- ・ワークショップ型のFD（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・自らが授業改善を体験できるワークショップ形式のFD（国立・博士課程まで・2学部以上）

- ・教員の授業実施方にかかわるワークショップ（私立・博士課程まで・1学部）
- ・教育ワークショップによるteaching staffの養成、教育方針の改善など（私立・博士課程まで・1学部）

### 【大学に対する社会的ニーズの把握】

- ・大学に対する社会的ニーズの把握、大学の理念・目標の明確化、大学の教育目標の具体化、学科の教育目標の具体化、効果的・体系的カリキュラムの構築、個別科目の目標の具体化、授業設計、学習者の評価、教授者評価（国立・修士課程まで・1学部）

### 【大学教員としての資質向上】

- ・大学教員としての資質向上（国立・修士課程まで・1学部）
- ・教員の資質向上（公立・大学院なし・1学部）
- ・教員の資質向上（私立・博士課程まで・1学部）
- ・教員の資質、教育方の向上、民主的な大学の運営（公立・大学院なし・1学部）
- ・教員の資質の向上、教員の能力開発、病院の経営向上（公立・博士課程まで・不明）

### 【教育方法の改善】

- ・教育方法の改善、教育内容の改善のため（国立・博士課程まで・1学部）
- ・教育の方法改善（私立・大学院なし・2学部以上）
- ・一般的な意味での教育改善と学生のレベルに合わせた有効な教育方法の開発（国立・博士課程まで・1学部）
- ・教育改善にベストをつくすのは、高等教育機関としての義務である（国立・修士課程まで・1学部）
- ・教育方法に関すること（公立・不明・2学部以上）
- ・教育の改善（私立・博士課程まで・不明）
- ・教育方法の改善（私立・大学院なし・2学部以上）
- ・組織的教育方法・内容の検討改善（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・各教員が教育能力を上げることにつながるようなFD活動（私立・大学院なし・不明）
- ・当面は教育方法を焦点とせざるをえない（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員の教育方法の改善（私立・修士課程まで・1学部）
- ・カリキュラムの策定等総論的な事項を中心に行ってきたので、教育技法などより具体的なテーマに移行したいと考えている。（私立・博士課程まで・1学部）
- ・教育の基本技術について講義を聞く・教養教育、共通教育のあり方とその役割に関する検討を通じ、教員のFD活動への自覚を促す（国立・博士課程まで・1学部）

- ・講義方法、討論の技法（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・問18の1.講義方法、2.学生評価の仕方、3.学生指導の方法、5.テスト問題の作成、6.討論の技法、7.教員と学生との関係作り、8.卒業論文の指導方法、11.社会サービスのあり方、についての意見・経験交流（公立・修士課程まで・1学部）
- ・問18の1.講義方法、2.学生評価の仕方、3.学生指導の方法、4.カリキュラムの組み方、5.テスト問題の作成、6.討論の技法、7.教員と学生との関係作り、8.卒業論文の指導方法（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・問18の1.講義方法、2.学生評価の仕方、3.学生指導の方法、4.カリキュラムの組み方、5.テスト問題の作成、6.討論の技法、7.教員と学生との関係作り、8.卒業論文の指導方法、9.研究活動のあり方、10.管理・運営のあり方、11.社会サービスのあり方、12.大学・高等教育論、のすべて（私立・大学院なし・2学部以上）
- ・講義方法(少人数教育)と学生評価（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・講義方法、学習指導の方法、卒業論文の指導方法、学生中心の教育（私立・大学院なし・2学部以上）
- ・教員の教授法の開発、教員の相互研鑽（私立・大学院なし・1学部）
- ・効果的授業方法の共有化・もの作り導入教育から専門科目への動機啓発教育法（私立・博士課程まで・1学部）
- ・講義方法、学生指導、研究活動、大学・高等教育論（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・授業方法・成績評価・学生指導方法などの教育面（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・問18の1.講義方法、2.学生評価の仕方、3.学生指導の方法、に関するもの（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・講義方法、教員と学生との関係作り（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・講義のやり方、学生との関係作り（私立・修士課程まで・1学部）
- ・講義方法、学生指導の方法など（不明・不明・2学部以上）
- ・講義方法、学生指導方法（私立・博士課程まで・1学部）
- ・講義方法や学生指導面でのFDが必要（私立・博士課程まで・1学部）
- ・講義方法・学生指導方の改善（私立・博士課程まで・1学部）
- ・教育方法、カリキュラム（公立・修士課程まで・1学部）
- ・講義方法の改善、教員の教育に対する熱意の向上（公立・博士課程まで・2学部以上）
- ・【問18】中の1.「講義方法」の工夫、4.「カリキュラムの組み方」、6.「討論の技法」、9.「研究活動のあり方」、12.「大学・高等教育論」（公立・修士課程まで・1学部）

- ・講義、方法、内容の充実（公立・修士課程まで・1学部）
- ・講義の方法について（公立・博士課程まで・1学部）
- ・講義方法（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・良質の講義を行うための技術・知識等の習得（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・講義方法の改善（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・教授方法（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・講義方法（私立・大学院なし・1学部）
- ・講義方法、学生指導の方法、教育効果の高い時間割の編成（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・問18の1.講義方法、2.学生評価の仕方、3.学生指導の方法、5.テスト問題の作成、6.討論の技法、の内容（私立・大学院なし・1学部）
- ・学習目標を達成するためには、学生の学習意欲向上が必要。そのためには、対話・相方向型教育方法の確立が必要。（私立・博士課程まで・1学部）
- ・学生の学習効果を高め、かつモチベーションを高めるための授業・教育方法の開発を行うこと。とくに、大学で勉強することの意味を理解させることが先決。（私立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【教員の学生に対する接し方の改善】

- ・教員の学生に対する接し方(授業中の注意・指導など)の改善（私立・博士課程まで・1学部）
- ・指導法の改善、カリキュラム開発、指導組織開発、自己点検・評価の在り方と「第3者評価」への対応（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生の多様化に伴うきめ細やかな指導方法 情報機器、パソコン等教育工学の導入に関するFD（私立・大学院なし・1学部）

#### 【教育内容・教材開発の方法】

- ・教育内容・教材開発の方法、授業技術の改善（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・授業内容・シラバス作成（私立・博士課程まで・1学部）
- ・教員には時代の要請に応じた授業内容の精選とその教授方法の工夫を願い、学生が意欲的に学習できるように改革を願う（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・カリキュラムの組み方（国立・不明・2学部以上）
- ・カリキュラム評価、授業方法の改善、成績評価、教員の研修会（国立・博士課程まで・1学部）
- ・教員の授業内容の工夫、学生の成績評価の厳格化（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教育内容・教育方法の改善、評価方法の検討（私立・博士課程まで・1学部）
- ・カリキュラムの体系化、学生中心の授業のあり方、厳格な成績評価のあり方等（国立・博士課程まで・2学部以上）

- ・本学が抱える諸問題；カリキュラムの再編・統合、診療体制の再編、評価法（国立・博士課程まで・1学部）
- ・カリキュラムの改善、ほか（私立・大学院なし・2学部以上）

#### 【シラバスの見直し】

- ・シラバスの見直し（形式、内容を改善する）（私立・博士課程まで・1学部）

#### 【成績評価方法の検討】

- ・成績評価方法の検討・教授方法改善のための教員の授業参観(公開授業)（国立・修士課程まで・2学部以上）

#### 【教育の魅力増進】

- ・教育の魅力増進（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・とくに教育に関するFD（国立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【教員の意識改革のためのFD活動】

- ・意識の高い教員も多いが、まだ全く関心を示さない教員もある。全学的な取り組みを追求するために、個人の意識改革のためのFD活動（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員の意識改善（国立・博士課程まで・1学部）
- ・教員養成大学として優れた教員を養成することを最大の目的として、全ての教員が授業方法や指導方法の改善に組織として取り組んでいくための教員の意識改革のためのFD活動。（国立・修士課程まで・1学部）
- ・教員の意識改革をすすめ、FD活動を具体的に推進する必要性に迫られている（公立・大学院なし・1学部）
- ・「教育」に対する意識改革（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員の意識を向上させるもの（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員によるFDの重要性の認識を高め、具体的方策を検討する。（私立・博士課程まで・1学部）
- ・教員の意識改め。教員は大名ではなく、学生はお客様である。（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・学生が意欲的な学習ができるように、教員の考え方を考え直す必要がある。（私立・修士課程まで・2学部以上）
- ・教員の意識改革のため（私立・博士課程まで・2学部以上）

#### 【教育活動】

- ・教育活動、研究活動（国立・修士課程まで・1学部）
- ・教育活動、研究活動（私立・博士課程まで・1学部）

- ・教員の教育・研究に関する資質の向上（私立・修士課程まで・2学部以上）

**【教育理念・目標に合致した人材の育成に関するFD活動】**

- ・本学の教育理念・目標に合致した人材の育成に関するFD活動（国立・博士課程まで・2学部以上）

**【教育者としての任務の自覚】**

- ・教育者としての任務の自覚（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教育公務員としての認識の再確立（公立・修士課程まで・2学部以上）

**【成績評価】**

- ・成績評価、習熟度別クラス編成（国立・博士課程まで・2学部以上）

**【授業公開】**

- ・自分の授業を公開し、他の教員に見てもらおう
- ・FD研究活動の場へ、積極的に参加してもらおう（国立・博士課程まで・1学部）

**【講義内容と学生の理解度の適格な把握】**

- ・講義内容と学生の理解度の適格な把握（国立・博士課程まで・2学部以上）

**【授業改善】**

- ・授業改善、学生の意欲向上、教育方法評価、学習指導（国立・博士課程まで・1学部）

**【教員の教育に関する支援】**

- ・教員の教育に関する支援。（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教員のたゆまない教育活動を支援するため（私立・博士課程まで・2学部以上）

**【教員と学生との関係】**

- ・教員と学生との関係（国立・博士課程まで・1学部）

**【大学の理念・目標】【授業方法・内容】【学生指導】【就職指導】【大学経営】**

- ・大学の理念・目標、授業方法・内容、学生指導、就職指導、大学経営（国立・修士課程まで・1学部）

**【自己の教育改善に向けた教員の内発的活動】**

- ・自己の教育改善に向けた教員の内発的活動（国立・博士課程まで・1学部）

**【教育と学生評価】**

- ・教育と学生評価（国立・博士課程まで・1学部）
- ・教育方法、学生評価方法（国立・博士課程まで・1学部）

**【学生・教員・職員3者一丸のSD】**

- ・学生・教員・職員3者一丸のSD（国立・博士課程まで・不明）

**【授業改善活動の普及、中核メンバーの育成】**

- ・授業改善活動の普及、中核メンバーの育成（国立・博士課程まで・2学部以上）

**【教育の方向性に関する十分な議論】**

- ・全学の教官が教育目標を共有する必要があるため、教育技術以前に教育の方向性を十分議論してほしい。（国立・修士課程まで・2学部以上）

**【ニーズに応じたFD】**

- ・ニーズに応じたFD（大学の社会的使命、授業評価アンケートの結果教員の希望などを勘案したFD）（国立・博士課程まで・2学部以上）

**【教育の質の水準化】**

- ・教育の質の水準化（国立・博士課程まで・2学部以上）

**【活力ある授業の持ち方】**

- ・活力ある授業の持ち方。学科の目的及び到達点から、個々の授業の教える範囲を明確化する。（国立・不明・2学部以上）

**【PBL・チュートリアル教育など継続することが重要】**

- ・PBL・チュートリアル教育など継続することが重要（国立・博士課程まで・1学部）

**【全学の教員が教育方法や授業の改善に意欲的に取り組むFD活動】**

- ・全学の教員が教育方法や授業の改善に意欲的に取り組むFD活動（量的拡大）、学生の課題探求能力・プレゼンテーション能力・討論能力を高めるFD活動（国立・不明・2学部以上）

**【学生の授業評価を受け止めつつ】**

- ・学生の授業評価を受け止めつつ（公立・大学院なし・1学部）

**【授業改善の方法】**

- ・授業改善の方法（公立・博士課程まで・1学部）
- ・授業方法の改善についてのFD（公立・博士課程まで・2学部以上）
- ・より効果的な授業の方法について、常に教員が研鑽を積むべきである。（私立・大学院なし・1学部）
- ・教員の授業の改善と充実（私立・博士課程まで・1学部）
- ・授業の仕方（私立・大学院なし・1学部）
- ・授業の改善、カリキュラムに即した授業内容の充実（私立・修士課程まで・2学部以上）

- ・学生を真に引きつける授業を工夫し、全学規模で意識を高めて行きたい。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・授業方法の水準向上(私立・修士課程まで・1学部)
- ・学生の理解と興味を高めるための授業改善を目指すもの。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・授業方法の改善(私立・修士課程まで・2学部以上)
- ・授業内容の改善(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・授業内容・方法の改善を図るための活動(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・学生の意見を反映させた、恒常的な授業改善(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・授業方法の改善(私立・修士課程まで・1学部)
- ・授業内容工夫の改善(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・授業力の向上(私立・大学院なし・2学部以上)

#### 【授業の効果的な展開】【成績評価の適正化】【教員と学生の関わり方】

- ・授業の効果的な展開、成績評価の適正化、教員と学生の関わり方(公立・修士課程まで・1学部)

#### 【専門、教養、スキルの3部門間での教育の連携のため】

- ・専門、教養、スキルの3部門間での教育の連携のため(公立・修士課程まで・不明)

#### 【学生指導】

- ・学生指導及び管理運営のあり方(公立・修士課程まで・2学部以上)

#### 【学生の学習、研究意欲を引き出す教育方法】

- ・学生の学習、研究意欲を引き出す教育方法(公立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【教育技術への理解とその向上】

- ・現状では、教育技術への理解とその向上(公立・博士課程まで・1学部)

#### 【教育・研究・社会貢献の3本の柱全般についてのFD活動】

- ・現在の担当では教育が中心であるが、教育・研究・社会貢献の3本の柱全般についてのFD活動に拡げたい。また、そのバランスの置き方、教員によってバランスを分けるなどの工夫が必要(公立・博士課程まで・1学部)

#### 【全授業の系統的・統合的一貫性と調和】

- ・全授業の系統的・統合的一貫性と調和など、教育の教育方法スキル拡充(公立・大学院なし・1学部)

#### 【若手研究者、教育者を育てるため】

- ・若手研究者、教育者を育てるために。(公立・博士課程まで・1学部)

#### 【シラバスの統一的作成】

- ・シラバスの統一的作成、授業時間に関する統一の見解形成、成績評価の基準と厳格な評価、実施の方策を検討するために、コアカリキュラムの明確化のため、カリキュラムの抜本的再検討、e t c(公立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【学生による授業評価 授業内容・方法の改善】

- ・学生による授業評価 授業内容・方法の改善(公立・修士課程まで・2学部以上)

#### 【カリキュラムの点検にもとづく普段の改善、授業評価にもとづく授業の改善、学生への学習指導や相談活動、そのための情報提供】

- ・カリキュラムの点検にもとづく普段の改善 ・授業評価(学生によるもの、自己点検によるもの)にもとづく授業の改善、学生への学習指導や相談活動、そのための情報提供。(公立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【教育に関する広義のFD活動】

- ・教育に関する広義のFD活動(公立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【学生の授業参加を引き出すための技術的訓練】

- ・学生の積極的授業参加を引き出すための技術的訓練(公立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【教官と学生、双方の意欲の向上】

- ・教官と学生、双方の意欲の向上が第一。講義・内容を全教官が共有する。(公立・修士課程まで・1学部)

#### 【授業参観】

- ・関連分野の教員の授業参観、FD専門家による講演など(公立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【授業評価】

- ・授業評価(学生の到達度評価)(公立・修士課程まで・1学部)

#### 【教育方法等の改善】

- ・教育方法等の改善、教員相互の評価・協力・研鑽(私立・修士課程まで・1学部)

#### 【カリキュラム】

- ・カリキュラム、研究活動の推進、学生指導(私立・大学院なし・1学部)

#### 【教育活動】

- ・教育活動、研究活動、自己点検・評価(私立・大学院なし・1学部)



**【教育中心の大学に意識を改善するため】**

- ・教育中心の大学に意識を改善するため（私立・大学院なし・1学部）

**【講義方法】**

- ・問18の1.講義方法、2.学生評価の仕方、3.学生指導の方法、5.テスト問題の作成、6.討論の技法（私立・博士課程まで・2学部以上）

**【教職員の組織機能の向上】**

- ・教職員の組織機能の向上（私立・博士課程まで・1学部）

**【教員各自の学識を通しての社会奉仕】**

- ・教員各自の学識を通しての社会奉仕（私立・修士課程まで・2学部以上）

**【教員の教育能力と研修能力の両方に関わること】**

- ・教員の教育能力と研修能力の両方に関わること（私立・大学院なし・1学部）

**【学生に意欲を起こさせる】**

- ・学生に意欲を起こさせる（私立・大学院なし・1学部）
- ・学生に夢を持たせ、やる気を起こさせる教育の勉強（私立・大学院なし・1学部）

**【リメディアル教育】**

- ・リメディアル教育、厳格な成績評価、授業評価の公表、リテラシー教育、学生本位主義の実践（私立・博士課程まで・1学部）

**【外国での医学教育、特に小人数教育の現状を把握し、本学のカリキュラムに導入】**

- ・外国での医学教育、特に小人数教育の現状を把握し、本学のカリキュラムに導入する。そのために若手教員を研修目的で派遣する。（私立・博士課程まで・2学部以上）

**【学生に信頼され、尊敬される教育者、研究や講義にも魅力のある教育者になって欲しいから】**

- ・学生に信頼され、尊敬される教育者として、豊かで健全な人間性をもった人格者であって欲しい。また研究や講義にも魅力のある教育者になって欲しいから。（私立・修士課程まで・1学部）

**【教育活動】**

- ・教育活動や学生支援のあり方、地域社会へのサービス等（私立・博士課程まで・2学部以上）

**【すべての面での評価の合理化・厳密化】**

- ・すべての面での評価の合理化・厳密化。（私立・博士課程まで・1学部）

**【熱意と魅力ある説得力のある教育と指導】**

- ・熱意と魅力ある説得力のある教育と指導（私立・修士課程まで・1学部）

**【教員の教育に対する認識を高める】**

- ・教員の教育に対する認識を高める。教育方法の改善。（私立・博士課程まで・1学部）

**【本学の教育の目標について共通認識を持つこと】**

- ・本学の教育の目標について共通認識を持つこと。（私立・博士課程まで・1学部）

**【教育活動全般にかかわって】**

- ・教育活動全般にかかわって（国立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教育活動（私立・博士課程まで・2学部以上）
- ・教育力の向上（私立・大学院なし・1学部）

**【教授法のトレーニング】**

- ・教授法のトレーニング等（私立・博士課程まで・2学部以上）

**【教員個々の教育目標・教育内容・達成水準の設定とその検証システムの構築】**

- ・教員個々の教育目標・教育内容・達成水準の設定とその検証システムの構築。・教育支援システムの具体的内容の検討。（私立・博士課程まで・2学部以上）

**【学生が1単位につき、45時間の学修をするノウハウを開発】**

- ・東海大学の学生が1単位につき、45時間の学修をするノウハウを開発する。あるいは教員が技術を身につける。（私立・博士課程まで・2学部以上）

**【卒前・卒後教育と大学院教育において学生の自学自習を引き出す】**

- ・卒前・卒後教育と大学院教育において学生の自学自習を引き出す（私立・博士課程まで・1学部）

**【教育活動の公開と相互評価】**

- ・教育活動の公開と相互評価（私立・博士課程まで・2学部以上）

**【管理・運営のあり方】**

- ・管理・運営のあり方（私立・博士課程まで・2学部以上）

**【新しい教育法や評価法を知ってもらう】**

- ・新しい教育法や評価法を知ってもらう。学習理論を知ること。（私立・博士課程まで・1学部）

**【教員と学生との関係】**

- ・教員と学生との関係、「オリエンテーションキャンプ、エバリュエーションキャンプ活動」、英語教育研究「ELPEC」、フレッシュマンセミナー・

ソフォモアセミナー・ジュニアセミナー」実施  
(私立・大学院なし・1学部)

**【臨床推論能力開発教育】**

・臨床推論能力開発教育・臨床実習企画運営責任者養成(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【FD活動の結果を、個々の教員にフィードバックさせ、目標や課題解決の達成度を点検が必要】**

・FD活動の結果を、個々の教員にフィードバックさせ、目標や課題解決の達成度を点検することが今後必要である。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【討論の技法】**

・問18の6.討論の技法、7.教員と学生との関係作り、9.研究活動のあり方、12.大学・高等教育論など。(私立・不明・2学部以上)

**【実践的なWSでカリキュラムを見直す】**

・現在、ほぼ全教員にあたる194名が、カリキュラムデザインに必要な知識・技法を学ぶWSを終了した。今後の課題は、実践的なWSでカリキュラムを見直すと同時に教員評価の委員会を立ちあげること。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【学生理解】**

・学生をよく理解したうえで授業を進めるため。(私立・大学院なし・1学部)  
・現実の学生について理解し、適切な行動をとる必要があるから(私立・大学院なし・2学部以上)

**【医学教育の動向、教育システムの理解】**

・医学教育の動向、教育システムの理解をする(私立・博士課程まで・1学部)

**【授業改善】【研究活動】**

・授業改善、研究活動(私立・大学院なし・1学部)

**【授業改善】【履修指導方法】**

・授業改善、履修指導方法(私立・博士課程まで・1学部)

**【今まで以上に教育に力を入れてほしい】**

・少子化により本学の学生の能力の低下が感じられる。今まで以上に教育への力を入れてほしい。(私立・修士課程まで・2学部以上)

**【教育と研究との相補性をはっきり自覚すること】**

・教育と研究との相補性をはっきり自覚すること(私立・修士課程まで・1学部)

**【大学の質の向上と維持に必要なすべて】**

・大学の質の向上と維持に必要なすべて(私立・

修士課程まで・2学部以上)

**【教育の原理・原則を知る】【新しい教育技法を身につける】**

・教育の原理・原則を知る。新しい教育技法を身につける(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【教育活動の活性化につながるもの】**

・教育活動の活性化につながるもの(私立・修士課程まで・2学部以上)

**【講演会・セミナーの開催】**

・講演会・セミナーの開催、公開授業の実施、ニューズレターの発行、ティーチング・チップス集の作成、新任教員研修会の実施(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【教育効果の測定手法の開発と全教員の共有化】**

・教育効果の測定手法の開発と全教員の共有化。教員評価の評価指標の開発と教員による自己申告・評価。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【情報化・国際化を視野に入れた教育改善を行うため、教員と学生及び社会を融合させた取り組みの推進が必要】**

・常に社会に向け、情報化・国際化を視野に入れた教育改善を行うため、教員と学生及び社会を融合させた取り組みの推進が必要と考える。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【教員の教育に対する達成感を高めること】**

・FDの内容もさることながら、教員に教育に対する達成感を高めることが、第一に重要だと考えています。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【組織的に教育力を向上させる施策】**

・組織的に教育力を向上させる施策(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【学生を能力別に分けて検討すべき】**

・たとえば東大と偏差値が40くらいの大学の学生とでは対応の仕方が当然異なる。従って学生の能力別に分けて(たとえば、超上位層、上位層、中位層、下位層)検討すべきである。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【具体的な形での教育改善をさらに進める】**

・具体的な形での教育改善をさらに進める(私立・大学院なし・2学部以上)  
・教員の教育力を高めるような実践的FD活動(私立・大学院なし・1学部)

**【FDについての意識向上をはかる企画】**

・FDについての意識向上をはかる企画が必要。(私立・博士課程まで・2学部以上)

- ・全教員の、このことに対する意識をたかめること。それによって教育の大切さを感じとってもらい、教育に工夫をこらしてもらうこと。(私立・不明・2学部以上)

**【教育に意欲ある教員を組織的に支援する制度、ならびにそのような教員・職員の処遇改善】**

- ・教育に意欲ある教員を組織的に支援する制度の実現、ならびにそのような教員・職員(事務)の処遇改善。(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【学科単位での定期的なFD会議】**

- ・学科単位での定期的なFD会議において自己点検・評価と合わせて来年度の教育内容・質の向上のための方策を策定し、年1回全学的FDワークショップにおいて討論を重ね、全学のコンセンサスをえて決定した方針に全学的に取り組むこと(私立・大学院なし・1学部)

**【教育効果をあげている学科等の事例報告や他大学の取組みを紹介】**

- ・教育効果をあげている本学内の学科等の事例報告や他大学の取組みを紹介(私立・博士課程まで・2学部以上)

**【授業改善】**

- ・授業改善、評価基準の適正化、教育理念の共有化(私立・修士課程まで・1学部)

**【未熟又は不適切な授業に対する助言・指導】**

- ・未熟又は不適切な授業に対する助言・指導(私立・大学院なし・2学部以上)

**【教育レベル向上】**

- ・教育レベル向上、目的意識の統一(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・学生評価の低い教員の授業改善(私立・修士課程まで・2学部以上)

**【一般基礎教育と専門教育の効果的な連携に関わる授業形態(講義・演習・実習)の研究】**

- ・一般基礎教育と専門教育の効果的な連携に関わる授業形態(講義・演習・実習)の研究。(私立・修士課程まで・2学部以上)

**【研究に関するFD】**

- ・研究に関するFD(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・研究活動、講義評価(公立・大学院なし・1学部)
- ・研究、教育、組織運営、社会貢献、男女共同参画、セクハラ等(国立・博士課程まで・2学部以上)

**【社会サービスのあり方】**

- ・これまで行われなかった社会サービスのあり方(医師として)(私立・博士課程まで・1学部)

**【大学運営(委員会等)の効率化】**

- ・1. 大学運営(委員会等)の効率化。2. 教育活動と研究活動の両立。(私立・修士課程まで・1学部)

## 資料6 自由記述(【問42】)

【問42】大学教育を活性化するための課題や方策についてご提案がございましたらご記入下さい。

### 【教員の意識改革】

- ・教員の教育に対する意識改革を一層促す方策が最も重要である。(国立・不明・1学部)
- ・組織的な検討は必要ですが、基本は教員個人の意識改革にどう結びつけるか、また教員と学生との信頼関係をどう育てていくかが重要な問題です。いづれにしても容易な課題ではありませんが、今後は、教職員のもっている優れた資質(個性)を伸ばしていくシステムを考えていく必要があると考えます。(国立・博士課程まで・2学部以上)
- ・国立大学においては、従来、研究を最も重視する傾向があり、教育のやり方や技術については教員にまかせるということによってきたが、このような考え方に対する認識を、改めて改善することが重要である。つまり、教員の意識改革が大切である。(国立・博士課程まで・2学部以上)
- ・「教育先導大学」「民学連携」などを掲げて(広報・第15号を同封しておきます)、大学教育の活性化を図ろうとしています。後者はともかく、前者については、小規模(?)大学(教員数400名強)ではそれだけ先生方に負担をかけることになるので評価は今一つです。医大との統合(本年10月1日)を機に教養教育の再編・見直しも着手していますが、いくら理念は崇高でも最後はやはり人(教官の意識)の問題です。(国立・博士課程まで・2学部以上)
- ・教育改善に関して教員間格差がある。努力している教員に対する報いや任用の任期制案は今後の課題である。(公立・修士課程まで・1学部)
- ・大学教員の「甘えの構造」の徹底打破以外に、改善の方途は見当たらない。(公立・修士課程まで・2学部以上)
- ・教員の意識改革、学生に適合し役立つ授業の開発、教員の相互啓発を推進する。学長のリーダーシップを認めること。そのための学長の自己研修。(公立・博士課程まで・2学部以上)
- ・1.教員の自主性が基本。自主性を喚起するための研究交流、授業公開等が積極的に行われること。2.教育、授業改善自体が目的なのであるから、例えば昇格など、勤務評定の基板(?)として、授業・教育評価をやることは反対。(現実にはその傾向も出ているが)(私立・大学院なし・1学部)
- ・大学活性化の最大の条件は、教員一人の自覚と自己研修である。この意味で組織と個人とし

ての教員の自己評価は欠かせない。しかしFD研修への在り方、参加の強制力という点になると異論がある。文部科学省ないし評価機関による上層部からの押し付け、指導については私立大学の学問の自由と伝統の差異などを特色として是非とも認めていただき、多様性の許容と自己改革を第一と考えていただきたく願いたい。本学においては教育活性化への取組みを自発的内在化を第一に、学生と共に強制でなく自主的変革を教員に指導している。本学は国際化、情報化を建学の理念として、13年の歴史しかない小規模の新構想大学であるが、Small New and Creative Universityを合言葉にEDNETによるLAN活用、入学制全員の海外研修体制、地域(千葉県東葛地方)開発と大学の社会的貢献を目標に自主的なFD体制に取り組んでいる。(私立・大学院なし・1学部)

- ・第一に、教員・職員が、大学教育事業とは何かについて認識を深めることが必要。第二に教員・職員が大学教育事業を条件づけている法令や規則等についてある程度の知識をもつこと。教育基本法、学校教育法、大学設置基準などについて無知では、先へ進めない。第三に、教育・研究の成果を正しく評価する仕組みを作ること。第四に、FDに本格的に取り組むこと。第五に、学生参加型の授業を工夫し、とかく受動的になりがちな学生に、積極性をもたせること(FDの一環)。第六に、学生の勉学・課外活動の成果を、より明確な形で評価するシステムを構築し、モチベーション・アップをはかる等。(私立・大学院なし・2学部以上)
- ・教員には、さらに教育活動に力を入れるような、また研究を教育活動に生かせるような意識改革が必要であり、学生には真に学びたいものを早く見出せるよう(大学2年終了ごろまでには)な指導方法カリキュラムが必要と考える。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・高等教育がユニバーサル化しつつある現在、教員の現実に対する意識改革が必要である。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・本学は工学・情報を中心とした専門的職業人の育成を重んじ、教育・研究に取り組んでおり、特に大学教育を進める教員の資質向上が重大なポイントと言える。(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・世の中(内外とも)が変わっているのだから大学も変わらなければならないし、教員も変わらな

ければならない。この意識改革が大学改革のカギだと考えている。しかし、大学の先生に“お説教”をするだけではだめ。嫌でも変わらなければならぬのだ、ということを知らせ、行動に立ち上がらせるための「大学の仕組み(システム、制度etc)の改革」を押し進める。この二つを組み合わせながら改革を進めています。

(私立・博士課程まで・2学部以上)

- 現代の日本の教育には、考える教育が欠けていると思われる。多くの場合、教育の現場は、知識詰め込みの場と化している状況であり、根源的な問題についても充分考える行為も場も失しているのではないか。大学教育にあっては、まず、学生になぜ学ぶのか等自己の存在意識を確認させるために、新入生に対し、「考える学生」として意識させるよう導入教育を推進しなければならない。また、大学は教員が授業内容や方法等を始めとする教育改善の方策について、大学全体として組織的に取り組むことが必要であり、そのためには人材育成という観点に立ち、個々の教員にも、存在意識の再確認が不可欠である。教員の意識改革は、最も重要な課題と云える。(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【教員の授業改善】

- (1)大学教育の活性化のためには、いかにして教員個人の自主的な授業改善を促すことができるかが重要であり、各大学の個性・特色に合致した手法を取ることも留意するべきである。これまで個々の教員が地道に進めてきたこと授業改善の試みや努力を集積し、その成果を全学的なものに広げていくこともFD活動の重要な課題の一つである。活性化策の一つとして、本学では「総合科目」を除いて一科目一教員で担当する授業科目が多いが、授業担当体制を見直し、一科目複数教員で担当する体制を考えるのも意味のあることである。(2)一方で、教員の教育活動を評価する課題があるが、学生による授業評価と並びに教員相互の授業評価を取り入れることは不可欠であろう。(国立・修士課程まで・2学部以上)
- 教授法・授業展開の改善、危機管理研修(セクハラ・個人情報・緊急対処等)、情報機器の操作・活用(私立・大学院なし・1学部)
- 教育内容・方法の改善の必要性と、その指針については学長がリーダーシップをもって進めるべきことではあるから、現場での授業の改善については個々の教員に委ねられている。多くの教員の改善に向けての意志が得られて、大学全体としての教育の活性化が可能である。また、すべての教育改革がただ一つの方法によって可能であるかのような考え方は、必ずしも全員を説得することは出来ない。多様な価値観と長期的にわたる評価・測定のくり返しによって全学的な発展・改善が行われるのではないかと考える。(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【一般的な方策なし】

- 一般的な方策はない。構成員の2割程度が核となり、アクティブに活動をし、他の5割程度の構成員を説得できなければ、何事も進まないだろう。単にトップダウン方式でやっても、構成員の7割程度がそれに納得しなければ効果は出ず、かえってマイナスになると思われる。アクティブな活動体を形成できるかどうかにかの成否はかかっており、その為にはそのようなmemberへのしかるべき(育てるような)措置が必要と思われる。そうでなければ良質な構成員をその為につぶしてしまう事にもなりかねない。(国立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【新たなFD等の構築】

- (1)トップダウン方式のFDには、殆んど効果は認めず、ボトムアップ型のFDシステムの具体的な構築が重要であり、その為の模。(2)学生の学習に取り組む姿勢が極めて重要であり、入学時から系統的に学習意欲を高めるためのカリキュラムを用意する必要がある。(国立・博士課程まで・2学部以上)
- トップダウン、昇格などのインセンティブなどのわくにこだわらないFDが理想です。大学教官は教育に対して本質的に使命と喜びを感じる集団であると考えています(例外はあります)。従来の研究業績のみに偏重した評価体制がなくなれば、かなりの程度までは自然にFDの本来あるべき姿で効果を上げることができると楽観しています。(国立・博士課程まで・1学部)
- FD・SDの更なる推進と教職員の大学教育に対する意識の向上(国立・博士課程まで・2学部以上)
- FDとSDを調和的に推進することは、多くの公立大学で困難なことと思われる。それは事務系職員の人事制度が、国立・私立大学と大きく異なる理由による。(公立・博士課程まで・2学部以上)
- これからの大学教育においては、「大学の『教育力』の向上」が重要な課題になっていくものと存じます。その「教育力」の要素としては、まずは教育の取り組み姿勢、熱意が重要なことは論を俟ちません。しかし、その「インフラ」は何かということ冷静に検討することが不可欠です。一つは、ここでテーマとなっているFDですが、これはややもすると講義の方法、プレゼンテーションの仕方といった技術面に中心が置かれることになりませんが、それだけではないと思います。重要なことは、大学生として相手にどのように成長して欲しいか、どのような人材として育ててほしいか、そのために教員として何をしてあげることができるか。そうした教育実践の姿勢であろうと思います。また、アカデミズムの水準も大切で、内容を低くしないためには教員の研究も充実させることが忘れられてはなりません。(私立・博士課程まで・2学部以上)

- ・1. F D 公開授業、研究分野別の研究授業の実施  
2. シラバスの改善 ・充実 3. 学生による授業評価の活用についての研究（私立・博士課程まで・1 学部）
- ・FDの、より一層の推進とともに、SDの導入(教員組織と職員組織の有機的な連携、協力体制) ・学生による授業評価の導入を含む、評価制度の確立（私立・博士課程まで・1 学部）
- ・本学は2001年に開学したばかりで、教育経験を持つ教員は約半数にしか過ぎなかった。開学前、開学後毎年1回全教員に対するカリキュラムプランニングを主題とする、研修会を開催した。本学ではF Dに関してやっとスタートラインに付いたといえる。国立大学で高等教育研究開発センターを設置している大学は、より種々なメニューで、F Dについて講師派遣などで、支援するシステムが設置されることが期待される。最近2年間は、日本医学教育学会のタスクフォースの支援を得ている。(私立・大学院なし・2 学部以上)
- ・教員全員がF Dに関心を持ち、各自努力することが必要だと考えるが、具体的な提案はありません。逆に良い方法等があれば、教えていただければと思います。(私立・修士課程まで・2 学部以上)
- ・FD(SDも)は、外発的動機付けによるのではなく、内発的なものであることが原則であろう。同僚や同業者とのやりとりを通して、深化が図られるべきである。教育基本法やILO ・ユネスコの勧告などにも教員としての職責は規定されている。(大学教員も例外ではない。) 研究も、国民全体に責任を持つ教育を実現するために不可欠なことである。学会、研究会での発表もその一環としてである。従って、大学の組織的な研修会等は、こうした基本を踏まえた上で、機能させたい。又、大学の構成員である学生の能力向上(Student Development)も要求したい。(私立・修士課程まで・1 学部)

#### 【教員採用・昇任における教育業績の重視】

- ・教員の採用の際の審査は研究業績中心に行われるため、教育の関心は、教育に向かないことが多い。今後は、採用や昇任の際に、教育業績を審査したり、教育の質についての啓発活動を行ったり、教育に熱心な教員を給与面で優遇するなどの方策をとり入れることが必要と考えている。このアンケートで「教育目標を定めている」や「F Dの定義」などについて、肯定的 ・積極的な回答ができなかったが、これらのことはこれまではっきりさせないことが望ましい、という考えが学内にあったように思う。この点が変わらなければ、大学は変わらないと考えている。(国立・修士課程まで・1 学部)
- ・一、教育業績の評価法の体系化 一、教員の昇進、個人評価の全体基準の確立と教育業績評価の重視 一、教育活性化のための教員 ・事務官 ・学生の連携の強化(国立・博士課程まで・

不明)

- ・現在、急ピッチで進む大学教育の改革のなかで真の意味での教育改革を実施するためには、研究を同等レベルでの教育に対する評価を有形でフィードバックする形を取らねばならない。すなわち、昇進などに研究業績のみを重要視する現状から教育業績も同様に評価するようにならない限り、教員が活性化に取り組みようとする気持ちはそがれると考える。(私立・博士課程まで・2 学部以上)

#### 【教員の数を増やす】

- ・大学の教官は学内での学生の生活指導、教育 ・研究以外に例えば地方自治体への委員会や調査等の協力という負担があり、最近では産学関係も加わり多忙をきわめている。教官の数を増やして下さい。(国立・不明・2 学部以上)

#### 【基礎教育・教養教育重視】

- ・1. 学部教育における基礎教育の重視 2. 組織的教育の徹底 3. フィールド教育の推進 自ら学ぶ姿勢を確立(課題探求)させるため、各分野の現場(フィールド)で教育する機会を積極的に導入する。(国立・博士課程まで・2 学部以上)
- ・1. 大学教育本来の内容の活性化には、高校以前の教育(特に数学、英語)の充実が非常に必要 2. 産官学活動が活発となるなかで、教育に対するウエイトの確保が重要3. 教養科目の教育システムの合理化が必要。個人的には東大のような教養学部(全学生対象の2年間の教育)方式のほうが良いと思う。教育の効率化、専門に片寄らない学生との交流、高卒段階での専門選択の回避、編入学機会の拡大 4. 修士卒が一般的となりつつある時代における学部教育のあり方の検討(国立・博士課程まで・1 学部)
- ・いわゆる教養科目は、従来、旧制高等学校の授業をイメージして設けられたように思われる。しかし、今必要なのは、専門性をより生かすために必要な、いわば学問倫理といった、広い視野から高度の教養を養う授業を、高学年で行うことであろう。しかし、担当者、学生の就職活動など、実現の難しいことを痛感する(提案にならないが ・ ・ ・)。(私立・不明・2 学部以上)

#### 【評価】

- ・外部評価機構の安定した評価(g l o b a l な評価)を定期的に受け、社会に公表する方法が、教職員の活性に効果的と考えます。ただ、これまでの評価を受けるための準備は大きな負担を与えますので、もっと簡便でかつ的確な評価法を検討して頂きたいと思います。教員一人への意識改革を促進する方策について、各大学での取り組み等の情報交換をお願いします。(国立・博士課程まで・1 学部)
- ・大学の役割は教育、研究、社会貢献等、様々あるが、教育に対する的確な評価手法がないとい

- う点が問題である。社会も卒業生の学力は問題にしても、それが大学の努力の結果か、あるいはもともと学力の優れた学生を入学させているためかは問題にされない。大学における教育効果をいかに測定し評価するのか、大きな課題ではないか。(公立・博士課程まで・2学部以上)
- ・本学の専門教育(コンピュータ理工学)の教員の約半分は外国籍であり、他大学に比べると折施策(?)はやりやすい。国際評価理解していない日本人教員の目線の低いのが問題である。独法化(県立のためH17から)を機会に、活性化策のブレキとなっている県庁横ならび管理から離れることをねらい、それを前提とした制度をシステムに検討中。(公立・博士課程まで・1学部)
  - ・学生の授業評価を実施し、何人かの先生が報告者になってシンポジウムを開催した。ほとんどすべての教員が出席した。かなり<本音>の次元での意見が出され、なかなか効果的であると感じた。(公立・修士課程まで・2学部以上)
  - ・学生に評判のよい授業を行う教員に対しては、これまで受講者が一定以上に多い場合に割増手当を出す程度の報い方しか出来ていない。今年度初めて、全学的な授業評価を行うので、上位の結果が出た教官に対しては何らかの褒賞をしたいと思っているが、必ずしも学内で同意が得られているとは言い難い。授業を学生に評価させること自体がナンセンスだとか、学生への迎合だと考えている教員も少なくない現状の中で、教員の意識を変革していく為には、そのことによるメリットを明らかな形で示して行く(授業によって学生がどう変わるか)のが最も説得力があるように考えている。(私立・博士課程まで・2学部以上)
  - ・これまで大学教育の活性化のため、カリキュラムの充実や、自己点検・評価活動・FD活動を実施するなど、いわば教育改善のためのシステムづくりを進めてきたところであるが、教育・研究・大学運営など教員ひとりひとりの資質
    - ・問題意識
    - ・努力が問われる状況にあることからすれば、教員ひとりひとりの「評価」と評価結果の活用といったことが必要とされる段階にあると意識している。これを具体的にどのような形で進めていくことが適切かつ有効であるのかは、今後の重要な検討課題である。(私立・博士課程まで・2学部以上)
  - ・マスコミ等で取り上げられる大学の評価は、ほとんどが研究実績である。大学の教員による教育活動とそれを支える事務職員にとって、意識の差は研究重視と教育重視の差であり組織的に一体化していない。教育評価をもっと目に見える形で学内外で行われなければ、両立に苦しむ教員はいつかは諦め、研究のみに専念せざるを得ない。教育改善に前向きに取り組むことを(特に新任若手教員)大学と社会がもっと評価し、そのような処遇で応える方策を具体化するべきである。(私立・博士課程まで・2学部以上)
  - ・教員個人の研究
  - ・教育業績に関するデータベ

ースの構築とそれに基づく評価体制の確立(私立・博士課程まで・2学部以上)

- ・大学や大学院の評価に世間一般の価値基準を当てはめること、大学の教員職員がそれを認識することである。いわゆる大学院人の認識を変えるには、FD活動は勿論、一定の評価に基づく待遇の差別化の導入もやむを得ない。(私立・大学院なし・2学部以上)

#### 【卒業時の質の保証の提示】

- ・卒業時の質の保証は何によってなされるか。国民に出す必要がある。(医療系大学では全員が国家試験を受け、合格することにより一定水準以上の質が保証されている)
  - ・地域の教育・研究施設のネットワーク化を計り、質の向上を計る。ちなみに、本学では(財)東京都医学研究機構の三研究所と連携、大学院協定を結んでいる。(公立・修士課程まで・1学部)

#### 【施設・設備等の充実】

- ・本学では、教室数の不足解消などをはじめ、施設・設備の充実整備が焦眉の課題。また大学事務・教務事務等の専門的力量を備えた職員の確保。これは公立大学全般に見られる弱点ともいふべき課題の克服である。(公立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【地域重視】

- ・地域の大学としては、地域貢献、地域の人々に支えられる大学をもっとも重要視しているので、そのことを評価する仕組みを考えて欲しい。(公立・大学院なし・1学部)
- ・地方に立地している大学は、立地している周辺地域についてのいわば「地域学」=「講座」を用意する必要がある。建学の理念を再確認する必要がある。(私立・博士課程まで・1学部)
- ・本学の特性としての専門養成教育と、地域密着教育を生かして、地域との還流的関係を深め、学生レベルでの地域施設及び住民との交流を有機的に教育課程の中に組み込んでいきたい。地元にある諸施設、諸機関など、地域活動の現場を早い段階から体験させ、地域との交流を図りながら、学生の専門職者としてのアイデンティティ形成とソーシャルスキル修得につながる教育を行う。(私立・修士課程まで・2学部以上)

#### 【カリキュラム改革】

- ・全学の教員でカリキュラムについて学習会をもち、全体の調整をはかる(私立・大学院なし・1学部)
- ・時代に即応したカリキュラム改革を推進したい。(私立・大学院なし・1学部)
- ・大学を活性化するために重要なのは、何よりも社会と学生のニーズに合ったカリキュラムを編成し、それを学生の意欲を引き出す授業によって提供することである。本学では全学部の全授

業科目を対象にして3年たつが、これを活かしてカリキュラムの絶えざる見直しと授業改善・FD活動に取り組み始めている。その際、教員の自発性に基づく改革・改善意欲をどれだけ惹起できるかがカギだと考える。単なる競争や管理強化によるのでは、FDや授業改善の真の深まりは得られないだろう。(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【既存の規制の撤廃、除去】

- ・大学教育の活性化の基本は既存の規制の撤廃、除去であると思う。(私立・修士課程まで・1学部)

#### 【開かれた大学】

- ・大学を社会に対してより開かれた場にする。大学のキャンパスの中で、学生と教員との関わりをより開かれたものにする。研究室を含め、教員と学生が日常的に交流できる機会を増やすこととして、教員に刺激を与えることができる。(不明・不明・2学部以上)

#### 【文部科学省主導型からの脱却】

- ・文部科学省主導型からの脱却、個性・独自性の重視、規模よりも質(教育内容)(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【大学の社会的評価の把握】

- ・大学への社会的評価・要求をできるだけ正確に把握し、それを教職員に広く理解させることがまず必要なことである。FDや評価が形式的に流れることは避けねばならないと思う。(私立・博士課程まで・1学部)
- ・国立大学は国からの財政支援があり、十分に活性化へ向けての基盤が出来ている。しかし、私学にはそうした支援もない上に規制が厳しい。税法上(大学への企業寄付、個人寄付)でも、国立大学と私立大学では格差がつけられており、公平さに欠ける。私学を国立大学の補完と位置づけた考え方に立った教育政策を改めるべきである。民間を「生かさず殺さず」政策が続く限り、私学の活性化は「絵に描いた餅」である。(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【高大連携】

- ・高校の学習レベルを検討し、高大接続が円滑になされるよう初期教育プログラムを組み直す
  - ・成績評価を標準化するとともに厳格に行い、卒業生の質が保証できるような教育システムを構築する(私立・博士課程まで・2学部以上)
- ・1)大学は高校側との連携を強化して、高校生に対しても出張講義や体験学習などを通して、特色ある教育の実践に努めなければならない。2)これまで教育の内容にあまり関心を持ってこなかった経済界や産業界でも大学の教育内容に厳しい評価や関心を示す必要がある。(私立・大学院なし・2学部以上)

- ・1.中等教育との連携、一貫性に配慮し、教育効果を高めること 2.社会、産業界のニーズをより積極的・体系的に取り入れる仕組みを作ること(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【学外との交流】

- ・教職員の学外との交流(私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【学長のリーダーシップ】

- ・1.学長のリーダーシップ 短大時代からの経緯もあって、中堅教員の動きは鈍い。若手教員や事務局有志を巻き込んで改革に向けて動きをプロジェクト・チーム組織等を活用して活性化を図る。2.時代の先取り 少子化の推移、社会生活の変化にともなう大学教育へのニーズ把握を先読みして常に新しい時代にあった教養教育の提供。女性の社会参加に益する専門基礎教育と資格取得少人数教育の特性を生かしたオンリーワン指向を目指す。(私立・大学院なし・1学部)
- ・学長のリーダーシップのもとで、それらに沿って教育、研究、診療がバランス良く発展する個々の具体的な対策を立てる必要があると考えます。また、永年公立医科大学として発展してきたので今後も地域に根ざした大学として地域住民からも信頼され、期待される大学になるべく努力したいと考える。今後、次の世代を背負う人材をどの分野においても育成することを第一義とすることも21世紀の我が国が確固たる位置をしめるために国の施策として目の前の事では無く長い視点の基に是非取り組んでいただきたいと考えます。(公立・博士課程まで・1学部)

#### 【奨学金制度の充実】

- ・奨学金制度の飛躍的充実、全学生の半数は奨学金によって大学へかよえるようになることが重要、そうでない限り第三者評価という制度そのものの意味が不明。(私立・修士課程まで・2学部以上)

#### 【学内コミュニケーションの活性化】

- ・各種委員会の有効活用による学内コミュニケーションの活性化(私立・博士課程まで・1学部)
- ・教授会の活性化が大事。(私立・修士課程まで・2学部以上)

#### 【大学の明確な理念】

- ・1)大学が明確な理念とミッションをかけた、全職員に理解してもらいコラボレーションを高める。2)学長のリーダーシップ、ミッションの達成に好ましい教員の採用、学長の任命方式の見直し。3)大学教員の育成方法の改革、大学教員の役割の明確化。4)事務職員の育成(プロのアドミニストレーターにする)と大学教員を本務に専念させる。大学の運営方式の改革。  
\*本学ではS S Uモデルのティーチングメソッド



ドを開発中である。FDの中心はこれであり、FDとは何かあいまいである。教育改革の重要な柱の一つはティーチングメソッドとそのベースとなる大学の理念とミッションにある。(私立・大学院なし・2学部以上)

- ・建学の精神や教育 ・研究の理念 ・目的が教育 ・研究プログラムや組織運営へどのように反映されているか? ・大学としての健全性
  - ・誠実性が確保されているか? また教職員および学生のモラルは確保されているか? ・特色ある教育 ・研究が創造され、学生の学習 ・研究の達成度 ・満足度が図られているか?
  - ・知的ネットワークの核としての大学が創造され、産学地域連携や高大連携が有効に進められているか? ・一方向的な教育から双方向的な学習への配慮や、キャリア教育・生涯教育への配慮が行われているか? (教育・学習・仕事を提供できる大学を目指して、学生の「学びと成長」を配慮した教育サービスが提供されているか?) ・大学の利益関係者(ステイクホルダー)への便宜が図られ、社会的貢献としても実践されているか? (私立・博士課程まで・2学部以上)

#### 【任期制の導入とリストラ】

- ・任期制の導入とリストラが出来るようにする。
  - ・教育、研究、管理を分離し、適材適所に配置する。 ・給与又はボーナスで大学への貢献

度(大学の広報、教育活動、社会活動や大学運営等)に応じて差をつける。 ・研究については学会等、学外で評価されるべきものである。(私立・博士課程まで・1学部)

#### 【研究交流】

- ・大学間の研究交流 ・大学間で協定された、任期間交流人事を可能にする件について、教科目、保証、勤務条件等を(一応共通認識をもって)実施、推進を願っている(私立・大学院なし・1学部)

#### 【研究活動の活発化】

- ・1.教員個々が、研究活動を活発に行い、どんどん業績を発表すると共に、その成果を授業に、社会活動に生かす。2.研究成果を活用し、授業のレベルアップを行うと共に、受講者重視の解りやすい、工夫した授業を行う。また社会のニーズに合った人材の養成を行う。3.研究活動の成果を社会、特に本学のような地方の小規模大学は地域に還元して地域に貢献する。要するに、教職員が努力し、研究活動及び授業のレベルアップを計り、学生にも、社会にも大いに歓迎される大学にすることだと思います。(私立・大学院なし・不明)

## 執筆者紹介

\* 所属は本書刊行時点のもの

有本 章	広島大学高等教育研究開発センター長・教授（編集代表） 序章、第1章、終章
大膳 司	広島大学高等教育研究開発センター教授 第1章、2章、終章
渡辺 達雄	広島大学高等教育研究開発センター COE 研究員 第3章、4章

F D の制度化に関する研究（1）  
- 2003 年大学長調査報告 -  
（COE 研究シリーズ9）

2004(平成16)年3月31日 発行

---

編 著 広島大学高等教育研究開発センター  
〒739-8512 東広島市鏡山1-2-2  
電話 (082) 424-6240  
印刷所 株式会社 タカトープ rint メディア  
〒730-0052 広島市中区千田町3-2-30  
電話 (082) 244-1110

---

ISBN4-938664-89-5



**COE Publication Series No. 9**

**Study of the Institutionalization of  
Faculty Development Part1:**

**Report of the Nationwide Survey on University Presidents in 2003**



**Research Institute for Higher Education  
HIROSHIMA UNIVERSITY**

*March 2004*

**ISBN4-938664-89-5**